

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000101)	主題科目	3Q木1	
名画を読む-美術史入門- Exploration of masterpieces- Introduction to history of art-	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
名画を読む-美術史入門-Exploration of masterpieces-Introduction to history of art-	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
古草 敦史	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】イメージ, ビジュアル 歴史的な名画とされる西洋絵画を数点取り上げ, 具体的なイメージ(図像)としてある美術作品(絵画)を解釈する上で大切になるビジュアル的な特徴を論じる。名画を鑑賞することは私たちに多くの喜びを与えてくれるが, 名画といわれる絵画ほど, とっつきにくさもある。そんな絵画をじっくりと味わいながら, その魅力をひもといていく。			
授業の目的			
今日, 個人や集団の意思を具体的なイメージとして表現することや他者に伝達できる力量を身につけることは, ますます重要になっている。企業や学校もイメージを利用しなければ, 製品を売ることや共同体をまとめたり人の心を引きつけたりすることも難しいであろう。美術史の知識や方法論を得ることは身の回りにあるイメージを解釈したり作り出したりするために大いに役立つ。 ここで取り上げる絵画作品は, それぞれの時代背景に沿ったビジュアル的特徴をもっている。本授業の目的は, そのような特徴を把握しながら, これまでの人間の創造行為を洞察し魅力を探るとともに, 自らがビジュアル的特徴を発見できることやイメージの大切さを理解することである。また美術史特有の事実のほか関連する歴史的事実についても知識の習得を目指す。			
到達目標			
1. 名画のビジュアル的特徴を把握し説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 美術作品(絵画)のもつ歴史的意味や価値を説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 身の回りにある芸術作品に興味や疑問を抱き学問的に追究ができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎時間に提出するレポートによって判断する。			
成績評価の基準			
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 絵画を解釈する一方法について①: 美術のもつ意味と価値 第2回 絵画を解釈する一方法について②: イメージを解釈する方法 第3回 カラヴァッジョの「果物籠」について①: 自然模倣と観念表現 第4回 カラヴァッジョの「果物籠」について②: モチーフの意味 第5回 フラ・アンジェリコの「受胎告知」について①: 図像学 第6回 フラ・アンジェリコの「受胎告知」について②: 宗教画の役割 第7回 絵画に接する一方法について: 美しいということ 第8回 まとめ (45分間授業)			
【授業及び学習の方法】 対面授業とする。 ビジュアルを重視し, 美術作品の画像を鑑賞しながら, その魅力をひもとく解説を行う。また, 学生の提出			

したレポートにある質問等に可能な限り応えていく。

【自学自習に関するアドバイス】

第1回 時代、様式を問わず、いろいろな美術作品を画集などによって鑑賞する。(4時間)

第2回 現代のいろいろなデザイン作品(主に広告などのビジュアルデザイン)を画集、デザイン雑誌などによって鑑賞する。(4時間)

第3回 バロック期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(5時間)

第4回 バロック前後期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(4時間)

第5回 初期ルネッサンス期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(5時間)

第6回 初期ルネッサンス前後期の絵画作品を画集によって鑑賞する。(4時間)

第7, 8回 機会をつくり近隣の美術館に行き、いろいろな美術作品を鑑賞する。(4時間)

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配付する。

オフィスアワー 金曜日 昼休憩時間 古草研究室(幸町北2号館3階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「美術表現の探求」-近世～現代(その1), 美術表現の探求-名画を読む-(その1, その2)と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できない。

教員の実務経験との関連

高等学校美術科, 専門学校等に非常勤講師及び特別講師として勤務。美術・芸術の授業を担当。高等学校等での実務経験をもとに美術史やビジュアルにおけるイメージの解釈について講義を行う。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Ex1 授業科目名 (時間割コード: 000102) 教養としての書道実技 Practical Skills in Calligraphy 教養としての書道実技 Practical Skills in Calligraphy	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習	単位数 1	
担当教員名 小西 憲一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義及び作品制作 90分×7回+45分×1回+自学自習 (準備学習10時間+事後学習10時間)			
授業の概要 【キーワード】手書き文字 書道は、人間の生み出した文字文化の粋である。この講義では、「手書き文字」をキーワードとして、書道について学んでいく。活字全盛の現代にあって、自分が書いた文字を見直し、問題点と改善の方法を探り試みる。さらに「教養としての書道」というテーマのもと、実技を中心に、書道の歴史や書体の変遷を概観する。また、毛筆を含む筆記具の歴史や、書作品の鑑賞方法などにも触れる予定である。 授業は毛筆の小筆を使用し、墨を磨るところから始める。			
授業の目的 教養としての書道に関する知識習得と、たとえば、自分の名前を楷書と行書で書き分けられることなど、場面に応じた「文字を書くこと」への意識を高める。特に写経を通じて、書道文化への理解と、短期間においても習熟によって手書き文字の変容が実感できることを目的とする。			
到達目標 1. 自分の文字を見直し、問題点と改善の方法を探ることができる。 2. 場面に応じて「文字を書くこと」を意識することができる。 3. 写経等を通じて、書道文化を理解し、自己の手書き文字の変容を実感できる。 これらを通して、 a: 言語運用能力／課題解決のための汎用的スキル b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識 c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力を養う。			
成績評価の方法と基準 毎回の提出物 (90%、その内写経が60%) + 最終レポート (10%) 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 書道の概説と実作を行う。特に実作の部分では、自学自習を求める。 書道の道具一式 (小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど) が必要である。詳細はオリエンテーション時に説明する。 すべての授業を対面で行う予定である。 (1) オリエンテーション (講義) 授業の概要、目的、到達目標、授業計画、必要な用具用材の説明 (2) 硬筆 ー鉛筆と筆ペンー (実習) 自分の文字を振り返る (平仮名) (講義) 鉛筆の持ち方、平仮名のポイント (実習) 筆ペンで書く (3) 小筆 ー楷書と行書ー (実習) 自分の名前を楷書と行書で書き分ける (硬筆と毛筆)			

(講義) 毛筆の扱い方、楷書と行書のポイント

(4) 小筆 一篆書と隸書一

(講義) 書体の変遷、篆書と隸書の書き方

(実習) 篆書と隸書で書く

(5) 写経①

(講義) 写経の歴史、現代的意義

(実習) 写経を書いてみる

(6) 写経②

(講義) 写経生の生活

(実習) 写経に慣れる

(7) 写経③

(実習) 写経を仕上げる、自己の写経を鑑賞する

(8) まとめ

最終レポートをまとめる

自学自習のためのアドバイス

第2回 必要な用具用材の確認、入手、手入れを行う。

平仮名のポイントと自己の文字の問題点を知り、改善に向けて練習する。

第3回 自分の名前を、場面に合わせて楷書と行書で自信を持って書き分けられるように練習する。

第4回 書体の変遷を理解し、篆書と隸書の使用例を捜し鑑賞する。

第5-7回 写経について、用具の吟味と準備を行う。 自己の写経を顧みて、改善点を把握し練習する。また、最終レポートに向けて、書道に対する自己の考えを深めておく。

教科書・参考書等

毎時間プリント等を配布する。

書道の道具一式(小筆・固形墨・硯・半紙・下敷き・文鎮・水入れなど)が必要である。

オフィスアワー 木曜日 4 時限目 北 2 号館 2 階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎時間、書の実習を行う。したがって書道実技に関して意欲のある学生を求める。

本授業の内容は、平成 3 0 年度以前開講の「教養としての文学と書道実技 その 1」と同じ内容であるため、平成 3 0 年度以前に当該科目を単位取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

神奈川県立の高等学校に教諭として勤務。芸術科書道を担当。高等学校での実務経験をもとに書道実技について講義、及び実習を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000103)	主題科目	4Q木1	
現代の美術表現 Modern Art Expression	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	
現代の美術表現 Modern Art Expression	分野 主題	DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目	名画を読むー美術史入門ー	
吉川 暢子	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】現代美術、アート、アート思考			
現代の美術・芸術（現代アート）を私たちの身近にあるミュージックビデオなどの映像作品、写真作品、看板、商品等のデザインといった広範な領域から考察し、既成概念や固定観念を打破し、自分の思考や感情から新たな課題を見つけていくアート思考を身に付けることを目的に論じる。			
授業の目的			
今日、個人や集団の意思を具体的なイメージとして表現することや他者に伝達できる力量を身につけることはますます重要になって来ている。企業や学校もイメージを利用しなければ、製品を売ることも共同体をまとめることも人の心を引きつけることも難しいであろう。 現代の芸術作品の意味を理解することは、身の回りにあるイメージを解釈したり作り出したりするアート思考獲得のために大いに役に立つ。 ここで取り上げる芸術作品は、それぞれの時代背景に沿ったヴィジュアル的特徴をもっている。本授業の目的は、そのような特徴を把握しながら、これまでの人間の創造行為を洞察し魅力を探るとともに、自らがヴィジュアル的特徴を発見できることやイメージの大切さを理解することである。また美術史特有の事実のほか関連する歴史的事実についての知識の習得も目指す。			
到達目標			
1. 現代美術・芸術作品の制作意図を把握し説明できる。（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 2. 身の回りにある芸術作品に興味や疑問を抱き学問的に追究ができる。（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）			
成績評価の方法と基準			
毎時間のミニレポートと最終課題となるレポートを総合的に判断する。評価基準の目安は、ミニレポート70%、まとめでのレポート30%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この授業は全回対面を行います。			
1 アートとは何か？マルセル・デュシャンの「泉」から 2 アートとは何か？現代美術の意味 3 身の回りにあるものの芸術性（ミュージックビデオから） 4 身の回りにあるものの芸術性（映像・アニメーションの歴史から） 5 身の回りにあるものの芸術性（デザイン） 6 身の回りにあるものの芸術性（写真） 7 創造性を育むワーク（制作） 8 まとめー最終レポートに向けてー			
【授業及び学習の方法】 ヴィジュアルを重視し、美術・芸術作品の画像を鑑賞しながらその魅力をひもとく解説を行う。また、簡単なワークを行いながらアートについて考える。（紙・ハサミなどを使うワークがあります。必要な道具については授業でお知らせします）			

【自学自習に関するアドバイス】

1?2回：現代美術作品を画集等で鑑賞する。

2?6回：身の回りにある芸術作品を探し、鑑賞する。

7回：身の回りにある色やカタチに着目する。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配付する。

オフィスアワー 木曜日12時から13時 吉川研究室（幸町北2号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教室の収容人数の都合のため、初回に人数調整（抽選）を行う場合がある。

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「美術表現の探求－近世～現代－（その2）」と同じ内容であるため、平成30年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Eg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q金1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000104)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち Japanese culture and children's development from perspective of early childhood education and care	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
幼児教育から見える日本の文化と子どもたちの育ち Japanese culture and children's development from perspective of early childhood education and care			
担当教員名 松井 剛太	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×8回+自学自習(準備学習16時間+事後学習16時間)			
授業の概要			
【キーワード】幼児教育、日本文化 本授業では、受講生が日本の幼児教育における教師の特徴を理解することを通して、「日本人らしさ」とは何かを議論し、探求する。授業の方法としては、事前にテキストを担当箇所を講読し、レポートにまとめて、グループワークを通して内容を深める。			
授業の目的			
本授業は、グローバル社会の下で、多様な国々の文化に触れて共生することが求められるなかで、受講生が日本人として有しているアイデンティティは何か、また幼児期からの教育を通して、どのように日本人らしさが形成されているのかを認識することを目的とする。そのため、テキストの内容を理解し、自らの意見をまとめ、他の受講生との討議によって深める。			
到達目標			
1. 「日本人らしさ」とは何かを感じ、グローバル社会のなかでどのように生活するのかを考察することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. テキストの講読とレポートの作成を通して、自分の意見を記述することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. グループワークを通して、自分の意見を述べるとともに、他者と協調しながら集団の考えを系統立てて示すことができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
成績評価は、毎回のレポートとグループワークをまとめたポートフォリオで行う。 (レポート60%、グループごとにまとめたポートフォリオ40%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション: 幼児教育のエスノグラフィから見えること 第2回 見守る 第3回 気持ちに寄り添う 第4回 集団性 第5回 身体文化 第6回 幼児教育者の専門性 第7回 文化としての幼児教育 第8回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は、テキストの講読によるレポートとグループワークで構成します。 各回では、テキストの以下の章を事前に講読しレポートを作成したうえで参加します。なお、この科目は基本的に対面授業を行います。状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			

す。

第1回 はじめに、目次、序章 (p3－35) *レポートの作成は不要
第2回 第1章 (p37－57)
第3回 第2章 (p59－76)
第4回 第3章 (p77－101)
第5回 第4章 (p103－128)
第6回 第5章 (p129－158)
第7回 第6、7章 (p159－196)

【自学自習のためのアドバイス】

レポートの作成方法は、第1回の授業で示す。

内容としては、自分の考えるキーワード、該当箇所の中で特に印象に残った部分の要約、該当箇所を読んで考えたこと、の3つを課すこととする。最初にすべてを通読したうえで、各回の該当箇所を再読することを推奨する。自身の経験と主観を交えて構わない。

教科書・参考書等

書名 幼児教育のエスノグラフィ：日本文化・社会のなかで育ちゆく子どもたち
著者名 林安希子 ジョセフ・トービン
出版社 明石書店
出版年 2019年
価格 2700円＋税

7章立ての書籍で毎回各章のテーマについて議論する。

オフィスアワー 月曜日1時限目
教育学部8号館5階 松井研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業では、受講生の皆さんが毎時間テキストの内容をまとめてレポートとして持参し、それをもとにグループでの議論を行います。そのため、授業に来ても事前に作成したレポートを持っていなければ出席とはみなしません。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000105) 日本の歴史と現代社会 The History of Japan and Modern Society The History of Japan and Modern Society	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 鈴木 正行	関連授業科目 歴史学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習16時間+事後学習16時間)			
授業の概要			
【キーワード】歴史認識問題, 安全保障問題, 地域の課題 この授業では, 21世紀社会の諸課題として, 国内外の歴史認識問題, 現代社会の政治問題, 安全保障問題, 地域社会の形成などを取り上げます。為政者を中心とした歴史だけでなく, 民衆の視点から歴史の動きを捉えることによって, 国内外における現代社会の抱える問題やこれからの社会の在り方について, 市民・民衆の立場から深く考えられるようにします。自分の考えを他者に伝え, 他者の意見から自分の考えを広げていけるよう, 発表や討論を取り入れた授業を行います。とくにテキストは指定しませんが, 映像資料やプリント資料などを用いて授業を進めます。授業を通して, よりよい社会の形成を担う市民へと成長することを期待します。			
授業の目的			
グローバル化の進展, 紛争の激化, 安全保障問題, 少子高齢・人口減少社会の急激な進行など, 私たちを取り巻く状況は常に変化し複雑化・深刻化している。歴史学の論争や地域の歴史事象を学ぶことを通して, 歴史的な見方・考え方を身に付け, 社会事象を批判的・論理的に捉え, 現代社会で起こる様々なできごとの本質を見抜き, 的確な社会的選択・判断ができるようになるための基盤をつくる。			
到達目標			
1. 歴史学の学説の変遷のほか, 国内外の歴史認識問題, 現代政治の問題, 安全保障問題などに関する論争の原因を理解し, 現代社会の抱える問題の発生した経緯を説明することができる(共通教育スタンダードの「b: 知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 社会的な問題について, 公正, 幸福, 社会正義などの観点から, 他者との討議等のコミュニケーション活動を通して自己の考えを拡張・深化させ, 的確に表現することができる(共通教育スタンダードの「d: 倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観」に対応)。 3. 大学生として, 社会的な問題に対して, よりよい社会をつくるために現在及び将来の自分ができることについて, 授業で学んだ知識や考え方をもとに, 具体的に記述・発言することができる(共通教育スタンダード「c: 問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
他者との討議や発表等の場面において, 市民としての責任や倫理の観点から積極的に自己の考えを述べる姿勢30%(特に到達目標2に対応), レポート・報告40%(特に到達目標2に対応), 試験30%(特に到達目標1に対応)。これらの総合評価により, 60点以上で合格とする。自主的に現代社会の問題や地域の社会事象について調べてきた者については加点する。			
成績評価の基準			
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 講義とグループワークを組み合わせながら, 授業を進める。毎時間, 授業のはじめに一週間の中で自分が関心をもったニュースを持ち寄り報告する。日本全体の歴史の流れを学ぶとともに, 地域の歴史や市民活動について調べる学習も行い, 現代と過去を行き来しながら, 現代日本の社会の在り方について考え, 意見を述べ合う機会を設ける。			
【授業計画】 第1週 授業の目的・計画・学び方に関するガイダンス 第2週 アニメを通して考える日本の社会と歴史 第3週 トイレの歴史と環境問題			

- 第4週 歴史学の論争と歴史教育・歴史教科書
第5週 利益誘導型政治の始まりと現代社会の政治
第6週 徴兵制の歴史と現代日本の安全保障問題
第7週 瀬戸大橋の建設と地域社会
第8週 振り返り 試験

【授業及び学習の方法】

歴史を通して現代社会の諸問題を構造的に見つめ直すことにより、社会で起こっている様々な問題について自ら学び、よりよい社会の形成に主体的に参加・参画する意欲をもつことを期待しています。この科目は基本的に対面授業を行います。コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、一部の授業回では遠隔授業を行うこともあります。講義内容や順番が入れ替わることもあります。

【自学自習に関するアドバイス】

第1週 新聞・テレビやインターネットなどのニュースを見て、現代社会が抱える問題について考え、自分の意

見を発表できるようにしてくる。(4時間)

第2週 指定されたアニメの中の歴史事象や現代に繋がる社会事象についてまとめてくる。(4時間)

第3週 地域の下水処理について調べ、環境保全や循環型社会に関する自分の考えをまとめてくる。(4時間)

第4週 歴教科書における学説の対立について調べ、事実、真実、解釈に関してまとめてくる。(4時間)

第5週 現代社会における政治の問題について調べ、意見を述べられるようにしてくる。(4時間)

第6週 戦争・紛争・難民について、日本の在り方と結びつけて意見を述べられるようにしてくる。(4時間)

第7週 交通が社会に及ぼす影響について考えてくる。(4時間)

第8週 学習を振り返り、現代社会の諸問題と歴史のつながりについて自分の考えをまとめてくる。(4時間)

教科書・参考書等

＜参考書＞

鈴木正行『民衆思想と社会科教育―社会的構想力を育む教育内容・方法開発』東信堂、2022年、3600円＋税
このほかに、授業の中で適宜紹介します。

オフィスアワー 木曜日の第5時限目 鈴木研究室（幸町キャンパス8号館6階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

社会が抱える様々な問題に関心をもって積極的に授業に参加することを望む。

教員の実務経験との関連

国公立中学校及び歴史博物館での実務経験をもとに、歴史研究の視点と方法に関する指導を行うと共に、小・中・高等学校での歴史教育と大学で学ぶ歴史学との相違についても考える授業を行う。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 000106) 学習環境の現在と未来 Learning environment 学習環境の現在と未来 Learning environment	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: CXX	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 笹屋 孝允	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分間×8回+自学自習(準備事後合計15時間)			
授業の概要			
現在・未来の学習環境の1つとなる、授業動画コンテンツを作成します。小中学校の教師になりきって、授業を行う数分間の動画を、グループで協働しながら作成、編集します。			
【キーワード】学習環境, ICT教育			
授業の目的			
現在, 教育のICT化が急速な勢いで進められています。一方, ICTのメリットを生かした, 個別具体化の教育の必要性も叫ばれています。この授業では, 授業動画の作成, 編集を通して, ICTスキルだけでなく, 教師としての授業スキルも習得することを目的にしています。			
到達目標			
・小中学校の教師としての授業スキルを習得する ・動画作成, 編集を通して, ICT スキルを習得する(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・動画作成, 編集を通して, グループで協働する態度を身につける(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・今後の学校教育に関する展望を持つことができる			
成績評価の方法と基準			
・最終報告の課題 (50%) ・最終レポート (50%) (いずれも上記到達目標について評価します)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1)オリエンテーション (2)授業の組み方と動画編集方法の講義 (3)グループワーク① (4)グループワーク② (5)中間報告会 (6)グループワーク③ (7)グループワーク④ (8)最終報告会			
【授業及び学習の方法】 ・グループワークが主体の授業です。 ・原則対面で行います。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・授業動画作成及び、その準備が事前、事後学習となります(各回2時間×8回)。			

・個々で課題が異なることが予想されるため、内容は授業中に適宜指示します。

教科書・参考書等

教科書等は特にありません。必要な資料は授業中に提示します。

ノートパソコン必携です。スマートフォン等も所持していれば活用します。

オフィスアワー 月曜4コマ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グループワークが主体のため、メンバーと協力しながら授業に参加できることが受講条件です。授業時間外にもグループワークを行う必要があることを理解した上で受講してください。

教員の実務経験との関連

小学校での勤務経験があります。その経験を基に、教師として授業を行う時の注意点や、ICT活用法のポイントを紹介します。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000107)	主題科目	1Q金1	
特別支援教育とは ー誰一人取り残さない社会のためにー What is special needs education?	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	
特別支援教育とは ー誰一人取り残さない社会のためにー What is special needs education?	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名	関連授業科目		
坂井 聡, 山本 木ノ実	履修推奨科目		
学習時間 講義 90分 ? 8回 + 自学自習 30時間			
授業の概要			
持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。このなかで、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現が目指されています。17項目ありますが、その4番目が教育です。本授業では、日本で取り組むべき課題として特別支援教育を取り上げ、障害をどのように考えていけばよいのかについて、共に考えていきたいと思います。 キーワード 特別支援教育 ICF 障害観			
授業の目的			
SDGsの実現のためには、特別支援教育は必要です。誰一人取り残さない社会の実現を目指すために、社会を形成する学生として、社会へ出たときの社会人として、寛容な社会を作るための考え方を共有することができるように議論するのが本授業の目的です。			
到達目標			
ICF (国際生活機能分類) による社会モデルとしての障害観を説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 寛容な社会を作るために自分が何ができるのかを具体的に検討し、解決策を考えることができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 障害とは何かを社会モデルで説明し、香川大学学生としての行動を考えることができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回授業で実施するミニレポート50% 4回目と8回目に実施するレポート50%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 ICIDHからICFへ (障害とは何か) 第3回 発達障害を考える 第4回 ICTを活用した支援 第5回 安心できる環境づくり①:認知特性の視点から 第6回 安心できる環境づくり②:行動特性の視点から 第7回 安心できる環境づくり③:社会性・対人関係の視点から 第8回 今、自分たちにできること			
【授業及び学習の方法】			
授業は、教科書と資料をもとに進めます。レポートを書くことができるように事前に関連する書物を読んでおくことを勧めます。			

【自学自習のためのアドバイス】

第1回：

- ・SDGs実現のために、特別支援教育に関する内容を調べ、各自の意見をまとめておく(2時間)。
- ・講義内容を整理し、講義の中で生じた疑問や各自の課題についてまとめる(2時間)。

第2～3回：

- ・テキスト「知的障害や発達障害のある人とのコミュニケーションのトリセツ」を読み、課題への理解を深め、各自の意見をまとめておく(2時間×2回)。
- ・講義内容や討議を整理し、講義の中で生じた疑問や各自が考える解決方法についてまとめる(2時間×2回)。

第4回：

- ・講義内容や討議をもとに、社会モデルに関する内容について調べ、各自の意見をレポートにまとめる(4時間)。

第5～7回：

- ・講義資料を事前に読み、関連する内容を調べて各自の意見を整理し、課題解決のためのグループワークの準備をしておく(2時間×3回)。
- ・講義やグループワークの内容を整理し、その中で生じた疑問や各自の意見についてまとめる(2時間×3回)。

第8回：

- ・SDGs実現のために、社会モデルの観点から現在の課題と解決方法について各自の意見を整理し、グループワークの準備をしておく(1時間)。
- ・SDGs実現のために、社会モデルの観点から各自の意見をレポートにまとめる(3時間)。

教科書・参考書等

知的障害や発達障害のある人との コミュニケーションのトリセツ 坂井聡 エンパワメント研究所
2020/12 1980円

(参考書) コミュニケーションのための10のコツ 坂井聡 エンパワメント研究所 1650円

オフィスアワー 坂井 金曜日第2校時(10:30～12:00)

山本 金曜日第2校時(10:30～12:00)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

差別につながる討議、またレポートになることがないように、その内容について十分に検討すること。
特別な配慮が必要な学生は、遠慮することなく申し出ること

教員の実務経験との関連

坂井 特別支援学校での勤務経験のある実践的な研究者です。ICTを用いた支援を研究しており、富士通やソフトバンクとの共同研究をしています。障害を社会モデルで考えそれを実践する方法を考えています。現在、教育学部附属坂出小学校校長、附属幼稚園園長、香川大学アリアフリー支援室の室長を併任しています。言語聴覚士 公認心理師

山本 公立小学校での教員経験、県相談機関での発達障害等に関する相談経験があります。当事者やその保護者、教員等との関わりをもとに、安心して過ごせる環境づくりについて講義やグループ討議を行います。

特別支援教育士S.V. 公認心理師

ナンバリングコード B2THM-cbaG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000108)	主題科目	3Q火2	
平安日記文学研究 Research on Heian nikki bungaku 平安日記文学研究	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 北原 圭一郎	関連授業科目 文学A・B・C (全学共通科目)、日本古典文学史 (教育学部専門科目)、日本古典文学講読Ⅰ・Ⅱ (教育学部専門科目)		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習10時間 + 事後学習20時間)			
授業の概要			
平安時代、物語や日記などの虚構の文学に並行して誕生した日記文学は、主に女性が自分の人生を回顧して記す文学形態として受け継がれ、不本意な夫婦関係、宮仕えの苦悩、夢の挫折といった憂愁の記事が中心に語られていく。この授業では、その中から『蜻蛉日記』『紫式部日記』『更級日記』を取り上げ、主要な場面を原文で読み進めながら、各作品の全体像や主題について概説する。			
授業の目的			
各日記文学作品についての理解をきっかけにして日本文学の奥深さに気づくこと、日本文学作品について自分なりの関心に基づいて考えを述べられるようになることを目指す。			
到達目標			
①平安時代の日記文学作品について、概要と文学史的意義を説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ②授業で取り上げた場面の内容を原文で読み取ることが出来る (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ③選択した日記文学作品について、自分なりの関心に基づいて解釈を述べる事ができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
・論述試験 (50%)・・・授業で解説した作品の内容及び古文本文の理解度を確認する。(到達目標①②に対応) ・レポート (50%)・・・授業内容を踏まえて自分で作品を通読して考察することを求める。(到達目標③に対応) ※試験の点数が半分を下回る場合や、レポートが適切な様式や一定の水準(←授業内で説明する)を満たしていない場合は単位を与えない。レポートに無断引用が認められた場合は出席・試験成績に関わらず不可とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回: ガイダンス・平安日記文学の流れ 第2回: 『蜻蛉日記』上巻 第3回: 『蜻蛉日記』中巻 第4回: 『紫式部日記』日記的部分 第5回: 『紫式部日記』消息文的部分 第6回: 『更級日記』少女時代 第7回: 『更級日記』結婚・出仕・晩年 第8回: まとめ・試験			
【授業及び学習の方法】 ・基本的に講義形式で行うが、参加者にも随時発言や本文の音読などを求めることがある。また、コメントペーパーなどで意見を述べてもらうことがある。 ・全て対面形式で実施する。			

【自学自習について】

- ・授業で扱う作品の現代語訳に予め目を通しておき、作品の概要を理解しておく。（各回 1 時間程度）
- ・授業で読んだ原文を復習し試験に向けて準備する。（各回 1 時間程度）
- ・授業で読んだ以外の箇所も自分で読み解き、レポートに向けて準備する。（10 時間程度）

教科書・参考書等

以下の 3 冊を授業中に使用する。

- ・川村裕子『新版 蜻蛉日記I(上巻・中巻) 現代語訳付き』（KADOKAWA、2003年）1100円
- ・山本淳子『紫式部日記 現代語訳付き』（KADOKAWA、2010年）1100円
- ・原岡文子『更級日記』（KADOKAWA、2003年）836円

オフィスアワー 水曜日18時～19時 幸町北キャンパス 8 号館 5 階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・現代語訳と注が付いたテキストを使用するが、大学入学共通テストの水準程度の古文の読解力は前提とする。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000109)	主題科目	3Q火2	
転換期労働法・社会保障法の課題A	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
転換期労働法・社会保障法の課題A (Questions of Labour Law and Social Security Law on the turning point A)			
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 細谷 越史	関連授業科目 憲法、民法、労働法、社会保障法		
	履修推奨科目 憲法、民法、社会保障法		
学習時間 講義90分×7回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
第4次産業革命による働き方のデジタル化や新型コロナウイルスのパンデミックなどを背景に、日本的な労使関係の変容や労働組合の組織率低下などが進む状況の下で、とくに労働基準法や労働契約法などのワークルールが近年重要性を増している。本講義では、特にこのような個別的労働関係法を中心とするワークルールに重点を置いてその法制度の概要や課題について学習を行う。			
授業の目的			
本講義では、主に個別的労働関係法を形成する各制度の概要について解説し、また、こうした法制度を具体化し、補充する基本判例を整理し、さらに、これらと相互に関連する基本学説の議論動向をフォローすることで、今後重要性を増すワークルールの基本的な理解を促す。			
到達目標			
本講義の履修により、第4次産業革命やコロナ禍などを契機として変容しつつある働き方や労使関係の実態をふまえて、主に個別的労働関係法分野における各法制度の概要とそれを支える基本的な理念を把握したうえで、とくに基本的でかつ重要な論点をめぐる判例・学説を理解することができる (b: 知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識)。 これらの学びをふまえて、理論的な課題および具体的な事例に対する解決策を導きうる基礎的な力を身に付けることができる (c: 問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力)。			
成績評価の方法と基準			
期末試験(レポート) (60%) (主に問題解決・課題探求能力等を問う) にくわえて授業に対する取り組みや小テスト等 (40%) (主に基礎知識の理解度等を問う) を基本的な評価要素とする予定である。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 総論……労働法(ワークルール)の沿革や労働法の基本理念などについて解説する。			
第2回 使用者・労働者の義務の種類とルール……損害賠償予定の禁止、損害賠償責任の制限、逆求償、競業禁止義務をめぐる判例・学説の議論状況を整理する。また、労働者概念、使用者概念をめぐる学説・判例の議論を整理しする			
第3回 採用と人事の法理……採用の実態をふまえたうえで、採用内定や試用期間の意義および論点、配転・出向・転籍等の法的効力を考察する。			
第4回 就業規則の役割とルール……就業規則の機能、作成手続き、就業規則の法的性質、就業規則と法令・労働協約・労働契約の関係、就業規則の不利益変更をめぐる判例の展開をフォローする。			
第5回 懲戒処分の機能とルール……懲戒処分の種類・事由を確認した後、懲戒処分の法的根拠、懲戒処分の規制法理について考察する。			
第6回 解雇の種類とルール (1)……解雇の自由とその制限をめぐる議論状況を確認したうえで、各解雇類型毎の解雇制限基準、とくに整理解雇をめぐる判例法理をフォローする。			
第7回 解雇の種類とルール (2) ……とくに非違行為、ローパフォーマンス、病気・障害を理由とする			

解雇法理を検討する。

第8回 本講義全体のまとめおよび期末レポート

本講義のための自学自習としては、準備学習15時間＋事後学習15時間を必要とします。

なお、この科目は教員が基礎疾患を有するため、全回遠隔授業を行う予定です。

教科書・参考書等

教科書は特に指定いたしません。

参考書 西谷敏『労働法〔第3版〕』（日本評論社）
菅野和夫『労働法〔第12版〕』（弘文堂）
『労働判例百選〔第10版〕』（有斐閣）など

オフィスアワー 水曜1限目の予定とする。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特にありません。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000110)	主題科目	4Q火2	
転換期労働法・社会保障法の課題B			
転換期労働法・社会保障法の課題B (Questions of Labour Law and Social Security Law on the turning point B)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目	憲法、民法、労働法、社会保障法	
細谷 越史	履修推奨科目	憲法、民法、社会保障法	
学習時間 講義90分×7回＋自学自習(準備学習15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要			
第4次産業革命による働き方のデジタル化や新型コロナウイルスのパンデミックなどを背景に、日本的な労使関係の変容や労働組合の組織率低下などが進む状況の下で、とくに労働基準法や労働契約法などのワークルールおよび労災保険、雇用保険、生活保護などのセーフティネットが近年重要性を増している。本講義では、特にこのような個別的労働関係法を中心とするワークルールとセーフティネットに重点を置いてその法制度の概要や課題について学習を行う。			
授業の目的			
本講義では、主に個別的労働関係法を形成する各制度と社会保障法上のセーフティネットの概要について解説し、また、こうした法制度を具体化し、補充する基本判例を整理し、さらに、これらと相互に関連する基本学説の議論動向をフォローすることで、今後重要性を増すワークルールおよびセーフティネットの基本的な理解を促す。			
到達目標			
本講義の履修により、第4次産業革命やコロナ禍などを契機として変容しつつある働き方や労使関係の実態をふまえて、主に個別的労働関係法分野における各法制度の概要とそれを支える基本的な理念を把握したうえで、とくに基本的でかつ重要な論点をめぐる判例・学説を理解することができる (b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識)。 これらの学びをふまえて、理論的な課題および具体的な事例に対する解決策を導きうる基礎的な力を身に付けることができる (c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力)。			
成績評価の方法と基準			
期末試験(レポート) (60%) (主に問題解決・課題探求能力等を問う) にくわえて授業に対する取り組みや小テスト等 (40%) (主に基礎知識の理解度等を問う) を基本的な評価要素とする予定である。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 賃金支払いのルールと退職金の減額・不支給……賃金の支払いに関わる4原則について解説し、とくに退職金についてその法的性質および退職金の減額・不支給の効力などをめぐる法理をフォローする。この他、休業手当にも言及する。			
第2回 労働時間……法定労働時間、休憩、休日、時間外・休日労働について解説したうえで、とくに仕事上の拘束性は高くないが働き手を一定程度拘束する時間が「労働時間」といえるか否かという論点を検討する。また、年次有給休暇法制の概要を整理する。			
第3回 労災保険の基本理念と給付内容……労災保険の基本理念や性格、保険関係の当事者、給付内容について解説する。			
第4回 労災保険の業務上外認定と、給付制限、損害賠償との調整……労災保険を受ける前提条件としての業務上外認定の方法、労災保険の給付制限、労災補償と損害賠償の関係、財源等について解説する。			
第5回 雇用保険の基本理念と給付内容……失業補償の基本理念、歴史的展開、雇用保険制度の当事者、給付の種類などについて解説する。			

第6回 雇用保険の給付制限、育児休業給付、費用負担……雇用保険上の給付制限、育児休業給付の概要、費用負担のあり方について解説する。

第7回 生活保護の原理、給付内容、財源……生活保護法の沿革、生活保護の種類、保護の実施手続き、財源等について解説する。

第8回 本講義全体のまとめおよび期末レポート

本講義のための自学自習としては、準備学習15時間＋事後学習15時間を必要とします。

なお、この科目は教員が基礎疾患を有するため、全回遠隔授業を行う予定です。

教科書・参考書等

教科書は特に指定いたしません。

参考書 河野正輝・江口隆裕編『レクチャー社会保障法〔第3版〕』（法律文化社）

西谷敏『労働法〔第3版〕』（日本評論社）

菅野和夫『労働法〔第12版〕』（弘文堂）

『労働判例百選〔第10版〕』（有斐閣）など

オフィスアワー 水曜1限目の予定とする。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特にありません。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000111)	主題科目	3Q木1	
民事法と民事手続法入門 Introduction to civil law and civil procedure	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
民事の法と社会のかかわり	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 法学		
春日川 路子	履修推奨科目 法学		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
キーワード【人と人との間の関係と争い】法にもいろいろな種類があり、人と人との間の関係を定める法や、争いが生じたときにそれを処理する手続を定める法もある。どちらも一般的な人と人との間で生じた、または、生じる可能性のある争いの処理に役立つ。この授業では、人と人との間の関係を取り扱う民事法と、人と人との間の争いを取り扱う手続について定める民事手続法について、基礎的な内容を解説する。			
授業の目的			
一般的な人と人との間で生じた、または、生じる可能性のある争いの処理に役立つ、民事法と民事手続法を題材として、争いを取り扱う法や手続と現代社会の問題との関わりについて知り、それらについて説明できるようになる。			
到達目標			
1 民事法と民事手続法について、基礎的な事項を列挙できる(共通教育スタンダードの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2 学習した事項を、現代社会の諸課題と関連付けて、記述できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎回の小レポート(40%、到達目標の1と2に対応)、期末レポート(60%、到達目標の2に主に対応)によって総合的に評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお、状況により全部または一部の授業回を遠隔授業へ変更する場合があります。授業の進捗等により、計画を変更する場合があります。 第1回 ガイダンス 法とはなにか 第2回 法の基本 法と手続、民事訴訟法を中心に 第3回 法の基本 民法 第4回 法と社会 ライフサイクルをつらぬく法 第5回 法と社会 人々の暮らしと法、組織に関する法1 第6回 法と社会 組織に関する法2、市場にかかわる法 第7回 法と社会 グローバル社会の法 第8回 法とはなにか 授業全体のまとめ 自学自習のアドバイス 準備学習 テキストの該当箇所に事前に目を通すこと、具体的には音読できるか否かを確認するとよい、わからない用語や箇所、音読できない箇所には印をつけておくこと(各回2時間程度) 該当箇所(予定) 第1回 テキスト2～21頁 第2回 テキスト24～44頁 第3回 テキスト45～62頁 第4回 テキスト118～130頁 第5回 テキスト131～148頁 第6回 テキスト149～171頁			

第7回 テキスト201～212頁

第8回 テキスト2～212頁

事後学習

レジュメとテキストを再度見直す、今回の授業で何を取り扱ったか、思い出す（各回1時間程度）

事前学習でわからなかった箇所が解決したか、確認する（各回0.5時間程度）

授業中に連絡される小レポート課題に取り組む、期限までに提出する（各回0.5時間程度）。

教科書・参考書等

穴戸常寿・石川博康編『法学入門』（2021年、有斐閣）¥1,700＋税に基づくが、他のテキストを参考にすることを妨げるものではない。

オフィスアワー 木曜12時30分から13時30分

幸町キャンパス南6号館4階 春日川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

準備学習をしてから授業に参加すること、日ごろからニュースなどに触れて、社会全体に興味を持ってほしい。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q木1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000112)		水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
倒産法入門 Introduction to insolvency law 倒産処理にかかわる法と社会のかかわり				
		授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 春日川 路子		関連授業科目 法学		
		履修推奨科目 法学		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)				
授業の概要				
キーワード【倒産】法にもいろいろな種類があり、争いや困った状況が生じたときにそれを処理する手続や手順を定める法もある。これは、一般的な人と人との間で生じた、または、生じる可能性のある争いの処理に役立つ。この授業では、経済的に立ち行かなくなったとき利用できる手続である、倒産処理手続について、基礎的な内容を解説する。特に、破産法について紹介する。				
授業の目的				
人と人との間で生じた、または、生じる可能性のある争いや困った状況の処理に役立つ倒産処理手続を題材として、争いを取り扱う法や手続と現代社会の問題との関わりについて知り、それらについて説明できるようにする。				
到達目標				
1 倒産処理手続について、基礎的な事項を列挙できる(共通教育スタンダードの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2 学習した事項を、現代社会の諸課題と関連付けて、記述できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。				
成績評価の方法と基準				
毎回の小レポート(40%、到達目標の1と2に対応)、期末レポート(60%、到達目標の2に主に対応)によって評価する。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
この科目は全回対面授業を行います。なお、状況により全部または一部の授業回を遠隔授業へ変更する場合があります。授業の進捗等により、計画を変更する場合があります。 第1回 ガイダンス 倒産処理について 第2回 破産1 破産手続の全体像、手続にかかわるもの、手続の開始 第3回 破産2 破産債権、契約関係の取り扱い導入 第4回 破産3 契約関係の取り扱い2、担保権の取り扱い 第5回 破産4 相殺権、否認権 第6回 破産5 手続の終了、個人破産、免責 第7回 民事再生 手続の全体像、他の手続との違い 第8回 授業のまとめ				
自学自習のアドバイス				
準備学習 テキストの該当箇所事前に目を通すこと、具体的には音読できるか否かを確認するとよい、わからない用語や箇所、音読できない箇所には印をつけておくこと(各回2時間を目安)				
該当箇所(予定)				
第1回 テキスト2～54頁				
第2回 テキスト58～73頁				
第3回 テキスト74～92頁				
第4回 テキスト92～112頁				
第5回 テキスト113～144頁				
第6回 テキスト145～168頁				

第7回 テキスト172～252頁

第8回 テキスト2～252頁

事後学習

レジュメとテキストを再度見直す、今回の授業で何を取り扱ったか、思い出す（各回1時間を目安）

事前学習でわからなかった箇所が解決したか、確認する（各回0.5時間を目安）

授業中に連絡される小レポート課題に取り組む、期限までに提出する（各回0.5時間を目安）

教科書・参考書等

倉部・高田・上江洲『倒産法』有斐閣ストゥディア、2018年、¥2000に基づくが、他のテキストを参考にすることを妨げるものではない。

オフィスアワー 木曜12時30分から13時30分

幸町キャンパス南6号館4階 春日川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

準備学習をして授業に参加すること、日ごろからニュースなどに触れて、社会の動きに興味を持ってほしい。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000113)	主題科目	1Q火2	
経済学の歴史 History of Economic Thought	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
経済学の歴史 History of Economic Thought			
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7.5回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】経済学の変遷 皆さんは、問いには必ず唯一の正しい答えがあると思っていないでしょうか。大学で学ぶ学問では、一つの問いに対して複数の答えがありうる、あるいは、その問いに対する答えが未だ見つからないということが少なくありません。本講義では、経済学の歴史的変遷を通じて、こうした学問の多様性の一端に触れてもらいたいと思います。			
授業の目的			
この授業では、経済学の代表的学説を時系列に沿って学んでいきます。時代を代表する知の巨人たちが、「経済」という現実とどのように格闘したか、その足跡を辿ります。この授業を通じて、主要な経済学説に関する基本的知識を身につけるとともに、現実に対する問題意識を養っていきます。			
到達目標			
1. さまざまな経済学説の特徴を説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 時代背景の違いに応じて、経済社会との向き合い方がどのように変化してきたのかを説明することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の考えを簡潔かつ理路整然と説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
グループワーク30点(特に到達目標1に対応)、期末テスト70点(特に到達目標2および3に対応)の配点で評価を行います。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス+古代・中世の経済認識 第2回 重商主義と重農主義 第3回 古典派経済学の形成と展開 第4回 古典派経済学の完成と?陸経済学の形成 第5回 マルクスの経済学 第6回 限界革命 第7回 ケインズの経済学 第8回 まとめ+期末テスト			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため、適宜グループワークを取り入れます。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1回 教科書の第1章を予め読んでおいてください(2時間)。講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください(2時間)。 第2回 教科書の第2-3章を予め読んでおいてください(2時間)。講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください(2時間)。			

第3回 教科書の第4-5章を予め読んでおいてください（2時間）。講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第4回 教科書の第6-7章を予め読んでおいてください（2時間）。講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第5回 教科書の第8章を予め読んでおいてください（2時間）。講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第6回 教科書の第9章を予め読んでおいてください（2時間）。講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第7回 教科書の第17章を予め読んでおいてください（2時間）。講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第8回 ノートを中心に授業全体の修得に努めてください（2時間）

教科書・参考書等

野原慎司・沖公祐・高見典和『経済学史—経済理論誕生の経緯をたどる』（日本評論社、2019年、2700円（税別））。

オフィスアワー 月曜日3時限目（幸町南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グループワークを行いますので、毎回出席するようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000114)	主題科目	2Q火2	
古典で学ぶ経済学 Classics in Economic Thought	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
古典で学ぶ経済学 Classics in Economic Thought	分野 主題	DPコード: cba	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
沖 公祐	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7.5回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】資本主義 それぞれの学問分野には長年に渡って読み継がれてきた古典的な著作があります。経済学では、アダム・スミスの『国富論』、カール・マルクスの『資本論』、J・M・ケインズの『一般理論』などがそれにあたります。この講義では、経済学の古典の一つであるマルクスの『資本論』に触れてもらうと同時に、それを通じて、私たちが生きている資本主義がどのような社会であるかについて考えていきます。			
授業の目的			
『資本論』は19世紀ヨーロッパを代表する知識人カール・マルクスが資本主義という社会を解明するために著した経済学の古典です。この授業では、「富」「貨幣」「労働」「グローバリゼーション」という概念を軸にマルクスの『資本論』を読み解きます。また、そのことを通じて、資本主義の歴史と現在を明らかにしていきます。			
到達目標			
1. 経済学の古典であるマルクスの『資本論』の概要を説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 資本主義の歴史を踏まえた上で、現代社会の問題点を指摘することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の考えを簡潔かつ理路整然と説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
グループワーク30点(特に到達目標3に対応)、期末レポート70点(特に到達目標12に対応)の配点で評価を行います。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2回 マルクスはなぜ『資本論』を書いたのか 第3回 資本主義の「起源」 第4回 貨幣の「創世記」 第5回 賃労働の変容 第6回 資本のグローバリゼーション 第7回 資本主義を超えて 第8回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため、適宜グループワークを取り入れます。			
【自学自習に関するアドバイス】 第2回 教科書の序章を予め読んでおいてください(2時間)。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください(2時間)。 第3回 教科書の第1章を予め読んでおいてください(2時間)。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容			

の理解に努めてください（2時間）。

第4回 教科書の第2章を予め読んでおいてください（2時間）。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第5回 教科書の第3章を予め読んでおいてください（2時間）。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第6回 教科書の第4章を予め読んでおいてください（2時間）。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第7回 教科書の終章を予め読んでおいてください（2時間）。また、講義後は自筆ノート等を見直し、内容の理解に努めてください（2時間）。

第8回 授業全体を踏まえ、レポートを作成します。（6時間）

教科書・参考書等

沖公祐『「富」なき時代の資本主義—マルクス『資本論』を読み直す』（現代書館、2019年、2200円（税別））。

オフィスアワー 月曜日3時限目（幸町南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グループワークを行いますので、毎回出席するようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000115) 経済学の考え方 Perspective of Economics 経済学の考え方	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目 経済学A, 経済学B		
	履修推奨科目 高等学校「公民」		
学習時間 講義90分×7回+45分×1回、自学自習(準備学習 14時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要			
【キーワード】経済学 高等学校ではあまり学習しない、経済学の基礎的な考え方について講義する。 それにより、様々な経済現象の捉え方、経済政策の考え方の基礎について理解し、社会生活を送るうえで重要な経済学の基礎知識について修得させることを目指す。			
授業の目的			
大学生活やその後の人生を過ごし、社会と関わっていくうえで重要になるのが、経済活動です。 その経済活動を分析する学問分野が経済学です。 経済学の知識や考え方は、様々な社会問題に取り組むうえで近年きわめて重要になってきているが、社会一般の理解は不十分なことが多い。 そのため、経済学の基礎的な考え方について、講義を通じて主に概念について理解することがこの授業の目的である。 また、それら身につけた基礎的な概念を活用して、社会のさまざまな事柄を経済学の観点から簡単に説明できるようになることも重要である。 そして、基礎的な概念と社会のさまざまな事柄の経済学的理解を通じて、社会のさまざまな問題について、経済学の観点から解決策を考えられることになることも重要である。その際、それらの解決策の適用限界などについても考えることができるようになる。			
到達目標			
1. 経済学の基礎的な考え方について、概念的事項を中心に理解して説明することができる。(b:知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識、a:言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルと主に対応)			
2. 経済学の基礎的な考え方に基づいて、社会のさまざまな事柄を経済学の観点から簡単に説明することができる。(b:知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識、a:言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルと主に対応)			
3. 経済学の基礎的な考え方を応用して、社会のさまざまな問題の解決策について、経済学の観点から簡単に考えることができる。(c:問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力と主に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末レポート、宿題、授業中提出物を組み合わせて評価する。 その評価割合は、期末レポート50%(到達目標1・2・3と対応)、宿題40%(到達目標1・2と対応)、授業中提出物10%(到達目標1・2・3と対応)である。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。 適宜練習問題をスライドなどで示すので、専門用語の定義や概念などを独力で説明できるようにすること。 なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 この科目は原則全回対面授業を行う予定である。なお、状況によってはすべてまたは一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 講義の概要説明、イントロダクション			

第2回 ミクロの考え方（個人の意思決定）
第3回 ミクロの考え方（企業の意思決定）
第4回 マクロの考え方（政府の意思決定）
第5回 マクロの考え方（社会の意思決定）
第6回 応用の考え方（相互作用）
第7回 応用の考え方（統計学・計量経済学）
第8回 まとめ(復習)

【自学・自習へのアドバイス】

[第1回]

準備学習(1時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(1時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。また、宿題について解答する。

[第2回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、個人の意思決定について、身近な社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第3回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、企業の意思決定について、身近な社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第4回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、政府の意思決定について、身近な社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第5回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、社会全体の利益を考えた場合の政策などについて、社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第6回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、意思決定の主体の相互作用について、社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第7回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、統計学・計量経済学の社会での使われ方について、社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第8回]

準備学習(1時間)：これまでMoodleを通じて配布されたプリントを読み、その内容について再度復習する。

事後学習(3時間)：講義内容全体を振り返り、プリントの内容について復習する。また、期末レポートを作成する。

準備・事後学習の時間は、上に示した通り、合計30時間程度をかけることを想定している。各回の前後とも、それまでの講義の内容、主に専門用語の説明についてできるようになることを想定している。そのうえで、報道・書籍などで紹介されている、さまざまな現実の経済現象との関連について考えることを想定している。

教科書・参考書等

全学共通科目であり興味の水準が学生によって異なるので指定しない。

経済学に興味があり詳しい学習をしたい人は、まず次の参考書を読み経済学を概観するとよい。

「経済学を味わう」、市村英彦ら編、日本評論社、2020年、1800円+税。

オフィスアワー 火曜日4時限目、南3号館2階の研究室。それ以外はメールで予約してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の身の回りのさまざまな社会について考えてみてください。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000116) 都市経済学入門 Introduction to Urban Economics 都市経済学入門	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目 経済学A, 経済学B		
	履修推奨科目 高等学校「公民」		
学習時間 講義90分×7回+45分×1回 + 自学自習(準備学習 14時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要			
【キーワード】都市経済学 高等学校ではほぼ学習しない、都市経済学の基礎的な考え方について講義する。 それにより、身近な経済現象の都市経済学による捉え方、都市政策の都市経済学による考え方の基礎を理解し、社会生活を送るうえで重要な都市経済学の基礎知識について修得させることを目指す。			
授業の目的			
大学生活やその後の人生を過ごし、社会と関わっていくうえで重要になるのが、経済活動です。 その経済活動を分析する学問分野が経済学で、とりわけ人やモノやお金の集積について考える分野が都市経済学です。 都市経済学の知識や考え方は、身近な社会問題に取り組むうえで重要であるが、あまり知られているとは言えない。 そこで、都市経済学の基礎的な考え方について、講義を通じて主に概念について理解することがこの授業の目的である。 また、それら身につけた基礎的な概念を活用して、社会のさまざまな事柄を都市経済学の観点から簡単に説明できるようになることも重要である。 そして、基礎的な概念と社会のさまざまな事柄の都市経済学的理解を通じて、社会のさまざまな問題について、都市経済学の観点から解決策を考えられることになることも重要である。その際、それらの解決策の適用限界などについても考えることができるようになる。			
到達目標			
1. 都市経済学の基礎的な考え方について、概念的事項を中心に理解して説明することができる。(b:知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識、a:言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルと主に対応)			
2. 都市経済学の基礎的な考え方に基づいて、社会のさまざまな事柄を都市経済学の観点から簡単に説明することができる。(b:知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識、a:言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルと主に対応)			
3. 都市経済学の基礎的な考え方を応用して、社会のさまざまな問題の解決策について、都市経済学の観点から簡単に考えることができる。(c:問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力と主に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末レポート、宿題、授業中提出物を組み合わせて評価する。 その評価割合は、期末レポート50%(到達目標1・2・3と対応)、宿題40%(到達目標1・2と対応)、授業中提出物10%(到達目標1・2・3と対応)である。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
以下の授業計画に基づいて板書とスライドを基本とした講義を行う。 適宜練習問題をスライドなどで示すので、専門用語の定義や概念などを独力で説明できるようにすること。 なお、実際の授業の進捗状況によっては以下の計画が変更される場合があるが、その際は周知する。 この科目は原則全回対面授業を行う予定である。なお、状況によってはすべてまたは一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。			
【授業計画】			

1. 講義の概要説明、イントロダクション
2. 都市の形成要因（伝統的要因：比較優位、集積の経済、インフラ）
3. 都市の形成要因（新要因）
4. 都市のメリット（多様性選好、集積の経済）
5. 都市のデメリット（分散配置）
6. 都市の構造（単一中心都市）
7. 都市の問題（混雑）
8. まとめ(復習)

【自学・自習へのアドバイス】

[第1回]

準備学習(1時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(1時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。また、宿題について解答する。

[第2回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、都市形成の伝統的要因について、身近な社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第3回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、都市形成の新要因について、身近な社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第4回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、都市のメリットについて、身近な社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第5回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、都市のデメリットとそれに対する改善策について、社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第6回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、都市内部の構造について、単一中心都市を基に社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第7回]

準備学習(2時間)：事前にMoodleを通じて配布されるプリントを読み、その内容についておおまかに理解する。

事後学習(2時間)：講義内容を振り返り、プリントの内容について復習する。加えて、都市内部の構造による問題点について、社会のさまざまな現象との対応関係を考える。また、宿題について解答する。

[第8回]

準備学習(1時間)：これまでMoodleを通じて配布されたプリントを読み、その内容について再度復習する。

事後学習(3時間)：講義内容全体を振り返り、プリントの内容について復習する。また、期末レポートを作成する。

準備・事後学習の時間は、上に示した通り、合計30時間程度をかけることを想定している。各回の前後とも、それまでの講義の内容、主に専門用語の説明についてできるようになることを想定している。そのうえで、報道・書籍などで紹介されている、さまざまな現実の経済現象との関連について考えることを想定している。

教科書・参考書等

学生の興味に差があるため、教科書は指定しない。

都市経済学分野に興味がある学生は、以下の参考書1.2.を参考にすること。

1. (高校生から大学1年)「大都市はどうやってできるのか」、山本和博著、筑摩書房、2022、860円+税
2. (大学生)「都市・地域経済学への招待状」、佐藤泰裕著、有斐閣、2014、1800円+税

オフィスアワー 火曜日4時限目、南3号館2階の研究室。それ以外はメールで予約してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第3Qの同一教員の科目は必ずしも履修する必要はないが、履修しておくとう理解が深まる可能性がある。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000117) グローバル化と世界経済 Globalization and the World Economy グローバル化と世界経済	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q月5	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 山ノ内 健太	関連授業科目 国際経済学		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 グローバル化 世界全体で急速に進んだグローバル化は、世界経済や我々の生活にどのような影響を与えてきたのだろうか。本講義では、グローバル化がどのように進んできたかを扱い、世界経済の流れと現状をグローバル化の観点から論じる。また、グローバル化に伴って世界各国で生じた諸課題や、その解決方法について考えていく。			
授業の目的			
本講義では世界経済の概観を把握し、グローバル化の影響に関して考察できるようになることを目指す。本講義の存在意義は、グローバル化に関する課題とその解決方法を考える機会を提供する点にある。グローバル化が進んだ世界経済を適切に理解するためにはこの講義が必要である。より具体的には、世界経済とグローバル化に関係する制度・政策の把握、理論とデータを用いた諸問題の探究、グローバル化に関する自身の考えの表現の3点を重視する。			
到達目標			
1. 経済のグローバル化に関連する制度・政策を説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 関連する理論とデータを用いて、グローバル化が世界経済に与える影響が考察できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 世界経済のグローバル化に関する自身の考えを適切な形で表現できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト (リアクションペーパーを含む) 50% (特に到達目標1に対応)、レポート50% (特に到達目標2・3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は基本的に配布スライドを用いた講義形式とする。ただし、受講生の理解を助けるため、必要に応じてグループワークを取り入れる。この科目は全回対面授業を予定しているが、状況によっては一部の回を遠隔授業に変更する可能性もある。			
【授業計画】 第1回: イントロダクション 第2回: グローバル化の形態 第3回: 世界経済のグローバル化に関連する制度・政策 第4回: 世界経済の概観 第5回: アジア経済とグローバル化 第6回: アメリカ経済とグローバル化 第7回: ヨーロッパ経済とグローバル化 第8回: まとめ			
【自学自習に関するアドバイス】 第2・3回: グローバル化の影響に関する小テストに解答する。(2時間)			

第4回：Excelの扱い方を調べ、経済統計をスムーズに扱えるよう準備する。（8時間）

第5-7回：世界各国の経済状況を把握し、レポートを作成する。（20時間）

教科書・参考書等

【参考書（必須ではない）】

- ・石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』第2版、有斐閣、2013年、2,200円＋税。
- ・椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』、有斐閣、2020年、2,300円＋税。
- ・齊藤誠『教養としてのグローバル経済』、有斐閣、2021年、2,000円＋税。

オフィスアワー 質問などは、金曜4校時に幸町南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義では、広い視野と長期的な視点で、世界経済を俯瞰する機会を提供したい。また、経済統計の処理を通し、21世紀の諸課題を探索する能力を培ってほしい。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q月5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000118) グローバル化と日本経済 Globalization and the Japanese Economy グローバル化と日本経済	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 山ノ内 健太	関連授業科目 国際経済学		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×7.5回＋自学自習 (準備学習15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 グローバル化 グローバル化は世界全体だけでなく日本でも進んでいるが、日本経済や我々の生活はグローバル化によってどのような影響を受けたのだろうか。本講義では、グローバル化が日本でどのように進んできたかを扱い、日本経済の流れと現状をグローバル化の観点から論じる。また、グローバル化に伴って日本で生じた諸課題や、その解決方法について考えていく。			
授業の目的 本講義では日本経済の概観を把握し、グローバル化の影響に関して考察できるようになることを目指す。本講義の存在意義は、グローバル化に関する課題とその解決方法を考える機会を提供する点にある。グローバル化が進んだ日本経済を適切に理解するためにはこの講義が必要である。より具体的には、日本経済とグローバル化に関係する制度・政策の把握、理論とデータを用いた諸問題の探究、グローバル化に関する自身の考えの表現の3点を重視する。			
到達目標 1. 日本経済のグローバル化に関連する制度・政策を説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 関連する理論とデータを用いて、グローバル化が日本経済に与える影響が考察できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 日本のグローバル化に関する自身の考えを適切な形で表現できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト (リアクションペーパーを含む) 50% (特に到達目標1に対応) 、レポート50% (特に到達目標2・3に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は基本的に配布スライドを用いた講義形式とする。ただし、受講生の理解を助けるため、必要に応じてグループワークを取り入れる。この科目は全回対面授業を予定しているが、状況によっては一部の回を遠隔授業に変更する可能性もある。			
【授業計画】 第1回: イントロダクション 第2回: グローバル化の形態 第3回: 日本経済のグローバル化に関連する制度・政策 第4回: 日本経済の概観 第5回: 日本経済と貿易 第6回: 日本経済と国際金融取引 第7回: 日本経済と移民 第8回: まとめ			

【自学自習に関するアドバイス】 第2・3回：グローバル化の影響に関する小テストに解答する。（2時間） 第4回：Excelの扱い方を調べ、経済統計をスムーズに扱えるよう準備する。（8時間） 第5-7回：日本のグローバル化の流れと現状を把握し、レポートを作成する。（20時間）
教科書・参考書等 【参考書（必須ではない）】 ・石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』第2版、有斐閣、2013年、2,200円＋税。 ・棕寛『自由貿易はなぜ必要なのか』、有斐閣、2020年、2,300円＋税。 ・齊藤誠『教養としてのグローバル経済』、有斐閣、2021年、2,000円＋税。
オフィスアワー 質問などは、金曜4校時に幸町南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義では、広い視野と長期的な視点で、日本経済を俯瞰する機会を提供したい。また、経済統計の処理を通し、21世紀の諸課題を探索する能力を培ってほしい。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000119) 経営戦略 (ベーシック) Basic Strategic Management 経営戦略 (ベーシック)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 西中 美和	関連授業科目 経営戦略 (アドバンス)		
	履修推奨科目 経営戦略 (アドバンス)		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 試験1回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
経営学とは、企業を主とした組織を対象とし、その組織の社会の中における在り方を踏まえた上で、会社の仕組みを考え、運営してゆくための学問です。当授業では、企業とはどのような形態を持ち、経営にはどのような資源が必要かを考え、また、その資源を用い、外部環境を考慮した上でどのように運営するのかを学びます。経営は人間の営みですので、絶対的な答えはないのですが、ある程度汎用的な理解の仕組みはあります。これを理論と呼び、当授業ではそれらを学びます。経営学の中でも、企業の方針を作成したり、今後の経営計画を作ったりする部分である、経営戦略論の基礎を学習します。この授業では、内容の理解を深めるために、実際の事例を交えながらの講義・討議や、グループ演習を実施します。			
授業の目的			
現代組織の経営活動にかかわる諸問題等についての理解力と分析力を養うため、経営戦略の基礎的な考え方を修得する。特に、この授業では、以下の3点を目的とする。 (1) 社会における企業の基本的な仕組みを理解します。 (2) 経営戦略を策定するための基礎となる理論とフレームワークを理解することを目的とします。 (3) 経営戦略フレームワークを用いた事例分析ができることを目的とします。			
到達目標			
1. 企業の基本的な仕組みを理解する (DP, b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識) 2. 経営戦略論の主要な理論を理解する (DP, b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識) 3. 経営戦略論のフレームワークを用いて企業の経営課題を分析できる (DP, c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力)			
成績評価の方法と基準			
授業参加度 (授業での発言等) 25%, グループワーク課題 25%, 試験 50%により評価を行う。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業内容、その他】 ■ 授業内容は、代表的な理論とフレームワークを、実際の事例を交えた形で構成します。 ■ 授業方法は、主として講義形式で行いますが、一部、討議やグループワークを併用し、双方向性を取り入れます。 ■ 授業計画は、以下としますが、履修者の要望・テーマ等を考慮し、また、進捗等を見ながら変更の可能性があります。 ■ この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回: ガイダンス、企業とは、経営学とは、経営戦略とは 第2回: 企業の仕組みと経営学 第3回: 競争優位の分析: 外部環境要因と企業内部要因 (SWOT分析) 第4回: 業界の構造分析 第5回: 競争の基本戦略: 差別化戦略			

第6回：競争の基本戦略:コスト・リーダーシップ戦略

第7回：ブルー・オーシャン戦略

第8回：まとめ（前半：講義，後半：試験）

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

理論には，汎用的に現象を説明するという側面があります．

経営戦略的なものの見方・考え方は，応用範囲が広く，多くの場面に適用できます．

受講者は，新聞等から得られる実際の企業活動に対して，学んだ理論やフレームワークを使って考えることで，経営戦略論的な，考え方を身に着ける自己研鑽を行うことが望めます．

教科書・参考書等

教科書：必要に応じてプリントを配布します．

参考書：以下の通りです．

ヒット，アイルランド，ホスキンソン（著）高木・星（監訳）『戦略経営論（第3版）』センゲージ ラーニング，2021． 3,800円

オフィスアワー 希望者は事前にメールにてご連絡ください．

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

理論には，汎用性のある現象を説明するという側面があります．

経営戦略的なものの見方・考え方は，応用範囲が広く，多くの場面に適用できます．

予習/復習は各自行い，授業内容を理解してください．

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000120)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
経営戦略 (アドバンス) Advanced Strategic Management 経営戦略 (アドバンス)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 西中 美和	関連授業科目 経営戦略 (ベーシック)		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 試験1回 (90分) + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
経営学とは、企業を主とした組織を対象とし、その組織の社会の中における在り方を踏まえた上で、会社の仕組みを考え、運営してゆくための学問です。当授業では、企業とはどのような形態を持ち、経営にはどのような資源が必要かを考え、また、その資源を用い、外部環境を考慮した上でどのように運営するのかを学びます。経営は人間の営みですので、絶対的な答えはないのですが、ある程度汎用的な理解の仕組みはあります。これを理論と呼び、当授業ではそれらを学びます。経営学の中でも、企業の方針を作成したり、今後の経営計画を作ったりする部分である、経営戦略論の基礎を学習します。この授業では、内容の理解を深めるために、実際の事例を交えながらの講義・討議や、グループ演習を実施します。			
授業の目的			
現代組織の経営活動にかかわる諸問題等についての理解力と分析力を養うため、経営戦略の基礎的な考え方を、経営資源を中心に修得する。特に、この授業では、以下の3点を目的とする。 (1) 社会における企業の基本的な仕組みを理解します。 (2) 経営戦略を策定するための基礎となる理論とフレームワークを理解することを目的とします。 (3) 経営戦略フレームワークを用いた事例分析ができることを目的とします。			
到達目標			
1. 企業の基本的な仕組みを理解する (DP, b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識) 2. 経営戦略論の主要な理論を理解する (DP, b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識) 3. 経営戦略論のフレームワークを用いて企業の経営課題を分析できる (DP, c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力)			
成績評価の方法と基準			
授業参加度 (授業での発言等) 25%, グループワーク課題 25%, 試験 50%により評価を行う。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業内容、その他】 ■ 授業内容は、代表的な理論とフレームワークを、実際の事例を交えた形で構成します。 ■ 授業方法は、主として講義形式で行いますが、一部、討議やグループワークを併用し、双方向性を取り入れます。 ■ 授業計画は、以下としますが、履修者の要望・テーマ等を考慮し、また、進捗等を見ながら変更の可能性があります。 ■ この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回: ガイダンス、経営戦略とは 第2回: 経営戦略の基本的なフレームワーク (競争優位の源泉) 第3回: 経営戦略の基本的なフレームワーク (競争優位の創出) 第4回: 資源アプローチの競争戦略 第5回: 多角化戦略			

第6回：戦略的提携

第7回：プラットフォーム戦略

第8回：まとめ（前半：講義，後半：試験）

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

理論には，汎用的に現象を説明するという側面があります．

経営戦略的なものの見方・考え方は，応用範囲が広く，多くの場面に適用できます．

受講者は，新聞等から得られる実際の企業活動に対して，学んだ理論やフレームワークを使って考えることで，経営戦略論的な，考え方を身に着ける自己研鑽を行うことが望まれます．

教科書・参考書等

教科書：必要に応じてプリントを配布します．

参考書：以下の通りです．

ヒット，アイルランド，ホスキンソン（著）高木・星（監訳）『戦略経営論（第3版）』センゲージ ラーニング，2021． 3,800円

オフィスアワー 希望者は事前にメールにてご連絡ください．

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

理論には，汎用性のある現象を説明するという側面があります．

経営戦略的なものの見方・考え方は，応用範囲が広く，多くの場面に適用できます．

予習/復習は各自行い，授業内容を理解してください．

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000121) 株式・債券の仕組み Asset Pricing 株式・債券の仕組み	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 早木 祥夏	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分以上×1回+自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】資産形成、証券投資 資産形成は単なお金儲けの手段というわけではなく、将来の様々なリスクに対する備えでもあり、みなさんが思うよりも生活に密着したテーマです。本講義では、資産形成の代表的手段である証券投資（株式投資や債券投資）について、特に投資家の視点から解説します。なお、本講義で扱うのは、特定の条件の下での株式や債券の性質に関する理論であり、それが現実にも当てはまるとは限りません。このような理論は、資産形成の「ベンチマーク（基準点・水準点）」を提示するものであって、「正解」を導くものではありませんので、その点にはよくご留意ください。			
授業の目的			
近年、資産形成への関心の高まりから、株式投資や債券投資を含む資産形成に関する様々な情報（書籍やインターネットなど）が、質の悪いものも含めて氾濫していることは重大な問題です。本講義の目的は、株式や債券に関する理論の習得を通して、そのような様々な情報に対して自分なりの意見を持ち、その意見を正確に説明できるようになることです。			
到達目標			
1. 株式や債券が利害関係者にもたらす便益を説明できる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 2. 株式や債券に関する様々な情報に対し、自分なりの意見を持って批判・評価することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） 3. 自分の主張を正確に表現するために情報を取捨選択し、それを文章や口頭でわかりやすく他者に伝えることができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート40%(到達目標1, 2に対応)+期末レポート60%(到達目標1, 2, 3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション、金融リテラシーの重要性 第2週 株式や債券の基本 第3週 リスクと確率分布 第4週 分散投資効果 第5週 合理的投資家の選択 第6週 市場ポートフォリオ 第7週 資産価格モデル 第8週 債券分析			
【授業および学習の方法】 講義を中心に授業を進めます。毎回、講義内容の定着を目的としたミニレポートを課します。講義の進行度に応じてグループディスカッションを行う場合があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 準備学習(15時間)として、金融・経済に関する新聞やネットなどの記事を読む習慣をつけると良いでしょう			

う。また、日米の株価指数や国債金利、原油や金の先物価格など、主要な経済指標を毎日確認することも良い学習になります。事後学習(15時間)の時間は、ミニレポートの作成や講義内容のまとめなどに充てると良いでしょう。

教科書・参考書等

無理に購入する必要はありませんが、準備学習として下記の参考書を読むと講義の理解が深まります。

参考書：井上光太郎、高橋大志、池田直史『ベーシックプラス ファイナンス』中央経済社、2020年（2,400円+税）

オフィスアワー 火曜日3時間目

南2号館3階 早木研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

近年、個人の資産形成が重要なテーマになってきています。ニーズがある分野ですから、当然、書籍やインターネットなどで様々な情報が飛び交っていますが、中には疑わしいものも多々あります。何が良い情報で何が悪い情報かは皆さんご自身で判断していかなければなりません。この講義が、みなさんが資産形成の情報を判断する際の「ベンチマーク」のひとつになれば幸いです。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000122) 市場と感情の科学 Behavioral Economics & Finance 市場と感情の科学	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 早木 祥夏	関連授業科目 株式・債券の仕組み		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分以上×1回+自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】株式市場, 非合理性 みなさんは、我々人間は誰もが合理的・理性的に行動していると思いますか？ 多くの人はそうは思わないでしょう。株式市場のような大きなお金が動き、合理的な判断が求められる場所でさえ、人々は「理性」よりも「感情」で動くことがあると言われています。本講義では、日常生活や株式市場などの様々な場面で観察される様々な不可思議な現象を通じて、我々人間の意思決定のメカニズムに迫ります。			
授業の目的			
人間の非合理的行動について知ることを通じて、日常生活や株式市場に潜む人間の非合理的な行動についてアンテナを張り、人間の考え方や行動の多様性を理解して認めることができるようになることが本講義の目的です。			
到達目標			
1. 日常生活や株式市場における不可思議な現象と、人間の非合理性との関係を説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 日常生活や株式市場における非合理的な意思決定を発見し、批判・評価することができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 自分の主張を正確に表現するために情報を取捨選択し、それを文章や口頭でわかりやすく他者に伝えることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート40%(到達目標1, 2に対応)+期末レポート60%(到達目標1, 2, 3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 行動ファイナンスとは／ヒューリスティクスを用いて 第2週 ホモ・エコノミカス 第3週 時間選好 第4週 リスク選好 第5週 社会的選好 第6週 メンタル・アカウンティング 第7週 行動ファイナンス 第8週 ナッジ			
【授業および学習の方法】 講義を中心に授業を進めます。2回に一回程度の頻度で講義内容の定着を目的としたミニレポートを課します。			
【自学自習のためのアドバイス】 準備学習 (15時間) として、教科書の該当部分を精読すると良いでしょう。事後学習 (15時間) の時間は、ミニレポートの作成や講義内容のまとめなどに充てると良いでしょう。			
教科書・参考書等			

教科書：筒井義郎，佐々木俊一郎，山根承子，グレッグ・マルデワ『行動経済学入門』東洋経済，2017年（2,400円＋税）

授業中に出てくる用語の詳細な説明や詳細な図表等が記載されています。あわせて読むことで内容の理解が促進されるでしょう。

オフィスアワー 火曜日3時間目

南2号館3階 早木研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

合理的か非合理的かというのは、実際のところ、あるフレームワーク（物事の捉え方）から見て、それから乖離しているか否かの違いに過ぎません。たとえば、他の人を助けることは自分の財や時間を一方的に消費するという意味では非合理的かもしれませんが、それが周り巡って自分に返ってきたり、もし返ってこなくても他の人を助けること自体に喜びを感じたりするのであれば、それは合理的な意思決定だと言えるでしょう。フレームワークの数だけ合理的意思決定が存在するとも言えますから、我々にできるのは、「最も合理的な意思決定の追究」ではなく、「世の中にたくさんのフレームワークがあることを認めること」なのかもしれません。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Eg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000123)	主題科目	4Q火2	
アントレプレナーシップ (実践編) Entrepreneurship (Practice)	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
アントレープレナーシップ (実践編)	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 アントレープレナーシップ (入門編)		
板谷 和彦, 山本 靖	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習と事後学習を合わせて、30時間程度)			
授業の概要			
【キーワード】起業、ベンチャー企業、スタートアップ、イノベーション 今日、新規事業やベンチャー企業の必要性が叫ばれています。それらの担い手をアントレプレナーとして総称しますが、本授業では、アントレープレナーが果たすべき役割・精神性を「アントレープレナーシップ」として実践的に学びます。授業は前半と後半の2部構成に分かれます。前半では、アントレープレナーシップの実践的な側面を事例から紹介するとともに、実務的なプロセスやオペレーションを学びます。後半では、グループを組んでビジネスの提案を想定した演習を実施します。演習結果はグループ単位で発表します。			
授業の目的			
アントレープレナーが果たすべき役割・精神性とは何か、実際にどのようなプロセスやオペレーションを経て企業やビジネスは立ち上がるのかを学ぶとともに、自分が一人のアントレープレナーになることを想定し、アントレープレナーシップの役割を発揮するための基本的なりテラシーを身に付けることを目的とします。			
到達目標			
① 21世紀の大きな課題である新産業創出に向けてアントレープレナーが備えるべき実践的な知識を習得する (共通教育スタンダードの「諸課題に対する探求能力」に対応)。 ② 新産業創出の課題を理解してアントレープレナーとして実践するための基本的なりテラシーを身に付ける (共通教育スタンダードの「解決策を自己と関連づけて探求することができる」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
評価についての配点は、授業への取り組み姿勢が50%、グループ演習を50% (計) とします。授業への取り組み姿勢は、的確な質問や良質なコメントなど様々な講義への貢献を対象とします。グループ演習は、最終発表だけでなく、演習の過程も評価の対象となります。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業の方法: 講義と演習を主体とします。教員と学生がインタラクティブなコミュニケーションをはかれるよう、質問や意見・コメントが積極的に出るような講義や演習の進行に種々工夫します。			
授業計画: 授業の基本計画は以下としますが、履修者や進捗状況などによって変更する可能性があります。			
第1回. ガイダンス、アントレープレナーシップの実践とは 第2回. アントレープレナーシップの機会 第3回. ビジネスと戦略を踏まえた起業のプロセス 第4回. 起業の資金調達と収益化、ビジネス・プラン 第5回. 演習課題の提示とグルーピング、グループ演習の開始 第6回. グループ演習、ビジネスコンペや起業支援に関する施策の紹介 第7回. グループ演習とグループ発表 第8回. グループ発表 (続き) この科目は原則として対面授業を行います。			
自学自習のためのアドバイス			

自分が一人のアントレプレナーになることを想定して、問題意識を持ちながら各回の予習と復習を行ってください。グループ演習も自学自習の効果的な機会です。自分の役割を明確にしてメンバーと議論を深めて下さい。以下は各回の具体的な自己学習へのガイドラインです。

第1回：起業など関心事に沿って準備と復習をしてください（前後それぞれ2時間を目安）。

第2回～第4回：各回の 이슈に関連した事柄を調べるとともに、事後として自分で事例を調べて説明付けをしてみてください（前後それぞれ2時間を目安）。

第5回～第8回：グループのメンバーと役割分担をして調査や資料作り、発表後の振り返りを実施して下さい（進捗に応じて時間を配分のこと）。

教科書・参考書等

教科書（テキスト）は特に指定しません。参考書としては以下があります。

清水洋、「アントレプレナーシップ」、有斐閣

オフィスアワー 希望者は事前に連絡ください。 平日の昼間を中心に個別に設定します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

起業やベンチャー企業に関心があれば、事前の特別な知識は必要ありません。

教員の実務経験との関連

主担当する板谷は、技術系企業の中央研究所に勤務していた経験があります。新製品・新規事業創出に関する実務経験をもとに講義を行います。副担当する山本は、商社に勤務していた経験と自ら起業した経験があります。それらの実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cebG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 000124) プロジェクトさぬき イ Project Sanuki プロジェクトさぬき / Project Sanuki	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ceb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・ディスカッション・発表など 90分×週1コマ×8回 + 自学自習等 (授業外のグループワークやレポート作成なども含めて計30時間程度)			
授業の概要 この授業では、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に基づき、瀬戸内海の環境問題を中心とした香川県に関連する諸課題について、講義・実地研修・グループワーク・レポート作成等を通じて主体的に学ぶことを目指します。 グループは、可能な限り留学生と日本人学生の混成とし、グループごとに瀬戸内海の環境問題に関するテーマを設定し、主体的に調査や発表準備を進めます。 使用言語は、講義と実地研修では日本語および英語を用い、グループワークでは、学生の能力等やグループの状況に応じて各グループで日本語または英語のどちらを選択します。 適宜課されるミニレポートとクォーター末の最終レポートは、グループではなく各自で作成します。 ※留学生と日本人学生の共修のため、日本人学生の受講を歓迎します。留学生との共同作業により、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力等の向上も期待されます。			
授業の目的 調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）・瀬戸内に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。 その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。 ※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。			
到達目標 1. 瀬戸内海の環境問題に関する課題を自ら選択し、探求することができる。 (⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 実地研修及び既存文献・資料等の分析を行い、上記の課題について発表し、レポートとしてまとめることができる。 (⇒共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。			
成績評価の方法と基準 下記の観点及び割合で評価する。(※状況により変更する可能性あり) 講義および実地研修への取り組み姿勢: 10% (特に到達目標 1、2 に対応) ミニレポートの提出: 20% (特に到達目標 1、2 に対応) グループ発表評価: 40% (特に到達目標 1、3 に対応) 個人レポート: 30% (特に到達目標 1、2 に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 国連の定めるSDGs (持続可能な開発目標) 17の目標のうち「14. 海の豊かさを守ろう」に基づき、香川県環境森林部および一般社団法人かがわガイド協会 (NPO法人アーキペラゴ) の協力のもと、講義や実地研修、グループワークを通して瀬戸内海の環境問題について学習します。 第1回 Introduction to Sanuki Project class, aim, assignment, Criteria for grading, etc. さぬきプロジェクトの概要・目的・課題などについての説明、評価基準提示 等			

- 第2回 Lecture about SDGs and marine environment, Team formation, Explanation for project
SDGsと海洋環境についての講義、グループ編成、プロジェクトについての説明
- 第3回 Field work 実地研修
- 第4回 Group work(1) グループワーク (1)
- 第5回 Group work(2) グループワーク (2)
- 第6回 Group work(3) グループワーク (3)
- 第7回 Final presentation(1) 最終発表 (1)
- 第8回 Final presentation(2) 最終発表 (2)

※実施研修は、高松市内の海岸視察および漂着ごみの回収を通じた海洋環境に関する学習（必修）を予定しています。

※実地研修に係る実費負担は「なし」または「現地までの交通費のみ」の予定です。

※上記計画は、状況に寄り変更の可能性もあります。変更の場合は授業で周知します。

【授業及び学習の方法】

この授業は、講義と実地研修により知識と経験を積みますが、中心となるのはグループワークです。グループに分かれて課題を設定し、ディスカッションを行いながら主体的・積極的に解決策を考えていきます。基本的には対面授業を行います。状況によっては一部を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動です。

学生同士のみならず、担当教員や学外講師とのコミュニケーションの中から大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してください。

第1回、第2回 講義内容を復習・理解し、ミニレポート作成を行う。（2時間）

第3回 実地研修での経験・学びを振り返り、講義で学んだことと関連付けてミニレポートを作成する。（2時間）

第4～6回 グループごとに主体的に調査や発表準備、発表練習を行う。（20時間）

第7回 第1～6回での学習と、自分自身で調べた内容等を結び付け、最終レポートを作成する。（6時間）

【注意】

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」および令和1～4年度の「プロジェクトさぬき」と同じ内容であるため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 以下は予定です。変更する場合は適宜授業時にお知らせします。

- ロン : 水曜日 13:30～14:30
研究室（幸町南3号館2階）またはインターナショナルオフィス（南2号館1階）
- 高水 : 火曜日 14:40～16:10
研究室（幸町北5号館5階）またはインターナショナルオフィス（南2号館1階）
- 塩井 : 木曜日 13:00～14:30
研究室（幸町北5号館5階）またはインターナショナルオフィス（南2号館1階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

指導教員とよく相談しながら取り組むこと。

ナンバリングコード B2THM-cebG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 000125) プロジェクトさぬき ロ Project Sanuki プロジェクトさぬき / Project Sanuki	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q月5	対象年次 1～				
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ceb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム				
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1					
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	関連授業科目						
	履修推奨科目						
学習時間 講義・ディスカッション・発表など 90分×週1コマ×8回 + 自学自習等 (授業外のグループワークやレポート作成なども含めて計30時間程度)							
授業の概要							
この授業では、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に基づき、瀬戸内海の環境問題を中心とした香川県に関連する諸課題について、講義・実地研修・グループワーク・レポート作成等を通じて主体的に学ぶことを目指します。 グループは、可能な限り留学生と日本人学生の混成とし、グループごとに瀬戸内海の環境問題に関するテーマを設定し、主体的に調査や発表準備を進めます。 使用言語は、講義と実地研修では日本語および英語を用い、グループワークでは、学生の能力等やグループの状況に応じて各グループで日本語または英語のどちらを選択します。 適宜課されるミニレポートとクォーター末の最終レポートは、グループではなく各自で作成します。 ※留学生と日本人学生の共修のため、日本人学生の受講を歓迎します。留学生との共同作業により、日本人以外の人々とのコミュニケーション力・調整力等の向上も期待されます。							
授業の目的							
調査・プレゼン・レポート作成・ディスカッション等を通じて、特に香川（さぬき）・瀬戸内に関する知識を身につけ、現状理解と課題解決に向けての考察・提案を行う。 その過程を通して、分析能力及び語学レベル、コミュニケーション能力を向上する。 ※ 語学（英語、日本語）の授業ではない。							
到達目標							
1. 瀬戸内海の環境問題に関する課題を自ら選択し、探求することができる。 (⇒共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 実地研修及び既存文献・資料等の分析を行い、上記の課題について発表し、レポートとしてまとめることができる。 (⇒共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 自らのプロジェクトについて、説得力のある発表をすることができる。							
成績評価の方法と基準							
下記の観点及び割合で評価する。(※状況により変更する可能性あり) 講義および実地研修への取り組み姿勢: 10% (特に到達目標 1、2 に対応) ミニレポートの提出: 20% (特に到達目標 1、2 に対応) グループ発表評価: 40% (特に到達目標 1、3 に対応) 個人レポート: 30% (特に到達目標 1、2 に対応)							
成績評価の基準							
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 <table><tr><td>合格又は了</td><td>到達目標を達成している。</td></tr><tr><td>不合格</td><td>到達目標を達成していない。</td></tr></table>				合格又は了	到達目標を達成している。	不合格	到達目標を達成していない。
合格又は了	到達目標を達成している。						
不合格	到達目標を達成していない。						
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス							
【授業計画】							
国連の定めるSDGs (持続可能な開発目標) 17の目標のうち「14. 海の豊かさを守ろう」に基づき、香川県環境森林部および一般社団法人かがわガイド協会 (NPO法人アーキペラゴ) の協力のもと、講義や実地研修、グループワークを通して瀬戸内海の環境問題について学習します。							
第1回 Introduction to Sanuki Project class, aim, assignment, Criteria for grading, etc. さぬきプロジェクトの概要・目的・課題などについての説明、評価基準提示 等							

第2回	Lecture about SDGs and marine environment, Team formation, Explanation for project SDGsと海洋環境についての講義、グループ編成、プロジェクトについての説明
第3回	Field work 実地研修
第4回	Group work(1) グループワーク (1)
第5回	Group work(2) グループワーク (2)
第6回	Group work(3) グループワーク (3)
第7回	Final presentation(1) 最終発表 (1)
第8回	Final presentation(2) 最終発表 (2)

※実施研修は、高松市内の海岸視察および漂着ごみの回収を通じた海洋環境に関する学習（必修）を予定しています。

※実地研修に係る実費負担は「なし」または「現地までの交通費のみ」の予定です。

※上記計画は、状況に寄り変更の可能性もあります。変更の場合は授業で周知します。

【授業及び学習の方法】

この授業は、講義と実地研修により知識と経験を積みますが、中心となるのはグループワークです。グループに分かれて課題を設定し、ディスカッションを行いながら主体的・積極的に解決策を考えていきます。基本的には対面授業を行います。状況によっては一部を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

プロジェクトにとって最も大切なのは、受講者の能動的な活動です。

学生同士のみならず、担当教員や学外講師とのコミュニケーションの中から大きなヒントを得られることも多いので、積極的に活用してください。

第1回、第2回 講義内容を復習・理解し、ミニレポート作成を行う。（2時間）

第3回 実地研修での経験・学びを振り返り、講義で学んだことと関連付けてミニレポートを作成する。（2時間）

第4～6回 グループごとに主体的に調査や発表準備、発表練習を行う。（20時間）

第7回 第1～6回での学習と、自分自身で調べた内容等を結び付け、最終レポートを作成する。（6時間）

【注意】

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「プロジェクトさぬき その1・その2」および令和1～4年度の「プロジェクトさぬき」と同じ内容であるため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教科書・参考書等	
特になし	
オフィスアワー 以下は予定です。変更する場合は適宜授業時にお知らせします。	
ロン	水曜日 13:30～14:30 研究室（幸町南3号館2階）またはインターナショナルオフィス（南2号館1階）
高水	火曜日 14:40～16:10 研究室（幸町北5号館5階）またはインターナショナルオフィス（南2号館1階）
塩井	木曜日 13:00～14:30 研究室（幸町北5号館5階）またはインターナショナルオフィス（南2号館1階）
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
指導教員とよく相談しながら取り組むこと。	

ナンバリングコード B2THM-cbeG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000126)	主題科目	2Q月5	
Leading Edge Issues in Kagawa University イ	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
Leading Edge Issues in Kagawa University	分野 主題	DPコード: cbe	特定プログラムとの対応
Leading Edge Issues in Kagawa University	授業形態 講義	単位数 1	ネクスト・プログラム
担当教員名	関連授業科目		
ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (ミニレポート作成、事後学習、最終レポート作成を合わせて30時間)			
授業の概要			
【キーワード】香川大学の研究・教育・社会貢献活動 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。**			
授業の目的			
本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標			
1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
最終レポート (70%、特に到達目標2と3に対応) とミニレポート (30%、特に到達目標1に対応) に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには授業中の参加状況の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2枚以上 (英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1 回目 インターナショナルオフィス担当 イントロダクション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について 2 回目から 7 回目は、担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行う。ただし、担当や順序は変更の可能性がある。 2 回目 担当: 国際希少糖研究教育機構 希少糖 3 回目 担当: 創造工学部 水循環 4 回目 担当: 経済学部 ゲーム理論 5 回目 担当: 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 災害とその対策 6 回目 担当: インターナショナルオフィス 本学の国際交流と海洋環境			

7回目 担当：農学部 食品科学
8回目 インターナショナルオフィス担当
・振り返り
・まとめ

【実施の方法】

この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。

【自学自習について】

自分の興味のある分野、または、専門とする（予定の）分野については、特に広い視点から見つめ直す。
（ミニレポートを含め各回2.5時間）

上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。（ミニレポートを含め各回2.5時間）

教科書・参考書等

特に指定しない

オフィスアワー 高水： 火曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」
塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」
ロン： 水曜日 13:00～14:00「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

上記の通り、ミニレポートも成績評価に必要で、それを書き、提出するためには出席が必要です。

教員の実務経験との関連

下記に例示するような国際的な経験を有する教員が担当する。

- ・海外の協定大学・機関等との研究交流や学生交流
- ・国際プロジェクト（教育・研究等）の担当
- ・様々なレベルでの国際貢献
- ・海外からの留学生の受け入れ
- ・海外への学生派遣

ナンバリングコード B2THM-cbeG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000127)	主題科目	4Q月5	
Leading Edge Issues in Kagawa University ロ Leading Edge Issues in Kagawa University	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
Leading Edge Issues in Kagawa University	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (ミニレポート作成、事後学習、最終レポート作成を合わせて30時間)			
授業の概要			
【キーワード】 香川大学の研究・教育・社会貢献活動 本学における広範な研究・教育・社会貢献活動の中で、特に国際的意義の高いものを、他分野の学生にも理解しやすいように英語で紹介する。講義の形態はオムニバス形式とする。日本人学生・留学生のどちらも受講可能であり、積極的な受講を歓迎する。 **使用言語は英語である。**			
授業の目的			
本学で現在取り組まれている幅広い分野の研究・教育を含む各種活動に焦点を当て、その国際的意義、または国際比較の観点から、世界や地域と本学との関わり方について考察する。			
到達目標			
1. 本学の各部局・機構・センターにおいて取り組まれている研究・教育・社会貢献の各種活動を知り、簡潔に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これらの諸活動の国際的な意義を理解し、国際的な比較・分析をすることができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の各種活動の応用可能性について述べるることができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
最終レポート (70%、特に到達目標2と3に対応) とミニレポート (30%、特に到達目標1に対応) に基づいて評価する。 ただし、ミニレポートには授業中の参加状況の評価を含む。 レポートの長さはA4サイズ、2枚以上 (英文、800～1000語) 評価担当: インターナショナルオフィス			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1 回目 インターナショナルオフィス担当 イントロダクション ・授業の進め方やシステムについて ・成績評価 ・本授業について 2 回目から 7 回目は、担当する各部局・機構・センターが、それぞれの先端的な部分について、「国際」をキーワードに講義を行う。ただし、担当や順序は変更の可能性がある。 2 回目 担当: 創造工学部 水循環 3 回目 担当: インターナショナルオフィス 本学の国際交流とI0の取り組み 4 回目 担当: 教育学部 英語教育 5 回目 担当: 医学部 新型コロナウイルス感染症と生活習慣病 6 回目 担当: 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地質災害			

7回目 担当：農学部 生物活性物質の抽出

8回目 インターナショナルオフィス担当

- ・振り返り
- ・まとめ

【実施の方法】

この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。

【自学自習について】

自分の興味のある分野、または、専門とする（予定の）分野については、特に広い視点から見つめ直す。

（ミニレポートを含め各回2.5時間）

上記以外の分野については、本学の「今」を知り、自分なりに消化し、説明できるように復習する。（ミニレポートを含め各回2.5時間）

教科書・参考書等

特に指定しない

オフィスアワー 高水： 火曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

塩井： 木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

ロン： 水曜日 13:00～14:00「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

上記の通り、ミニレポートも成績評価に必要で、それを書き、提出するためには出席が必要です。

教員の実務経験との関連

下記に例示するような国際的な経験を有する教員が担当する。

- ・海外の協定大学・機関等との研究交流や学生交流
- ・国際プロジェクト（教育・研究等）の担当
- ・様々なレベルでの国際貢献
- ・海外からの留学生の受け入れ
- ・海外への学生派遣

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lx1		科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000128)		主題科目	2Q金1	
オリンピックの歴史と文化 History and Culture of Olympic Games		水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	
オリンピックの歴史と文化 (History and Culture of Olympic Games)		授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 石川 雄一		関連授業科目		
		履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備15時間、事後学習15時間)				
授業の概要				
【キーワード】オリンピック オリンピズム スポーツマンシップ フェアプレー スポーツ文化 1896年ギリシアのアテネで始まった近代オリンピックは、127年の時を経て2021年に開催された東京大会で第32回を迎えました。近代オリンピックの発展が世界中のスポーツの発展に寄与したことは紛れもない事実です。本講義ではオリンピックの成り立ちや、近代オリンピックの創世期を振り返りながら、クーベルタン男爵が提唱したオリンピズムやスポーツマンシップ、フェアプレーの精神、日本のスポーツの発展などスポーツ文化的価値について考えていきます。				
授業の目的				
2021年に2回目の東京オリンピックが開催されたこの時期に、開催国の国民としてオリンピックの歴史について基本的な知識を理解し、オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について学ぶことで、スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できるようになりましょう。				
到達目標				
1. オリンピックの歴史について基本的な知識が理解できる。 2. オリンピズム、スポーツマンシップ、フェアプレーの精神について説明できる。 3. スポーツの文化的価値について自分なりの考えを説明できる。 以上の到達目標は香川大学共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応しています。				
成績評価の方法と基準				
授業後に提出してもらう振り返り内容 (60%到達目標1.2に対応) とレポート (40%到達目標3に対応) にて判定する。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
授業はプロジェクターを用いて行います。画面は撮影可能です。				
第1回 エピローグ1964東京オリンピック 第2回 古代オリンピックについて 第3回 近代オリンピックの歴史と発展 (1) 第4回 近代オリンピックの歴史と発展 (2) 第5回 近代オリンピックの歴史と発展 (3) 第6回 近代オリンピックの歴史と発展 (4) 第7回 近代オリンピックの歴史と発展 (5) 第8回 スポーツの文化的価値について (レポート作成含む)				
なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。				
自学自習のアドバイス				
第1回 1964年に開催された東京オリンピックに関する情報を事前にインターネット等で調べてみましょう。(2時間) また講義中に取り上げられた事項についても関連事項を調べて理解を深めましょう。(2時間) 第2回?7回 各時間の講義中に取り上げられた、専門用語や人物等についてインターネット等を使い調べてみる。そして講義では取り上げられなかった関連する事項についても理解を深めましょう。(各3時間×6回) 第8回 これまでの講義や自学自習で蓄積した知識をもとにレポート作成の構想や下書きを考えてみましょう				

う。（8時間）

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔授業（Zoomによるライブ講義）へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

特にありません

オフィスアワー 月曜日 1 時限目。研究室は幸町北キャンパス 5 号館 4 階にあります。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講マナーを遵守してください

ナンバリングコード B2THM-cbeG-10-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q月1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000129) ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望A Music Festivals in Europe A ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望A Music Festivals in Europe A	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目 芸術A		
	履修推奨科目 芸術A		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】ヨーロッパ文化 音楽祭 オペラ ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Aで取り上げるのは、ヴェローナ音楽祭、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルク音楽祭である。			
授業の目的			
ヨーロッパの音楽芸術(特にオペラ)への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			
1. ヴェローナ、ザルツブルク、ブレゲンツの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 2. モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニなどの有名なオペラの概要を知ることができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 社会における芸術のあり方・位置づけについて考えることができる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末試験の成績が評価の中心となるが(約95%)[特に到達目標1, 2に対応]、ミニレポートをたまに実施することもある(約5%)[特に到達目標3に対応]。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 ヴェローナ音楽祭(1) 第2回 ヴェローナ音楽祭(2) 第3回 ブレゲンツ音楽祭(1) 第4回 ブレゲンツ音楽祭(2) 第5回 ザルツブルク音楽祭(1) 第6回 ザルツブルク音楽祭(2) 第7回 ザルツブルク音楽祭(3) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義中心に進めます。 この科目は全回対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
授業では作品の一部しか鑑賞できません。もっとじっくり鑑賞したい場合は、図書館のラーニングコモンズの視聴覚ブースで、小学館 DVD BOOK『魅惑のオペラ』を利用してください。			
第1～7回 Moodleに掲載する授業資料で復習する。(1時間) Moodleからリンクする動画、または図書館で作品を鑑賞する。(1時間)			

教科書・参考書等

教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。

オフィスアワー 水曜日1時限目、またはメール等での相談。研究室は幸町北キャンパス5号館4階。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。

ナンバリングコード B2THM-cbeG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000130)	主題科目	4Q月1	
ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望B Music Festivals in Europe B	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
ヨーロッパの音楽祭の歴史と展望B Music Festivals in Europe B	分野 主題	DPコード: cbe	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 芸術A		
最上 英明	履修推奨科目 芸術A		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】ヨーロッパ文化 音楽祭 オペラ ヨーロッパの主要な音楽祭の歴史を、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。 Bで取り上げるのは、ワーグナーが創設したバイロイト音楽祭である。			
授業の目的			
ヨーロッパの音楽芸術(特にオペラ)への理解を通して、ヨーロッパの文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			
1. ワーグナーの聖地として知られるバイロイトの音楽祭の歴史や背景を知ることができる。 2. ワーグナーのオペラの概要を知ることができる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 社会における芸術のあり方・位置づけについて考えることができる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末試験の成績が評価の中心となるが(約95%)[特に到達目標1, 2に対応]、ミニレポートをたまに実施することもある(約5%)[特に到達目標3に対応]。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 バイロイト音楽祭(1) 第2回 バイロイト音楽祭(2) 第3回 バイロイト音楽祭(3) 第4回 バイロイト音楽祭(4) 第5回 バイロイト音楽祭(5) 第6回 バイロイト音楽祭(6) 第7回 バイロイト音楽祭(7) 第8回 まとめ・期末試験(45分)			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義中心に進めます。 この科目は全回対面授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
授業では作品の一部しか鑑賞できません。もっとじっくり鑑賞したい場合は、図書館のラーニングコモンズの視聴覚ブースで、小学館 DVD BOOK『魅惑のオペラ』を利用してください。			
第1～7回 Moodleに掲載する授業資料で復習する。(1時間) Moodleからリンクする動画、または図書館で作品を鑑賞する。(1時間)			
教科書・参考書等			
教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			

オフィスアワー 水曜日1時限目、またはメール等での相談。研究室は幸町北キャンパス5号館4階。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

他の受講者の迷惑になるので、特に作品鑑賞中の私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術に積極的に接して欲しい。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000131)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
損害保険を考える Overview of the Non-Life Insurance Business in Japan	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 及川 清志	関連授業科目 「生命保険を考える」、防災関連科目		
	履修推奨科目 「生命保険を考える」、防災関連科目		
学習時間 講義90分×8回+自習(事後学習30時間)			
授業の概要			
【キーワード】損害保険、リスク管理、災害・減災 私たちは、病気やケガ又は交通事故等のリスクにさらされて生活しています。また、近年、大規模な自然災害が頻発しています。万一リスクが具体化して私たちが損害を被ったとき又は企業が損害を受けたとき等、その損害を補償するのが損害保険です。損害保険は、私たちが安心して日常生活を送ることや災害に強い社会の構築に役立つだけでなく、企業の持続性ある経済活動を可能とする上で必要不可欠なものであり、損害保険業は公共性が高い保険業の1つなのです。 この授業では、損害保険が私たちの日常生活や企業活動に果たす重要な役割と各種の損害保険商品の概要について、「実社会」を意識した「実践的」な講義を展開し、損害保険に対する関心を高めるとともに理解を深め、消費者として又社会人として身につけておくべき基本的な損害保険の知識の修得を目指します。このような授業は、本学のDRI教育のうち、「R」(Risk)分野の一翼を担うものです。			
授業の目的			
実務面から、損害保険の仕組み・必要性の理解を促進し、受講生の損害保険リテラシーを向上させ、将来自立してリスクに相応しい損害保険契約を締結できる力を育みます。また、災害に備える防災意識を高め、さらに、損害保険が社会や経済にどのような役割を果たしているかを学びます。このような損害保険について理解を深めることによって、SDGsとの関連性に気づくだけでなく、公共性のある保険業を営む損害保険会社の業務の説明を通して、人生設計・職業観、そして社会観を深く考えます。			
到達目標			
1. 消費者・社会人として必要な経済的備えである損害保険の基本的知識を説明することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」および「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 損害保険の歴史、仕組み、意義を他の金融形態との対比の中で説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 損害保険会社が社会・経済の流れの中でどのように関わっているか説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
①参加状況などの授業態度10%(到達目標1、2、3に対応)、②小テスト(第5週に実施)20%(到達目標1、2に対応)、③最終試験70%(到達目標1、2に対応)により評価を行います。これらの総合評価により60%以上を合格とします。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画(予定)】 授業の進行状況及び受講生の理解度等により、授業計画を修正する場合があります。 第1週 ガイダンス～損保協会の活動 第2週 保険の仕組み、役割 第3週 くるまの保険(自賠責保険・自動車保険) 第4週 すまいの保険(火災保険・地震保険) 第5週 小テスト、からだの保険(傷害保険・医療保険・海旅保険)・自転車保険 第6週 企業分野の保険 第7週 保険会社の業務 第8週 まとめ、定期試験			

※ 第6週、第7週は、ゲストスピーカー（損害保険会社の実務家）が講義を行います。

【授業および学習の方法】

- ・授業は講義形式（パワーポイント資料、冊子類を中心）を基本しますが、受講生へ質問を適宜行い、できる限り「双方向の授業」となるように務めます。なお、授業中に、授業を活性化させる等の発言・質問を行った場合、教員の判断で加点する場合があります。
- ・第5週の授業開始前15分間、第1週から第4週までの内容について小テストを行います。

【自習学習のためのアドバイス】

- ・講義終了後にパワーポイントの資料の復習をすることに心がけていただきたい。（1～7週の講義復習は各3時間）
- ・小テストは資料等の持ち込みは一切不可としますが、難問・奇問は出題しません。（小テストの学習時間として7時間）
- ・最終試験は手書きもしくはタイピングしたノートのみ持ち込みを可（資料のコピー不可）とします。そのため、授業で重要と思われる内容を各自のノートへ毎回整理しておくことを勧めます。（講義の復習時間と併せて実施願います）

教科書・参考書等

指定なし

オフィスアワー 授業終了後、教室において

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・損害保険の理解促進は今後の人生設計を考える上で必要不可欠です。必要な経済的備えである損害保険の基本的知識を得ることで様々なリスクに備えることができるようになっていただきたい。

参照ホームページ

<https://www.sonpo.or.jp/>

教員の実務経験との関連

- ・及川教員（日本損害保険協会四国支部事務局長）は、日本損害保険協会の職員として従事し損害保険事業全般に深く精通しています。なお、この授業は「日本損害保険協会四国支部提供講座」として開講されます。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000132) 生命保険を考える Overview of the Life Insurance Business in Japan 生命保険を考える Overview of the Life Insurance Business in Japan	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 菊地 一哉	関連授業科目 損害保険を考える		
	履修推奨科目 損害保険を考える		
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習12時間+事後学習10時間)			
授業の概要 【キーワード】生命保険、社会保障、生活設計 この授業では、最初に身の回りの顕在的・潜在的なリスクとその対処方法を理解し、そのうえで、日本の公的保障（社会保障制度）を概観します。そして現在の少子高齢化社会における課題認識を持っていただき、公的保障を補完する私的保障（個人々での取組み）の内容（必要性や有用性）を理解し、議論と考察を深めて行きます。また、授業の中でグループディスカッションも交え、多様な意見にも触れていただき、国の制度等は変わっていきますが、私的保障である生命保険について学ぶことで、社会の一員として成長する契機とします。この授業は、本学のDRI教育のうち、「R」（Risk）分野の一翼を担うものです。			
授業の目的 少子高齢化社会の現状と今後の社会保障問題を背景として、生命保険の重要性や役割を理解することにより、社会保障制度全体を理解し、併せて、生活設計力、生活上のリスク管理能力を研鑽する。そのために、現役の実務家による経験談や最新情報の提供も随所に織り込み、理論と実践の両面で理解を深める。			
到達目標 1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. 現代生活におけるリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を理解し、説明することができる（共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応）。 3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%（特に到達目標3に対応）、授業アンケート（毎回の授業にて提出（特に到達目標1、2に対応））+授業態度30% の総合得点で評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション・生命保険総論（社会保障・経済環境、公私二本柱の保障、現代生活と保険） 第2回 生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計の必要性、経済的リスクとその対処法） 第3回 公的保障と生命保険①（死亡・病気・ケガの各リスクへの公的・私的な保障） 第4回 公的保障と生命保険②（老後・介護の各リスクへの公的・私的な保障） 第5回 生命保険の仕組（法的性質、構成要素、契約の流れ・手続）と税金（生命保険に関わる税金と事例による解説） 第6回 生保会社の組織・業務（会社組織と保険引受、資産運用等を解説） 第7回 生命保険商品の動向（明治～平成の時代背景・経済環境・ニーズの変化と現状、今後の動向） 第8回 まとめ、定期試験			

※受講生の理解度や履修人数によっては、特に第5～8週の内容・順番を見直す場合があります。

【授業及び学習の方法】

- ・各回の講義資料：パワーポイントで作成・整理した資料を、プロジェクターでスライド投影して説明。
- ・授業アンケート（A4サイズ1枚）：講義終了後に、記入し提出。
（例：講義内容の理解度確認、質問や疑問等、場合により小テスト）
- ・グループディスカッション：授業の中で、随時実施します。講師が提示したテーマについて、当日ランダムに結成したグループで討議し、グループとしての意見を「討議シート」にまとめ発表、または講師へ提出する。
- ・この科目は全回対面授業を行います。なお状況により変更となることもあります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業時間外においても、とくに以下の点は常に課題意識を持ち「自分ごと化」して考察していただきたい。

※「自分ごと化」自分だったらどうするか、社会人になったときどうするかなど自分のこととして考えてください

- ①自分の専門分野からの視点で、日本の社会保障制度の諸課題について考察する。
- ②公的保障のしくみを理解し、様々なリスクへの対処法を考えて、自分の将来のライフプランを設計する

第1回 日本の社会保障制度や経済環境を調べ整理する（2時間）

第2回 自分の身の回りの様々なリスクを洗い出すとともに、自分の今後の生活設計を立てられる準備を行う（2時間）

第3回 死亡や病気、ケガでの入院等に対する社会保障制度を調べ整理する（3時間）

第4回 老後や介護に対する社会保障制度を調べ整理する（3時間）

第5回 生命保険に関する税金の種類等を調べ整理する（3時間）

第6回 生命保険会社のホームページ等から会社の組織・業務を調べ整理する（3時間）

第7回 過去の講義資料を整理するとともに、生命保険会社のホームページで商品の種類を調べ整理する（3時間）

第8回 過去の講義資料を確認する（3時間）

教科書・参考書等

指定なし。

オフィスアワー 毎回の講義終了後、教室にて。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・少子高齢化社会における社会保障制度の制度設計の変更などメディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
- ・その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなります。

教員の実務経験との関連

教員（生命保険協会香川県協会事務局長）は大手生命保険会社で管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通し、専門的な知識・経験・実績を有しています。わかりやすく丁寧な講義を行います。なお、この授業は「生命保険協会香川県協会提供講座」として開講されます。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Ef1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000133)	主題科目	3Q金2	
海外体験型異文化コミュニケーション I Study Abroad:Communicating Across Cultures I	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
海外体験型異文化コミュニケーション Study Abroad:Communicating Across Cultures	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 海外体験型異文化コミュニケーションII		
ロン リム, 高水 徹	履修推奨科目 海外体験型異文化コミュニケーションII		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) (海外体験型異文化コミュニケーションIIでは、春季休暇中に約2週間の現地 (台湾) 研修を実施。詳細は下記。)			
授業の概要			
本授業は、皆さんが海外において異文化を体験できるような知識と技能を習得するための内容を提供します。海外留学の入門編であると考えてください。日本とゆかりの深い台湾は、経済的結びつきも強く、アジアの重要な拠点です。現地の研修では、台湾中部の嘉義市に所在する台湾国立嘉義大学に行き、台湾について現地で学ぶだけでなく、現地での学生同士のディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養います。実際に異文化を見聞し、話し合う経験を積むことは、台湾に限らず他の国々の人たちとコミュニケーションする際にも役立ちます。本授業は、第1回から第5回 (2012年～2016年) まで、タイ王国で実施されましたが、2017年の6回目から、研修先を台湾へ移しました。2023年度で、台湾での研修は4回目となります。			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIでは、本学での準備に加え、台湾へ行って研修を行います。海外体験型異文化コミュニケーションIはその準備段階となります。第3クォーターの間に、現地での研修に参加へ向けて、積極的に検討してもらいます。			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIは、台湾での研修に参加する意志のある学生のみ登録してください。			
【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIのみを履修して研修に参加することも可能ですが、できるだけ海外体験型異文化コミュニケーションIも合わせて受講してください。			
授業の目的			
本授業の目的は、実際に海外に滞在し、日本国内で学習した内容を現地での体験を通して確かめ、新たな知見へと発展させる「経験」をすることです。異文化を背景とする人々との交流実践を積み、グローバル社会で求められる国際コミュニケーション力を伸ばします。			
到達目標			
1. 日本や自分自身のことを台湾の学生たちに日本語・中国語・英語で紹介して、発信することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 世界の中の日本の位置づけを理解し、「学生大使」としての意識をもって取り組むことができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 海外での学習体験によって、視野を広げると共に、成熟した市民として行動することができる。			
成績評価の方法と基準			
【注意】海外体験型異文化コミュニケーションIIについては、研修後の最終報告書の提出とチェックを義務付けているため、提出状況によっては成績発表が遅れる場合もある。			
(以下は、研修時期によって変更する可能性あり)			
第3クォーター (海外体験型異文化コミュニケーションI) 授業中の貢献度: 30% (特に到達目標2に対応) 発表: 40% (特に到達目標1と3に対応) コミュニケーション: 30% (特に到達目標1に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおり			

とする。

合格又は了

到達目標を達成している。

不合格

到達目標を達成していない。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【本学での事前学習】

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

第3クォーター

- (1) ガイダンスとイントロダクション、本授業の説明及び確認
- (2) 台湾および嘉義大学等について
- (3) 台湾に関する基本情報（導入および分担決定）
- (4) 台湾に関する基本情報（宗教、祭り、産業、歴史、経済、社会等について、発表準備）
- (5) 台湾に関する基本情報（上記に関する発表）
- (6) 香川県の紹介（分担決定および発表準備）
- (7) 香川県の紹介（プレゼンテーション練習）
- (8) まとめ等

第4クォーター

- (9) イントロダクション
- (10) 中国語の講習会その1（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (11) 中国語の講習会その2（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (12) 香川大学紹介プレゼンテーションの準備
- (13) 香川大学紹介プレゼンテーションの予行演習
- (14) 中国語による自己紹介・プレゼンテーションの準備、予行演習
- (15) 予備日
- (16) 出国手続き、危機管理に関する講習

【現地での研修（これまでの例に基づく案）】

- 顔合わせ、キャンパスツアー
- 中国語研修、課外研修（昆虫博物館）
- 中国語研修、課外研修（ヒノキ公園、嘉義公園）
- 中国語研修、課外研修（孔子廟、市民朝市場）
- 中国語研修、課外研修（パイナップル・ケーキや地元の銘菓の工場）
- プレゼンテーション、送別会

【帰国後、学内で】

- 成果発表会準備
- 成果発表会

【自学自習のためのアドバイス】

- (2) 基礎的情報の学習。（2時間）
- (3) 自分の担当部分に関する調査（2時間）
- (4) 基礎的情報の復習と自分の担当部分に関する発表準備（3時間）
- (5) 発表練習と質問対応等（2時間）
- (6) 自分の担当部分に関する調査と発表準備（3時間）
- (7) まとめと海外渡航に関する調査等（2時間）

※渡航日は調整中です。

現地での授業や課外研修は、中・日・英の3か国語を使用。

嘉義大学生がバディとして接してくれます。

教科書・参考書等

教材は必要に応じて授業中配布

オフィスアワー ロン： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

高水： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

●海外体験型異文化コミュニケーションⅠの受講中に、実際に台湾での研修に参加するかどうかを決定することが可能です。参加を決定した場合は、海外体験型異文化コミュニケーションⅡ（高度教養科目）の履修登録が必要です。

●受講人数はおよそ20名までを想定。

●海外研修費（為替レートや航空運賃にもよるが、約25万円を想定）は自己負担。

●台湾への渡航前、本学で開催する危機管理セミナーに出席すること。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">●台湾への渡航は担当教員が全行程を同行。●現地での宿泊：大学の施設●嘉義大学研修の前後：台北での研修・見学あり。 |
| |

ナンバリングコード B2THM-caeG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000134) サーバント・リーダー養成入門 I Introduction to Servant Leader Training I サーバント・リーダー養成入門 I Introduction to Servant Leader Training I 「地球未来創成入門」 Introduction to the Advanced Future Study	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cae	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 早川 茂	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
【キーワード】地域未来創成 本授業は、持続性のある地球未来実現のため、ローカルかつグローバルに活躍できるサーバント・リーダー養成を目的とした日本・インドネシア6大学(SUIJI)農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、又は参加に興味ある学生を対象とする。 「地域未来創成入門」においては、一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につけるための学習を行う。			
授業の目的			
グローバルな視野を持ちながら、未来社会の持続的発展に貢献できるサーバント・リーダー(地域社会で献身的に活動するリーダー)としての素養を身につける。			
到達目標			
「地域未来創成入門」 ・自ら目指すサーバント・リーダーのあり方について説明することができる(意欲・関心・態度) ・持続可能な地域と世界の現状について、自然・社会文化・経済の視点から説明できる(知識・思考) ・一次産業を中心とした持続可能な未来社会像について説明できる(思考・判断) ・地域において学習・調査活動に持続的に関わることのできる対話方法と危機管理方法について説明できる(技能・表現)(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
・サーバント・リーダーに要請される能力開発に対する到達目標を自ら設定し自己評価資料を作成する(30%) ・教員によるポートフォリオ総合評価(70%):授業進行に合わせて提出する成果物をもとに評価する到達目標にある4項目の説明できる力を評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
「地域未来創成入門」			
第1回(対面講義) (1)サーバント・リーダー養成カリキュラムの概要 (2)持続可能な地域と世界の現状 (3)グループ討議			
第2回(対面講義)かがわの食資源-野菜・果物			
第3回(対面講義)かがわの食資源-オリーブ・希少糖			
第4回(対面講義)世界(ASEAN諸国)の食資源+ゲストスピーカー講演1			
第5回(対面講義)フードバリューチェーン+ゲストスピーカー講演2			
第6回 企業・官公庁・個人インタビュー			

第7回（対面講義）食資源による地域活性化
第8回 インタビューに基づくグループ発表・討論会

この科目は原則として対面授業を行います。
毎回の授業後、各自による授業の振り返り等に関するポートフォリオを作成する時間外学習を行う

教科書・参考書等

関連プリント配布

オフィスアワー SUIJI推進室（農学部 DS301、BW306） 月曜日、水曜日 10:00～15:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業は、SUIJIサーバント・リーダー養成プロジェクトで展開する農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、及び参加に興味がある学生を対象とする。

保険については、学研災及び学研賠に加入すること。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000135) 差別とマイノリティ Discrimination and Minority 差別とマイノリティ Discrimination and Minority	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題		
	履修推奨科目 マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要			
【キーワード】日常の差別 デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、デザイン思考のプロセスの中で重要な位置を占める「共感」に焦点をあてます。具体的には、「日常の中に潜む差別」に着目し、共感という技法を用いてマイノリティの人々が抱える問題を明らかにします。			
授業の目的			
マイノリティの人々に対する差別の問題は、自分自身と関係のないものだと考えられているかもしれません。この授業では、自分の中にある決めつけや思い込みから距離をとる態度を身につけることによって、マイノリティの人々が抱えている問題を自分自身と関連づけて考察することを目的とします。このことは、デザイン思考との関係でいうと、共感の技法を身につけることと同様です。			
到達目標			
1. 普段意識しないような日常生活の中にある差別を発見し、説明することができる。 2. 自分自身と関連づけて日常生活の中にある差別の問題点を論じることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 本授業のアプローチを、デザイン思考の共感の技法に関連づけることができる。			
成績評価の方法と基準			
予習シート60%(到達目標の1と2に対応)、レポート40%(到達目標の2と3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス:デザイン思考と差別問題 第2回 差別という行為 第3回 差別を考える2つの視点 第4回 他者理解とカテゴリー化 第5回 人間と序列 第6回 多様な性 第7回 障害から日常を捉え直す 第8回 振り返りとまとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は、講義とグループワークによって構成されています。各回の授業は、主に次のような方法で行われます。講義は、第1回と第8回です。グループワークは、第2回～第7回です。第2回～第7回の授業では、LTD話し合い学習法(Learning Through Discussion)という小グループによる話し合いを中心に学習を進める技法を用います。LTD話し合い学習法の具体的な方法については、第1回のガイダンスで説明します。 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第2回～第7回:教科書の指定箇所を事前に読み、予習シートにまとめてきてください。教科書の指定箇所や			

予習の仕方については、第1回のガイダンスで説明します。また、授業でのグループワークの復習（事後学習）を行ってください。この復習が、次回の準備学習やレポート作成に関連します。（各回4時間）
第7、8回：レポートを作成してください。レポートの具体的な内容は、授業で説明します。（各回3時間）

教科書・参考書等

教科書：好井裕明（2020）『他者を感じる社会学：差別から考える』ちくまプリマー新書363．968円（税込）

参考書：西原和久・杉本学編（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門：差別をこえるために』有斐閣．2,420円（税込）他にも授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書の購入は必須です。第1回授業の授業外学修から教科書が必要になります。

授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000136) マイノリティのライフストーリー The Life Histories of Minorities マイノリティのライフストーリー The Life Histories of Minorities	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q火1	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: CXX	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題		
	履修推奨科目 差別とマイノリティ、社会デザインとマイノリティ問題		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要			
【キーワード】マイノリティのカテゴリー化 デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業では、デザイン思考のプロセスのうち「共感」と「問題定義」に焦点をあて、私たちが抱える重要な問題である差別問題について考えます。具体的には、マイノリティのカテゴリー化に関する問題について考えます。マイノリティの人々に対する一面的な見方や意味づけに陥らないための共感の技法として、ライフストーリーを取り上げます。そして、マイノリティの人々のライフストーリーを分析し、マイノリティの人々が抱える具体的な課題を発見するグループ発表を行います。			
授業の目的			
マイノリティの人々は多様な人生を歩んでいますが、一面的な見方や意味づけをされていることが少なくありません。この授業では、マイノリティの人々の多様な人生を知り、マイノリティの人々が抱えている問題を自分自身に関連づけて理解し、そしてマイノリティ問題の具体的な課題を発見することができるようになることが目的です。このように人やモノ等に対する見方や考え方を再構築し、適切な課題を発見することは、デザイン思考の「共感」から「問題定義」にいたるプロセスにあたります。			
到達目標			
1. ライフストーリーについて説明することができる。 2. マイノリティのライフストーリーを分析し、マイノリティの人々が抱えている具体的な課題を発見することができる (共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. マイノリティ問題の具体的な課題について、自分自身と関連づけることができる (共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 1～3 を、デザイン思考の共感から問題定義にいたるプロセスと関連づけることができる。			
成績評価の方法と基準			
コメントシート 10% (到達目標1に対応) 、グループ発表 30% (到達目標2と4に対応) 、レポート 60% (到達目標の3と4に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: デザイン思考とマイノリティ問題 第2回 差別とライフストーリー 第3回 様々なライフストーリーにふれる 第4回 グループ発表するマイノリティの歴史を知る 第5回 グループ発表するマイノリティのライフストーリーを分析する 第6回 グループ発表の準備 第7回 グループ発表 第8回 振り返りとまとめ			
【授業及び学習の方法】 第1と第2回と第8回は、主に講義です。第3回と第4回は、ジグソー学習法というメンバーごとに担当を決めて教え合う技法を用いて授業をします。ジグソー学習法の具体的な方法については、第2回の授業で説明しま			

す。第5回と第6回は、グループ発表の準備のためのグループワークが中心です。第7回は、グループ発表です。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1回 この授業に関するアンケートに回答してください。（1時間）

第2回 差別やライフヒストリーに関する授業内容を復習してください。（3時間）

第3回 グループ発表で取り組むマイノリティに関する歴史を調べてレポートにまとめてください。（5時間）

第4回 グループ発表で取り組むマイノリティのライフヒストリーを調べてレポートにまとめてください。（5時間）

第5回と第6回 グループ発表のための準備をしてください。不足している内容を調べて、グループ発表にいかしてください。（各回5時間）

第7回と第8回 グループ発表したマイノリティの人々が抱えている具体的な課題に、自分自身がどのように関与することができるかを論述するレポートを作成してください。（各回3時間）

教科書・参考書等

参考書：西原和久・杉本学編（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門：差別をこえるために』有斐閣、2,420円（税込）他にも授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Lp1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q火1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000137)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
社会デザインとマイノリティ問題 Social Design and the Problems of Minorities	授業形態 講義 PBL	単位数 1	
社会デザインとマイノリティ問題 Social Design and the Problems of Minorities			
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題		
	履修推奨科目 差別とマイノリティ、マイノリティのライフヒストリー		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要			
【キーワード】 共生社会のデザイン デザイン思考とは、デザイナーの営みをモデルにした課題を発見・解決するための技法です。この授業ではデザイン思考のうち「プロトタイプ」と「テスト」に焦点をあて、マイノリティの人々が生きやすい社会をデザインします。そのために、共生社会の理論や具体例を取り上げ、グループでマイノリティの視点から共生社会をデザインします。			
授業の目的			
現代社会では、マイノリティの人々にとって生きやすい社会とはいえない側面が多くあります。この授業では、共生社会について理解したうえで、マイノリティの人々の視点に立ち、マイノリティの人々が生きやすい社会のためのアイデアを出し、共感という技法にもとづいて社会をデザインできるようになることが目的です。このことは、デザイン思考における「プロトタイプ」及び「テスト」のプロセスを身につけることと同様です。			
到達目標			
1. 共生社会について説明することができる。 2. 自分自身と関連づけながら、マイノリティの視点から社会をデザインすることができる (共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 2 を、デザイン思考における「プロトタイプ」及び「テスト」のプロセスとの関連で理解できる。			
成績評価の方法と基準			
コメントシート10% (到達目標1に対応) 、グループ発表30% (到達目標2と3に対応) 、レポート60% (到達目標の1と2と3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス: デザイン思考と社会デザイン 第2回 差別について 第3回 ライフヒストリーについて 第4回 共生社会について 第5回 共生社会の事例について 第6回 グループ発表の準備 第7回 グループ発表 第8回 振り返りとまとめ			
【授業及び学習の方法】 第1回、第2回、第8回は、主に講義です。第3回～第5回は、講義とグループワークです。第6回は、グループ発表の準備のためのグループワークです。第7回は、グループ発表です。この授業では、少人数グループによる課題解決型学習＝PBL (Problem Based Learning) の技法を用います。PBLについては、第1回の授業で説明します。 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります			

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1回 この授業に関するアンケートに回答してください。（1時間）

第2回 差別に関する授業内容を復習してください。（2時間）

第3回 グループ発表で取り組むマイノリティに関する歴史と課題を調べてレポートにまとめてください。（6時間）

第4回 グループ発表で取り組むマイノリティの課題を解決するためのヒントになる事例を調べてレポートにまとめてください。（7時間）

第5回と第6回 グループ発表のための準備をしてください。不足している内容を調べて、グループ発表にいかしてください。（各回4時間）

第7回と第8回 グループ発表したマイノリティの人々が抱えている具体的な課題とその解決策に、自分自身がどのように関与することができるかを論述するレポートを作成してください。（各回3時間）

教科書・参考書等

参考書：西原和久・杉本学編（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門：差別をこえるために』有斐閣、2,420円（税込）他にも授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 水曜日12時～14時・幸町北キャンパス5号館5階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業はグループワークが中心なので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-caxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000138) はじめて学ぶDRI イ Introduction to DRI はじめて学ぶDRI イ Introduction to DRI	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代	関連授業科目 DRIイノベーター養成プログラム対象科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティクス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、グループで話し合い、発表します。DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
授業の目的			
DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。			
到達目標			
1. DRI とは何か説明できる。 2. DRI を地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
レポート60%(到達目標1、2、3に対応)、予習シート15%(特に到達目標1、3に対応)、グループ発表25%(到達目標2、3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション (小坂有資・西本佳代) 第2回 地域の課題を考える (小坂有資・西本佳代) 第3回 デザイン思考を活用した地域活性化 (石塚昭彦・小坂有資・西本佳代) 第4回 リスクマネジメントを活用した地域活性化 (井面仁志・小坂有資・西本佳代) 第5回 インフォマティクスを活用した地域活性化 (林敏浩・小坂有資・西本佳代) 第6回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか? グループ発表準備 (小坂有資・西本佳代) 第7回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか? グループ発表 (小坂有資・西本佳代) 第8回 まとめ (小坂有資・西本佳代)			
【授業方法】 第1回と第2回は、講義とグループワークを行います。 第3～5回は、映像資料等を用いた反転授業を行います。事前学習として、(1)D・R・Iに関する映像資料等を視聴し、(2)(1)で得た知識を活用してグループで扱う地域課題を考察する予習シートを提出してもらいます。授業内では、予習シートをもとに、グループで議論をし、発表してもらいます。 これらの授業で得た知識等をもとにして、第6回のグループワークと第7回の発表を行います。 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する			

可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回 グループで取り組む地域課題で、(1)自分自身と関連のある具体的な地域課題の現状を調べて、(2)その地域課題の解決策に関するレポートを作成する。(3時間)

第2回 グループワークで作成した地域課題の解決策を、自分の言葉でまとめるレポートを作成する。(2時間)

第3～5回 (1)D・R・Iに関する映像資料等を視聴し、(2)(1)で得た知識を活用してグループの地域課題を考察する予習シートを提出する。(各回4時間)

第6回 第7回の発表のための準備をする。(5時間)

第7～8回 (1)DRIを学んだ前後で地域課題の解決策がどのように変わったか、(2)本授業でどのような学びがあったかをレポートにまとめる。(各回4時間)

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの小坂にご連絡をください。小坂が、他の先生方にお伝えします。

ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。そのため、DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。

・本授業を履修した学生は、DRIイノベーター養成プログラムに参加登録をしてください。

・15分以上の遅刻は欠席として扱います。

ナンバリングコード B2THM-caxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000139) はじめて学ぶDRI ロ Introduction to DRI はじめて学ぶDRI ロ Introduction to DRI	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 小坂 有資, 西本 佳代	関連授業科目 DRIイノベーター養成プログラム対象科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考 (D)」、「リスクマネジメント (R)」、「インフォマティクス (I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
授業の目的			
DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。			
到達目標			
1. DRI とは何か説明できる。 2. DRI を地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
レポート100%。内訳は、第1回～第6回、第8回、最終のレポートの各10%、第7回のレポートは20%である。第1回～第3回のレポートは到達目標3に対応し、第4回～第8回と最終レポートは到達目標1、2、3に対応している。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第2回 地方創生とは何か (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第3回 地域社会とは何か (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第4回 デザイン思考を活用した地域活性化 (石塚昭彦) (遠隔・オンデマンド) 第5回 リスクマネジメントを活用した地域活性化 (井面仁志) (遠隔・オンデマンド) 第6回 インフォマティクスを活用した地域活性化 (林敏浩) (遠隔・オンデマンド) 第7回 DRIを活用した地域活性化 (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第8回 まとめ (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド)			
【授業及び学習の方法】 授業は、すべてオンデマンド型授業です。授業のコンテンツは、Moodleの「はじめて学ぶDRI ロ」のコースに掲載されます。1週間につき授業1回というペースで進めていき、毎週火曜日に新たな授業のコンテンツが視聴可能になります。 この科目は全回遠隔授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回 授業に関わるアンケートに回答する。教科書の序章を要約し (200字程度)、第1章～第4章を各章ご			

とに要約する（各章400字程度で計1600字程度）。（5時間）

第2回 各自で取り組む「地域社会の課題」を決定し、その背景を調べてレポートにまとめる（2400字程度）。（3時間）

第3回 教科書の第5章と第6章で取り上げられている事例や対話篇1～3も参考にしながら、各自で取り組んでいる「地域社会の課題解決策1」を考え、レポートにまとめる（2400字程度）。（4時間）

第4回 （1）デザイン思考のポイントをまとめ（400字程度）、（2）各自で取り組んでいる「地域社会の課題」に対して、デザイン思考をどのように活用することができるかをレポートにまとめる（1200字程度）。（4時間）

第5回 （1）リスクマネジメントのポイントをまとめ（400字程度）、（2）各自で取り組んでいる「地域社会の課題」に対して、リスクマネジメントをどのように活用することができるかをレポートにまとめる（1200字程度）。（4時間）

第6回 （1）リスクマネジメントのポイントをまとめ（400字程度）、（2）各自で取り組んでいる「地域社会の課題」に対して、リスクマネジメントをどのように活用することができるかをレポートにまとめる（1200字程度）。（4時間）

第7回 DRIを活用し、「地域社会の課題解決策2」を考えレポートにまとめる（2400字程度）。（4時間）

第8回 （1）「地域社会の課題解決策1」と「地域社会の課題解決策2」を比較して変更した部分と変更しなかった部分を示しその理由を論述し、レポートにまとめる（1200字程度）。（3時間）

最終レポート DRIを地域活性化に活用するメリットについてレポートにまとめる（2400字程度）。（3時間）

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書：増田寛也（2014）『地方消滅：東京一極集中が招く人口急減』中公新書．902円（税込み）．

参考書等：授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの小坂にご連絡ください。小坂が、他の先生方にお伝えします。

ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。そのため、DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。
- ・本授業を履修した学生は、DRIイノベーター養成プログラムに参加登録をしてください。
- ・教科書の購入は必須です。
- ・やむを得ない場合を除いて、レポート等の課題の締切後の提出は認めません。

ナンバリングコード B2THM-cexG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000140) 知プラe科目 日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920 ―四国の収容所を中心に― (Focusing on Camps in Shikoku) German Prisoners of the War in Japan 1914-1920 (Focusing on Camps in Shikoku) 日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920-四国の収容所を中心に-/German Prisoners of War in Japan 1914-1920 (Focusing on Camps in Shikoku)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 井戸 慶治	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 捕虜、第一次世界大戦、青島 (チンタオ)、ドイツ 第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所-特に四国の収容所-における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテクストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生や関係者にも講義やインタビューによるお話をさせていただいたり、関連の場所を訪れたりする。			
授業の目的 第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする。			
到達目標 1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。 2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を、より広い共時的、通時的なコンテクストの中で位置づける。 3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準 小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配点で評価する。合格点に達しない場合、レポートの書き直しを指示する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1. 導入。板東を訪れる 2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで 3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略 4. 九州の収容所 (久留米、福岡、熊本、大分) 5. 中国・近畿の収容所 (姫路、青野原、似島、大阪) 6. 関東・東海の収容所 (名古屋、静岡、東京、習志野) 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン? 8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会			

9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツァイガー』
10. 板東収容所（1）。収容所新聞『ディ・バラッケ』。活発な音楽活動
11. 板東収容所（2）。美術工芸展覧会。スポーツと遠足
12. 日本に関わった元捕虜。ボーネルとマイスナー
13. 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活
14. 捕虜待遇の歴史（世界と日本）
15. 捕虜待遇の歴史（捕虜と「武士道」）
16. 定期試験（レポート）

【授業時間外学習について】

各授業のビデオを見て、1) 内容の自分なりのまとめ、2) 感想ないし考察、3) 質問、をA4一枚程度で書いてシステムで送付すること。質問については、特になければ書かなくてもよい。以上毎回の授業に関する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマを選んで、2000字以上で最終レポートを提出してもらう。執筆時の留意点については、「担当教員からのメッセージ」の欄を参照のこと。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書1 書名 『青島から来た兵士たち-第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』

I S B N 4-8102-0450-2 著者名 瀬戸武彦

出版社 同学社 出版年 2006年

参考書1 書名 『どこにしようと、そこがドイツだ』

著者名 田村一郎（編著）

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2006年(第3版)

参考書2 書名 『ディ・バラッケ』（1-4巻）

著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 1998年-2007年

参考書3 書名 CD「トクシマ・アンツァイガー -徳島俘虜収容所新聞-

著者名 ドイツ館史料研究会訳・編集

出版社 鳴門市ドイツ館 出版年 2012年

参考書4 書名 板東俘虜収容所

著者名 富田弘

出版社 法政大学出版局 出版年 1991年、（新装版）2006年

参考書5 書名 松山のドイツ兵捕虜と収容所新聞「ラーガーフォイアー」

I S B N 978-4-86087-149-9 著者名 鳴門市ドイツ館史料研究会

出版社 愛媛新聞社 出版年 2019年

金額 2,800円

オフィスアワー 徳島大学総合科学部1号館北棟1階 e-mail: ido.keiji@tokushima-u.ac.jp

メールでの連絡は、moodle内部からも教員名をクリックしてできる。また、面談を希望する場合は、事前にメールにてアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-learningの利点を生かし、フィールドでのビデオや写真などの画像を多く取り入れた。また、双方向性の確保のため、質問への回答やレポートへのコメントなども適宜おこなう。

レポート執筆のさいには次の点に留意すること。1) 参考文献その他の資料からの引用や要約については出典や引用箇所を明示し、文献などの意見や情報を自分の意見やみずから調べた情報のように書かないこと。コピーやそれに類する行為が判明した場合は厳しく対処する。2) 得た知識の羅列にとどまらず自分の意見も述べる必要があるが、そのさい根拠や具体例を挙げて客観的な説得力を持たせるように努めること。情緒的でなく論理的な文章をめざすこと。3) 特に最終レポートについては、できれば二つ以上の文献や資料を参照すること。また、広いテーマを選んでしまうと、概論的なものになって執筆者の独自性が感じられないものになりがちであるから、限定されたテーマを扱う方がよい。

ナンバリングコード B2THM-cexG-10-Le2		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000141)		水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cex	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 モラエスの徳島-グローバリズムと異邦人- Moraes's Tokushima(Globalism and People from Abroad) モラエスの徳島～グローバリズムと異邦人～/Moraes's Tokushima (Globalism and People from Abroad)		授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 金西 計英		関連授業科目 特になし		
		履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回＋自学自習				
授業の概要				
【キーワード】モラエス, 徳島, グローバリズム, 異文化理解, 異邦人				
ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め, ゆかりの場所を紹介しながら, 理解を深め, 同時に異文化理解というものを考える。				
授業の目的				
グローバルという言葉が声高に叫ばれているが, その根底には越境ということがある。政治, 経済, 科学技術, 医療, 環境, 文化, 芸術など, ありとあらゆるものが国境を超え全地球に及んで, 複雑な問題を生み出している。複雑に絡み合った問題を解く手がかりは, ひとつの価値観に囚われることなく複数の視点で眺めてみることであろう。人や物, 芸術, 文化の往来と影響関係には長い歴史があるが, それも越境故に豊かなものになっている。その往来のひとつの例として, 徳島のモラエスを取り上げてみたい。モラエスは, 何回か日本にやってきた後に, 1899年から日本で暮らし, その後1913年から16年の間庶民の中で暮らした。元ポルトガル海軍の軍人で後に在神戸ポルトガル領事となった人物だが, 軍人, 文人, 外交官として, その当時の日本を, 徳島を眺めて作品を書き残している。そこには現代のわれわれに対して示唆するものが多く含まれている。この授業を通して, グローバリズムと異邦人ということを考えながら, 異文化の理解ということを考えてみたい。				
到達目標				
徳島に16年在住して亡くなったモラエスを取り上げ, 異文化理解というものがどういうものか, 現代のグローバリズムの中で考えてみることを目標とする。				
(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応)				
成績評価の方法と基準				
毎回の簡単な感想と定期試験 (レポート) の評価を総合判断して成績の評価をする。本授業はe-learning形態なので, 毎回簡単な感想を提出してもらい, また, LMS上のアクセス履歴は, 出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として扱う。さらに, 毎週定期的に教材にアクセスしないで, 定期試験の直前にまとめて視聴するといったことが認められた場合, 成績評価に反映する。				
成績評価の基準				
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
1. ガイダンス 2. 異邦人ということ 3. モラエスの生涯 4. モラエスの時代と同時代人-ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) 5. モラエスの時代と同時代人-ジョーゼフ・コンラッド 6. モラエス顕彰の概観-戦前と戦後 7. モラエスの著作 8. 徳島のモラエス 9. モラエスの徳島 10. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1				

11. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2
12. 『おヨネとコハル』1
13. 『おヨネとコハル』2
14. 『日本精神』と異邦人のまなざし1
15. 『日本精神』と異邦人のまなざし2
16. 定期試験（レポート）

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書1 書名 徳島の盆踊り

著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 ことのは文庫 出版年 2010年

※著者（著作権者）から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません

教科書2 書名 日本精神

I S B N 4-88202-379-2 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 1996年

参考書1 書名 おヨネとコハル

I S B N 4-88202-915-4 著者名 モラエス著, 岡村多希子訳

出版社 彩流社 出版年 2004年

参考書2 書名 モラエスの旅-ポルトガル文人外交官の生涯

I S B N 4-88202-558-2 著者名 岡村多希子

出版社 彩流社 出版年 2000年

オフィスアワー marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jpまで電子メールで問い合わせてください。※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

モラエスが生きた時代と現代を比べながら、機会があればモラエスゆかりの場所を訪れて下さい。
同時に、自分たちのふるさとに、自分たちの周りにモラエスのような人がいないか考えてみて下さい。

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000142)	主題科目	後期集中	
知プラe科目 ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり Involvement of people and metal production in Eurasia	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり／Involvement of people and metal production in Eurasia	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 村上 恭通	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】銅、鉄、起源、ユーラシア大陸、考古学			
今から約10000年前、西アジアにおいて自然銅が利用されるようになり、人は金属の価値に触れることとなりました。その後、鉱石を製錬して銅を得るまでに数千年、さらに鉄を製錬するまでに数千年と、長い時間をかけて古代人は金属を生活の中に取り入れるようになりました。その過程で金属の技術、価値は大きく変わってきます。また西アジアからユーラシア草原地帯を経由して北アジアやわれわれが生活する東アジアに金属が到達するまで、その技術や価値はまた大きく変わりました。金属の技術や利用法は地域の文化や環境に応じて多様に展開したのです。発掘によって地中から現れたものを対象としながら、金属の技術や利用のあり方を通じて、ユーラシア大陸のダイナミックな歴史をみなさんと味わうことができると思います。			
授業の目的			
考古学的な資料をもとに金属の技術や価値の移り変わりを理解する。			
到達目標			
金属が古代社会の発展に与えた影響や金属の価値が地域によって多様であったことを説明できる。 多角的な視点を培うのに必要な幅広い基礎知識を身につけることができる。			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
①人間と金属の出会い ②鉱石製錬のはじまり ③鉄の起源 ④鉄製品の普及 ⑤東アジアにおける金属文化の幕開け-中国を中心に- ⑥中国の青銅器文化と鉄器文化 ⑦青銅と鉄-朝鮮半島から日本へ ⑧技術復元から金属生産を考える			
【授業時間外学習について】			
アジア古代産業考古学研究センターのホームページ (http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/) や愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。			
【バリアフリー対応について】			
動画に字幕あり。動画の音声を文字おこしたテキスト資料 (PDF) あり。			

【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/
教科書・参考書等 特になし
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000143) 知プラe科目 絵本の研究 Study of Picture Book 絵本の研究／Study of Picture Book	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 余郷 裕次	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】絵本、フロンタリティ、画面構成、色彩、モンタージュ			
まず、主に絵本の絵について、我々が普段あまり意識しない部分、1. フロンタリティ (まるい大きな正面顔) 2. 画面構成 3. 色彩 4. 絵本モンタージュについて分析する。 次に、絵本の読み聞かせにおける1. 右脳・左脳の関わり 2. 育児語motheries 3. スキンシップ 4. 視覚的 共同注視について分析する。			
授業の目的			
絵本のメカニズムを理解するとともに、絵本の読み聞かせの効果について理解する。			
到達目標			
1. 絵本のメカニズムを理解する。 2. 絵本の読み聞かせの効果について理解する。 3. 絵本の読み聞かせと実践への意欲を醸成する。			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」 に対応)			
成績評価の方法と基準			
中間レポート (40%) と総括レポート (60%) によって評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
※1回の授業の流れ1. 絵本の読み聞かせ 2. 絵本の分析① 3. 黙読の時間 (15分間) 4. 絵本の分析② 5. 絵本の読み聞かせ 1回目: フロンタリティ (まるい大きな正面顔) ①／絵本『はじめまして』 (ずずき出版) 2回目: フロンタリティ (まるい大きな正面顔) ②／絵本『はらぺこあおむし』 (偕成社) 3回目: 画面構成①／絵本『にゃーご』 (ずずき出版) 4回目: 画面構成②／絵本『りんごがたべたいねずみくん』 (ポプラ社) 5回目: 色彩①／絵本『だるまちゃんとてんぐちゃん』 (福音館書店) 6回目: 色彩②／絵本『ぐりとぐら』 (福音館書店) 7回目: 色彩③／絵本『チリンのすず』 (フレーベル館) 8回目: 色彩④／絵本『やさしいライオン』 (フレーベル館) 9回目: 絵本モンタージュ①／絵本『でんしゃにのって』 (アリス館) 10回目: 絵本モンタージュ②／絵本『かいじゅうたちのいるところ』 (富士房) 11回目: 絵本モンタージュ③／絵本『1 1 ぴきのねことあほうどり』 (こぐま社) 12回目: 右脳・左脳の関わり／絵本『バムとケロのにちようび』 (文溪堂) 13回目: 育児語motheries／『いつきよくいきまあす』 (PHP出版) 14回目: スキンシップ／絵本「ともだちやシリーズ」 (偕成社) 15回目: 視覚的共同注視／絵本「バムケロシリーズ」 (文溪堂)			
【授業時間外学習について】			
・「授業スケジュール」に示されている絵本を準備すると講義がよく分かる。			

- ・テキスト『絵本のひみつ―絵本の知と読み聞かせの心―』を使って復習する。
- ・1日1回鏡に向かって自分自身に絵本の読み聞かせを実践する。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書1 書名 絵本のひみつ―絵本の知と読み聞かせの心―

I S B N 978-4-88606-127-0 著者名 余郷裕次

出版社 徳島新聞社 他 出版年 2010

金額 1,100

参考書1 書名 絵本のひみつⅡ-愛を届ける仕掛けとしての絵本-

I S B N 978-4-88606-159-1 著者名 余郷裕次

出版社 徳島新聞社 他 出版年 2020

金額 1,100

参考書2 書名 絵本づくりトレーニング

I S B N 978-4-480-87120-9 著者名 長谷川集平

出版社 筑摩書房 出版年 1988

金額 1,870

参考書3 書名 赤ちゃんは顔をよむ

I S B N 978-4-04405-216-4 著者名 山口真美

出版社 角川ソフィア文庫 出版年 2013

金額 649

オフィスアワー gsxr1100@naruto-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業時間の中間に「黙読の時間」が設定されています。読む本は自由です。しかし、その時間中はその1冊のみを読みます。
- ・「絵本の研究」の受講をきっかけとして、絵本も自身の読書生活に取り入れてください。

教員の実務経験との関連

国語科講師として、国公立・私立の中学校・高等学校の教壇に立った経験や、国や地方公共団体等の教員研修に携わったことのある教員が、豊かな読書人となるための思考力や実践力を身につけるための授業を行う。

ナンバリングコード B2THM-cbeG-10-Le2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000144)	主題科目	前期集中	
知プラe科目 マンガと社会 Manga and Society	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
マンガと社会 (マンガを活用した地域の振興と発展) / Manga and Society	分野 主題	DPコード: cbe	特定プログラムとの対応
(Promotion and Development of the Region using Manga)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	対応なし
担当教員名	関連授業科目 特になし		
岩崎 保道	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】マンガ (漫画、まんが) 、コミック、文化政策、地域振興			
近年、マンガは文化や産業の振興に一定の役割を果たすなど、社会的に影響を持つようになり、海外にもマンガ文化が発信され注目されています。このような背景の下、マンガに関わる政策的な取り組みや、マンガを地域の活性化に活用するなど、多種多様な活動が盛んに行われています。			
一方、マンガに関わる教育研究が深化しており、学術研究の分野を築いています。当授業は、このような身近な存在であるマンガの歴史的な発展をはじめ、文化・産業面での動向や地域振興への活用状況などを解説します。また、高知県が多くのマンガ家を輩出してきたことや、マンガに関わる取り組みの先進県であることを踏まえ、四国4県のマンガ事情を紹介します。			
以上の趣旨により、具体的なテーマとして「マンガの歴史」「マンガを活用した地域振興」「マンガに関わる学術研究」「マンガ産業の動向」「高知県、愛媛県、香川県、徳島県に関わるマンガ家」などを取り上げます。			
授業の目的			
(1) マンガの歴史的発展や社会的役割を理解する			
(2) マンガを活用した地域振興の状況を理解する			
(3) マンガの学術的成果を把握する			
(4) 高知県、愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情を把握する			
到達目標			
(1) マンガの歴史的発展や社会的役割が理解できるようになる			
(2) マンガを活用した地域振興の状況が理解できるようになる			
(3) 高知県、愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情が説明できるようになる			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸問題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
評価基準: 下記の平常点及びレポート試験が達成目標に達しているか総合的に判断します。			
評価方法: 授業に対する積極性や小レポート (50点)、レポート試験 (50点) とします。定期試験に代えてレポート試験を課します。単位取得条件として、合計60点以上を取得する必要があります。なお、モジュール内の学修が出席に相当します。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。			
秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。			
優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。			
良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。			
可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。			
不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。			
合格又は了 到達目標を達成している。			
不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス (本講義の概要説明)			
第2回 マンガの歴史 (1) (江戸時代から大正時代までのマンガに関わる歴史)			
第3回 マンガの歴史 (2) (昭和時代以降のマンガに関わる動向について)			
第4回 文化政策とマンガ (国や地方都市におけるマンガに関わる文化政策)			
第5回 マンガ・アニメを活用した地域振興 (1) イベント (マンガ・アニメに関わるイベントやその効果について)			
第6回 マンガ・アニメを活用した地域振興 (2) コンテンツツーリズム (コンテンツツーリズムの動向や実例の紹介)			
第7回 マンガに関わる施設 (マンガに関わる施設の目的や機能について)			

第8回 マンガを活用した地域振興に関するレポート（受講生がマンガに関わる地域振興等の状況を調査して報告する）
第9回 マンガの研究（マンガに関わる研究機関や研究成果）
第10回 マンガを教育する大学（マンガに関わる大学教育の紹介）
第11回 マンガ産業の動向（コミック等の売り上げの推移や、業界の課題など）
第12回 高知県のマンガ事情（高知県出身のマンガ家や作品について）
第13回 愛媛県、香川県、徳島県のマンガ事情（各県出身のマンガ家や作品について）
第14回 マンガとチカラと未来（マンガの利活用とコミック工学）
第15回 受講生の発表（マンガと社会に関するもの）

【授業時間外学習について】

受講生に対しては、関連資料の収集及びその予備学習を望みます。また、毎回の授業内容を復習し、理解を深めておく必要があります。具体的には、各回の授業テーマに則した状況調査や分析など、週に4時間程度の考察が求められます。また、関心を持った事項を自主的に調べるなど積極的な学習態度で学んでください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

【教科書1】

書名 『マンガと社会』
I S B N 4910284168 著者名 岩崎保道編
出版社 高知新聞総合印刷 出版年 2022年
金額 2,200円

オフィスアワー 電子メール（yiwasaki@kochi-u.ac.jp）にて連絡すること

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【コメント】

マンガが社会に浸透していることを背景として、マンガの社会的な役割が見直されています。例えば、文化や地域の振興に役立てられ公益的な側面でも取り入れられるようになりました。また、マンガが文化政策のなかに取り入れられていたり、イベントなどの地域振興にマンガが活用されています。マンガは私たちに楽しみや喜び、時には学びや癒しをもたらしてくれる存在であり、日常に溶け込んでいるものと言えるでしょう。

マンガが果たす役割などを様々な観点で学ぶことは、マンガの存在意義や在り方を確認することを通じて、豊かな社会環境づくりに寄与する考察になると考えます。このように、マンガは多様な側面を持っていますが、ご存じない事柄があるかもしれません。その意味において、この授業を通じて、マンガに関わる新たな知見や学びを得ることができると思います。

マンガの社会的な在り方に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。以上のことから、マンガに関わる基礎的な知識や近年の動向について、事前学習を踏まえ自分の考えを整理しておくことを望みます。私たちの日常の中で、マンガが社会にどのように関わり、影響しているのか授業を通じて多く学んでいただきたいです。この分野に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。なお、当授業は専門知識を持たない方にも分かりやすく説明します。

【注意点】

授業方法はビデオ（または課題の提示）を主として教科書を使いながら授業を進めていきます。また、当授業では学生の疑問を受け付けて、それに対する回答を行うことにより理解を高めます。各回の授業において求める小レポート等の提出は必須であり、対面式授業の出席に該当します。そのため、（15回の授業のうち）10回以上の提出が確認できない場合、単位取得の条件を満たさないことになるので注意してください。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000201)	主題科目	3Q金2	
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- A Mental health and support A	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- A Mental health and support A	分野 主題	DPコード: cba	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
林 智一, 山田 俊介	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 7回 + 授業45分 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】心の健康と援助 現代社会は、物質的にも経済的にも豊かとなった。しかし、私たちは、健康的で幸せな日々を過ごしているであろうか？忙しい毎日の中で心の豊かさを持ち得ているのであろうか？本授業では、現代社会に生きる私たちの心の健康と援助について、臨床心理学やカウンセリングの視点から捉え直したい。そして、受講者1人ひとりがどう生きてきたのか、どう生きるのかについて、自分の問題として“立ち止まって”考える機会としてもらいたい。			
授業の目的			
現代社会における心の健康や心の豊かさについて、臨床心理学やカウンセリングの視点から学ぶ。			
到達目標			
1. 心の健康や問題に関する基礎的な概念について説明することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2. 現代社会における心の健康や問題について、自己と関連づけて探求することができる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
毎回のミニレポート（20%）、レポート（20%）、試験（60%）。3回の欠席によって不可となります。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 適応と不適応 第2回 健康なパーソナリティ① 第3回 健康なパーソナリティ② 第4回 映画『ビューティフルマインド』一心の病とともに生きる①— 第5回 映画『ビューティフルマインド』一心の病とともに生きる②— 第6回 レポートのピアレビューと発表 第7回 カウンセリングとはなにか 第8回 まとめ+定期試験			
【授業及び学習の方法】			
現代社会と心の問題について、講義中心に進めます。適宜、資料を用います。毎回の授業の最後に、ミニレポートを記録してもらいます。次の授業で、ミニレポートに記された質問などに対応します。 また、適宜、グループワークを導入します。それも、カウンセリングの基礎となるコミュニケーション能力の涵養や自己理解の深化に益する機会となります。			
基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を一部または全てを遠隔へ変更する可能性があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

第1～3回 配布した資料や紹介した文献等を手掛かりに、健康なパーソナリティについて考察すること（準備学習2時間×3回＝6時間、事後学習2時間×3回＝6時間）

第4～6回 映画とそれに関連したミニレクチャーを手掛かりに、心の病について関心を持ち、理解を深めること（準備学習2時間×3回＝6時間、事後学習2時間×3回＝6時間）

第7回 授業内容や紹介した文献等を手掛かりに、カウンセリングの技法と理論について整理すること（準備学習2時間、事後学習2時間）

第8回 配布した資料や紹介した文献、ミニレポートなどを手掛かりに、振り返りや整理をすること（準備学習1時間、事後学習1時間）

教科書・参考書等

資料などを配付します。また適宜、参考書を紹介します。

オフィスアワー 授業終了後に、教室で質問を受けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―（その1）（その2）」及び令和元年開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から― A、B」、令和2年度開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―」と内容が重複するため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

心の問題と深く関わるので、自分の問題として捉える姿勢が望まれます。他の受講者に迷惑にならないように私語を慎み、真摯な態度で臨むこと。

教員の実務経験との関連

公認心理師・臨床心理士資格を有し、心理援助を経験してきた教員が、臨床経験も踏まえながら授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000202)	主題科目	4Q月5	
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- B Mental health and support B	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- B Mental health and support B	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 竹森 元彦, 橋本 忠行	関連授業科目 心の健康と援助 -臨床心理学の観点から- A		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×6回+授業45分×2回+自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】心の健康と援助 この授業では、21世紀社会の諸課題として心の健康と援助を取り上げます。心の健康や援助を中心的に扱う学問の1つに、臨床心理学があります。臨床心理学は、「人間の心理的適応・健康や発達、自己実現を援助するための、心理学的人間理解と心理学的方法を、実践的かつ理論的に探究する心理学の一領域」(野島, 1995)と定義されます。本科目では、その基礎を概説し、現代社会における心の健康や心の豊かさについて、臨床心理学やカウンセリングの視点から学びます。			
授業の目的			
臨床心理学の基礎に触れることを通じて、多様な人間理解の方法を深める。心の健康と援助についての基礎的な考え方を身につける。実習を通して、臨床心理学における倫理の基礎を学ぶ。			
到達目標			
1. 心の健康と援助に関する基礎的な考え方について説明できる(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 心理アセスメントの基礎的な考え方について説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 対人コミュニケーションに必要な倫理観について説明できる(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
テスト45%、レポート45%、授業中の取り組み10%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 こころの理解①: 心理アセスメントとは			
第2週 こころの理解②: 心理アセスメントの実習			
第3週 カウンセリングの基礎知識			
第4週 ロールプレイによるカウンセリングの実習(45分)+第1週～第3週までのまとめテスト(45分)			
第5週 現代社会とカウンセリング			
第6週 映画の臨床心理学①			
第7週 映画の臨床心理学②			
第8週 グループワーク(振り返り)(45分)+第5週～第7週までのまとめテスト(45分間)			
【授業及び学習の方法】			
講義、実習、映画の視聴などを中心に進め、適宜グループワークを取り入れます。基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。資料は適宜、配布します。			
【自学自習に関するアドバイス】			
第1～4週 配布した資料や紹介した文献等を手掛かりに、心理アセスメントとカウンセリングについて考察すること			

第5～8週 配布した資料や紹介した文献、映画等を手掛かりに、カウンセリングとは何か、こころの支援の在り方について関心を持ち、理解を深めること

教科書・参考書等

適宜、紹介します。

オフィスアワー 橋本：火曜日12:00－12:50 医学部キャンパス橋本研究室（講義棟3F）、竹森：火曜日12:00-12:50 医学部キャンパス竹森研究室（講義棟3F）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題等、積極的に取り組んでください。授業回数の3分の2以上の出席がない場合、定期試験等の評価は受けられません。

本授業の内容は、2018年度以前開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―（その1）（その2）」及び2019年開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から― A、B」、2020年度開講の「心の健康と援助―臨床心理学の観点から―」と内容が重複するため、当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

橋本は、医療分野、司法分野、教育分野等での臨床経験を持つ。竹森は、精神科・心療内科クリニックに非常勤勤務している。その臨床経験を参照にそて講義と演習を行う。

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Eg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000203)	主題科目	2Q金1	
「教育」と「情報/ICT」について考えよう Trying to investigate "Education" and "Information/ICT"	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
「教育」と「情報/ICT」について考えよう Trying to investigate "Education" and "Information/ICT"	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
～「伝える・伝え合う」ために大切な要素を捉え、実践しよう～			
担当教員名 松下 幸司	関連授業科目 教育の方法と技術(教職科目)		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・実習90分 × 7.5回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】教育、ICT 【授業の概要】教育現場でのICT環境整備・活用が進められている現在。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え分析的に整理した上で、情報伝達プレゼン作成等を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。(※「教員が教える授業」ではなく、「身近な素材を手掛かりに、受講者相互に気づきや考えを共有し高め合う授業」です。この授業方法の趣旨を十分理解の上、受講してください。(「教えられる」ことを期待する場合は、受講を控えてください。))			
授業の目的			
教育の営みの核は「伝えること」「伝え合うこと」とも言える。ICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考え、グループワーク等で分析的に整理する。成果をふまえ、情報伝達プレゼン作成を通してICT機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」力を磨く。			
到達目標			
(1)ICT 機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、具体物を手がかりに考えることができる。 (2)ICT 機器を用いて情報を「伝える・伝え合う」際に大切な要素を、グループワーク等で分析的に整理することができる。 (3)上記(1)(2)の成果をふまえ、見出した大切な要素を活かして、情報伝達プレゼン作成ならびにプレゼンテーションを行うことができる。 (4)上記(1)～(3)の学習活動過程において適切な自己評価・相互評価を行い、さらに自己を磨き高めようとする姿勢を持つことができる。			
■主題科目に対応する[共通教育スタンダード] : 「問題解決・課題探求能力/21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」 ■上記[共通教育スタンダード]の到達基準 : 21 世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。			
成績評価の方法と基準			
毎時間の個人の成果まとめ(ワークシート)+グループワーク等の成果物、最終成果物(情報伝達プレゼン+レポート)に加え、授業に参加する積極的姿勢を総合して判定する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は、全回、対面にて授業を行います。講義形式だけでなく、演習・実習を軸に授業をすすめます。受講生の授業時間外における主体的な学習を促すための自主課題を求めます(詳細は該当授業時に説明の予定)。 (1前半)オリエンテーション			

(以下、概要予定。受講生とのコミュニケーションをもとに授業をすすめます。
受講生との相談によって、取り扱うテーマや取り扱い方を下記から変更する可能性があります。)

(1後半+2前半) [1]文字や文について考えよう。
(2後半+3前半) [2]図表について考えよう。
(3後半+4前半) [3]イラストについて考えよう。
(4後半+5前半) [4]写真について考えよう。
(5後半+6前半) [5]情報の構成について考えよう。
(6後半+7前半) 最終課題の計画と作成
(7後半+8前半) 最終課題プレゼン発表会
(8後半) まとめ・最終課題について

【自学自習に関して】

自学自習については、授業時間内に取り扱ったテーマに即して、調査活動(各回授業前30分)+資料収集(各回授業前60分)、webサイト上における情報共有・検討活動の後、個別総括演習(90分間)などを予定しています。具体的な内容・方法については、初回オリエンテーションならびに各授業時間において指示します。

教科書・参考書等

必要に応じて、講義中に示します。

オフィスアワー 電子メールでの連絡を基本とします。電子メールアドレスは初回オリエンテーションで周知するほか、moodleに記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業への出席はもちろんのこと、主体的・積極的に「情報を伝える・伝え合うために大切な要素」について分析的に考え、他受講生と協働して問題解決しようとする姿勢と、積極的な授業参加を期待します。

ナンバリングコード B2THM-cdaG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000204)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cda	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
現代社会の問題について道徳的な視点から考える Thinking about problems in modern society from a moral perspective	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
現代社会の問題について道徳的な視点から考える Thinking about problems in modern society from a moral perspective			
担当教員名 植田 和也, 清水 颯人	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+ 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
キーワード 現代の課題 道徳 この授業では、21世紀社会の諸課題として、道徳教育について取り上げます。教育現場では、内容として今後解決していかなければならない教育的課題が多く扱われています。本授業では、道徳教育の観点や具体的な教材から、過去を見つめながら、今生きている私たちの問題について考えます。そして現実の社会と関連付けながら、自分のものの見方や考え方、生き方と向き合い、新しい社会の創造に向けて自分に何ができるのかについて探求してもらいます。			
授業の目的			
21世紀社会の諸課題は、過去と無関係ではありません。そこで、本授業では、道徳教育の観点とこれまでに扱われてきた道徳の教材から、どのように考えてこれからの社会で生きていくべきなのかを道徳的・倫理的な視点から話し合いながら探求します。			
到達目標			
1. 道徳観について、自己と社会と関連づけながら説明することができる（共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応）。 2. 自分の主張をわかりやすく記述することができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 3. 道徳教育に関わる現代的な課題（生命倫理、情報モラル、いじめ問題等）について具体的に述べると共に、その解決に向けた自分なりの考えを述べる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
討議に参加した際のミニレポートやグループワークでの活動・作業40%、 最終のレポート60% 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 道徳とは何か？ 倫理とは何か？現代社会の問題とは？			
第2週 道徳科の教材について 過去と今をみつめ、現代社会の問題について考える			
第3週 自分のものの見方、考え方、生き方と向き合う：自らの価値観、何を大切にしているの？			
第4週 社会の現代的な課題と道徳教育 1 現代的な課題（いじめ問題）の教材を通して			
第5週 社会の現代的な課題と道徳教育 2 現代的な課題（情報モラル）の教材を通して			
第6週 自分の道徳観と向き合う 答えのない問題にどう向き合うのか？			

第7週 自分の道徳観と向き合う 答えのない問題をどのように解決しようとするのか？
第8週 まとめ（45分間授業）

【授業及び学習の方法】

講義のあとグループで討議してもらいます。討議の内容をもとに、毎回ミニレポートやグループワークでの学びについてのレポートを提出してもらいます。討議に参加できるように、事前準備を行ってください。

この科目は原則として対面授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

参考図書と関連する文献等も参考にして、講義に臨むことが大切です。

第2週 幾つかの教材や配付資料を読み簡単にまとめておく。（6時間）

第3週 事前にあてた課題について小レポートを作成する。（8時間）

第5週 社会の現代的な課題について新聞記事や関連図書を読み、調べたことを整理する。（8時間）

第7週 社会の抱える道徳的問題について小レポートを作成する。（8時間）

教科書・参考書等

（参考書）授業時に紹介します 事前に購入しなくてよい
やさしく学ぶ道徳教育 ミネルヴァ書房
倫理という力 講談社現代新書
哲学の使い方 岩波新書 他

オフィスアワー 金曜日 4 時間目 北キャンパス8号館 4 階（植田研究室）
木曜日 4 時間目 北キャンパス8号館 5 階（清水研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特別な配慮が必要な学生は、遠慮することなく申し出ること。

教員の実務経験との関連

植田、清水は、過去の小学校教員や行政職の経験から、道徳教育や実践に係る教材づくり等の観点からも講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000205)	主題科目	4Q木5	
子どもの視座から教育を考える Thinking about Education from a Child's Viewpoint	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
子どもの視座から教育を考える (Thinking about Education from a Child's Viewpoint)	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
山岸 知幸	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
この授業では、21世紀社会の諸課題として教育問題を取り上げます。まず、我が国の戦後教育の変遷を理解します。その上で、今日的な教育課題でもある3つの教育問題(子ども論、学習・教師論、部活動論)に焦点を当て、資料(文献・新聞記事)を精読するとともに、グループで話し合うことを通して、子どもの視座に立つ本質的な「課題」を導き出していきます。			
授業の目的			
21世紀社会でも様々な教育改革が進み、それらへの対応が求められている。自己の経験・体験を大切にしつつも、教育改革の変遷の歴史の中で現在の教育を理解し、また客観的に教育課題の本質的なものを発見できるようになる。			
到達目標			
1. 戦後教育改革の歴史の文脈の中で、教育問題を考えることができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 教育問題の中から、その本質的な「課題」を発見できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
コメント・ワークシート(毎時の授業終了時に提出)60%、小レポート40%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 我が国における「教育」の変遷ー戦後新教育から現在までー			
第2・3回 子ども論ー受容とは、子ども理解とはー			
第4・5回 学習・教師論ー学びのあり方・価値観形成とは、教師の役割とはー			
第6・7回 部活動論ー個と集団との関係性とは、教師の指導性とはー			
第8回 まとめと小レポート作成			
【授業及び学習の方法】			
配付資料を精読し(個人ワーク)、その上で、グループで意見交流・討論(グループワーク)を行います。グループでの意見を集約し発表してもらいます。その後、質疑・応答を行うかたちで授業を進めます。配付資料を何度も読み返し精読してください。グループ発表で出てきた視点も参考にしつつ、自己の考えをより深めてください。			
この科目は原則として対面で授業を行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
第1回 我が国の戦後教育史の年表を各自の視点から完成させる。(3時間)			
第2・3回 配付資料を精読するとともに、近年の受容や子ども理解に関わる論文もしくは著書を探し、比較・検討しながら考察する。(9時間)			
第4・5回 近年の学習・教師論に関わる論文もしくは著書を探し、授業時に紹介できるように整理・準備する。(9時間)			
第6・7回 それぞれが興味をもっている部活動に関わる新聞記事を集め、授業時に紹介できるように整			

理・準備する。（9時間）
教科書・参考書等
毎時資料を配付します。参考書は随時紹介します。
オフィスアワー 木曜日 4 校時 教育学部附属教職支援開発センター 1 階
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
配付資料を精読すること、グループ討議では積極的に意見交流することに努めてください。復習がとりわけ重要になります。

ナンバリングコード B2THM-cabG-1N-Lp1		科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～				
授業科目名 (時間割コード: 000206)		主題科目	2Q金2					
栄養学のすすめ Nutrition		水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム				
栄養学のすすめ (Nutrition)								
		授業形態 講義 PBL	単位数 1					
担当教員名		関連授業科目 生物学						
畦 五月		履修推奨科目						
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)								
授業の概要								
栄養学は、小・中・高等学校家庭科で既習済みの内容である。しかし、受験教科ではないため、その内容を忘れていた人を多く見受ける。大学生活になり、生活習慣が変化し、あるいはコロナ禍での自炊生活で、自分の食生活を見直す機会を持った人も多いと思う。 栄養素の基本的知識や、偏った栄養摂取で発生する疾病を学習した上で、栄養バランス、食材の組合せの方法を知り、健康を維持していくために自分(家族)の食生活を見直し、改善方法を見つけ、実践(改善)していきましょう。 キーワード: 栄養素、機能、食生活、健康								
授業の目的								
現代の栄養の情報は氾濫し、混乱し、フェイク情報が入り混じっている状態ともいえる。そこで、五大栄養素の知識を理解し、身につけた上で、誤解している栄養学の知識に振り回されていないか、偏った食生活になっていないか、自らの食生活の見直しを行い、その問題点に気づき、解決方法を提示でき、実践できるようにする。								
到達目標								
・五大栄養素の働きについて説明し、記述できる(「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) ・栄養バランスについて説明し、自らの食生活の改善点を見つけることができる(同上) ・食品の組合せと栄養バランスについて説明することができる(同上) ・偏った栄養摂取による疾病について説明し、その予防策を記述することができる(同上) ・自らの食生活の課題を見つけ、解決方法を探り、実践することができる(「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・改善点をわかりやすく記述することができる(「課題解決のための汎用的スキル」に対応)								
成績評価の方法と基準								
毎時間行う小テスト20%(毎時間の学習内容とそれを応用した内容から出題するため、授業外学習、毎回の積極的な参加が必要となる) 授業他提出を求めるレポート 30% レポート50%								
成績評価の基準								
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 <table><tr><td>合格又は了</td><td>到達目標を達成している。</td></tr><tr><td>不合格</td><td>到達目標を達成していない。</td></tr></table>					合格又は了	到達目標を達成している。	不合格	到達目標を達成していない。
合格又は了	到達目標を達成している。							
不合格	到達目標を達成していない。							
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス								
【授業計画】								
1. オリエンテーション、食品の成分とは 2. 糖質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 「低糖質ダイエット」は果たして有効かなど 3. タンパク質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 4. 脂質の機能と疾病、自分の食生活の課題に気づく 5. ビタミン、ミネラルの働き 自分の食生活の課題に気づく 「野菜先食べ」は糖尿病の予防に有効かなど								

6. 栄養バランスの見極め方 自分の食生活の課題に気づく
「無関心」から招く欠乏症など
7. 自らの食生活の課題解決方法を探る(プレゼンテーション)
8. まとめ

【授業及び学習の方法】

授業は講義形式で進めますが、理解を深めるためディスカッションの時間を適宜設けます。毎回の授業の最後には、小テストを課し、講義で学んだ内容と授業外学習で学んだ内容についての定着をみます。そのため、授業外学習は不可欠です。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業前30分、授業後60分を目安に学習してください。

- 1回. 食品の成分は何かを調べ、紹介できるように準備する
- 2－5回. 5大栄養素の機能を説明できるようにする。その上で、偏った栄養素の摂取で発生する疾病を調べ、発表できる
- 6回. 栄養バランスの評価基準を使用し、自らの食生活の課題を見出し、整理する
- 7－8回. 自らの食生活の課題を解決する方法を考え、実践し、記録に残す

教科書・参考書等

授業時に紹介する

オフィスアワー 水曜日12:30から12:50まで、来室(8号館 3階)してください

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

化学式を使って授業が行われることがありますので、注意が必要です。

毎回の出席代わりの小テストが成績にそのまま結び着きますので、欠席はしないように。

日々の生活そのものが、栄養学の内容となるので、食生活の情報に興味を持ってください。但し、その情報が正しい情報かどうかを確認しながら、生活することが大切です。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000207) こころとからだの科学 Psychology and Health Science こころとからだの科学 Psychology and Health Science	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 鎌野 寛	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 心身の健康科学			
我々が社会的にも文化的にも豊かな生活を送る上で、心身の健康を自然科学的および人文科学的に分析することは重要なことである。世の中にはいわゆる「健康」といわれる状態にある人もいれば、「不健康」といわれる状態にある人もいるが、大切なことは、「心身の健康状態を自らの人生の中にどのように位置づけるか」、あるいは、「どのようにマネジメントしていくか」ということなのではないだろうか。 この授業では、大学生活において、学生が自身の健康をマネジメントしつつ、社会的にも文化的にも充実した人生を過ごすためには、普段の生活の中でどのような点に留意する必要があるかについて、「心身の健康科学」という自然科学的・人文科学的テーマから概説していく。			
授業の目的			
心身の健康科学について、青年期や大学生活に関係する事柄を具体的に学ぶことで、心身両面から健康に対する関心を高め、より身近な自然科学的・人文科学的な問題として理解を深めることを目標とする。			
到達目標			
1. からだの健康・疾患・疾患予防について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。 2. 青年期におけるこころの健康について自然科学的・人文科学的な知識を持ち説明することができる。 1, 2は共通教育スタンダードの「2 1世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。			
成績評価の方法と基準			
① レポート提出を求める。 ② 授業中に小テスト、小レポートを実施することがある。 ③ 保健管理センターが主催し学内で行われるヘルストピックス講演会出席が必須である。出席できない場合はそれに代わるレポート提出が必要である。 ④ 成績評価; 学期末のレポート40%, 授業中の?テスト・?レポート及びヘルストピックス講演会出席60%。 ⑤ 毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回	オリエンテーション		
第2回	生活習慣病の科学 (1)		
第3回	生活習慣病の科学 (2)		
第4回	からだに関する様々な問題 (1)		
第5回	からだに関する様々な問題 (2)		
第6回	こころとからだに関する様々な問題 (1)		
第7回	こころとからだに関する様々な問題 (2)		
第8回	まとめ		
この科目は対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<自学自習のアドバイス>			
① 自学自習としてヘルストピックス講演会に出席することが必須です。ヘルストピックス講演会の日程等は授業で説明します。ヘルストピックス講演会に出席できない場合は指定されたレポートを提出することが			

必要です。レポートの内容、提出期限等については授業で説明します。

② 第1回 オリエンテーションで出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間)

第2回 ?活習慣病の科学(1)で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間)

第3回 ?活習慣病の科学(2)で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間)

第4回 からだに関する様々な問題(1)で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間)

第5回 からだに関する様々な問題(2)で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間)

第6回 こころとからだに関する様々な問題(1)で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間)

第7回 こころとからだに関する様々な問題(2)で出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(4時間)

第8回 まとめで出てきた専門?語について図書、?献を?いて調べましょう。(2時間)

③ 図書、文献を用いて調べるときに、古い図書や文献を読んだ場合、現代では学説が変化している場合があるので、複数の新しい文献を用いて確認しましょう。

④ インターネットの情報を?いて調べる場合は、大学、研究機関、学術機関、政府機関など信頼の置ける情報を?いて調べましょう。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布します。

オフィスアワー 教員に用のある場合、保健管理センター事務室に連絡してください。場所：幸町南キャンパス 電話：087-832-1282

月～金曜日9:00-17:00、但し国民の祝日・休日・年末年始・大学休業日を除きます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、平成30年度以前開講の「こころとからだの科学 その2」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

受講者希望者の人数によって受講調整を行うことがあります。

授業の進行状況によって授業内容は多少変更されることがあります。

教員の実務経験との関連

香川大学保健管理センターに所属。心身の健康相談を担当。保健管理センターの実務経験に基づき心身の科学についての講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000208)		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
筋肉の科学 Science of Muscle 筋肉の科学 (Science of Muscle)				
		授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 石川 雄一		関連授業科目		
		履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備15時間、事後学習15時間)				
授業の概要				
【キーワード】筋肉 貯筋 健康 スポーツ選手ばかりでなく、最近は老若男女が積極的に筋トレに励むようになってきました。ウォーキングをはじめとする有酸素運動ばかりでなく、筋肉を鍛えることがダイエットに効果的であり健康にもプラスになるという認識も浸透しつつあります。体重の約40%を占める筋肉は身体を動かすだけでなく、人間が生きる上で様々な役割を果たします。講義では、筋肉の性質、運動の仕組み、筋肉のトレーニング方法などについて解説していきます。				
授業の目的				
筋肉についての様々な知見を知ることにより、現代社会の科学と人間の関わりを理解することを目的とする。筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応について考えをとりまとめられることを目標とする。				
到達目標				
1. 筋肉についての様々な知見を学び、現代社会における科学と人間の関わりについて理解できる。 2. 筋肉や健康に関する課題を各自が認識し、具体的な対応についての考えをとりまとめられることができる。 以上の到達目標は共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応しています。				
成績評価の方法と基準				
授業後に提出してもらう振り返りの内容 (60% 到達目標2に対応) とクイズ形式の試験 (40% 到達目標1に対応) にて判定する。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
プロジェクターを用いて、講義形式で行います。 画面の撮影は可能です。 授業後にスライド資料は香川大学Moodleにて公開します。				
第1回 筋肉は何故存在するのか (筋肉の役割) 第2回 筋肉の形状と機能 (平行筋、羽状筋) 第3回 筋収縮の仕組みと形態 (筋収縮様式) 第4回 筋線維タイプについて 1 (速筋、遅筋) 第5回 筋線維タイプについて 2 (筋線維組成とスポーツパフォーマンス) 第6回 筋肉の伸張性収縮について (SSC) 第7回 スポーツと筋パワー (筋力とスピード) 第8回 内分泌器としての筋肉 (マイオカイン) クイズ形式の試験 なお授業の進展状況により内容が変更になることもあります。 () は各講義のキーワードです。				
自学自習のアドバイス				
第1回?7回 各時間の講義のタイトル・キーワードをもとに事前にインターネット等で調べてみましょう。 (2時間) また講義で取り上げられた専門用語や人物等についてインターネット等を使い調べてみましょう。 (1時間) そして講義では取り上げられなかった関連する事項についても理解を深めましょう。 (1時間) これまでの講義や自学自習で蓄積した知識をもとに復習して試験に備えて下さい (2時間)				

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔授業（Zoomによるライブ講義）へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

特に選定しない。
適宜、講義中に紹介する。

オフィスアワー 月曜日の3時限目
研究室は教育学部5号館4階にあります。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講のマナーを守る。

ナンバリングコード B2THM-caxG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q火1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000209) 人を動かすロジカルコミュニケーション Logical Communication to Influence People	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
人を動かすロジカルコミュニケーション Logical Communication to Influence People	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 山中 隆史	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備時間15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 人を動かすコミュニケーション			
社会において一人で物事を推進していくことはできません。コミュニケーションを行うことで人に協力して動いてもらうことが不可欠です。人に動いてもらう説得力のあるコミュニケーションを行うには、客観的な視点で物事を正しく考え、伝えることができるロジカルなコミュニケーションの基本的な考え方を身につけることが大切です。さらに説得力を高めるには、論理に加え感情への配慮も重要です。 この授業では、前半でロジカルなコミュニケーションの基本を学び、ミニレポートを記載し発表を行うことで実践力を高めます。さらに、後半では、書籍（「人を動かす」）を用いながら、感情や非言語も含めた論理以外の観点も含めた人に動いてもらうためのコミュニケーション能力を養います。			
授業の目的			
論理と感情の両面からコミュニケーションについて学びながら、人に動いてもらうコミュニケーションを行うためにどのような能力が必要なのか、考え、説明することができる			
到達目標			
1. ロジカルな主張をおこなうための基本的なポイントを説明することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 社会の諸課題を的確にとらえ自分の主張をわかりやすく展開することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 論理以外に人を動かす上での工夫を自分の言葉で説明できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業への取り組み姿勢 40% (到達目標①②③に対応)、クラス後のミニレポート 30% (到達目標②に対応)、期末レポート 30% (到達目標①②③に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション 第2週 イシューと枠組み 第3週 ピラミッドを活用して主張する 第4週 プレゼンテーションの実施 第5週 人を動かす 3 原則 第6週 人に好かれる 6 原則 第7週 人を説得する 1 2 原則 第8週 まとめ			
【授業及び学習の方法】 講義とグループワークを組み合わせで行います。講義後は毎回、ミニレポートを記載し提出していただき、			

今回の講義において、グループ内で発表していただきます。また、期末レポートも提出していただきます。

この科目は前回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

講義後に毎回ミニレポート課題を出します。必ずミニレポート（600字以上）を作成し、期限までに香川大学Moodle（LMS）に提出してください。また、発表できるように準備してクラスに臨んで下さい。

第1、2、3回のクラス後 クラスの学びを活用し、次回授業時に発表できるようミニレポートを作成する（10時間）

第4、5、6回のクラス後 教科書（「人を動かす」）を読み、ミニレポートを作成する。（12時間）

第8回のクラス後 期末レポートを作成する（8時間）

教科書・参考書等

教科書：D・カーネギー著(2016)『人を動かす』文庫版 創元社 715円

参考書は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 時間：火曜日第3講時（13:00～14:30）

場所：研究交流棟4階教員室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・教科書の購入は必須です。第4週の授業から教科書を持参してください。
- ・毎回出席をとります。
- ・レジュメの配布等は香川大学Moodle（LMS）を利用して行います。
- ・受講時にノートパソコンを持参してください。

連絡先：yamanaka.takashi@kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

大企業及びベンチャー企業に勤務しました。営業から総務、人事、経営企画業務まで幅広く担当。中小企業診断士としてのコンサル経験も含めた幅広い実務経験をもとに実践的なロジカルコミュニケーションの講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000210) 知プラe科目 大学教育を考える Thinking on University Education 大学教育を考える／Thinking on University Education	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 吉田 博	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】大学教育政策, 学士課程, 学士力, 学生の主体的学習, ファカルティ・ディベロップメント (FD) 大学教育に関する14のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。			
授業の目的 大学で能動的に学習を行う上で、大学と社会との繋がりや関わり、そして大学で学ぶことの意義について整理し、再考する必要があると考えます。そこで、現在の大学教育におけるさまざまな課題を、世界の動向、日本の高等教育政策の動向を踏まえつつ理解することで、自身の学習・研究とどのように向き合うべきかを考え、能動的に学習していくためのきっかけを掴みます。			
到達目標 1. 日本の大学教育の現状 (背景・課題) を説明することができる 2. 大学教育に関する課題について自らの意見を持つことができる 3. 自身の大学生活を振り返り、残りの学生生活をどのように送るのが良いかを考えるきっかけを掴むことができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回のクイズ (15点) 、毎回の小レポート提出 (15点) 、他者のレポートへのコメント (15点) 、コメントに対する返信 (15点) 、期末レポート (40点) の合計得点で成績をつけます。単位取得の最低条件は、この合計得点が60点以上であることです。 ※毎回の授業におけるクイズ、小レポート、他者へのコメント、コメントへの返信 (60点配点) については、次のように確認します。吉田担当の授業 (1, 4, 6, 7, 8, 9, 12回) の小テスト、小レポート、コメント等 (28点配点) は毎回の締め切り直後に確認し、得点をつけます。他者からのコメントがない小レポートについては担当教員がコメントを行います。久保田担当の授業 (2, 3, 5, 10, 11, 13, 14, 15回) は、小テスト、小レポート、コメント等 (32点配点) は、学期末にまとめて確認しますが、すべての回の確認は行わずに、いずれか1回のみを確認し、吉田担当の授業の課題提出状況等を踏まえて総合的に判断して得点をつけます。したがって、小レポートに他者からのコメントが付かない場合もありますが、他の回の取り組み方を踏まえて総合的に評価を行うため、他者からのコメントがあった場合のみ返信して下さい。 ※成績評価を行うための条件として、毎回のクイズを10点以上、毎回の小レポート・他者へのコメント・コメントに対する返信を30点以上獲得していることとする。 ※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない。 ※期末レポートを提出していない場合は成績判定しない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法 1. ガイダンス、大学生へのメッセージ (吉田・久保田) 2. 大学生が4年間で身につける力とはなにか: 学士力を考える (久保田)			

3. 単位制度とはなにか：大学のカリキュラムを考える（久保田）
 4. 初年次教育はなぜ必要か：その役割を考える（吉田）
 5. 教養教育はなぜ必要か：その役割を考える（久保田）
 6. 学生の学びを促進する授業とはなにか：アクティブ・ラーニングを考える（吉田）
 7. 大学生は学んでいるか：大学生の学習時間を考える（吉田）
 8. 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか：図書館の学習支援を考える（吉田）
 9. 大学における学生支援とはなにか：正課外の学びを考える（吉田）
 10. 成績評価とはなにか：公正な評価に向けた課題を考える（久保田）
 11. 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか：大学の教育改善を考える（久保田）
 12. 大学教員に必要な学びとはなにか：FDを考える（吉田）
 13. 大学を取り巻く動向を考える：①国内外の高等教育政策の動向（久保田）
 14. 大学を取り巻く動向を考える：②障がい学生に対する支援（久保田）
 15. 大学を取り巻く動向を考える：③大学教育におけるジェンダー（久保田）
 16. 定期試験（レポート）
- ※担当講師：吉田 博（徳島大学高等教育研究センター）、久保田 祐歌（関西福祉科学大学社会福祉学部）

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 電子メール（hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp）で問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業では、e-L e a r n i n gによる授業動画を視聴した後に、クイズに答え、小レポート課題を作成します。また、小レポートをもとに他者との意見交換を行うことが必要としています。小レポートを作成する際には、授業動画の内容だけでなく、授業のテーマに関連する資料や文献などを見て、自身の理解や考えを深めたうえで作成してください。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Le2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000211)	主題科目	後期集中	
知プラe科目 現代科学と研究倫理 Modern science and research integrity	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
現代科学と研究倫理／Modern science and research integrity	分野 主題	DPコード: cbd	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目	特になし	
金西 計英	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 研究倫理、研究不正、捏造・剽窃・偽造、改ざん、盗用			
本授業では、現代社会における科学技術に目を向けることから始める。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。また、企業との関わりについても触れる。			
授業の目的			
科学技術の発展は、我々の生活に恩恵をもたらした。一方、研究が細分化、専門化されることで、研究を身近に感じるようになってきた。その結果、研究に起因する問題が発生し、大きな社会問題となる危険性を孕んでいる。我々自身がそうした問題に巻き込まれるかも知れない。我々は、研究とは何か、研究とは誰のためにおこなうのかといった問題から始め、研究者の倫理とは何か、社会にとって研究はどうあるべきか、といった問題を自らの問題として考える必要がある。この授業は、学部の学生を対象に、大学でおこなわれている研究についての理解を深め、研究の倫理について目を向け、自覚を持つことを求める。			
到達目標			
学生が大学でおこなわれている研究について理解を深めることができる。 研究の倫理について目を向け、自覚を持つことができる。			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末に最終課題としてレポートを課します。また、各授業回において小テスト等の課題が課せられます(小課題)。単にビデオを視聴するだけではなく、各回の小課題を必ずこなしてください。小課題には締め切りが設定されています。締め切りを守ってください。小課題が5回以上未提出の場合は、成績判定の対象として扱いません。成績は、最終課題と各回の課題とを総合的に評価します。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
①金西計英・総合教育センター「研究倫理の進め方」(ガイダンス) ②石田三千夫・大学院社会産業理工学研究部「現代社会における科学技術」 ③齊藤隆仁・教養教育院「研究と不正行為」 ④佐藤高則・大学院社会産業理工学研究部「生命科学系の研究と倫理」 ⑤楊河宏章・大学病院「臨床(医療系)研究と倫理」 ⑥山本真由美・大学院社会産業理工学研究部「心理学系の研究と倫理」 ⑦内藤直樹・大学院社会産業理工学研究部「社会科学系の研究と倫理」 ⑧山中英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅰ」 ⑨山中英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅱ」 ⑩松本高広・大学院医歯薬学研究部「動物を扱う研究と倫理」 ⑪勢井宏義・大学院医歯薬学研究部「研究ノートとデータ管理の実践」 ⑫金西計英・総合教育センター「出版の倫理と論文」 ⑬織田聡・研究支援・産官学連携センター「知的財産権」			

- ⑭織田聡・研究支援・産官学連携センター「企業と研究倫理」
⑮石田三千夫・大学院社会産業理工学研究部「科学技術と倫理」
⑯定期試験(レポート)

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書1 書名 「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得」
著者名 『日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会（編）』
出版社 丸善出版 出版年 2015

オフィスアワー 電子メール（marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp※(a)→@）で問い合わせること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特になし

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000212) 知プラe科目 文化心理学入門 An Introduction to Cultural Psychology 文化心理学入門／An Introduction to Cultural Psychology	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 心理学、教育、学習、発達、認知			
心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。また、文化心理学の観点から、教育実践や学習支援・発達支援実践における指導者・支援者の役割について考察する。			
授業の目的			
心理学の歴史を知ること、社会・文化・歴史的アプローチの必要性を理解する。また、文化心理学における認知・学習研究の枠組みと具体的な研究成果について知ること、ヒトの心を捉えるための方法論について理解すると共に、「人間科学」としての心理学のアプローチについて考える。			
到達目標			
1. ヒトの心と社会、文化、歴史との関係について説明できる。 2. 自らが就職を希望している領域において、文化心理学的観点から取り組める課題解決について考える。			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の小レポートを合計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、下記の2点両方を満たした者を合格とする。 ・合計点が60点以上である。 ・小レポートを5回以上提出している。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
※授業内容は変更になる可能性があります。 1. 「科学的な方法」ってなに?－心の社会・文化・歴史性－ 2. 「個人」と「社会」はどちらが先か?－ピアジェとヴィゴツキーの考え方－ 3. 「道具」は何を変える?－「媒介された行為」の概念－ 4. 実験室は「真空」か?－心理学実験の生態学的妥当性－ 5. 世界がヒトに「語りかけてくる」?－生態学的心理学とアフォーダンス－ 6. 学習は「獲得」か?－状況的学習論－ 7. 学校はなにを教えるのか?－学校教育への社会・文化的アプローチ－ 8. 大人は子どもになにができる?－ポストモダンの発達支援－			
【授業時間外学習について】			
毎回の授業後に、簡単な小レポートの提出を求めます。また、最終コマの終了後には期末レポートを課します。それまでの授業内容をしっかりと復習した上で、レポート課題に取り組んでください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム			

(Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

参考書1 書名 文化心理学 発達・認知・活動への文化-歴史的アプローチ

I S B N 978-4788508170 著者名 マイケル・コール

出版社 新曜社 出版年 2002

金額 5,500+税

参考書2 書名 社会と文化の心理学-ヴィゴツキーに学ぶ-

I S B N 978-4790715375 著者名 茂呂雄二・田島充士・城間祥子(編)

出版社 世界思想社 出版年 2011

金額 2,500+税

オフィスアワー 問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします

e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000213) 知プラe科目 学校とICT教育 School and ICT Education 学校とICT教育／School and ICT Education	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 竹口 幸志	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 (1)ICT, (2)学校, (3)教育, (4)情報教育, (5)児童生徒			
児童生徒の情報行動の現状や学校におけるICT活用の状況について概観する。また、小学校、中学校、高等学校をはじめとした学校教育における情報教育の現状についても概説する。総じて、児童生徒のICT活用の現状を踏まえ、学校における情報教育とICT活用の今後の方向性について考える。			
授業の目的			
・児童生徒の情報行動の現状について理解する ・学校におけるICT活用の現状について理解する ・学校教育における情報教育の現状について理解する ・学校における情報教育とICT活用の今後の方向性について考える			
到達目標			
・児童生徒の情報行動の現状について理解することができる ・学校における ICT 活用の現状について理解することができる ・学校教育における情報教育の現状について理解することができる ・学校における情報教育と ICT 活用の今後の方向性について考えることができる			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
成績評価の方法: 試験, レポート 成績評価の観点: 試験 (学習到達度, 主体的問題解決力等), レポート (客観性, 批判的思考, 新規性, 妥当性, 論理的思考, 文章表現力) 成績評価の基準: 試験 (60%), レポート (40%)			
注1: 指定された期日を過ぎて課題 (試験, レポート) を提出した場合, 提出された課題は採点の対象外 (加点しない) となります。必ず期限内に提出してください。 注2: 試験, レポート, 等の課題にはすべて解答してください。解答されていない箇所がある場合, 当該箇所は採点の対象外 (加点しない) となります。 注3: 質疑や学習のフィードバック: 適宜行いますが, 内容に応じて回答に時間を要する場合があります。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 第2回 児童生徒の情報行動 第3回 学校におけるICT活用 第4回 小学校における情報教育 第5回 中学校における情報教育 第6回 高等学校における情報教育 第7回 学校における情報教育の課題と今後の方向性 第8回 まとめ			

【授業時間外学習について】

学習習慣の定着と学習理解の促進のため、予習と復習を勧めます。

予習として、文部科学省の教育の情報化の推進サイト等、情報教育に関する情報を事前に読んでおくことをお勧めします。復習として、講義で学んだ内容を復習しておくことをお勧めします。

【受講の条件】

e-Learning形式による授業のため基礎的なコンピュータの操作や文章処理ソフトウェア等の使用は必須です。インターネットブラウザの操作や文章作成ソフトの操作等ができることを前提に講義を行いますので、操作に不安がある場合は、所属大学の情報センターヘルプデスクまたは教務にご相談ください。

なお、本講義は大学に設置される学生用のコンピュータールームでの受講を担保しています。家庭用パソコン、スマートフォン、タブレット等の情報機器による講義の視聴は担保されておりませんので注意してください。これらの機器で見た場合、不具合が生じる場合があります。

【受講期間について】

教務または学習管理システム（Moodle）を通して通達します。受講期間を十分に確認して受講してください。

【バリアフリー対応】

テキスト資料(PDF)あり。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義中に資料を配布する。

オフィスアワー 特に設けない。電子メール（ktakeguchi@naruto-u.ac.jp）で問い合わせてください。

【教務に関する質問事項】は、所属大学の教務に問い合わせてください。

【技術的トラブル】は、所属大学の情報センターまたはヘルプデスクに問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【禁止事項について】

なりすましによる受講と受験、レポート盗用、コンピュータ内への動画の保存・蓄積、インターネット上への無断配信・共有、掲示板における教職員、学生への誹謗中傷 等。これらの不正行為が発見された場合、大学の規定に基づき厳正に対処します。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000301) 情報数学の基礎 Fundamentals of Information Mathematics 情報数学の基礎 (Fundamentals of Information Mathematics)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q木4	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
	担当教員名 堀川 洋	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 情報数学(離散数学) 情報数学はコンピュータサイエンス(計算機科学)および情報科学のための数学であり、離散数学ともいわれる。本授業では、情報数学におけるいくつかの代表的な事柄についてトピック的に取り上げて分かりやすく説明する。また、毎回演習問題を解くことによって理解を深める。基礎的な内容であるので高校数学での関数や微積分等の知識はほとんど必要としないが、論理的思考能力は必要とする。			
授業の目的 授業計画に挙げた各項目: 2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数について理解することを目的とする。			
到達目標 2進数と16進数、情報の表現、命題論理、組合せ論理回路、グラフと行列、最短路、場合の数についての基礎的な問題が解ける (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポート40点、試験80点の120点満点として、授業の目標が達成出来ているどうかを100点満点換算で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) 2進数と16進数 (2) 情報の表現 (3) 命題論理 (4) 組合せ論理回路 (5) グラフと行列 (6) 最短路 (7) 場合の数 (8) 授業のまとめ+試験			
【授業及び学習の方法】 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、演習問題を解いてもらう。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。			
【自学自習のためのアドバイス】 (1) 2進数と16進数について調べてまとめる。 (2) 情報の表現について調べてまとめる。 (3) 命題論理について調べてまとめる。 (4) 組合せ論理回路について調べてまとめる。 (5) グラフと行列について調べてまとめる。			

- (6) 最短路について調べてまとめる。
(7) 場合の数について調べてまとめる。

授業は対面で実施する。

教科書・参考書等

特に指定しない。

「情報数学」、「離散数学」をキーワードとして検索してみると良い。図書館に数多くの参考書がある。

オフィスアワー 電子メール(horikawa.yo@kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。

訪問の前にまずメールで連絡すること。

研究室：工学部1号棟7階1701室(林町キャンパス)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「授業の内容は、平成30年度以前開講の「情報数学の基礎（その1）」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000302)	主題科目	3Q木5	
エクセルによる基本統計解析 Basic statistical analysis with Excel	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
エクセルによる基本統計解析 (Basic statistical analysis with Excel)	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 堀川 洋	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 統計 エクセル			
ノートパソコンでエクセルを用いて基本的な統計解析の実践について学ぶ。度数分布表とヒストグラム、記述統計量、散布図と相関係数、回帰分析、アンケートとクロス集計表、および、推測統計の基礎を扱う。エクセルの基本的な操作を習得している必要がある。毎回、ノートパソコンでエクセルを用いた演習を行うことによって理解を深める。			
授業の目的			
授業計画に挙げた各項目: 度数分布表とヒストグラム、記述統計量、散布図と相関係数、回帰分析、アンケートとクロス集計表、および、推測統計の基礎について理解することを目的とする。			
到達目標			
基本的な記述統計・推測統計の処理がエクセルで行えるようになる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
エクセルを用いた演習課題のレポートの評価100点満点により、授業の目標が達成出来ているどうかを評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
(1) 度数分布表とヒストグラム			
(2) 記述統計量			
(3) 散布図と相関係数			
(4) 回帰分析			
(5) アンケートとクロス集計表			
(6) 区間推定			
(7) 仮説検定			
(8) 総合課題			
【授業及び学習の方法】			
授業計画に挙げた内容について説明を行った後、ノートパソコンでエクセルによる演習を行う。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。			
【自学自習のためのアドバイス】			
(1) 度数分布表とヒストグラムについて調べてまとめる。			
(2) 記述統計量について調べてまとめる。			
(3) 散布図と相関係数について調べてまとめる。			
(4) 回帰分析について調べてまとめる。			
(5) アンケートとクロス集計表について調べてまとめる。			

- (6) 区間推定について調べてまとめる。
(7) 仮説検定について調べてまとめる。

授業は対面で実施する。

教科書・参考書等

特に指定しない。

オフィスアワー 電子メール(horikawa.yo@kagawa-u.ac.jp)にて随時受け付ける。

訪問の前にまずメールで連絡すること。

研究室：工学部1号棟7階1701室(林町キャンパス)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回、演習でノートパソコンを用いるので準備すること。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000303)	主題科目	2Q火2	
コンピューターシミュレーションの現在と未来 Present and Future of Computer Simulation	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
コンピューターシミュレーションの現在と未来 Present and Future of Computer Simulation	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 竹内 謙善	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回＋自学学習 (準備時間15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 コンピューターシミュレーション 【授業の概要】 現代の生活, 生産活動において, 物理現象をコンピューターでシミュレーションする技術の活用が必須になりつつある. この授業では, まずコンピューターとシミュレーション技術を概観し, 特にものづくりの現場でどのように活用されているかを解説する. さらにその現状を踏まえることで, 将来のコンピューターシミュレーションがどのように発展するのかを考える.			
授業の目的			
コンピューターシミュレーション技術の概要と活用の実態を理解すると共に, コンピューターを活用するための基礎的な知識を身に付ける. また, 将来のコンピューターの活用方法を自ら考える素養を身に付ける.			
到達目標			
1. コンピューターの演算能力の進化について説明できる. (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 製品の設計において重要な物理現象を1つ取り上げて説明できる. (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. コンピューターシミュレーションの手法を3つ以上挙げて, それらの違いを説明できる. (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. コンピューターシミュレーションの現状を踏まえて, その将来について自身の考えを述べることができる. (共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート50% (特に到達目標 1～3 に対応) , 期末レポート50% (特に到達目標 4 に対応) により評価する.			
成績評価の基準			
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする. 各評価基準は次のとおりとする. 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる. その場合の評価基準は次のとおりとする. 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回: オリエンテーション, コンピューターの進化 第2回: 身近なコンピューターシミュレーション 第3回: ものづくりと物理現象 第4回: コンピューターシミュレーションの手法 第5回: シミュレーションソフトウェアの開発 第6回: シミュレーションソフトウェアビジネス 第7回: 将来のコンピューターシミュレーション 第8回: まとめ この科目は全回対面授業を行います. なお, 状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります.			
【授業及び学習の方法】			

事前学習として、事前に配布する資料を一読しておき、分からない用語等を調べておく。
授業は、配布された資料を使って講義形式で進める。適宜グループワークも取り入れる。
事後学習として、授業中に課されたミニレポート課題と期末レポート課題に取り組む。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回：事後に配布資料を確認し、コンピューターシミュレーションに対する自分の考えを文章にまとめる。

第2回～第5回：事前に配布資料を一読し、分からない用語等を調べておく。事後には各回で課されたミニレポート課題に取り組む。

第6回～第8回：授業全体の復習を行って、期末レポート課題に取り組む。

教科書・参考書等

特に設けないが、参考文献は授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー 金曜日 8時50分～12時

教員室：幸町キャンパス北5号館5階515

メール：takeuchi.kenzen.u8@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

資料は電子データで配布します。受講の際には資料を事前にプリントアウトして持って来るか、予めダウンロードしてパソコンで閲覧できるようにしておいて下さい。

教員の実務経験との関連

ものづく企業向けにシミュレーションソフトウェアを開発してきた経験に基づいて、可能な限り多彩な応用例を交えた講義を行う。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1		科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000304)		主題科目	1Q木1	
モノづくり概論 Manufacturing Technology モノづくり概論		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
		授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 吉村 英徳		関連授業科目		
		履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 7.5回+自学自習 (事後学習30時間)				
授業の概要				
「人間は道具を作る動物である」, 「人間は道具を使う動物である」と言われるように, 人間が生活するにおいて, 手が加わえられてできた物・道具がなければ生きていけない. 製品は様々な部品から成り立っているものの, 組み立てられた製品を見ることは多くても, 部品の作り方はあまり知られていないのが現状である. 部品の製造・生産には, 必要とされる機能を与えること, 要求された量・納期で仕上げること, 適切なコストに抑えることが重要である. 本講義では, これらを満たす物を成形する (形作る) 方法について学習する.				
授業の目的				
新しい物を創造するには, 加工する (形作る) 方法がなければ実現することはできない. 身近な物について, なぜその作り方をするのかを理解しながら, 基礎的な製造方法について知識を習得する. また, 様々な作り方を組み合わせて, 自分の選んだ物や考えた物の作り方 (製造工程) を論理的に考える.				
到達目標				
1. 物の基礎的な加工の方法についての知識を習得できる. (b: 広範な人文・社会・自然に関する知識) 2. 身近な物の加工方法を理解できる. (b: 広範な人文・社会・自然に関する知識) 3. 事例を上げて, その加工方法および加工工程を考慮できる. (c: 21 世紀社会の諸課題に対する探求能力)				
成績評価の方法と基準				
各回で説明した物について, その加工方法をまとめたレポート (70%) (到達目標 1, 2 に対応) 提示した事例の物 (もしくは自身が創造した物) について, その加工方法および加工工程を考えてまとめたレポート (30%) (到達目標 3 に対応)				
成績評価の基準				
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする. 各評価基準は次のとおりとする. 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる. その場合の評価基準は次のとおりとする. 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】				
第1回: 授業の進め方のガイダンス, 機械加工の概要 第2回: 除去加工についての基礎知識 第3回: 接合についての基礎知識 第4回: 変形加工についての基礎知識 (板材の1次加工, 2次加工) 第5回: 変形加工についての基礎知識 (塊材の1次加工, 2次加工) 第6回: 熱処理, 加工工程についての基礎知識 第7回: 事例 (各自の興味があるもの, 今後創出したい物) の抽出 第8回 (4 5 分) : 事例についての調査・思考				
【授業及び学習の方法】				
全ての講義は対面にて行い, 状況に応じて適宜オンライン講義にて対応する. 講義を聞いたメモをレポートとして提出し, コピーした後に次の回で返却する. その回に学んだ加工方法について, 長所・短所についてまとめたレポートを作成し, 次回の講義開始までにMoodleに提出する.				
【自学自習のアドバイス】				
各講義回後に, 説明した加工方法に関連した物を取り上げ, その加工方法について調べてレポートにまとめる. (各約2時間)				

教科書・参考書等

教科書は指定せず，資料をMoodleにて提供．下記は参考図書

- 1．もの作り不思議百科（新コロナシリーズ18），JSTP編，コロナ社，1992年
- 2．続もの作り不思議百科（新コロナシリーズ54），JSTP編，コロナ社，2005年
- 3．機械工作法（増補），平井三友他，コロナ社，2015年，ISBN:978-4-339-04481-2

オフィスアワー 木曜日2～4時限目 幸町北3号館1階117-1

必要に応じて，メール（yoshimura.hidenori@kagawa-u.ac.jp）にてアポイントを取ってください．

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

レポートにて採点するため，出席状況については注意してください．

ナンバリングコード B2THM-cabG-1N-Lg1		科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000305)		主題科目	2Q火2	
植物のバイオセンシングー作物の収量増大～水資源の有効利用ー Bio-sensing of plantsーIncreasing of crops productivityーEffective use of water resourcesー		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	
植物のバイオセンシングー作物の収量増大～水資源の有効利用ー		授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 下川 房男		関連授業科目		
		履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要				
21世紀を担う技術者・科学者は, 気候変動・人口増加・経済成長等が, 相互に複雑に絡み合う中で, これらの社会問題の本質を理解し, その解決のために抜本的な手段を講じてゆかなくてはならない. 本授業では, その一つの事例として, 「食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立」を取り上げ, あるべき次世代農業システムの実現に向けて, 現在の農業分野を取り巻く課題・状況等を説明し, その課題解決に向けた発想に繋がるよう授業を行う.				
授業の目的				
地球規模での気候変動や人口増加による食糧問題が深刻さを増す中, 21世紀の農業には, バイオセンシング技術等を駆使した新たな展開が期待されている. このような重要な社会課題について, より深く理解し, 更にその課題解決に向けて, 自らが具体的な解決法を提案できるようになる.				
到達目標				
1. 授業で扱う食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立(SDGs)の関係について, 2 つ以上説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) . 2. 気候変動・人口増加・経済成長等に端を発した社会問題の連鎖を総合的に理解し, 更に食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立に向けた抜本的な問題の解決のためには, 何が必要とされるのか, 現状の取り組み状況を俯瞰しつつ, あるべき対応策について具体的に提案・説明することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) . 3. 上記に関係して, 自分の考えや主張点を的確に整理し, 第 3 者にわかり易く伝えることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) .				
成績評価の方法と基準				
小レポート20% (特に到達目標1に対応) , グループ発表80% (特に到達目標2と到達目標3に対応)				
成績評価の基準				
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする. 各評価基準は次のとおりとする. 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる. その場合の評価基準は次のとおりとする. 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】				
第1回 食糧の持続的な確保と地球環境保全の両立に向けて (SDGs)				
第2回 現在の農業の取り巻く状況～バイオセンシング技術の現状				
第3回 課題解決に向けたテーマ設定等				
第4回 課題解決に向けた調査研究～具体的なアプローチの提案①				
第5回 課題解決に向けた調査研究～具体的なアプローチの提案②				
第6回 課題解決に向けた調査研究～具体的なアプローチの提案③				
第7回 発表に向けて, 調査結果・提案システムに関する纏め～グループ発表				
第8回 グループ発表～授業の総括				

【授業及び学習の方法】

授業は講義とグループワークの二つから構成されています。講義では、気候変動・人口増加・経済成長等に端を発した社会問題～現状の農業の現状を俯瞰し、の連鎖から、抜本的な問題の解決のためには、何が必要とされるのか、テーマ設定に繋がる知識・理解を与え、その後、グループワークを通して、課題解決の手法・開発すべき技術開発等について全員で纏め、最終的には、提案内容を発表して頂きます。基本的には、対面授業を想定しています。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回 SDGの概要を調べるとともに、食糧生産と地球環境保全の両立により、SDGsの17全ての項目に貢献できる意義について、自分なりに整理する(目安時間:2時間)。

第2回 現在の農業を取り巻く諸課題について自ら調査し、併せて農業に新たな革新をもたらすと期待されている技術開発の現状について纏め、授業時に紹介できるように準備する(目安時間:2時間)。

第3回～第6回 例えば、(1)多量の肥料・水を投入する農業から、環境保全に貢献する農業への転換、(2)温暖化に伴う気候変動や自然災害に即応した食糧生産システムの構築等、課題解決のための具体的なテーマを設定し、調査研究を進めるとともに、具体的なデータ等に基づいて、将来あるべきシステムを考案して、そのために必要な手法や開発すべき新しい技術について、グループワークで議論できるように、各自が事前に資料等に纏めて報告できるようにする(各回の目安時間:2時間)。

第7回 グループで議論したことを、わかり易くppt等に纏め、発表の準備をする(目安時間:2時間)。

教科書・参考書等

教科書:必要に応じてプリント等を配布するため、教科書は特に指定しない。

参考書:授業中に、適宜、紹介するが、例えば、ロブ・ダン著・高橋洋訳(2017),「世界からバナナがなくなるまでに ―食糧危機に立ち向かう科学者たち―

オフィスアワー 月曜日第3校時(13:00～14:30) 創造工学部 1306

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

他の授業科目と同様に、毎回出席を取ります。尚、30分以上の遅刻は、欠席として扱います。

教員の実務経験との関連

前職のNTT研究所時代から、MEMS技術を核としたものづくりに精通しており、現在は、その技術をベースに次世代の農業センサプラットフォームの必要性を提唱し、産学官連携組織による取り組みを行っており、これらの経験に基づいて、講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000306) 地方都市と交通 -自動運転技術の役割- Transportation in local cities - The role of automated driving technology- 地方都市と交通 -自動運転技術の役割- Transportation in local cities - The role of automated driving technology-	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 堤 成可	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 この授業では、私たちの身近で必要である移動や交通について、自動車の自動運転技術を中心に引き上げ、これまでの問題点や将来について考えます。昨今の技術動向や変遷などの一連の基礎的な知識について概説します。その知識を活用して受容性や使い道などについて自分なりの考えをまとめられるよう、課題を適宜取り入れながら進めます。 【キーワード】移動, 交通, 自動車			
授業の目的 昨今の自動車の運転支援や自動運転技術について理解し、人や物の移動で不可欠な交通の問題について理解を深めると共に、それらの実例や知識を用いて問題の解決・解消策を提示できるようになる。			
到達目標 1. 授業で扱う自動車の自動運転に関連する技術を区別し、利用目的や方法、範囲について解釈することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 交通をめぐる諸問題の解決・解消のために必要とされる要素要因について、具体例と比較しながら解決策を提案することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 個々の考えや経験から課題を取り上げ、得られた知識や解決方法等纏めてられているかを軸に評価する。 各回授業の小レポート・課題提出 60% (特に到達目標1に対応) クォーター末レポート 40% (特に到達目標2に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス —授業内容の説明— 第2回 自動運転技術概要1: 実証実験の例 第3回 自動運転技術概要2: 要素技術の紹介 第4回 交通事故と予防に向けた取り組み 第5回 自動車の自動運転技術の変遷 第6回 都市規模に応じた交通手段 第7回 移動における自動車の役割を考える 第8回 まとめ: レポート課題説明			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心で進めますが、受講生の理解を深めるために自分たちで考えてもらう時間を適宜設けます。また必要に応じて小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。最後に交通をめぐる課題を取り上げてもらい、その現状と解決・解消策について報告してもらいます。この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更			

する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2回 自分の身の回りの交通について現状や課題など予め調査する。(3時間)

第3-7回 2回目以降の授業最後にキーワードを伝えるので、それらについて予め調べる。(10時間)
また、授業後、授業中に紹介された資料などを再度自分でも確認する。(5時間)

第8回 ここまでの知識をまとめる。(2時間)

授業後自分の考えに沿った情報を調べて報告資料を作成する。(10時間)

教科書・参考書等

教科書は使用しない。授業中に必要に応じて参考資料等の紹介やプリントなどを配布します。

オフィスアワー 水曜日12:15～12:45 林町キャンパス1号館4階 1405室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特段の事情が無い限り全ての授業に出席すること。出席確認を含む小レポートを適宜課します。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000307) ヒューマンコミュニケーション Human Communication ヒューマンコミュニケーション Human Communication	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 山田 貴志	関連授業科目 情報リテラシーA		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】少子化 本授業では、家族・仲間・道具を持つヒトの観点から人類の未来について考える。具体的には、各種コミュニケーション場の創出事例に基づいて、不安から安心・安全に導く人間関係・システム技術を議論しながら、日本の少子化問題にふれる。			
授業の目的			
本授業では、人類の未来に予想される諸問題を調査発表することにより、「どのような解決策が期待されているか」、「自分が何にどの程度重要であるか」について探求し、能動的に理解することを目的とする。			
到達目標			
1. 日本の少子化問題の現状と課題を知り、説明することができる。 2. 生きがいのある人生とはどういうものかを表現することができる。			
※1、2の到達目標がDPの「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」、「倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観」に対応する。			
成績評価の方法と基準			
質疑応答・グループワークの学習態度(30%)(到達目標1、2に対応)とレポート・発表(70%)(到達目標1、2に対応)により評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回: オリエンテーション 第2回: 仲間を持つヒト(1) コミュニケーションと演劇 第3回: 仲間を持つヒト(2) 調査発表 第4回: 道具を持つヒト(1) AI技術の開発と人間らしさ 第5回: 道具を持つヒト(2) 調査発表 第6回: 家族を持つヒト(1) 若い世代の結婚・出産に関する意識 第7回: 家族を持つヒト(2) 調査発表 第8回: まとめ			
【授業及び学習の方法】 ・大まかな学習活動の流れは講義・調査発表である。 ・授業の理解度を深めるために、質疑応答、グループワークを積極的に取り入れる。 ・この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。 ・なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。			
【自学自習のためのアドバイス】 ・発表の内容は、各自の興味・関心あることが異なるので、授業中に指示します。 ・全体交流を意識しながら、発表の準備を行ってください。 ・各回において、復習や発表の準備のために、事前・事後学習3時間の自学自習を推奨します。 ・最終レポートの作成のために、事前・事後学習6時間の自学自習を推奨します。			

教科書・参考書等

教科書は指定しない。資料を配布する。

オフィスアワー 金曜日4時限目 幸町北キャンパス8号館4階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業では、グループワークや全体交流を通して、学生間、教員と学生のコミュニケーション場を積極的に創出します。コミュニケーションを楽しむことができる皆さん、今を楽しむ幸せの種を一緒にまきましよう。

教員の実務経験との関連

専門学校と工業高等専門学校での勤務経験があります。情報教育や工業教育に携わってきた実務経験をもとに、講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000308)	主題科目	1Q集中	
知プラe科目 コンピュータと教育 その1 Computers in Education first period	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
コンピュータと教育 その1 (Computers in Education first period)	授業形態 講義 e ラ ーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 コンピュータと教育 その2		
林 敏浩	履修推奨科目 なし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム			
近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。なお、7,8回目は教育システム研究などの動向により予定と異なる内容になる場合がある。			
授業の目的			
ICTを利活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけではなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
到達目標			
(1) 教育・学習方法の概要を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) (1) を支える情報通信技術を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか概説できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする (到達目標 (1)、(2)、(3) に対応)。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満の場合は得点に関わらず不可とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回目: 講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その1」の講義で何を学ぶか?			
第2回目: e-Learningでいかに学ぶか?			
第3回目: 遠隔講義でいかに学ぶか?			
第4回目: ICTを活用した教育・学習支援 (1) : CAI (Computer Assisted Instruction) 概説			
第5回目: ICTを活用した教育・学習支援 (2) : CAIシステムの歴史と新しい教育システム			
第6回目: ICTを活用した教育・学習支援 (3) : 知的CAI概説			
第7回目: 四国におけるe-Learningによる教育連携			
第8回目: 新しい時代のe-Learning			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
※コンテンツ更新に伴い、内容などに変更が生じた場合は、第1回目の講義ガイダンスで説明します。			
【学習の方法】			
e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning			

Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、オンラインレポート提出）を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。
各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

【バリアフリー対応について】

電子テキスト型コンテンツ（音声読み上げソフト対応）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】2018年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000309)	主題科目	2Q集中	
知プラe科目 コンピュータと教育 その2 Computers in Education second period	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
コンピュータと教育 その2 (Computers in Education second period)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩	関連授業科目 コンピュータと教育 その1		
	履修推奨科目 なし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】情報通信技術, CAI, e-Learning, 教育システム			
近年、情報通信技術 (ICT) を活用した教育が様々な教育機関で実施されるようになってきた。また、予習・復習などの自宅等における学習者主体の学習にもICTの利用が増えてきている。本講義ではこのような情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習、それらを支える教育・学習システムについて講義する。			
授業の目的			
ICTを利活用する教育環境を単に利用者 (学習者) として利用するだけではなく、これまでにはなかった21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情報通信技術 (ICT) を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。			
到達目標			
(1) 教育・学習支援システムにどのようなものがあるか説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 支援システムの活用事例などを説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする (到達目標 (1)、(2) に対応)。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満の場合は得点に関わらず不可とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回目: 講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その2」の講義で何を学ぶか?			
第2回目: 教育・学習支援システム (1): フレーム型システム			
第3回目: 教育・学習支援システム (2): ドリル&プラクティス型CAIシステム			
第4回目: 教育・学習支援システム (3): ゲーム&シミュレーション型システム			
第5回目: 教育・学習支援システム (4): アドリブ型・情報検索型・質問応答型システム			
第6回目: 高度教育・学習支援システム (1): 知的CAIシステム			
第7回目: 高度教育・学習支援システム (2): いろいろな高度教育システム			
第8回目: 高度教育・学習支援システム (3): 協調学習支援システム			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。 ※コンテンツ更新に伴い、内容などに変更が生じた場合は、第1回目の講義ガイダンスで説明します。			
【学習の方法】			
e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。			

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、オンラインレポート提出）を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。
各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

【バリアフリー対応について】

電子テキスト型コンテンツ（音声読み上げソフト対応）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】2018年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000310)	主題科目	3Q集中	
知プラe科目 高度情報化社会の歩き方 Way of Walking on Advanced Information Society	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
高度情報化社会の歩き方 Way of Walking on Advanced Information Society	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
後藤田 中, 藤本 憲市	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自習 (事前学習 9時間 + 事後学習 21時間)			
授業の概要			
【キーワード】 高度情報化社会 高度情報化に伴い、我々の身の回りの社会環境は、益々創造的で豊かになっている。AIやIoTといったテクノロジーが進化し、我々の生活に溶け込み，“便利な”サービスの根幹をなし始めている。一方で我々の生活が豊かになる反面、見落としがちな諸問題も生まれ始めている。この授業では、高度情報化社会に伴う我々の社会環境における現在、そして今後の予測に対し、光と影、それぞれの一端を紹介し、人と情報がどのように接すれば、より豊かな生活を実現できるか学ぶ。			
授業の目的			
高度情報化社会の特徴としてみられる、様々なテクノロジーの特徴を知識として獲得し、そのテクノロジーから生まれるサービスの利用例、また注意すべき点を理解することが本授業の目的である。			
到達目標			
以下の項目を説明できる。 1. AI がもたらす可能性と社会的諸問題 (例: 人の雇用, 著作権) 2. IoT により, ネットワークにつながる便利さと注意点 (例: セキュリティ) (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」・「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
7回の小テスト (50点) と期末レポート (50点) により評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの提出回数が5回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※授業内容は変更になる可能性があります。 第1回 人工知能による創作 (遠隔) 第2回 著作物の円滑な利用について (遠隔) 第3回 AIにより置き換わる仕事・進化する体 (遠隔) 第4回 広がるIoT・迫るセキュリティ脅威 (遠隔) 第5回 スポーツにICTを適用する (遠隔) 第6回 暗号とセキュリティ (遠隔) 第7回 学習するコンピュータ (遠隔) 第8回 期末レポート (遠隔)			
【授業時間外学習にかかわる情報】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を確認するためのレポートを課しています。ビデオ視聴するだけでなく、自ら調査を行い、レポート内容にも反映してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム			

(Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1回 人工知能による創作の課題事例を授業で紹介した事例以外で調査する（事後学習：3時間）

第2回 著作物の円滑な利用にあたり、改正著作権法など、最新の対応状況について調査する（事後学習：3時間）

第3回 バリアフリー、SDG'sにも関連し、仕事やスポーツ環境における人間活動のすみ分け方、平準化を調査する（事後学習：3時間）

第4回 IoT等、今後広がるネットとハードウェア・ソフトウェアの広がりに対するセキュリティ脅威を調査する（事後学習：3時間）

第5回 スポーツに適用されている最新のICT事例を調査する（事後学習：3時間）

第6回 暗号とセキュリティに関連し、近年の技術動向を調査する（事後学習：3時間）

第7回 機械学習やディープラーニングなど関連する最新の動向について調査する（事後学習：3時間）

第8回 期末レポートを作成するにあたり、テーマに対応する第1～7回の内容をインターネットや文献を通じて調査を行う（事前学習：9時間）

教科書・参考書等

特に指定しない

オフィスアワー 担当回教員の電子メールを利用し、随時問い合わせてください。

教員のメールアドレスは、Moodleコース内の「質問方法」に明記されています。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

教員の実務経験との関連

本科目は、スポーツ科学や実践的技術者教育に係る実務経験を有する教員2名（それぞれ後藤田，藤本）が、専門分野の知見を活用した講義コンテンツ(それぞれ第3～5回，第6～7回)を使用して実践的教育を実施するものである。

ナンバリングコード B2THM-cdeG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000311) 知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その1 Local Contents and Management of Intellectual Property first period 地域コンテンツと知財管理 その1 (Local Contents and Management of Intellectual Property first period)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市, 村井 礼	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】知的財産管理, コンテンツ, 特許, 企業経営 地域コンテンツを紹介しながら, 知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回では発明やブランドの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
授業の目的 香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (発明, 商標など) について知識を得ることができる。知的財産管理に関する基礎知識を習得し, 問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
到達目標 (1) 知的財産管理の基礎知識を説明し, 社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べるができる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「市民としての責任感と倫理観」・「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し, 60点以上の評価により合格とする (到達目標 (1) に対応)。ただし, 期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 発明の保護その1 (法目的, 特許を受ける権利) 2. 発明の保護その2 (特許出願) 3. 発明の保護その3 (特許権の活用) 4. 発明の保護その4 (係争対策) 5. 罰則・雑則, これまでの復習 6. ブランドの保護 7. 知財管理と周辺領域 (外国出願, 実用新案) 8. 期末レポート 【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるe-Learning教材を, 大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には, ノートへの書き取りなど, 主体的な態度を心がけなければ, 講義を理解することは不可能である。各回の内容について, 理解度を測るため及び出席確認のため, e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので, 教科書を必ず購入すること。 四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし, 成績評価に影響しない。法改正も踏まえ, 適宜, インターネットや書籍等で情報収集に努めること。			

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

【教科書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター（第3版）」

ISBN 4862514146 著者名 佐倉 豪

出版社 三和書籍出版 出版年 2020年

金額 2,640円（紙の本）

【参考書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」

ISBN 4862511198 著者名 本間 政憲

出版社 三和書籍出版 出版年 2011年

金額 2,530円

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール（lc_ipm-c@kagawa-u.ac.jp）を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講人数制限：あり（香川大学 20名）

パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【注意】2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-cdeG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000312)	主題科目	4Q集中	
知プラe科目 地域コンテンツと知財管理 その2 Local Contents and Management of Intellectual Property second period	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
地域コンテンツと知財管理 その2 (Local Contents and Management of Intellectual Property second period)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
林 敏浩, 藤本 憲市, 村井 礼	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】知的財産管理、コンテンツ、著作権、企業経営			
地域コンテンツを紹介しながら、知的財産管理の基礎的知識について講義する。各回ではインターネット時代におけるコンテンツやデザインの保護といった知財管理の基礎的な事項についてとりあげる。			
授業の目的			
香川県を中心とする四国各地のコンテンツ (デザイン, コンテンツなど) について知識を得ることができる。知的財産管理に関する基礎知識を習得し, 問題意識をもって身近な事例に接することができる。			
到達目標			
(1) 知的財産管理の基礎知識を説明し, 社会において地域コンテンツを管理する際に注意すべき点などについて具体的に述べることができる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「市民としての責任感と倫理観」・「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト (10点×7回) + 期末レポート30点により評価し, 60点以上の評価により合格とする (到達目標 (1) に対応)。ただし, 期末レポートの提出が成績評定の条件とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 知財法の体系、知財管理の基礎 2. インターネットとデジタルコンテンツ 3. コンテンツの保護その1 (著作物と著作者) 4. コンテンツの保護その2 (著作者の権利) 5. コンテンツの保護その3 (著作隣接権, 保護期間, 侵害対応) 6. デザインの保護 7. 知財管理と周辺領域 (知財法比較, 練習問題) 8. 期末レポート			
【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるe-Learning教材を、大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には, ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。各回の内容について、理解度を測るため及び出席確認のため、e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので, 教科書を必ず購入すること。 四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし、成績評価に影響しない。法改正も踏まえ、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。			

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

【教科書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定3級最短マスター（第3版）」

ISBN 4862514146 著者名 佐倉豪

出版社 三和書籍出版 出版年 2020年

金額 2,640円（紙の本）

【参考書】

書名 「マンガで学ぶ知的財産管理技能検定2級最短マスター」

ISBN 4862511198 著者名 本間政憲

出版社 三和書籍出版 出版年 2011年

金額 2,530円

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：対面の質問の前にMoodle内のフォーラム又は電子メール（lc_ipm-c@kagawa-u.ac.jp）を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講人数制限：あり（香川大学20名）

パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

【注意】2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000313) 知プラe科目 飛行機はなぜ飛ぶのか Principles of aircraft flight 飛行機はなぜ飛ぶのか／Principles of aircraft flight	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 岩本 幸治	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 飛行機, 飛行機の歴史, 運動量理論, 安定性			
まず、世界と日本で飛行機がどのように生まれたかを説明して先人の想像力や洞察力、工夫を見習う。その後、揚力や抗力といった飛行機にかかる力がどのように発生するのかを学び、有人飛行では不可欠な安定性について考える。これらの知識を取り入れて、紙飛行機を作って飛ばしてみることを計画している。			
授業の目的			
飛行機を例題として、自然物や人工物の仕組みに興味を持ち、理論的に理解できる力を身につけてほしい。			
到達目標			
飛行機の各部品の役割を述べるができるようになる。力学の初歩が分かるようになる。			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①世界の飛行機の歴史1 ②世界の飛行機の歴史2 ③日本の飛行機の歴史1 ④日本の飛行機の歴史2 ⑤飛行機にかかる力 ⑥翼理論 ⑦エンジン、二宮翔会の紹介 ⑧安定性、紙飛行機			
【授業時間外学習について】 必要に応じてMoodle上でお知らせします。			
【バリアフリー対応について】 動画に字幕あり。動画の音声文字おこしたテキスト資料 (PDF) あり。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/			

教科書・参考書等

参考書1 書名 鳥と飛行機どこがちがうか-飛行の科学入門

I S B N 978-4794209184 著者名 ヘンク・テネケス

出版社 草思社 出版年 1999

金額 2052 備考 絶版ですが、古本として出回っています。

参考書2 書名 紙ヒコーキで知る飛行の原理-身近に学ぶ航空力学

I S B N 978-4061327337 著者名 小林昭夫

出版社 講談社 出版年 1988

金額 929

参考書3 書名 Theory of Wing Sections: Including a Summary of Airfoil Data

I S B N 978-0486605869 著者名 Ira H. Abbott, A. E. von Doenhoff

出版社 Dover Publications 出版年 1959

金額 2511

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000314)		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
知プラe科目 身の回りの放射線 Basic Knowledge of Radiation and Radioisotopes 身の回りの放射線(放射線と放射能の基本的知識と安全な取り扱い) / Basic Knowledge of Radiation and Radioisotopes (Scientific Basis, Safe Handling of Radioisotopes and Radiation Protection)				
担当教員名 岡野 聡		授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
		関連授業科目 特になし		
		履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業(e-Learning) 90分×8回+自学自習				
授業の概要				
【キーワード】放射線、放射性同位体、安全操作、原子力発電所、放射線療法				
現在われわれの身の回りには産業機器、エネルギー、安全管理、医療・福祉などの分野で放射線を利用した様々な技術が使われています。しかしながら、われわれは放射線について、どのくらい理解しているのでしょうか。放射線とはいったい何。なぜ危険なのか。安全に利用する手法はあるのか?など、科学としてきちんと理解している人は少ないのではないのでしょうか?そこで、身の回りにある放射線について基本的な性質と安全に利用するための方法を学びます。				
授業の目的				
多くの放射線がわれわれの身の回りに存在し、産業や健康管理、エネルギーに役立っていることを理解する。さらに、放射線や放射能とは何か、どのような特性を持っているのか、その計測方法について科学的に理解する。さらに、放射線の医療への応用、エネルギーへの応用、放射線の遮蔽、安全な取り扱いを学ぶ。				
到達目標				
・われわれの身の回りには自然放射線や放射能を利用した機器があることを理解する。 ・放射線の発生原理を説明できる。 ・放射線の測定法を説明できる。 ・放射線の遮蔽法を説明できる。 ・放射線の人体に対する影響を定量的に説明できる。 ・私たちの生活に欠かせない放射線を利用した危機があることを説明できる。				
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)				
成績評価の方法と基準				
すべての課題の提出がない場合には評価しない。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】				
①身の回りにある放射線 ②放射線と放射能 1 ③放射線と放射能 2 ④放射線計測の原理と装置 ⑤放射線計測実験 ⑥放射線防護 ⑦人体への影響 ⑧まとめ				
【授業時間外学習について】				

毎講義の授業の復習、及び必要な回ではレポートを提出のこと。

【バリアフリー対応について】

動画の音声を文字起こししたテキスト資料(PDF)あり。動画に字幕あり。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

教員の実務経験との関連

「実務経験のある教員による授業科目」1単位 岡野聡＋ゲスト講師

実務家教員 田中宗雄（元・四国電力原子力保安研修所）

原子力発電所の管理および運転員の教育指導の経験をもとに、放射線に関する講義を担当。

ナンバリングコード B2THM-cdbG-10-Lx1		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000401)		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cdb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身の回りの環境問題A Environmental Problem in our Life A 様々な立場から環境問題を考える～香川県内の視点から～ Thinking of environmental Problem from various viewpoints				
授業形態 講義		単位数 1		
担当教員名 古川 尚幸		関連授業科目 身の回りの環境問題B		
		履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習				
授業の概要				
【キーワード】SDGs、環境対策				
現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者や民間団体の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。				
授業の目的				
私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。また、行政機関や民間団体における環境問題への様々な取り組みを知ること、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。				
到達目標				
①新聞やテレビで報道されている環境問題やエネルギー問題を説明できる。 →共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応 ②修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。 →共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応 ③授業を通じて修得した知識や考え方を活かして、環境問題やエネルギー問題に配慮した行動ができる。 →共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応				
成績評価の方法と基準				
毎回のミニレポート（50％）ならびに期末レポート（50％）により認定します。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】				
第1回：イントロダクション 第2回：高松市の取り組み事例 第3回：香川県の取り組み事例① 第4回：香川県の取り組み事例② 第5回：香川県の取り組み事例③ 第6回：香川県環境保全公社の取り組み 第7回：香川県地球温暖化防止活動推進員の取り組み 第8回：まとめ				
【授業方法】				

いろいろな立場で環境問題やエネルギー問題に取り組んでいるゲストスピーカーをお招きして、取り組み内容についてお話をうかがいます。

授業は毎回対面で行いますが、新型コロナウイルスの感染状況により、遠隔で行う場合もあります。担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2回：4時間

高松市環境局の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第3回：4時間

香川県環境政策課の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第4回：4時間

香川県廃棄物対策課の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第5回：4時間

香川県環境管理課の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第6回：4時間

香川県環境保全公社の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第7回：4時間

推進員の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第8回：10時間

各回の配布資料や収集した情報をまとめ、レポートを作成する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。

オフィスアワー 金曜日4時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。

なお、この授業は2018年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。

ナンバリングコード B2THM-cdbG-10-Lx1		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000402)		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cdb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身の回りの環境問題B Environmental Problem in our Life B 様々な立場から環境問題を考える～四 国の視点から～ Thinking of environmental Problem from various viewpoints				
授業形態 講義		単位数 1		
担当教員名 古川 尚幸		関連授業科目 身の回りの環境問題B		
		履修推奨科目 環境システム論、資源エネルギー論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習				
授業の概要				
【キーワード】SDGs、環境対策				
現代社会において、わたしたちはエネルギーを大量に消費し、その結果、環境に負荷を与えることによって、物質的に豊かな生活を享受することが可能となりました。今後、この豊かな生活を維持し、持続可能な発展を遂げるためには、環境問題やエネルギー問題の現状を正しく認識する必要があります。 この授業では、行政機関の担当者や民間団体の担当者の講演を通して、身の回りの環境問題やエネルギー問題について考えていきます。				
授業の目的				
私たちの生活と環境問題やエネルギー問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。また、行政機関や民間団体における環境問題への様々な取り組みを知ること、これからの大学生活のなかで、環境問題に関心を持つキッカケとなることを目的とします。将来の進路として公務員を想定している学生にも参考になるでしょう。				
到達目標				
①新聞やテレビで報道されている環境問題やエネルギー問題を説明できる。 →共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応 ②修得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題やエネルギー問題について、自分の意見を説明できる。 →共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応 ③授業を通じて修得した知識や考え方を活かして、環境問題やエネルギー問題に配慮した行動ができる。 →共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応				
成績評価の方法と基準				
毎回のミニレポート（50％）ならびに期末レポート（50％）により認定します。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】				
第1回: イントロダクション 第2回: 環境省の取り組み事例 第3回: 四国環境パートナーシップオフィスの取り組み事例 第4回: 四国地方ESD活動支援センターの取り組み事例 第5回: 四国経済産業局の取り組み事例① 第6回: 四国経済産業局の取り組み事例② 第7回: 資源エネルギー庁の取り組み事例 第8回: まとめ				
【授業方法】				

いろいろな立場で環境問題やエネルギー問題に取り組んでいるゲストスピーカーをお招きして、取り組み内容についてお話をうかがいます。

授業は毎回対面で行いますが、新型コロナウイルスの感染状況により、遠隔で行う場合もあります。担当者の都合により、授業計画が変更する場合があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2回：4時間

環境省四国事務所の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第3回：4時間

四国EP0の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第4回：4時間

四国ESDセンターの取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第5回：4時間

四国経済産業局の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第6回：4時間

四国経済産業局の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第7回：4時間

資源エネルギー庁の取り組みについて、事前配布した資料を読む。HPなどで情報を集める。

第8回：10時間

各回の配布資料や収集した情報をまとめ、レポートを作成する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。

オフィスアワー 金曜日4時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は、環境問題やエネルギー問題の初歩を扱うため、文系学部学生やこれまで環境問題やエネルギー問題に関する知識・関心があまりなかった理系学部学生向けの内容にする予定です。さらに専門的な内容を求める学生の要望には応えかねますので、受講の際は注意してください。

なお、この授業は2018年度まで開講された主題B「身の回りの環境問題」と同じ内容です。すでに単位取得した学生は、再度単位を取得することはできません。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000403)	主題科目	2Q木5	
加工食品と食生活 Relationship between processed foods and eating habits	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
加工食品と食生活 Relationship between processed foods and eating habits	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小川 雅廣	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 食品問題 この授業では、現代社会における加工食品の問題点をテーマとして取り上げる。21世紀に生きる私たちが食品に求めるものは何ですか。1) 安心安全ですか、2) おいしさですか、3) 低カロリーですか、それとも4) 健康改善効果ですか。ここに挙げた4つの事柄について講義する。また、講義で提供した知識をもとに、食品の問題点と今後求められる食品について、消費者と製造者の両方の視点から、グループディスカッションを行いながら考えていく。			
授業の目的			
現代の加工食品における課題を認識できるようにするとともに、消費者はこれからどのような特徴をもった食品を求めていくのか、食品の製造者はどのような発想で食品を開発していくべきなのかなど、今後の対応策を科学的な根拠をもとに考える力を身につけるようにする。			
到達目標			
1. 21世紀社会の加工食品の現状と課題を説明することができる(DPの「知識・理解」に対応)。 2. 現代の食品がもたらす諸問題の解決に向けた自分の考えを論理的に記述することができる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート35% (特に到達目標1に対応)、期末レポート65% (特に到達目標2に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション: 食をめぐる現状と課題 第2回 食品加工の意義と目的 第3回 栄養とカロリーの関係 第4回 おいしさの追求 第5回 加工の重要性和食品添加物の使用 1 第6回 加工の重要性和食品添加物の使用 2 第7回 特定保健用食品と機能性表示食品 第8回 まとめ (45分間授業) と期末レポートの作成			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各回の授業の終盤にミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び自ら学んだ内容の整理を促します。また、授業外では、加工食品のパッケージを入手してもらい、そのパッケージの記載内容をまとめてきてもらいますので、事前準備をしっかりと行ってください。この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1、2回 農林水産省のHPから「知ってる?日本の食料事情」にアクセスし、我が国と世界の食料事情に関する情報を調べ、整理する。(9時間)			

第3回 文部科学省のHPから日本食品標準成分表2020年版（八訂）に関する情報を調べ、整理する。（4.5時間）
第4回 自身が興味のある食品企業のHPから販売されている食品の情報（栄養成分や商品の特徴など）を調べ、整理する。（4.5時間）
第5、6回 日本食品添加物協会のHPから食品添加物の役割、安全性、表示などについての情報を調べ、整理する。（9時間）
第7回 消費者庁のHPから食品表示制度（特定保健用食品、機能性表示食品、栄養機能食品など）に関する情報を調べ、整理する。（4.5時間）

教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

オフィスアワー 授業に関する質問や相談については、基本的に講義（木曜5限）の終了後に講義室で受け付けます。研究室（農学部CW棟3階CW301-1室）への訪問は、講義終了後に直接又はメール（ogawa.masahiro@kagawa-u.ac.jp）で問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

初回到履修に関する説明・注意を行います。ミニレポート、期末レポート未提出の場合は単位認定しない。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000404)	主題科目	4Q金2	
毒の科学 The science of poison	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
毒とは何かを科学的に理解して合理的な生活に役立てる。Scientifically understand what poison is and use it for a rational life.	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 川村 理	関連授業科目 生物学B、化学B、環境科学、基礎有機化学、基礎生物化学、食品衛生学		
	履修推奨科目 生物学B、化学B、環境科学		
学習時間 講義90分 ×7.5回 + 自学自習(準備学習 10時間 + 事後学習 20時間)			
授業の概要			
【キーワード】毒とは何か、毒と薬、人類と毒の歴史、毒性試験法、適切なリスク評価、食品添加物と残留農薬の有用性と危険性 身の回りには様々な毒が隣り合わせで存在している。毒とは何か、人類と毒の歴史、毒性試験法を講義し、身の回り毒で植物毒などを紹介する。また、食品添加物や残留農薬の危険性を科学的に評価して、適切なリスクを理解させることを目的とする。また、これらの講義を通じてメディアリテラシーの重要性も理解させる。			
授業の目的			
共通教育スタンダードとして、自然に関する知識として毒を科学的に理解して、21世紀社会の諸課題に対する探求能力することをこの講義の目的とする。 具体的には、ほとんどの人は、毒とは何かを理解せず漠然と誤ったリスク評価に基づいて行動している。毒を科学的知見に基づき正確に理解して、何が毒で、リスクが高いのかを正確に理解することで初めて合理的な行動ができるようになる。また、この講義を通して、世の中には正しくない情報(フェイクニュース)があふれていることを認識する切掛の一つとし、メディアリテラシーの重要性も理解する。			
到達目標			
1. 毒とは何かを説明できる。半数致死量(LD50)、1日許容摂取量(ADI)などを説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 身近な毒の具体的例を挙げ、その毒性メカニズムと症状の関係を説明できる。農薬や食品添加物の有用性と危険性を説明できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 食の安全に関連するフェイクニュースの存在を認識し、メディアリテラシーの重要性を説明できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート(毎回の出席カードを4段階で採点) 30%+レポート点70%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
初回にプリントを配布し、パワーポイントを用い講義する。また一部、映像も利用する。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業を遠隔へ変更する可能性があります。 講義にあまりついていけない人は十分な予習して講義に臨んで下さい。また、復習は必須である。 初回にレポートの課題を提示し、講義終了後、1週間程度以内で提出させる。			
第1回目;毒とは何か? 毒の定義、身の回りにある物の有毒性について、半数致死量(LD50) 自主学習;第1回目の復習(90分)と第2回目の予習(90分) 第2回目;毒の歴史-1(苦味は有毒物質、矢毒、毒の社会的利用、毒の戦争への利用など) 自主学習;第2回目の復習(90分)と第3回目の予習(90分) 第3回目;毒の歴史-2(毒の医療への利用、抗生物質と選択毒性、再評価された毒など) 自主学習;第3回目の復習(90分)と第4回目の予習(90分) 第4回目;身の回りの植物の毒-なぜ植物は毒を持つようになったのか?、植物の毒の紹介			

自主学習；第4回目の復習(90分)と第5回目の予習(90分)
第5回目；毒性試験法(急性毒性と慢性毒性、、最大無毒性量(NOEL)、一日許容摂取量(ADI)
自主学習；第5回目の復習(90分)と第6回目の予習(90分)
第6回目；食品添加物はなぜ使われる？ 食品添加物の必要性と危険性、食品添加物はなぜ嫌われるのか？
自主学習；第6回目(90分)と第7回目の予習(90分)
第7回目；農薬はなぜ使われる？ 農薬の必要性と危険性、選択毒性
自主学習；第7回目の復習(90分)と第8回目の予習(90分)
第8回目；最強の毒(ボツリヌス毒素)、リクエストの多かった毒についての解説
自主学習；第8回目の復習(30分)とレポート作成(120分)

教科書・参考書等

教科書は使用しない。初回にプリントを配布する。
参考図書；史上最強カラー図解 毒の科学 毒と人間のかかわり【著】船山 信次、¥1,760、ナツメ社
これ以外は講義内で適宜紹介する

オフィスアワー 講義終了後15-20分程度、講義室で行います。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

すでに同内容の科目である2018年度開講の「人類と毒・微生物その2」単位取得済みの場合はこの科目を履修できません。

初回に8回分のプリントを配布します。講義にあまりついて行けない人は、予習を必ずしてくること。
質問等で研究室(農学部4H4)を訪問する際には、事前に連絡(kawamura.osamu@kagawa-u.ac.jp)して下さい。

ナンバリングコード B2THM-cdxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000405)	主題科目	2Q火1	
実感する化学 Chemistry in daily life	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
実感する化学 (Chemistry in daily life)	分野 主題	DPコード: cdx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
鈴木 利貞	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 20時間)			
授業の概要			
現代社会における様々な課題を取り上げ、各課題における化学的視点を提示し、大学初級化学について解説する。			
授業の目的			
現代社会における様々な課題について、化学的に説明できるようになる。			
到達目標			
1. 現代社会における様々な課題について、化学的に説明できる。((共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
2. 大学初級化学について理解できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
課題レポート (50%) および定期試験 (50%) により評価する (到達目標の1.2に対応)。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。			
秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。			
優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。			
良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。			
可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。			
不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。			
合格又は了 到達目標を達成している。			
不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回目: ガイダンス、金属の利用			
第2回目: 化石燃料			
第3回目: 空気と大気汚染			
第4回目: 地球温暖化			
第5回目: 原子力エネルギー			
第6回目: 有機塩素化合物と環境汚染			
第7回目: 食事と栄養 (糖質)			
第8回目: 食事と栄養 (脂質) および定期試験			
【授業および学習の方法】			
本講義は、全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て、または一部の回の授業形態を遠隔にする可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】			
講義資料および講義で紹介した文献を参照し、課題レポートを作成する。			
第1回目: 金属の利用について課題レポートを作成する。(4時間)			
第2回目: 化石燃料について課題レポートを作成する。(4時間)			
第3回目: 空気と大気汚染について課題レポートを作成する。(4時間)			
第4回目: 地球温暖化について課題レポートを作成する。(4時間)			
第5回目: 原子力エネルギーについて課題レポートを作成する。(4時間)			
第6回目: 有機塩素化合物と環境汚染について課題レポートを作成する。(4時間)			
第7回目: 食事と栄養 (糖質) について課題レポートを作成する。(4時間)			
第8回目: 食事と栄養 (脂質) について課題レポートを作成する。(2時間)			

教科書・参考書等

教科書は指定しない。講義時に参考となる書籍や文献を紹介する。

参考書：改訂 実感する化学 上巻、下巻、NTS

オフィスアワー 講義終了後**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

毎回出席を取ります。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lg1		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000406)		水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
農業バイオテクノロジー Agro-Biotechnology 農業バイオテクノロジー AgriBiotechnology		授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 野村 美加		関連授業科目 植物栄養学		
		履修推奨科目 基礎生物化学		
学習時間 授業90分 × 7回 + 授業45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)				
授業の概要				
植物バイオテクノロジーはめざましい勢いで発展しています。本授業では今後この技術をどのように農業へ結びつけるのか学びます。そのためにまず前半に現代の植物バイオテクノロジーを学びます。後半では日本・世界の農業問題を明らかにした後、次世代農業バイオテクノロジーのあり方について考えていきます。前半は基礎知識を学び、後半にはその知識を活用して自分なりの問題の解決策をまとめ、表現することができる力が身につくことを目指します。適宜、課題グループディスカッションを取り入れる予定です。				
授業の目的				
現在のバイオテクノロジー最先端技術を理解したうえで、日本・世界農業の諸課題について社会的に捉え表現する力を養い、当該問題を題材にして問題の解決策や次世代農業のあり方を提示できるようになる。グループで自由に討論し様々な意見や価値観があることを理解する。				
到達目標				
1. 現代のバイオテクノロジー技術の基礎知識を習得する (共通教育スタンダードの「広範な人文・自然に関する知識」に対応)。 2. 日本・世界農業の諸課題・次世代農業のあり方などを明らかにし自らの意見を具体的に説明することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 自分の主張を分かりやすく記述することができる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準				
グループ発表30% (到達目標②に対応) 、課題レポート40% (到達目標③に対応) 小レポート30% (到達目標①に対応)				
成績評価の基準				
成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
「授業計画」				
第1回 オリエンテーション				
第2回 農業バイオテクノロジー				
第3回 世界の農業バイオテクノロジー				
第4回 農業バイオテクノロジーと環境問題				
第5回 日本農業と諸問題				
第6回 世界の農業問題				
第7回 次世代農業				
第8回 まとめ				

「授業および学習の方法」 第2回から3回は講義中心に進めますが、第4回から7回はグループで討論を行います。毎回小レポートを提出してもらいます。後半は、身近な問題から日本、世界、そして次世代の農業の課題についてあらかじめ自分の意見をまとめておきます（課題レポート）。授業当日は、グループで自由に討論しまとめた意見の整理を促し発表してもらいます。この科目は原則として対面授業を行います。 「自学自習のためのアドバイス」 第2回－3回 授業を理解し、配布資料を元に整理する（3時間×2回） 第4回－8回 前週に課題を課します。その課題（農業の身近な問題、日本の問題、世界の問題、次世代の問題）について自分の意見をまとめ課題レポートを作成する（5時間×5回）
教科書・参考書等 特に指定しません
オフィスアワー オフィスアワー：火曜日3時から5時。面会の場合は必ず事前にメールでの問い合わせをしてください。nomura.mika@kagawa-u.ac.jp
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初回の授業時にグループを決定し、履修等に関する説明を行います。履修希望者は必ず出席してください。毎回小レポートを提出してもらいます。
教員の実務経験との関連 植物のバイオテクノロジー技術を利用した分子生物学的研究を行っています。基礎生物化学、植物栄養学などの講義経験をもとに農学部また、農学部以外の学生と次世代の食糧問題について議論します。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000407)	主題科目	3Q月1	
微生物バイオテクノロジーの展開 Development of Microbial Biotechnology	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
微生物バイオテクノロジーの展開 Development of Microbial Biotechnology	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 生物学B		
渡邊 彰	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
バイオテクノロジーとは、生物が持つ様々な能力やそのメカニズムを、私たちの生活に役立たせる技術である。人類は、古くより発酵などのバイオテクノロジーを利用してきたが、近年、新たな遺伝子組換え技術の開発や各種生物における全ゲノム配列の解読なども相まって、バイオテクノロジーは新たな展開を迎えている。本講義では、私たちの生活に深く関わる、微生物を生物資源とするバイオテクノロジーについて紹介、解説するとともに、それらの持つ可能性や課題等についても考えていく。			
授業の目的			
現在、私たちは、食料、健康、環境などの多方面において、バイオテクノロジーの恩恵を受けている。本講義では、私たちの生活に深く関与する、微生物を生物資源とするバイオテクノロジーやそれらの持つ可能性・課題等について理解を深めることを目的とする。			
到達目標			
1. 微生物ついて、その特徴や機能を含め説明することができる(共通教育スタンダードの「b:広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 微生物を利用したバイオテクノロジーについて説明することができる(共通教育スタンダードの「b:広範な人文・社会・自然に関する知識」および「c:21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 微生物を生物資源とするバイオテクノロジーやそれらの持つ可能性・課題等について探求することができる(共通教育スタンダードの「b:広範な人文・社会・自然に関する知識」および「c:21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
期末試験 (60%) および課題レポート (40%) から総合的に評価する (期末試験、課題レポートのいずれも到達目標の1から3に対応)。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画] 第1回: 授業概要の説明・微生物バイオテクノロジーの概観 第2回: 微生物とは 第3回: 微生物の特徴と機能 第4回: 微生物バイオテクノロジーと酵素 第5回: 微生物バイオテクノロジー (食料分野との関わり) 第6回: 微生物バイオテクノロジー (物質生産分野との関わり) 第7回: 微生物バイオテクノロジーの展開 第8回: 微生物バイオテクノロジーのまとめ・試験 ※授業の進行状況等により、上記の授業計画は多少変更する可能性がある。			
[授業方法] 視聴覚機器、プリント、および板書を適宜使用し講義形式で行います。また、講義内容の理解のため、関連した課題レポートを課します。			

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

[自学自習に関するアドバイス]

授業中に復習（又は予習）のポイントを提示するので、それらのポイントについて説明できるように学修を行うこと。また、授業において理解できなかったポイント等があれば、授業毎に配布する質問カード、図書館、オフィスアワーを利用し理解に努めること。

第1回：「バイオテクノロジーとは何か」についての整理（2時間）。

第2回：「微生物とは何か」について説明できるようにする（4時間）。

第3回：微生物の特徴と機能について説明できるようにする（4時間）。

第4回：酵素およびその機能について説明できるようにする（4時間）。

第5回：食品と微生物バイオテクノロジーについての調査・まとめ（4時間）。

第6回：物質生産と微生物バイオテクノロジーについての調査・まとめ（4時間）。

第7回：微生物バイオテクノロジーの新たな展開面についてのまとめ（4時間）。

第8回：本授業で説明してきた内容についてのまとめ（4時間）。

教科書・参考書等

特に指定しない。

オフィスアワー 担当教員にメール等で連絡を取り、日時を決定し行います（研究室の場所：農学部キャンパス CW501-1）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目の授業時に授業概要の説明を行いますので必ず出席してください。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000408)	主題科目	3Q木1	
日常生活の中の生命科学 Life sciences in the daily life	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
日常生活の中の生命科学 Life sciences in the daily life	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目	分子生物学、機能生化学	
末吉 紀行	履修推奨科目	生物学B	
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習 (準備学習10時間+事後学習&レポート作成20時間)			
授業の概要			
[キーワード] 生命科学 最近の生命科学の進歩は著しく、我々は日々の生活の中で様々な恩恵を受けている。一方で、人間活動によって環境は変化し、人間自身もその対応に追われている。本講義では、生命科学と環境に関する身近な話題を取り上げ、自然界と人間社会に果たすべき生命科学の役割について共に考えてみたい。			
授業の目的			
テレビやネット上に溢れる膨大な情報の内容は玉石混交であり、私達が生活していく上で、しばしば「疑似科学」に遭遇する。それらに惑わされないためには、私達自身が確かな知識を持ち、日常生活のあらゆる事柄を科学的に理解する必要がある。本講義では、生命科学や環境に関する身近な事柄を科学的知見に基づき理解して、合理的な行動ができるようになることを目的とする。			
到達目標			
1. 生命科学や環境に関する身近な事柄に関する基礎的知識を身につけた上で、諸問題や解決策について自ら考えることができる。 2. 知的好奇心を持ち、自分で興味を持ったテーマに関して情報を集める能力（課題発見・解決力）を身につける。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
定期試験（90％）と出席状況（受験資格を判断）、レポート（10％）により総合的に評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[講義計画]			
第1回：イントロダクション、アンケート 第2回：蜂蜜の生化学 第3回：ニホンミツバチと環境 第4回：ミツバチを取り巻く諸問題 第5回：アルコールの生化学 第6回：ビタミン欠乏症 第7回：鎌状赤血球貧血症とマラリア 第8回：まとめ、試験			
＊これはあくまで例である。初回の講義で受講者に対してアンケートを取り、興味の方向性と知識レベルを把握する。それを踏まえて取り上げるトピックスを決定し、第2回の講義で周知する。			
[講義および学習の方法]			
講義の最初にプリントを配布し、プロジェクターを用いて講義する。予習のポイントに関しては適宜指示するが、後述の通り復習とレポート作成重視で講義に臨んでもらいたい（期間を通して予習は10時間程度）。			
講義の最後に、その日の講義内容に関連したレポートの課題を提示し、次回の講義の開始前に提出させる。			

学生自らが知的好奇心を持ち、自分で興味を持った事柄に関して情報を集める能力（課題発見・解決力）を身につけさせるため、レポートの課題は「面白いことを探させる」、「考えさせる」、「調べさせる」ようなものにする。定期試験は、レポート課題の中から出題するので、期間を通して20時間程度を復習とレポート作成に費やしてもらいたい。

理解できなかったポイントや語句などがあれば、講義ごとに配布する出席カードおよびオフィスアワー、メール等を利用し、理解に努める。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、適宜プリント類を配布する。
参考書等は適宜指示する。

オフィスアワー 講義終了後15分程度、講義室にて対応する。
その他の日時を希望する場合は、まずはメールにて対応する。面談の必要がある場合は、事前にメール連絡の上で、農学部BE402-3に来ること。希望があれば、zoom等を介したオンライン面談にも応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q火2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000409) 未来の食料生産を考える～みんなで食 べる幸せとは何か？ Thinking about future food production - what is the happiness of eating together? 未来の食料生産を考える～みんなで食 べる幸せとは何か？	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 1	
担当教員名 松本 由樹	関連授業科目 大学入門ゼミ, 遺伝学, 動物栄養学, 畜産学(動物生 産科学), 応用生物科学領域の倫理学, 農業技術特別実習(農場実習: 学部3年生以上であれば他学部でも履修可), フィールド実習		
	履修推奨科目 遺伝学, 動物栄養学, 畜産学(動物生産科学), 応用生 物科学領域の倫理学		
学習時間 通常講義90分×3回+自学自習, グループワーク×3回+自学自習, チーム基盤型学習法(TBL ; Team Based Learning)×6回+自学自習, 成果発表会×3回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 近年、全世界の人口増加に伴い、新しい食料生産や新産業が次々と生まれ、ルール形成と共に新たなゲームチ ェンジャーが登場している。特に注目されている食のイノベーションのうち、培養肉や代替肉、昆虫食・昆虫 飼料、精密発酵といったフードテックの進歩は、既存の畜産の姿を大きく変えてしまうのではないかと不安に 思う声も大きくなった。一方で、本国の農業における畜産の本来の姿はどのようなものかを知る機会は少ない。 本授業では、おいしいお肉の向こう側にある世界に注目し、ヒトと動物が長い間一緒に暮らすことで生み出さ れた産業であることを学びます。長い歴史をたどれば、野生動物をヒトの暮らしに馴化させ家畜化に成功し、 ヒトの管理下で改良・増殖してきた生き物であること学びます。さらに、動物を効率的に生産し、動物たちの 健康に配慮する考え方、アニマルウェルフェアの在り方を作り上げ、ヒトの生活に必要な動物性タンパク質の 生産、加工および利用できる技術確立へとつなげました。人類は、動物たちと共に暮らす中で、多様な学問領 域の発展を生み出す事に成功したのです。近年では、ICT機器やAI(Artificial Intelligence)技術利用が進ん だことで、動物飼育で日々捨て去られる情報から、重要な情報のみを活用する新たな農業技術へと進化させて います。本講義では、既存の産業の成り立ちと役割を知ると共に、新たなゲームチェンジャー(培養肉や代替 肉、昆虫食・昆虫飼料、精密発酵)の登場に対してどのような理解増進が相応しいのかを考えます。開発途上国 や先進国、みんなで食べる幸せが持つ意味とは何かを一緒に考えていきましょう。			
畜産に広がる研究領域 エサをやる: 草地学・飼養学・栄養学 飼う: 管理学・行動学 改良する: 育種学 増やす: 繁殖学 利用する: 製造学・労役学(動物介在活動や療法)			
本授業科目では、食料生産を俯瞰する授業を行い、日々の生活で身近にある動物生産や畜産物の正しい理解に 繋げる。そのうえで、新たなゲームチェンジャー(培養肉や代替肉、昆虫食・昆虫飼料、精密発酵)と既存の 畜産物に照らし合わせて学ぶ。			
授業の目的 本国の食品の多くは、安全性と高い品質が保たれており、和牛や卵などの畜産物は、主要な輸出産業になり つつある。既存の畜産は農業の一部門であり、国民の食糧における動物性たんぱく源を安定・供給するために 確立した学術領域である。これらの背景には、効率化を目指したICTやAI(Artificial Intelligence)の活用が 進められ、リスクのトレーサビリティが可能となっている。家畜の繁殖技術は、時代や目的に合わせて効率的 で迅速に発育する動物を生み出し、未利用資源を飼料として活用する研究を発達させてきた。近年、世界の食 料不足を補うために登場した新たなゲームチェンジャー(培養肉や代替肉、昆虫食・昆虫飼料、精密発酵)は、 世界が抱える課題解決に正しい答えを導けるのか、受講者は多様な視点から自身の言葉で説明できるよう理解 増進を目指す。			
到達目標			
1) 農業における畜産の位置づけを説明できる。 2) 培養肉、代替肉、昆虫食・昆虫飼料化、精密発酵などの利点と欠点を説明できる。 3) 栄養吸収の意義を説明できる。 4) 既存の産業の在り方とルール形成の重要性を説明できる。			
成績評価の方法と基準 授業の最初にc-learningに登録いただきますので、PCとスマートフォンをお持ちください。 出席やレポート提出は、c-learningで実施します。 授業では、4～5名でグループワークを行っていただきます。簡単な課題解決を目指した取り組みをグループ ワークで解決を目指していただき、グループの取り組みを発表していただく予定です。			

発表時にもc-learningで情報共有を行い、他己評価を受けていただきます。
最終的にはグループ発表点50%、レポート25%、小テスト25%で評価を行います。

成績評価の基準

成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。

秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。

優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。

良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。

可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。

不可（60点未満）到達目標を達成していない。

ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。

合格又は了 到達目標を達成している。

不合格 到達目標を達成していない。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

前半4回と後半4回に分けて「未来の食料生産を考える～みんなで食べる幸せとは何か？」について学びます。

前半【既存の動物生産を学ぶ】

ヒトと動物が長い間一緒に暮らすことで生み出された産業です。野生動物をヒトの暮らしに馴化させ家畜化に成功し、ヒトの管理下で改良・増殖してきた生き物をどのように活用し、動物を効率的に生産し、動物たちの健康に配慮する考え方、アニマルウェルフェアの在り方を作り上げてきたか等を学びます。最終的には、ヒトの生活に必要な動物性タンパク質の生産、加工および利用できる技術確立した背景を説明できることを目指します。

第1回：アイスブレイク～グループ分け(4～5人)私たちは何を食べてきたのかを考える。

第2回：ラオスでの食料事情を知り、先進国の役割を知る。

第3回：ガーナでの食料事情を知り、先進国の役割を知る。

第4回：成果発表会(食料への疑問を発表)

【既存の動物生産を自学自習する上でのアドバイス】

1～4週：各回あたり計7～8時間程度をあてる

主にc-learning経由で配布する資料を用い毎回予習・復習し、自然循環の一部としての動物生産（畜産）とは何かを考え、開発途上国や先進国における地域の課題を知る。この期間に各グループ毎に課題解決に資するテーマを設定し自学自習、皆で考えたデビルスパイラルを断ち切る方法について発表準備を行う。コミュニケーションアプリやZoomを使った時間外の円滑な取り組みが求められる。

普段の暮らしに目を向けていただき、私たちが何を食べているのかよく考えておいてください。スーパーマーケットに行き、お肉や卵の値段を知っておくことも授業を受けるうえで重要です。例えば、卵や鶏肉価格について毎週の価格変動を調べておくことをお勧めします。興味がある方は、丸一羽の鶏肉からどれくらいの可食部が取れるのかについて、実演を通じて教授することも可能です。自分で可食部を取り分ける作業を知ること、暮らしの役に立つ知識となるでしょう。先進国で暮らす私たちの技術は、アフリカやラオスで暮らす方々にとってどの様に役立つかを調べる事をお勧めします。

後半【新食料について学ぶ】

第5回：ゲームチェンジャーとは何か？発酵技術と精密発酵について考える

第6回：培養肉、代替肉、について考える

第7回：昆虫食・昆虫飼料について考える

第8回：成果発表会(みんなで食べる幸せとは何か)

【新食料について自学自習する上でのアドバイス】

5～8週：各回あたり計7～8時間程度をあてる

主にc-learning経由で配布する資料を用い毎回予習・復習し、基礎課題で学んだ解決法を特定の地域で受け入れる際には、家畜が持つ特徴的な「形態」と「機能」の選択が重要であることを学んだ。本課題では、各グループ毎に課題解決に資する家畜が持つ特徴的な「形態」と「機能」に注目し、その理由について皆で考えは発表を通して他己・自己評価を行う。コミュニケーションアプリやZoomを使った時間外の円滑な取り組みが求められる。

日本の動物生産における課題や問題点について興味を持っていただき、ゲームチェンジャーとしての培養肉や代替肉、昆虫食・昆虫飼料、精密発酵が世界で受け入れられつつあるのかを正しく学び、自分の言葉で説明できる。以下は重要なキーワードとなりますので、予習や復習で活用してください。

- (1)「世界の畜産、日本の畜産」共通点と相違点について
- (2)「強制換羽ストレスと飼養管理技術」の問題点について
- (3)「循環型農業と畜産排泄物」の問題点について
- (4)「鳥獣被害対策と飼育管理技術」の問題点について
- (5)「50年後の畜産」の問題点について

(6)「最新の動物生産科学」

教科書・参考書等

農学部図書館には、フードテックや既存の畜産に関する書物が多数収められています。是非、図書館で閲覧するように心がけてください。概ね、数冊程度所蔵してありますが、開講期間中は、貸し出し禁止となっていますので、ご注意ください。

オフィスアワー 火曜日11時～14時 農学部: CW201b (C棟西側201b室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主としてグループワークを行います。グループワーク開始前には、c-learningのサイトをご覧ください。

本学農学部図書館は、畜産関連図書が充実していますので是非ともご活用ください。
その他、以下のサイトも参考にしてください。

c-learningに登録していただき、授業資料を配布します。登録方法は、初日に説明いたしますので、必ずご参加ください。

<https://www.c-learning.jp>

昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム

<https://www.knsk-osaka.jp/ibpf/>

コオロギ生産ガイドライン

https://www.knsk-osaka.jp/ibpf/guideline/cricket_guideline.html

ミズアブ生産ガイドライン

https://www.knsk-osaka.jp/ibpf/guideline/bsf_guideline.html

・畜産zoo鑑

<http://zookan.lin.gr.jp/kototen/>

・ルーラル図書館

<http://lib.ruralnet.or.jp/>

チーム基盤型学習法 (TBL ; Team Based Learning)

・TBL をやってみたい教員のためのマニュアル

<http://www.cc.kochi-u.ac.jp/~tatukawa/TBLmanual.html>

・看護学教育への応用例

<http://www.nissoken.com/jyohoshi/ed/15-8-9mihon/2.pdf>

教員の実務経験との関連

担当する教員は、香川県知事からの委嘱を受けて、香川県畜産試験場の外部評価委員長を務めている。香川県における畜産研究の実態を客観的に把握し、本講義にも未来の香川県畜産を考える講義として反映させている。また、附属農場の畜産部長を兼務する教員と共に本講義を実施し、香川大学農学部で畜産研究の面白さについても講義に含めている。近年では、担当教員らは、昆虫食や昆虫飼料化の安全性ガイドライン作成に従事し、農林水産省フードテック官民協議会昆虫研究ワーキングチーム議長（代理）や、昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム幹事として本国の安全性評価基準の作成に従事している。本国初のコオロギ生産ガイドラインとミズアブ生産ガイドラインの作成に議長代行として取りまとめに尽力してきた。

昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム

<https://www.knsk-osaka.jp/ibpf/>

コオロギ生産ガイドライン

https://www.knsk-osaka.jp/ibpf/guideline/cricket_guideline.html

ミズアブ生産ガイドライン

https://www.knsk-osaka.jp/ibpf/guideline/bsf_guideline.html

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000410) 生命科学と生物情報 Life science and bioinformatics 生命科学と関係する情報とその取り扱い (情報処理)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 望月 進	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 教科書に記されている様々な生命現象は、これまでの多くの研究者が取得してきたゲノム・タンパク質・細胞・器官など生体の構成要素を網羅的に追求し、解析した生物情報の蓄積の上に成り立っている。近年は分子生物学的解析技術の進歩とそれに伴うコストダウンによって取得できる情報が広範かつ複雑になっており、その取り扱いを間違えると全く異なる解釈になることも多い。また、ヒトゲノム情報の取り扱いや動物試験など、人権や動物愛護といった社会倫理に関わるものも多い。本講義では生物情報の種類や処理方法について実例を取り入れながら科学データの取り扱い、特に生物情報の取り扱いについて、その概要を学ぶ。			
授業の目的 本講義では、生命科学で取り扱う多様なデータの種類とその分析に用いる手法についてその概要を学びます。多種多様な、また、膨大なデータ (データ=情報) を正しく扱うためには、「データを取得する前」「データを取得するとき」「データを処理するとき」「データを解釈するとき」のそれぞれにおいてそのデータが「どのような条件・環境要因下で得られた (る) データか」「どのような種類のデータか」を正しく理解する必要があります。また、科学事象を正しく理解するためには「客観的解釈」も欠かせません。さらにはヒト試験や動物試験などでは人権、動物愛護を考慮した上で実験計画を立案し、遂行する必要性があるなど、データの取り扱いには細心の注意を払う必要があります。これらの「データをどのように取得するか」「情報処理するために必要な考え方」のエッセンスの講義を通じて、科学技術リテラシーや論理的思考力を習得することを目的とします。			
到達目標			
(1) 生物情報 (データ) の「種類」について論理的に理解し、説明できる (「広範な人文・社会・自然に関する知識」「課題解決のための汎用的スキル」 「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
(2) 生物情報 (データ) に関わる「条件・環境要因」を把握し、実験計画・データ取得・データ処理を行うための考え方を論理的に理解し、説明できる (「広範な人文・社会・自然に関する知識」「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
(3) 生物情報 (データ) を取り扱う各種データベースとその特徴を理解し、利用できる (「広範な人文・社会・自然に関する知識」「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
(4) 科学的な事柄について研究倫理に配慮しつつメリットとリスクを評価できる (「課題解決のための汎用的スキル」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 評価は、ミニレポート: 10点×6回, 理解度テスト: 40点の合計点で行う。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。			

不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス	
【授業計画】 第1回 オリエンテーション：生物データの特性とデータサイエンスと統計 第2回 ゲノム情報とは？生物が持つ遺伝子情報 第3回 遺伝子情報とデータベース？生物が持っている“遺伝子” 第4回 アミノ酸情報とタンパク質・酵素？機能を持ったタンパク質 第5回 タンパク質の局在とイメージング？細胞内を移動するタンパク質 第6回 遺伝子発現とマクロ解析・ミクロ解析？必要なときに働く遺伝子 第7回 一次代謝物と二次代謝物？メタボローム解析？生体で働く化合物 第8回 授業理解度テスト（45分程度）と振り返り 【授業及び学習の方法】 授業は講義を中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各セクションでミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回から第7回： 各回のトピックについて高校生物の教科書や参考書、インターネットを利用した予備知識の事前収集を行う（事前学習 2 時間× 7 回）。 第1回から第7回： 講義の復習として板書内容をまとめるとともに個人用テキストを作成した上でA4用紙で1枚程度のミニレポートの作成を行う（事後学習 2 時間× 7 回）。 第8回： 授業理解度テストの準備として、第1回から第7回の事後学習でまとめた個人用テキストとミニレポートを参考にこれまでの振り返り学習を行う（事前学習 1 時間）。また、授業理解度テストで解答できなかった部分を振り返り、講義知識のまとめを行う（事後学習 1 時間）。	
教科書・参考書等 教科書は特に指定しません。追加の講義資料がある場合はMoodle上に提示にします。	
オフィスアワー 金曜日13:00から14:00 農学部CE棟302-1 オフィスは三木町農学部キャンパスにあります。 必要に応じてZoomやTeamsを用いたオンラインミーティングでの対応も可能です。 いずれの場合も事前にメールにて（mochizuki.susumu@kagawa-u.ac.jp）まで連絡し、日程調整してください。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本講義では講義エッセンスを板書します。また、基本的な考え方、情報の種類を中心に講義しますので、実際の数値計算や統計処理などの数学の知識や基本的な生物の知識（いずれも高校生レベルのもの）は必須ではありませんが、より理解を深めるために事前学習や事後学習で「高校生物」「高校数学」「高校情報」の復習を推奨します。 成績評価に関係するミニレポートの提出は講義開始前を締め切り時間とします。やむを得ない理由により遅れる場合は事前連絡を必須とし、その翌週の講義開始前を期限とします。	
教員の実務経験との関連 担当教員はこれまでに農業生物資源研究所（現・農研機構）の研究員として6年間、香川大学農学部の研究員として2年間、理化学研究所の技術員として4年間の勤務実績があります。これまでに行ってきた「微生物のゲノム解析と二次代謝関連遺伝子群の解析」「植物の環境刺激応答の解析」「植物？微生物間相互作用の解析」「希少糖の生産と生物への作用機作解析」では、微生物や植物を題材にして、ゲノム情報や遺伝子の機能解析、酵素を利用した物質生産、細胞レベル・組織レベルでのバイオイメージングなどの幅広い手法を用いた研究の実務経験を有しています。これらの経験・知識を基に、事例と考え方・実際の手法がリンクした生物データの取り扱いに関する講義を行います。	

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000411)	主題科目	3Q木5	
酵素とヒトの暮らし Enzymes and human life	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
酵素とヒトの暮らし Enzymes and human life	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
加藤 志郎	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 酵素とヒトの暮らし 本講義では、酵素に関する基礎的な科学知識を概説するとともに、人類の生活の中での利用事例について紹介する。			
授業の目的			
酵素はヒトの暮らしと密接に関連しています。酵素に関する基礎的な科学知識の習得をするとともに、人類生活の中でどのような利用がなされているのかを理解することを目的とする。			
到達目標			
1. 酵素の定義と分類を説明できる。 2. 酵素反応の概略や性質について、具体例を挙げて説明できる。 3. ヒトの暮らしの中での酵素の利用事例につて、利点や課題を説明できる。			
1?2: 共通教育スタンダード「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応 2?3: 共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート (49%: 7%×7回、到達目標 1?3 に対応) およびレポート (51%: 51%×1回、到達目標 1?3 に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回: イントロダクションー酵素とは?ー 第2回: 酵素反応 第3回: 酵素の機能、性質、構造 第4回: 酵素工学 第5回: 酵素の利用事例 (1) 第6回: 酵素の利用事例 (2) 第7回: 酵素の利用事例 (3) 第8回: まとめ			
【授業及び学習の方法】			
講義は板書を中心に行いますが、一部プロジェクター (Webデータベース紹介等) を用いる予定です。 第1?7回目はミニレポート (出席確認兼用) を提出してもらいます。 第8回目は講義 (4 5 分間) 後にレポート (出席確認兼用) を提出してもらいます。 ミニレポートおよびレポートについての説明を初回の最初に行います。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			
第1回: 酵素の定義と分類に関する情報を調べ、整理する。 (2.5時間) 第2回: 酵素の反応機構に関する情報を調べ、整理する。 (2.5時間) 第3回: 酵素の特徴的な性質についてについて情報を調べ、整理する。 (2.5時間)			

第4回：酵素の利用に際する利点と課題について情報を調べ、整理する。（2.5時間）
第5?7回：身の回りにあるモノと関連した酵素の利用事例について情報を調べ、整理する。（1.5時間）
第8回：第1?7回までの内容を復習するとともに、情報の整理・まとめをする。（5時間）

教科書・参考書等

教科書は使用せず、参考書は適宜紹介する。

オフィスアワー 金曜日15時から17時（農学部キャンパスCE102-2）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

研究室を訪問する際はメールでの事前連絡をしてください。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000412)	主題科目	4Q木5	
健康と疾病 Relationship between health and disease	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
健康と疾病 Relationship between health and disease	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
星野 克明	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回 + 講義45分×1回 + まとめのレポート作成45分×1回 + 自学自習 (準備学習10時間 + 事後学習 20時間)			
授業の概要			
【キーワード】感染症と生体防御 我々生物が病原体から身を守ろうとする一方で、病原体は生物から排除されまいとしている。この関係の中で、生物と病原体は共に進化してきたと考えられている。本授業では、人類にとって不可避の感染症について、人類と病原体の関係を概説する。そして、医学の発展により人間が得た「健康」を保つための戦略について説明する。今後の社会で健康に生き続けるための知識・情報を提供する。			
授業の目的			
我々にとって最も身近な疾病である感染症についての歴史を学ぶ。続いて、病原体が感染する仕組みと、感染した時の生体防御反応を学ぶ。さらに、感染症に対抗する方法（予防法、診断法、治療法）について学び、医学の発展による健康の向上について考える。21世紀社会を健康に生き延びるための教養を身につける。			
到達目標			
1, 身近な疾病としての感染症について歴史を説明することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2, 病原体の感染メカニズムについて説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3, 感染症に対する防御応答を概説できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 4, 疾病に対する人類の戦略について概説できる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
各授業終了時にミニレポート、あるいはミニテストを行う。全体の平均得点が60%以上を合格とする。定期試験は実施しない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本授業は全て講義形式で、1回ずつが独立したテーマです。各担当教員がコンピューターや資料を用いて、授業計画のテーマで講義を行います。各授業時間の最後の15分程度を、ミニレポート作成やミニテストの時間にあてます。最後の8回目に、まとめのレポート作成を行います。			
【授業計画】			
第1回 (星野) イントロダクション、感染症から自分のからだを守る仕組みについて			
第2回 (横田) 感染症と人類の歴史			
第3回 (村上) 治癒と再生について			
第4回 (藤井) さまよえる遺伝子、ウイルス			
第5回 (仁木) 体を守る抗体、体を壊す抗体			
第6回 (星野真) 臨床検査と疾患			
第7回 (星野) 免疫応答の人為的制御 (ワクチンなど)			
第8回 (星野) 講義のまとめ (前半) と、まとめレポート (後半)			
この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する			

可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

第1回 「免疫」とは何か調べる（4時間）。

第2回 疫病の流行と社会の関係について調べてみる（中世のペスト、天然痘、新型インフルエンザなど）（4時間）。

第3回 講義中に積極的に質問してください。医学的な話のため予習は不要ですが、事後学習を行い理解を深めて下さい（4時間）。

第4回 予習は必要ありませんが、事後学習を行い理解を深めて下さい（4時間）。

第5回 抗体の構造と機能について調べる（4時間）。

第6回 予習は必要ありませんが、事後学習を行い理解を深めて下さい（4時間）。

第7回 ワクチンについて調べる（4時間）。

第8回 予習の必要はありませんが、事後学習を行い理解を深めて下さい（2時間）。

授業で扱われる内容は、いずれも専門的な内容です。インターネット等を活用し、準備学習、事後学習することが望ましいです。

教科書・参考書等

特に指定しません。各授業毎に必要なに応じてプリント資料を配布する場合があります。

オフィスアワー 月曜日（16:00-18:00）医学部基礎臨床研究棟 6 階・免疫学研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

出席を毎回取ります（ミニレポートやミニテストの提出が出席としてカウントされます）。3 分の 2 以上の出席を履修要件とします。

教員の実務経験との関連

本講義は、免疫学、病理学、微生物学、感染症学、臨床検査学の教育・研究に豊富な経験を有する教員か?担当します。病院に勤務する医師による授業もあり、診療現場での実務に基づいた内容の授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000413) 健康を支えるからだの仕組み Human Physiology for Health 健康を支えるからだの仕組み (Human Physiology for Health)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q月1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 平野 勝也	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 人体生理学、健康			
人のからだには健康を維持する精巧な仕組みがあり、例えば、体温、血圧、血糖値などは必要性に応じて変化したり、あるいは、外部環境が変化しても一定の値をとるように調節されている。平均寿命世界一を誇る我が国では、単に長生きするのではなく、健康でいられる寿命をいかに延ばすかということがこれからの課題となっている。この課題解決のためには健康を支えるからだの仕組みを知ることが基本となる。この講義では、いくつかの体の仕組みを具体的に解説し、健康を支えるからだの仕組みの美しさを感じたい。			
授業の目的			
超高齢社会を迎えた21世紀の日本で、健康で活動的に暮らせる社会を築く方策を考えるには、健康を支えるからだの仕組みに関して科学的に正しい知識を持つことが不可欠です。この講義では以下の4つの項目を目的に、人体生理学を学習します。			
1. 人体の内部環境を健康に保つ生体の仕組みを理解し、その精巧さと美しさを感じる。 2. 講義で取り上げる人体の機能とその調節の仕組みを理解する。 3. 健康を維持するために必要な術を考察する。 4. 人体の仕組みについて大学卒業生としての科学的な常識を身につける。			
到達目標			
1. 講義で取り上げる人体の機能とその調節の仕組みを説明できる。 【関連する共通教育スタンダード】 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識			
2. 健康を保つ方策を科学的に選択できる。 【関連する共通教育スタンダード】 問題解決・課題探求能力／21 世紀社会の諸課題に対する探求能力			
成績評価の方法と基準			
1. 成績評価の前提: 3分の2以上の授業の出席 (6回以上) を必要とします (3回以上の欠席は不合格)。 2. レポート点: 講義内容をもとにして設定した課題に対する解決策を作成してもらいます。レポートの点を集計して最終成績とします。 3. 期末テストは実施しません。 (レポート点100%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。 本授業は全て講義で構成されます。PowerPointプレゼンテーションや講義資料を用いて、以下のテーマで講義を行います。授業時間の最後の15分程度を課題解決のレポートの作成時間に当てます。 講義では、テーマに関する一般的な内容から専門的な内容まで幅広く知見を紹介します。これにより、全学共通科目を受講する様々な背景を持つ学生に対応いたします。			

【授業の内容】

第1回 自律神経が調節するからだの仕組み

からだの仕組みの多くは無意識に調節されている。これには自律神経系が重要な役割を果たす。自律神経には交感神経と副交感神経があり、拮抗的に作用して外部環境の変動がもたらす身体機能変化をやわらげ、からだの機能を一定に保つ。

講義では、自律神経系の構造と機能を解説する。自律神経の働きの典型例として、敵に遭遇した時に起こる「闘争か逃避か反応 (Fight or flight response)」を解説する。

第2回 体温を保つからだの仕組み

からだには温度を感知する仕組みが備わっており、環境の温度変化をとらえられると、熱を産生する仕組みと熱を放散する仕組みの働き方が変化して、体温が一定に保たれる。

講義では、熱産生と熱放散の仕組みとそれらの働きを調節の仕組み、温度を感知するからだの仕組みを解説する。また、インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの感染症の際の発熱の機序も解説する。

第3回 酸素を運ぶからだの仕組み

人は生きてゆくために肺で酸素を取り込み、二酸化炭素を吐き出している。肺で取り込んだ酸素は赤血球で全身に届けられる。

講義では、酸素が必要な理由を概説し、主に赤血球による酸素運搬の仕組みを解説する。二酸化炭素の運搬についても解説し、酸素運搬との違いを説明する。

第4回 栄養を取り込むからだの仕組み

人は成長したり、活動するために栄養を取る必要がある。糖質、脂質、蛋白質の3大栄養素に、無機質とビタミンを加えて5大栄養素という。

講義では、消化管における3大栄養素の消化と吸収の仕組みを解説する。いくつかのビタミンの役割についても解説する。

第5回 血糖を調節するからだの仕組み

神経細胞の活動は3大栄養素の中の糖質に大きく依存している。そのため、低血糖を防ぐ仕組みがからだに備わっている。一方、食事により取り込んだ糖분을空腹時に備えて貯える仕組みが働き、食後の血糖上昇が緩和される。これらの血糖値の調節にはホルモンが重要な役割を果たす。

講義では、血糖値を正と負に調節する代表的なホルモンについて解説する。血糖を低下させるホルモンであるインスリンの働きが障害される糖尿病の発症機構についても解説する。

第6回 立ちくらみを防ぐからだの仕組み

急に立ち上がると血圧が低下し、場合によっては立ちくらみしてしまう。正常では、血圧低下が感知され、心臓と血管の機能が調節され、大幅な血圧の低下を防ぐ仕組みがある。

講義では、血圧低下を防ぐ仕組みである圧受容器反射について解説する。圧受容器反射によって心臓と血管の特性を簡単な数式で説明できることを示し、からだの仕組みの数学的美しさの一端を紹介する。

また、血圧測定の原理を解説し、実際に血圧計を用いて安静時と運動時の血圧と脈拍を測定する。この結果を第7回の講義で考察する。

第7回 血圧の大きな変動をとまわずに運動できるからだの仕組み

運動時には、心臓は大量の血液を送り出し、骨格筋の代謝を支える。しかし、大量の血液が血管を流れても血圧は大きく上昇しない。

講義では、第6回の講義で測定した血圧と脈拍の値を用いて、簡単な数式に当てはめることで、運動しても大幅な血圧上昇が起こらないからだの仕組みを解説する。

第8回 運動をささえるからだの仕組み

運動すると、心臓から送り出される血液の配分が増える臓器もあれば、減る臓器もある。骨格筋や心臓は配分が増える臓器の代表である。運動時に心臓が必要する血流量が得られないと狭心症や心筋梗塞といった虚血性心臓病が発症する。

講義では、運動による血液の再分配の仕組みを解説する。また、運動を支える心臓の代謝とそれを栄養する血管の特徴も解説し、虚血性心臓病の発症機序の基本を考える。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

上記に示す各講義の内容や事前に配布する講義資料を参考に、聞きなれない用語についてはあらかじめ調査・予習することが望めます(各回2時間程度、計15時間)。

講義中は、理解が及ばない点、質問すべき点がないかを探るつもりで聴講することが望めます。

講義後は、内容を自ら振り返り、理解不十分な点や質問すべき点について、積極的に担当教員とディスカッションすることが望めます(各回2時間程度、計15時間)。

教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しません。

講義資料を配布する場合があります。

【参考書】

生きているしくみがわかる生理学 大橋俊夫・河合桂子著 医学書院 ISBN978-4-260-02833-2

生理学研究が著した人体の機能と仕組みに関する一般向けの教養書

標準生理学第9版 医学書院 ISBN978-4-260-03429-6

医学科2年次生の講義で教科書として指定している生理学の教科書です。国内の生理学研究が各専門分野について分担執筆した、国内の医学生理学の標準的な教科書として知られています。

オフィスアワー 【事前の約束なしに訪問できる時間帯】

木曜日 5時限目 (事前にメールにて連絡し、訪問することが望めます。)

【研究室の場所】三木町医学部キャンパス 基礎臨床研究棟6階616号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、2020年度・2019年度開講の「人間と健康を考える生理学」と同様の内容であるため、2020年度・2019年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

この授業では、医学部で行っている生理学Ⅱの講義の一部を、他学部の学生を念頭に一般向けに講義するものです。履修希望者が教室の収容人数を越える場合は、他学部の学生を優先して履修を許可します。

高等教育機関である大学の卒業生は科学的態度を常識として身に付けることが望めます。この講義を通して科学的態度とは何かを考える機会となることを期待します。

授業においては双方向性の講義を心がけます。講義には積極的に取り組んでください。

研究室ホームページ：<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html>

メールアドレス

平野勝也：hirano.katsuya@kagawa-u.ac.jp

医学部自律機能生理学講座：physiol2@kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

1985年に医学部を卒業し、2年間の循環器内科医としての臨床修練の後に、基礎研究に従事し、以来30年以上にわたり循環器領域の生理学を専門にします。特に、血圧や臓器血流を調節する血管内皮細胞や平滑筋細胞の働き、血液凝固と循環器病との関連を明らかにする研究を行っています。臨床経験と基礎医学研究の実績をもとに医科生理学の教育を担当しています。自主的に研究活動に参加する学生も受け入れています。事実と意見を明確に区別する科学的姿勢の育成を主眼にして、学部大学院教育に当たっています。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000414) 微生物と健康 Microbes and human health 微生物と健康	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 桑原 知巳, 今大路 治之, 多田 彩乃	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (準備学習7時間 + 事後学習13時間)			
授業の概要			
この授業は感染症の原因となる微生物とともに、ヒトの健康維持や産業利用されている有用微生物の働きを学びながら私たちがどのように微生物を捉えるべきかを考えます。未知の感染症が発生した場合にどのように行動すべきか、また、現在問題となっている抗生物質が効きにくい細菌による感染症の増加など、現在の医療が抱える問題を解説します。このような講義を通して微生物の健康との関わりを俯瞰的に捉え、適切な感染予防行動がとれる能力を養うことを目的としています。			
授業の目的			
微生物の働きを理解し、有用微生物の産業利用や健康維持への関わりについての知識を深めるながら適切な抗菌薬の服用や衛生管理の重要性を説明できるようになる。また、感染症は個々の健康問題であるとともに社会全体の問題であることを理解し、病原体の種類に応じた適切な感染予防行動がとれるようになる。			
到達目標			
1. ヒトの健康維持や産業振興に有益な微生物の働きを具体的な例を挙げ説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 医療現場や産業における抗菌薬の濫用が将来どのような問題を引き起こす可能性があるのか説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 個人の感染対策が社会全体の感染防御になる仕組みを説明できる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト 50% (特に到達目標1に対応)、レポート50% (特に到達目標2及び3に対応) 成績評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション: 微生物とは何か 第2回 歯と歯周組織を取り巻く口腔内細菌 第3回 口腔衛生と健康との関連 第4回 私達と共生する微生物 第5回 腸内細菌と健康との関わり 第6回 感染症予防におけるワクチンの役割 第7回 薬剤耐性微生物の現状と今後 第8回 まとめとレポート課題の説明			
【授業及び学習の方法】 授業は講義を中心に進めます。講義内容の理解度や自主学習で学んだ事を確認するため、各講義毎に小テストを行います。この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を			

遠隔に変更する可能性があります。

【自主学習のためのアドバイス】

第1回 微生物の働きが私たちの暮らしにどのように関わっているか例を挙げて説明できるように準備する。
(事前学習・事後学習各1時間)

第2回 歯と歯周組織の構造や機能を理解し、口腔内の細菌がどのように身体へ影響を及ぼすかを説明できるように準備する。(事前学習・事後学習各1時間)

第3回 口腔衛生と全身疾患との関わりを調べ、セルフケアとしての口腔清掃法について具体的に説明できるように準備する。(事前学習・事後学習各1時間)

第4回 私達の体に棲む細菌の有益な生理機能について調査しておく。(事前学習・事後学習各1時間)

第5回 疾病の発症に関わる腸内細菌について理解し、それらの共通点を考察する。(事前学習・事後学習各1時間)

第6回 ワクチンの普及により流行が抑制されてる感染症を調べるとともに、過去に起こったワクチン禍事件について資料を収集する。(事前学習・事後学習各1時間)

第7回 現在医療現場で問題となっている薬剤耐性菌をいくつか調べ、その特徴をまとめる。(事前学習・事後学習各1時間)

第8回 第7回までの講義で学んだ内容を踏まえ、微生物と健康について俯瞰的に捉える能力が身についているか、コロナ禍を題材として発生当初から現在に至るまでのプロセスを振り返りながらレポート課題に取り組む。(6時間)

教科書・参考書等

参考図書：

1. 小熊 恵二、堀田 博、若宮 伸隆 編 (2018) 「シンプル微生物学 (改訂第6版)」 南江堂.
2. 吉川昌之介 著 (1996) 「細菌の逆襲-ヒトと細菌の生存競争」 中公新書.
3. 吉川賢二 著 (1999) 「私憤から公憤へ-社会問題としてのワクチン禍」 岩波新書.
4. 中村丁次、酒井 徹 編 (2022) 「感染防御と栄養」 薬事日報社.

参考図書は講義では使用しませんが、自習学習のために適宜利用して下さい。

オフィスアワー 金曜日 (15:00?17:00)、医学部基礎臨床研究棟7階分子微生物学研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

出席をとります。20分以上の遅刻は欠席として扱います。

本授業の内容は、2020年度・2019年度開講の「微生物と健康との関わり」と同様の内容であるため、2020年度・2019年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

本講義では、微生物学の教育研究に豊富な経験を有する教員が、微生物の特徴やそれらの健康との関わりについて解説します。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000415)	主題科目	1Q火1	
基礎から学ぶ生命科学 Essentials of Life Science	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	
基礎から学ぶ生命科学 Essentials of Life Science	分野 主題	DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 宇山 徹, 佐々木 すみれ	授業形態 講義	単位数 1	
	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7.5回 + テスト + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) 講義内容を十分理解するには、授業に出席することに加え、十分な準備学習と事後学習が必要である。			
授業の概要			
【キーワード】生体分子、代謝			
ヒトが食物として摂取した物質は、消化管で消化吸収されたのち、さまざまな化学反応（これを「代謝」と呼びます）を受け、分解過程で生命活動に必要なエネルギーを産生するとともに、合成過程でからだを構成する生体分子に変わります。この授業では、タンパク質・糖・脂質・核酸など、主要な生体分子とそれらの代謝経路の基本を学習します。授業は8週1単位でコンパクトにまとめた入門的な内容で、生物学を詳しく学んだことのない学生や、文系学部の学生を含め、すべての学生を対象にしています。			
授業の目的			
「生命科学」は生命に関する学問分野で、様々な生命現象を解明し、それを基本にした科学技術や社会システムの開発を目指す学問です。本授業では、生命科学の主要分野のひとつである生化学、その中でも「代謝学」に焦点を絞り、ヒトの生体分子と代謝についての基礎的理解を得ることを目的とします。これから生きる若者が、健康に生きるための教養を身につけ、21世紀社会の「生命科学」でどのようなこと問題となるのかを考えるのに役立つ内容になっています。			
到達目標			
1. 人体を構成する主な生体分子を説明できる（共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 2. 生体分子の主な代謝経路（合成・分解）を説明できる（共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 3. 健康の維持における代謝の役割と病気との関連を説明できる（「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）			
成績評価の方法と基準			
毎回（第1週?第7週）実施する、出席を兼ねた小レポートを70%（到達目標1と2と対応）、第8週に実施するテストを30%（到達目標1、2、3と対応）とします。8回中、6回以上出席しなければテストは受験できません。6回以上出席してもテストを受験しないと不合格になります。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週	タンパク質の構造と機能		
第2週	核酸の構造と機能		
第3週	単糖と多糖、脂質と膜		
第4週	酵素		
第5週	糖代謝 1-解糖系と糖新生-		
第6週	糖代謝 2-クエン酸サイクルと電子伝達系-		
第7週	脂質代謝		
第8週	（前半）アミノ酸とヌクレオチドの代謝、（後半）テスト		
【自主学習のためのアドバイス】			
指定教科書を丁寧に読むこと。ただし、入門書なので、さらに詳しく学習したいときは、多数出版されている生化学の専門書を参考にしてください。インターネットでも有用な情報が容易に入手できます。			

自学自習の目安：各週とも準備学習1.5時間 + 事後学習1.5時間、最終週はテストがあることを考慮し準備学習4.5時間 + 事後学習4.5時間

教科書・参考書等

基礎からしっかり学ぶ生化学 羊土社、山口雄輝／編著 成田央／著、
定価 2,900円＋税、2014/10/15 発行、ISBN 978-4-7581-2050-0

オフィスアワー 随時：eメールまたは電話によるアポイントメントにより、質問の時間を設けます（メールアドレス biochem-m@kagawa-u.ac.jp、直通電話087-891-2104）。
医学部キャンパス基礎臨床研究棟7階・生化学教室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

初回から教科書を使用して授業を進めるので、できるだけ事前に購入してください。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Lb1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000416)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
環境と生活の化学 Chemistry of the Environment and Living 環境や生活を支える化学の役割を学ぶ New Aspects of Chemistry Related to Environmental and Living Issues	授業形態 講義 ブレ ンディッドラーニン グ	単位数 1	
担当教員名 和田 健司, 中北 慎一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
科学技術は現代社会に深くかかわっており、社会における様々な局面において科学技術が及ぼす影響は深化しています。化学もまた例外ではなく、我々の日常生活、環境、エネルギーの多くに化学が深く関与しています。普段あまり意識することはありませんが、社会や技術の変化、災害、環境等に関する大きな問題に直面した時、的確に状況を理解し適切な判断を下すためには、「化学」に関する十分な理解が不可欠です。本講義では、我々の生活と環境、生命に関する身近なトピックを取り上げ、その背景にある化学に関する知識と先人の知恵を学びます。さらに知識を活用して自分なりの解決・解消策をまとめ、表現する力が身につくよう、ディスカッションやレポート課題を適宜取り入れる予定です。			
【キーワード】 環境触媒、自動車触媒、エネルギー変換、グリーンケミストリー、糖鎖、食品、医薬品			
授業の目的			
21世紀社会の基盤を支える化学に対する関心を高め、その現状と課題を正しく理解し、社会の持続的発展を自らの課題として理解し考えるための能力を身につけるため、化石資源の高効率利用や再生可能エネルギーの開発、地球環境の改善といった多様な観点から化学を深く理解する。特に鍵となる役割を担う「触媒」を理解する。また、我々の生活に密接に関連する物質として「糖」を取り上げ、その活用と働きをしているかを理解する。特に自ら課題を発見し、解決策を提案できる基礎的能力を獲得する。			
到達目標			
1, 我々の活動に伴って環境中に排出されている化学物質の性質と影響、対策を説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2, 我々の生活を支えるエネルギー資源の現状と有効利用法の概要を説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3, 希少糖を含む12種類の六炭糖の構造と生活の中での役割を理解する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4, 環境と正確にかかわる化学における諸問題を理解し、その解決・解消のために必要な具体策を提示し、説明することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」および「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
試験は実施しない。各回に実施するクイズ(30%、主に到達目標1～3に対応)や、計3回課するレポート(70%、到達目標1～4に対応)の結果を基に総合的に評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション: 触媒とは何か? 第2回 排気ガス浄化触媒 第3回 環境を改善するための様々な触媒 第4回 エネルギー資源の活用と触媒の役割			

第 5回 グリーン・サステイナブル・ケミストリー

第 6回 食品として利用される糖

第 7回 医薬品として利用される糖

第 8回 化学に関わる問題解決へのアプローチ

【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、各回の前週に事前配布した使用を予習したうえで、講義までに予習クイズへの回答を求めます。講義においては、適宜そこで取り上げた話題に関するディスカッションの機会を設けます。また、各セクションでレポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します（計3回を予定）。特に環境や生活の化学に関わる問題に関する報告を求めたうえで、第8回講義においてその解決策についてディスカッションを行います。この科目は原則として対面授業を行います

【自学自習のためのアドバイス】 自らが興味を持った題材について、配布資料や参考書等を読み込んで、化学がもたらす恩恵と問題、将来の課題について深く考察してほしい。なお、高等学校の化学基礎（化学）の教科書、あるいは大学の基礎的な化学の教科書を復習しておくこと。

第2～5回 講義までに、触媒の機能、自動車触媒等の環境触媒の役割、エネルギー資源の変換、グリーン・サステイナブル・ケミストリーといった基本的な事項の理解を図り、講義中のディスカッションで説明できるように準備する。（16時間）

第6, 7回 講義までにアルドヘキソース、ケトヘキソースの構造を調べ、化学構造的特徴（アルデヒド基、ケト基、水酸基）を理解しておく（6時間）

第8回 自らの周辺における環境や生活の化学に関わる問題を発掘し、その影響や課題、および可能な解決法を提案しレポートを作成する。（8時間）

教科書・参考書等

教科書は指定しない。授業においてプリント等を配布する。参考書は、「グリーンケミストリー」御園生誠著、日本化学会編ほかを、初回授業時に紹介する。

オフィスアワー 後期 金曜日 午後6時～7時 於：医学部講義棟316号室 遠隔相談も可能であるが、事前にアポイントメントをとること（wada.kenji@kagawa-u.ac.jpあてにメールで連絡してください）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

高校化学基礎に関する知識を有することを前提として、講義を実施します。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000417)	主題科目	1Q木5	
若年層の疾病と健康管理A Disorder and Healthcare of the Youth A	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
若年層の疾病と健康管理 A Disorder and Health care of the Youth A	分野 主題	DPコード: cba	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目	学問基礎科目 医学	
横平 政直	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 X 7回 講義45分 X 1回 + 自主学习 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的			
若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。特に生活習慣病の発症予防には十分留意する。 また、若年者のメンタルストレスについて知識を得、自身および友人のストレスケアができる。			
到達目標			
1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べることができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 若年者(特に大学生)に生じやすいストレスについて説明できる。共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 5. 自分自身に対してストレスマネジメントを適切に行うことができ、また友人のストレスサーに対して配慮をすることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
到達目標に関連した出題内容の期末テスト(100%)で評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業形式: 主として講義 この科目は原則として遠隔授業を行います。一部の回では対面授業を行います。なお、状況によっては全ての回を対面又は遠隔に変更する可能性があります。			
第1回 オリエンテーションおよび若年者の呼吸器疾患(担当: 坂東修二; 医学教育学) 第2回 若年者における腎臓病と予防(担当: 祖父江 理; 循環器・腎臓・脳卒中内科) 第3回 若年者の血液疾患(担当: 門脇則光; 血液・免疫・呼吸器内科) 第4回 若年層の予防と栄養管理(担当: 日下 隆; 小児科学) 第5回 若年者のメンタルヘルス(担当: 安藤延男; 精神神経科) 第6回 若年者の肝臓病(担当: 森下朝洋; 消化器・神経内科) 第7回 若年者の喫煙とその健康被害(担当: 石川かおり; 循環器・腎臓・脳卒中内科)			

第8回 講義＋試験

【自学自習のためのアドバイス】

講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群)について、あらかじめ、図書館（下記の参考図書等）や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。

各回について、準備学習2時間＋事後学習2時間を目安とする。

教科書・参考書等

必要であれば、講義中に適宜推薦する。

自主学習用には「家庭の医学」（オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円）。

「病気がみえる」シリーズ（MEDIC MEDIA）等。

オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ（講師が全て医学部の所属であるため）

横平へは：水曜日 16:30 ～ 17:30 医学部教育センター（講義棟2階）（あらかじめメール連絡ください：yokohira.masanao.tm@kagawa-u.ac.jp）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その1」と、順序と担当教員とは一部変更になっているが、同一内容になっている。

講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内容の記録はしっかり採っておくこと。

教員の実務経験との関連

本授業はオムニバス形式で行い、医学部及び附属病院で実際にそれぞれの領域で診療を行っている教員が講義を担当する。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000418)	主題科目	2Q木5	
若年層の疾病と健康管理B Disorder and Healthcare of the Youth B	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
若年層の疾病と健康管理 B Disorder and Health care of the Youth B	分野 主題	DPコード: cba	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目	学問基礎科目 医学	
横平 政直	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 X 7回 講義45分 X 1回 + 自主学習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】若年者の疾病理解と自己管理 近年、生活習慣の欧米化にともない、いわゆる生活習慣病の若年者への前倒し現象が認められ、また将来の動脈硬化症による疾病は若年期より予防する必要があると考えられている。もちろん、従来から若年者に特徴的な疾病も依然として存在する。また、若年者においてもストレス社会の影響を受けざるを得ない状況にある。これら若年者の疾病の特徴と予防について概説する。			
授業の目的			
若年者によくみられる疾病とその特徴を理解し、自身および周囲の人間について、急性及び慢性の疾病予防に努めることができる。目や耳、皮膚という感覚器系の疾患についても概説できる。			
到達目標			
1. 若年者に生じやすい疾病について概説できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. それら疾病を生じやすい生活習慣を述べるができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 特に若年者から見られる生活習慣病について説明でき、予防を実践できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. これらの知識を活用して自身の健康管理を適切に行うことができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
到達目標に関連した出題内容の期末テスト (100%) で評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業形式: 主として講義 この科目は原則として遠隔授業を行います。一部の回では対面授業を行います。なお、状況によっては全ての回を対面又は遠隔に変更する可能性があります。			
第1回 若年層の眼科疾患の特徴と予防 (担当:鈴間 潔;眼科) 第2回 若年者(層)の脳疾患 (担当:三宅啓介;脳神経外科) 第3回 若年者の消化器疾患 (担当:小原英幹;消化器・神経内科) 第4回 若年者の高血圧と高脂血症の予防 (担当:南野哲男;循環器・腎臓・脳卒中内科) 第5回 若年者の感染症の特徴と予防 (担当:上田修史;泌尿器科) 第6回 若年者の耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患 (担当:岸野毅日人;耳鼻咽喉科) 第7回 若年者のがん (担当:医学教育学:横平政直) 第8回 講義+試験			
【自学自習のためのアドバイス】 講義での理解を促進するために、各回のテーマとなる疾患(群) について、あらかじめ、図書館(下記の参考図書等)や、インターネット等で自主学習をしておくことが望ましい。			

各回について、準備学習2時間＋事後学習2時間を目安とする。

教科書・参考書等

必要であれば、講義中に適宜推薦する。

自主学習用には「家庭の医学」（オールカラー版 家庭の医学 第3版、川名正敏総監修、成美堂出版、2016年、3024円）。

「病気がみえる」シリーズ（MEDIC MEDIA）等。

オフィスアワー 講義終了後の時間帯のみ（講師が全て医学部の所属であるため）

横平へは：水曜日 16:30 ～ 17:30 医学部教育センター（講義棟2階）（あらかじめメール連絡ください：yokohira.masanao.tm@kagawa-u.ac.jp）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平成30年度までの「若年層の疾病と健康管理その2」と、順序と担当教員とは一部変更になっているが、同一内容になっている。

講義によっては配布資料がないことがあるが、適宜ノートを取らないと、試験に合格できないので、講義内容の記録はしっかり採っておくこと。

教員の実務経験との関連

本授業はオムニバス形式で行い、医学部及び附属病院で実際にそれぞれの領域で診療を行っている教員が講義を担当する。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000419)	主題科目	1Q月5	
身体の恒常性とその破綻によって生じる疾患に対する治療 Maintaining homeostasis of the body and treating diseases caused by its breakdown	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身体の恒常性とその破綻によって生じる疾患に対する治療 Maintaining homeostasis of the body and treating diseases caused by its breakdown	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 西山 成, 北田 研人, RAHMAN MD ASADUR	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 1-7回目通常講義90分+8回目(前半講義+後半まとめテスト)+自習学習(準備学習8時間+事後学習8時間)			
授業の概要			
病気に対する薬を創るためには、病気の原因を知ることが必要である。そして、病気の原因を知るためには正常の生体を理解しておく必要がある。生体の恒常性が破綻して生じる疾患に対する創薬活動を紹介する。			
授業の目的			
1. 治療法の開発例を学び、21世紀社会を健康に生きるための教養を身につける。 2. 人類の文化、社会および自然についての幅広い知識とともに、学部専門課程を進んでいく上で必要な学問的基礎を身につける。			
到達目標			
1. 薬を開発するための方法を説明することができる。(共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応) 2. 各病気を理解した上で、薬を作るために実施されている研究の例を説明することができる。(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
出席をかねた小テストか小レポート80%(特に到達目標1に対応)、期末テスト20%としますが、前者の成績が全員良好である場合には、期末テストを実施しません。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 薬が世に出るため / 担当 西山 第2週 創薬のための体液調節の理解 / 担当 北田 第3週 創薬のための培養細胞・動物実験の紹介(英語) / 担当 Rahman 第4週 創薬のための血圧調節の理解 / 担当 北田 第5週 創薬のための癌研究の紹介(英語) / 担当 Rahman 第6週 創薬のため夏眠研究の紹介 / 担当 北田 第7週 希少糖を使った創薬(英語) / 担当 Rahman 第8週 香川大学医学部薬理学による創薬活動 後半まとめテスト / 担当 西山			
【自学自習のためのアドバイス】			
第1週 薬がどのように作れるのかについて調べ整理する。(2時間) 第2週 体液とは何かについて調べ整理する。(2時間) 第3週 培養細胞と動物実験について調べ整理する。(2時間) 第4週 血圧がどのように調節されているのかについて調べ整理する。(2時間)			

第5週 癌の種類などについて調べ整理する。(2時間)
第6週 夏眠と冬眠について調べ整理する。(2時間)
第7週 希少糖とは何かについて調べ整理する。(2時間)
第8週 創薬の具体例について調べ整理する。(2時間)

教科書・参考書等

イラストレイテッド薬理学 丸善出版、柳澤輝行、丸山 敬監訳、2016/12/28

オフィスアワー 随時：アポイントメントにより質問の時間を設けます。(087-891-2125)
医学部キャンパス基礎臨床研究棟7階715号室薬理学教室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

2/3以上の出席を履修要件とします。

本授業の内容は、平成30年度・平成29年度開講の「医学を知る上で必要な科学 その2」と同様の内容であるため、平成30年度・平成29年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000420)	主題科目	3Q月1	
文系学生のための人体解剖学 Human anatomy in the liberal arts	水準 学士:基礎科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
文系学生のための人体解剖学 Human anatomy in the liberal arts	分野 主題	DPコード:cbx	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
荒木 伸一, 江上 洋平	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+自学自習 (30時間)			
授業の概要			
【キーワード】 ヒトのからだ 正常の人体の構造について学ぶ解剖学は、医学の中でも最も基礎となるものです。医学・医療系以外の学生を対象とした人体解剖学の基本を講義します。解剖学の概要、解剖実習や日本の献体制度などについて学び、問題点を探求します。ついで、私たちの体の構造・仕組みを臓器、系統別に学びます。受講者は、デザイン思考に則って課題論文または人体図鑑の作成をすることにより、課題に対する問題解決や提案を行います。			
授業の目的			
医学を専門としない人にとっても、人体についての正しい知識は、病気になった時や健康維持に役立つ。この授業を通じ、人体の構造と仕組みを理解し、その知識を自らの健康に関連づけて活かせるようになる。また、日本の献体制度の課題について探求できるようになる。デザイン思考を取り入れたオリジナルの解剖学図鑑を考案し作成する。			
到達目標			
1. 解剖学とは何かを説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 今日における献体制度の問題を自ら考え、解決策を提案できる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 人体を構成する細胞組織について説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 4. 人体を構成する各臓器・系統について基本構造を説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 5. オリジナルのデザインで人体図鑑を考案し、作成することができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 6. ヒトのからだを理解することで、健康について考えることができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
成績評価の方法:ペーパー試験(主に到達目標 3, 4 に対応) 50%、提出課題(主に到達目標1, 2, 5, 6に対応) 50%で評価します。 ペーパー試験では、人体を構成する細胞組織、各臓器・系統について基本構造について理解し、説明できるかを評価の観点とする。 提出課題では、オリジナルのデザインで人体図鑑を考案し、作成することができるか、もしくは献体制度の問題を自ら考え、解決策を提示することができるかを評価の観点とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回:解剖学とは、日本の献体制度 (荒木)			
第2回:細胞と組織 (江上)			
第3回:骨と筋:運動器系 (川合)			

第4回：消化と吸収：消化器系（荒木）
第5回：呼吸と循環：循環器・呼吸器系（江上）
第6回：皮膚と感覚：感覚器系（荒木）
第7回：排泄と生殖：泌尿生殖器系（江上）
第8回：テストと課題発表（荒木・川合）

【授業及び学習の方法】

教科書とPowerPointで講義を行います。教科書を読むなどの事前準備を行ってください。
この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

課題作成は、以下の課題から1つ選択し、授業時間外に各自で行ってください。

課題1 わかりやすい人体解剖図鑑を作る

（自分で対象を決める： ○○のためのわかりやすい人体解剖図鑑。全身でも、系統や器官別でも良い。対象、目的にあうように自分でデザインする。手書きでも、コンピューターでの作成でもよい。コピーの貼り付けは不可。必ず自作する。）

課題2 現代の日本における献体制度の問題を考える

（現状と課題。解決するには。 1200文字以上 手書きでも、コンピューターでの作成でもよい。盗用は不可。）

教科書での予習復習と試験勉強 各回 0.5～1時間

課題作成物は、第7回が提出日です。それまでに計画的に作成すること

課題の選択 1時間

課題の抽出（ネットでの検索、図書を探して読む） 5～10時間

課題の解決（アイデア、構想、作品制作など）10～20時間

教科書・参考書等

下記の図書を教科書として講義で利用します。

「美しい人体図鑑 自分のからだを知り尽くす！」監修者 梶原哲郎、笠倉出版社、2021年、1100円

オフィスアワー 月曜日 12時～13時 医学部基礎臨床研究棟 5F

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

3分の2以上の出席と課題提出は単位習得に必須です。

医学科・看護学科の学生は受講しないでください。

教員の実務経験との関連

該当なし

ナンバリングコード B2THM-cbdG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000421)	主題科目	3Q火2	
海外渡航と健康 Travelers' Health 海外渡航と健康 Travelers' Health	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 新井 明治	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習(準備学習14時間 + 事後学習16時間)			
授業の概要			
【キーワード】海外渡航、感染症、ワクチン、リスク回避 海外渡航には観光、留学、仕事、移住、難民、宗教行事など、様々な目的・活動が含まれる。海外渡航時には種々の面において渡航前の日常生活とは異なる環境に身を置くこととなり、それに起因する健康問題が生じるリスクが高まる。本授業では、海外渡航に関連する各種の健康問題について、主に医学的側面から概説する。日本から海外へ渡航する人々だけでなく、日本を訪れる外国人の健康問題にも理解を深める。			
授業の目的			
新型コロナウイルスによるパンデミックは、地球規模で人々の健康だけでなく、社会システムにも大きなインパクトを与えている。日本でも海外渡航・訪日外国人受入が再開されたが、新たな変異株による感染再拡大の可能性は継続しており、このタイミングで渡航医学を学ぶ意義は大きい。本科目では21世紀社会の諸課題に対する探求能力と必要なスキルとして、海外渡航に関連する各種健康問題について、主に医学的側面から理解する。海外渡航には様々な種類・目的があり、感染症をはじめとする健康上のリスクとその予防法に関する知識を習得するとともに、現状の課題とその解決策を探求する。			
到達目標			
1. 海外渡航の種類と目的、各々のリスクについて説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 海外渡航で感染する可能性のある感染症とその予防法について説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 3. ワクチンで予防できる感染症と、感染予防のための適切な行動について説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 4. 医学的配慮を要する渡航者の健康問題について説明することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 5. 訪日者・帰国者・日本への移住者の健康問題とその解決策について説明することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート(第1回-第7回) 50%(到達目標1-5に対応)、期末試験(第8回) 50%(到達目標1-5に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 海外渡航と健康(アウトライン)			
第2回 海外渡航の種類・目的とリスク(1)			
第3回 海外渡航の種類・目的とリスク(2)			
第4回 海外渡航で重要な感染症			
第5回 ワクチンと予防内服			
第6回 途上国・新興国と医療/医学的配慮を要する渡航者			
第7回 訪日者・帰国者・日本への移住者			
第8回 筆記試験(45分間)+まとめ(45分間)			
【授業及び学習の方法】			
必要に応じて資料を配付する。授業内容の理解度をみるために毎回講義終了時にミニレポートを提出し、レポート提出をもって出席とみなす(遅れて提出しても受理しない)。講義を聞きながらレポートを書くこと			

になるため、相当の集中力を要する（予習が必要）。授業後の事後学習により、授業で扱った内容についてより深く考察することが重要である。

【自学自習のためのアドバイス】

授業内容の理解を深めるため予習・復習が必要。インターネットを利用して調べる場合には、インターネット上の情報は必ずしも正しいとは限らないことを認識して、正確な情報を得ようとする態度を身に付ける。

- 1) 授業内容に関連した新聞記事やニュースを事前に調べて、授業時に紹介できるように準備する。（14時間）
- 2) 事前に自分で調べた内容と、授業で示された内容の間にどのような相違があるかを確認し、なぜそのような相違が生じたのかを考察する。（16時間）

この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性がある。

教科書・参考書等

参考書：近 利雄・三島伸介（編著）（2017）『トラベル&グローバルメディスン』南山堂（5,200円＋税）

オフィスアワー 火曜日：17:00-18:00（医学部キャンパス・基礎臨床研究棟6階・国際医動物学准教授室）事前にアポイントメントをとることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

2/3（6回）以上の出席を履修要件とする。時間内にレポート提出がない場合は欠席扱いとする。

教員の実務経験との関連

臨床寄生虫学の専門家として、学内外の医療機関・検査センターからのコンサルテーションに対応している。所属学会：日本渡航医学会、日本臨床寄生虫学会、日本熱帯医学会、日本寄生虫学会、日本衛生動物学会。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000422)	主題科目	4Q木1	
身のまわりの物質と健康 Substances around us and health	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
身のまわりの物質と健康 Substances around us and health	分野 主題	DPコード: cbx	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
木下 博之, 竹居 セラ	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
[キーワード] 化学物質、健康 私たちの身のまわりには、さまざまな物質が存在しています。それらの物質が体により影響を与えている場合もありますが、逆に、身体の不調がそれらの物質に起因することもあります。体の基本的な仕組みとそれらの物質の作用についての知識を得て、体や心を健康に保つための方策について考えていきます。			
授業の目的			
身のまわりの物質が身体に与える影響について理解し、健康な生活を送る上でどのようなことに留意すべきかを自分自身で考えることで、自己の健康管理ができるようになる。			
到達目標			
1. 体の基本的な構造を知り、化学物質の作用する仕組みを理解することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に対する知識」に対応) 2. さまざまな物質に共通する身体に与える影響を理解することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に対する知識」に対応) 3. さまざまな物質による作用や悪影響について理解し、自ら体や心を健康に保つためにすべきことを考えることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
7回の小テスト(レポート) 70% (特に到達目標1および2に対応)、最後の講義でのまとめのテスト(レポート) 30% (特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
すべて講義で構成されます。各担当教員が授業計画に記載のテーマで講義を行います。各授業時間の最後の15?30分程度をミニレポート作成や小テストの時間に充てます。最後の第8回の講義の際にまとめのレポート作成を行います。			
第1回: (木下) 体の基本的な構造と機能(序論) 第2回: (木下) 様々な物質にみられる身体への影響(総論) 第3回: (木下) お酒(エタノール)の作用と身体への影響 第4回: (木下) 作用に個人差がみられる理由(お酒を例に) 第5回: (木下) 炭化水素の作用と身体への影響 第6回: (竹居) 市販の医薬品の作用と身体への影響 第7回: (木下) 農薬の作用と身体への影響 第8回: (木下) まとめとレポート作成			
【授業及び学習の方法】 原則として、対面授業を行います。なお、状況によってはすべて又は一部を遠隔授業に変更する可能性があります。また、状況に応じて授業内容の変更が生じる場合もあります。			
【自学自習のためのアドバイス】 準備学習として、高校の生物学や化学の教科書を見直しておくといと思います。事後の学習には講義で紹介する書籍やインターネットなども活用して、幅広い情報に接してください。 自学自習時間の目安は、準備学習15時間+事後学習15時間です。			

教科書・参考書等

領域が広範にわたるため、特に指定しません。講義資料は配付する場合があります。

オフィスアワー 指定は不可能なので、法医学講座（forens-m@kagawa-u.ac.jp）まで。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

知識を得た後は、自分の考えを持って下さい。

教員の実務経験との関連

担当者は法医学者です。いずれもその専門家として講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000423) 心と体の健康 Human Health Caring 心と体の健康 Human Health Caring	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q火2	対象年次 1～				
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム				
	授業形態 講義	単位数 1					
担当教員名 塩田 敦子, 谷本 公重	関連授業科目 看護学						
	履修推奨科目						
学習時間 講義 90分 x 7回 + 講義45分 x 1回 + 自主学習							
授業の概要							
【キーワード】健康課題 本科目では、疾病や医療など、現代社会の課題について「健康」をキーワードに考えていきます。本授業科目において教員は、人間の各発達段階において生じやすい心と体の問題に関する知識を学生が習得できるようにします。具体的には、発達段階の異なる小児と学生自身の生活・健康課題に関して講義を通して、理解を深めるように教授します。							
授業の目的							
高度に進んだ日本社会では、より便利で快適な生活が実現しているといわれるが、その一方で複雑な心と体の健康問題が生じている。21世紀に生きる学生が、自身の健康課題への理解を深め、とるべき予防行動を理解すると共に、次世代を担う子どもたちへの発達支援に関する基礎的知識を習得することを目的とする。							
到達目標							
(1)「成長」と「発達」およびその原則について説明できる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 (2) 子どもの認知発達の特徴について説明できる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 (3) 子どもの権利とその擁護について説明できる共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 (4) 青年期で生じやすい問題と対応するケアリングのあり方、実践方法を説明できる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 (5) ケアリング・コミュニケーションの実施方法が説明できる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 (6) 自らの健康に配慮したライフプランを描くことができ、生殖生命倫理について疑問を抱き考え続けることができる。（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 (7) 自らの健康を守るために、コミュニケーションを通じて性感染症や予期せぬ妊娠を防ぐことができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 (8) 身近にあるがんの種類とその検診、予防の方策について説明でき、予防行動をとることができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 (9) 東洋医学の知恵を現代の生活に活かす術を考え実行できる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。							
成績評価の方法と基準							
各回に提示するミニレポート20%（特に到達目標 4， 5， 6 に対応）、期末試験80%（特に到達目標 1， 2， 3， 7， 8， 9 に対応） なお、評価対象者は、講義全体で3分の2以上出席したものとする。							
成績評価の基準							
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 <table><tr><td>合格又は了</td><td>到達目標を達成している。</td></tr><tr><td>不合格</td><td>到達目標を達成していない。</td></tr></table>				合格又は了	到達目標を達成している。	不合格	到達目標を達成していない。
合格又は了	到達目標を達成している。						
不合格	到達目標を達成していない。						
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス							
【授業計画】							
第1回 大学生のライフプランと健康 (塩田)							

第2回	大学生の性と健康	(塩田)
第3回	大学生のがん予防と健康	(塩田)
第4回	東洋医学と健康ーセルフケアに活かす	(塩田)
第5回	子どもの心と体の成長と発達	(谷本)
第6回	子どもの権利擁護	(谷本)
第7回	子どもを取り巻く現代社会の問題	(谷本)
第8回	子どもへの発達支援まとめ、試験	(谷本)

【授業及び学習の方法】

授業は計画にあげた内容について講義し、また講義ごとに小レポートを課し、講義で学んだ内容を自己の知識と統合、表現することを促します。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習へのアドバイス】

- 第1回 自分のライフプランについて書き出し、不妊治療や出生前診断について扱った新聞記事やニュースより情報を得て、その倫理的問題についても考えておく(3時間)
- 第2回 女性の月経について、同性として異性として知りたいこと、知っておいてほしいことをまとめておく。性感染症や避妊、デートDVについて情報を得ておく(3時間)
- 第3回 子宮頸がん検診、HPVワクチン、がん生殖について情報を得て、自分はどのように行動したいか考えておく(3時間)
- 第4回 漢方薬、鍼灸について知っていること、現代の生活に活かされていることを考えておく(3時間)
- 第5回 新聞やテレビなどから、子ども(特に、2歳頃から8歳頃)の発言・行動に関して情報を得ておく(3時間)
- 第6回 子ども権利条約について確認しておく(4時間)
- 第7回 子どもの健康問題を扱った新聞記事やニュースより情報を得ておく(3時間)
- 第8回 これまでの講義内容について確認し、理解を深めておく(5時間)

教科書・参考書等

必要な資料等は講義内で配布するため、自学自習で示された内容に対して確実に取り組んでおくこと

オフィスアワー 質問は、講義終了前後に受けつける。研究室は、三木キャンパス医学部看護学研究棟にある。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業の内容は、平成30年度以前開講の「心と体のケアリング(その1、その2)」と同じ内容であるため、平成30年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を受講できません。
- ・授業時は出欠を確認する。出欠確認の不正行為を行わないこと。ミニレポートの代筆は不可であり、代筆確認時は不正行為とみなす。
- ・看護学科学生の履修については、専門科目と重複する部分があることを踏まえ、各自で判断すること。
- ・夜間主学生は受講できない。
- ・8回目に試験を実施する。

教員の実務経験との関連

谷本は医療施設への勤務経験があり、小児の健康支援に携わってきた実務経験をもとに、現代社会における小児の健康支援について講義を行います。塩田は産婦人科医師、漢方専門医として現在も勤務しており、女性の健康支援に携わってきた実務経験をもとに、大学生のプレコンセプションケア、がん予防、東洋医学について講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cedG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000424)	主題科目	3Q木5	
瀬戸内海的环境と諸課題 Environment of the Seto Inland Sea and its agenda 授業名: 瀬戸内海的环境と諸課題 The environment of the Seto Inland Sea and its agenda	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ced	
	授業形態 講義	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 多田 邦尚, 一見 和彦, 石塚 正秀	関連授業科目 瀬戸内海的环境と保全		
	履修推奨科目 瀬戸内海的环境と保全		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習8時間 + 事後学習22時間)			
授業の概要			
【キーワード】瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
授業の目的			
我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようになる。			
到達目標			
1. 履修後には、瀬戸内海 of 自然環境的側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる (全学共通教育スタンダード:「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明できる (全学共通教育スタンダード:「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる (全学共通教育スタンダード:「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 また、その解決策を自分自身で考えられる (全学共通教育スタンダード:「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業最終回終了後に提出するレポート(最終回の授業でレポート提出について説明)。期末レポート100% (特に、到達目標 2、3 に対応)。授業に出席していないとレポート提出は認められません。また、出席については、毎回、出席カード等で確認します。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 講義の概要、「瀬戸内海とは？」 第2週 瀬戸内海的环境の現状と課題－1 第3週 瀬戸内海的环境の現状と課題－2 第4週 瀬戸内海の赤潮			

第5週 瀬戸内海に現存する干潟・藻場
第6週 干潟・藻場の役割
第7週 河川と瀬戸内海のつながり
第8週 河川と瀬戸内海の環境行政（45分授業）

【授業及び学習の方法】

最初に、本授業の概要を説明し、その後、2名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部あるいは全て遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学自習に取り組んで下さい（6時間）。

教科書・参考書等

教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。

オフィスアワー 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。この授業は、「瀬戸内海の環境の諸問題」と「瀬戸内海の環境とその保全」をあわせて受講することを奨励します。

教員の実務経験との関連

各回の担当教員はいずれも瀬戸内海の研究を実施しており、その研究内容や経験から講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cedG-1N-Lx1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000425)	主題科目	4Q木5	
瀬戸内海の環境と保全 Environment of the Seto Inland Sea and itsconservation	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
瀬戸内海の環境と保全 The Seto Inland Sea and its conservation	分野 主題	DPコード: ced	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目	瀬戸内海の環境と諸課題	
多田 邦尚, 山口 一岩, 末永 慶寛, 田中 健二	履修推奨科目	瀬戸内海の環境と諸課題	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回+ 自学自習 (準備学習8時間+ 事後学習22時間)			
授業の概要			
【キーワード】瀬戸内海、環境 瀬戸内海は世界でも稀な素晴らしい多様な環境と高い生物生産性をもつ海である。一方、この海は、高度経済成長期に瀕死の海と言われるまで環境は悪化した。その後、様々な環境改善の努力により、水質はかなり改善されたものの生物量や生物多様性は回復していない。本講義では、まず、瀬戸内海を自然科学、人文科学的側面から眺め、現在、瀬戸内海が直面している様々な問題について解説するとともに、香川大学で研究された最近の研究成果についても紹介する。			
授業の目的			
我々の身近な瀬戸内海に興味を持ち、その環境について知ると共に、その環境の持つ諸課題を理解し、説明できるようになる。			
到達目標			
1. 履修後には、瀬戸内海の自然環境的側面について、他人に幾つかのトピックを紹介できる (全学共通教育スタンダード:「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 瀬戸内海に対する理解を深めるとともに、直面している環境問題を説明できる (全学共通教育スタンダード:「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 瀬戸内海周辺に暮らす一人の人間として、この海を守るために、何が大切かを考え、必要な時には行動を起こすことができる (全学共通教育スタンダード:「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 また、その解決策を自分自身で考えられる (全学共通教育スタンダード:「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業最終回終了後に提出するレポート(最終回の授業でレポート提出について説明)。レポート100% (特に到達目標2, 3に対応)。授業に出席していないとレポート提出は認められません。また、出席については、毎回、出席カード、ミニレポートで確認します。			
成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 漁業生産を支える瀬戸内海- 1			
第2週 漁業生産を支える瀬戸内海- 2			
第3週 水産廃棄物の有効利用と海域環境改善			

第4週 波浪エネルギー吸収技術と防災への備え
第5週 江戸時代の絵図に見る海岸線の変化-1
第6週 江戸時代の絵図に見る海岸線の変化-2
第7週 江戸時代の絵図に見る海岸線の変化-3
第8週 授業のまとめ（レポート作成）

【授業及び学習の方法】

最初に、本授業の概要を説明し、その後、2名の教員で順番に行います。授業では、参考図書等や参考資料も紹介します。それらを用いて復習をしっかりと行ってください。

【自学自習のためのアドバイス】

授業中に、参考図書や、自分で調べておいて欲しい事などを述べます。それらを参考に授業で取り扱ったトピックについて自学習に取り組んで下さい（6時間）。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

教科書は特に定めない。参考書は授業のなかで紹介する。

オフィスアワー 各授業の担当者により異なるので、授業時間に連絡する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は、欠席せず、連続して聞いてください。受け身にならず、自分から積極的に授業に参加して下さい。この授業は、「瀬戸内海の環境とその保全」と「瀬戸内海の環境の諸問題」をあわせて受講することを奨励します。

教員の実務経験との関連

各回の担当教員はいずれも瀬戸内海の研究を実施しており、その研究内容や経験から講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cdeG-1N-Lg1	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000426)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
国際協力論A Introduction to international cooperation A 国際協力論A (地球規模課題の解決と持続可能な開発目標) Introduction to international cooperation A - Global Issues and Sustainable Development Goals (SDGs)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 尾上 能久	関連授業科目 国際協力論B		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 持続可能な開発目標 (SDGs) この授業では、21世紀の社会の諸課題として、貧困、環境など一国だけでは解決できない課題 (地球規模課題) を取り上げます。特に、2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標 (SDGs)」の概要、ならびにSDGsに挙げられている様々な地球規模課題の例を取り上げ、課題の解決のために我が国をはじめとする国際社会が行っている協力の現状と展望について解説するとともに、それらの問題に対して市民として何が出来るのかを共に考えていきます。			
授業の目的			
この授業は、開発途上国の現状に興味もち、世界が抱える様々な問題 (開発課題) について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的とします。			
到達目標			
1. 開発途上国の現状及び日本との関係を説明することができる。(共通スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」、「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 地球規模課題解決のために国際社会が取り組んでいる持続可能な開発目標 (SDGs) の概要を理解し、様々な問題を解決する方法を自分なりに考えることができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 国際協力の実例を理解することによって、市民として国際協力に参加する足掛かりを作ることができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. SDGs 達成のために我が国や地域社会が取り組むべき問題を調べてその概要を理解し、解決方法を自分なりに考えることができる。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「市民としての責任感と倫理観」、「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の授業時に個人で作成するミニレポート、 (計30%) (到達目標の1～4に対応する) 期末レポート (70%) (到達目標の1～4に対応する)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション (国際協力について学ぶ準備) 第2回 開発途上国の現状 第3回 国際協力の担い手 第4回 持続可能な開発目標 (SDGs) とは。 第5回 青年海外協力隊員体験談 第6回 ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」と国際協力 第7回 ゴール4「質の高い教育をみんなに」と国際協力 第8回 まとめ (45分)			

上記は予定であり、開講時に世界で起きているアドホックな問題に応じて内容を変更する可能性があります。その場合、詳細は最初の授業時に説明します。

【授業及び学習の方法】

1. 授業は講義中心に進めます。
2. 国際協力の実例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している専門家や外国人研修員を招いて話を聞いたり、ディスカッションをすることがあります。（外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当たって英語力は不問とします。）

【自学自習のためのアドバイス】

第2回 開発途上国とは何か。どのような状況なのか。開発途上国1か国について調べておく。

第3回 国際協力とはどういうことか、どんなやり方があるか、どんな方がやっているのか情報を集めて整理しておく。

第4回 持続可能な開発目標について、国連機関やわが国外務省などから情報を集め、17のゴールについて簡単に説明できるよう準備しておく。

第5回～第7回 それぞれのゴールについて内容を調べ、それぞれの課題に関して国際社会が優先して取り組まなければならない問題を授業で発表できるように準備しておく。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。必要の都度資料を配布するほか、参考書等を授業で適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日3時限目（13:00～14:30）、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平成30年度以前開講の「国際協力論 その1（その2）」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

国際協力論A（第3クォーター開講）と国際協力論B（第4クォーター開講）を両方受講することは可能です。

ただし一部内容に重複があります。

毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として取り扱います。

教員の実務経験との関連

担当教員は 国際協力機構職員、パキスタン、スリランカでの勤務経験あり

ナンバリングコード B2THM-cdeG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000427) 国際協力論B Introduction to international cooperation B 国際協力論B (世界の諸地域が抱える課題と国際協力) Introduction to international cooperation B - Regional Development and International Cooperation	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 尾上 能久	関連授業科目 国際協力論A		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回、講義45分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 開発途上国 この授業では、21世紀の社会が抱える諸課題として、特に開発途上国が抱える課題（開発課題）を地域ごとに取り上げ、その解決のために国際社会が行っている協力の事例を解説するとともに、市民としてどのように国際協力に関わっていくことが出来るのかを共に考えて行きます。			
授業の目的			
この授業は、開発途上国、開発途上国と日本の関係、世界の潮流、世界が抱える様々な問題（開発課題）について知識を深めるとともに、国際協力に関する多様な考え方や国際協力の方法を理解し、地球市民としてともに問題の解決に当たる意識を高めることを目的とします。			
到達目標			
1. 世界の各地域が抱える開発課題の概要を知り、課題解決のための具体的な実践例に基づいて、望ましい国際協力のあり方を説明できる。(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 国際協力の事例を理解することによって、市民として国際協力に関する自身の考え方を持つとともに参加する足掛かりを作ることができる。(共通スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 世界が抱える課題を見ることを通して、我が国や地域社会の課題についても気づくことができる。(共通スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の授業時に個人で作成するミニレポート（30%）（到達目標の1～3に対応する） 期末レポート（70%）（到達目標の1～3に対応する）			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】 第1回 オリエンテーション（国際協力について学ぶ準備） 第2回 開発途上地域と国際協力の概要 第3回 地域の課題と国際協力例Ⅰ（東南アジア地域） 第4回 地域の課題と国際協力例Ⅱ（南アジア地域） 第5回 地域の課題と国際協力例Ⅲ（中東・北アフリカ地域） 第6回 地域の課題と国際協力例Ⅳ（アフリカ地域） 第7回 地域の課題と国際協力例Ⅴ（中南米） 第8回 まとめ（45分） 上記は予定であり、開講時に世界で起きているアドホックな問題に応じて内容を変更する可能性があります。その場合、可能な限り早く連絡します。 【授業及び学習の方法】 1. 授業は講義中心に進めます。 2. 国際協力の事例について理解を深めるため、実際に現場で活躍している協力隊員、専門家や外国人研修			

員を招いて話を聞いたり、ディスカッションをすることがあります。（外国人研修員を招く場合の使用言語は英語ですが、受講に当たって英語力は不問とします。）

【自学自習のためのアドバイス】

第2回 開発途上国とは何か、どのように分類されているのか、国際協力にはどのようなスキームがあるのかについて、国連機関やわが国外務省、JICA等のホームページから情報を収集し整理しておく。（60分）

第3回～第7回 それぞれの地域に位置する国々の中から1～2か国を選び、その国の歴史、文化、経済・社会開発状況、重要な開発課題について、調べておく。（各回30分）

教科書・参考書等

教科書は使用しません。必要の都度資料を配布するほか、参考書等を授業で適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日3時限目（13:00～14:30）、他の時間は応相談、メールにて事前連絡のこと。研究室は幸町キャンパス南3号館2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

国際協力論A（第3クォーター開講）と国際協力論B（第4クォーター開講）を両方受講することは可能です。

ただし、一部内容に重複があります。

毎回出席を取ります。15分以上の遅刻は欠席として取り扱います。

教員の実務経験との関連

担当教員は 国際協力機構職員、パキスタン、スリランカでの勤務経験あり。勤務経験やその他の国の滞在経験をもとに開発途上国の現状や国際協力についての講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000428)	主題科目	後期集中	
知プラe科目 太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産 Intelligent greenhouse plant production	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産／Intelligent greenhouse plant production	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 藤内 直道	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 気温, 暖房, 施設生産, 光合成, 植物診断ロボット			
太陽光植物工場は、太陽光エネルギーを最大限に活用して大規模な農作物生産を行う施設であり、気温・湿度・CO2・光強度などの様々な環境要因を制御することで4定(定時・定量・定品質・定価格)の農作物生産を実現します。本講義では、太陽光植物工場における知能的農作物生産を支えるスピーキング・プラント・アプローチ技術(植物診断に基づいた環境制御)をはじめ、環境制御の基礎となる気温・湿度および暖房、植物の最も重要な環境応答である光合成と蒸散について学びます。			
授業の目的			
太陽光植物工場における農作物生産の概略とそれを支える先端的技術について理解する。			
到達目標			
食料生産システムとしての太陽光植物工場の位置づけを理解し、農作物生産の将来像を明確化する。			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①オリエンテーション: 植物工場の概略 (高山) ②光合成と蒸散の基本 (高山) ③生体情報に基づいた環境制御 (高山) ④温室環境制御 1 (藤内) ⑤温室環境制御2 (藤内) ⑥温室環境制御3 (藤内) ⑦温室環境制御4 (藤内) ⑧温室環境制御5 (藤内)			
【授業時間外学習について】 愛媛大学植物工場研究センターのホームページ等を参考にしてください。 http://igh.agr.ehime-u.ac.jp/			
【バリアフリー対応について】 動画中で話したおもな内容をテキストとして記載しているスライド資料 (PDF) あり。動画に字幕あり。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム			

(Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

教員の実務経験との関連

太陽光利用型植物工場に実装可能な植物生体情報計測・活用技術の有償サービス化を行う大学発ベンチャーの設立（国内およびオランダ）とその経営、研究開発に携わった経験を有する教員が、太陽光植物工場における農作物生産に必要な最先端の技術を理解するための授業を行う。

ナンバリングコード B2THM-cabG-10-Le2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000429)	主題科目	後期集中	
知プラe科目 タンパク質で生命を斬る Look Deep into Life through Proteins	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
タンパク質で生命を斬る／Look Deep into Life through Proteins	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目	特になし	
澤崎 達也	履修推奨科目	特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 遺伝子, タンパク質, 遺伝子組換え, バイオ, 光合成			
一般的にタンパク質というと、食物等に含まれるものが知られており、人の健康を維持するために摂取していく栄養素という印象を持つでしょう。実は、タンパク質にはそれ以外にも、大きな人の生命の維持という重要な役目も担っており、このタンパク質の役割を理解すると、これまでは単なる「なぞ」であったものが、より理論的に説明できることに気づくはずです。本科目は愛媛大学プロテオサイエンスセンターに所属する教員が提供する科目であり、最先端のタンパク質に関係する研究に触れながら、タンパク質の力と魅力について伝えていきます。タンパク質をよりもっと身近に感じ、科学の魅力への入り口でもあります。みなさんと議論を展開できることを期待しています。			
授業の目的			
生命現象がどのように営まれているか理解する。			
到達目標			
タンパク質を通して生命の仕組みが説明できる。 問題の発見・解決に取り組むための思考力を身につけることができる。			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】全15回分 ①タンパク質の発現システムを操る (第1回分) 小川 ②バイオの世界を変える技術イノベーション: コムギ胚芽無細胞タンパク質合成法 (第2回分) 澤崎 ③無細胞系を使って膜輸送体タンパク質をつくる (第3回・第4回分) 野澤 ④治療薬の半数は細胞膜受容体を標的とする (第5回・第6回分) 竹田 ⑤光合成のしくみと新エネルギーへの応用 (第7回・第8回・第9回分) 杉浦 ⑥タンパク質の機能を制御し植物の性能をアップ (第10回・第11回) 林 ⑦ウイルスは宿主のタンパク質をハイジャックする (第12回・第13回分) 高橋 ⑧タンパク質の変化でマラリアが薬剤耐性になる (第14回分) 森田 ⑨マラリアは巧みにタンパク質を操って感染する (第15回分) 高島			
【授業時間外学習について】 プロテオサイエンスセンターのホームページ等を参考にしてください。 http://www.pros.ehime-u.ac.jp/			
【バリアフリー対応について】 動画に字幕あり。動画の音声を文字おこしたテキスト資料 (PDF) あり。			

【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/
教科書・参考書等 特になし
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 000430) 知プラe科目 気象学入門 Introduction to meteorology 気象学入門／Introduction to meteorology	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 佐々 浩司	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 気象、天気予報、気象災害			
気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きをシミュレーションや演習実験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などについて解説する。			
授業の目的			
天気の移り変わりにおける大まかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身につける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解する。			
到達目標			
日本における天気の大まかな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握できる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回の講義内容に対する小テスト15回分 40点 ※小テストの詳細については、moodle上の各回の欄にて確認すること。 5回分の内容の理解度を調べるレポート 3 回分 60点 合計100点で評価する。 ただし、毎回の講義内容に対する小テストの受講が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 気象の様々なすがた 2. 天気と気候のとらえかた 3. 気象の時間的空間的な大きさ 4. 大気の気温分布と熱のやりとり 5. 地球規模の流れ 6. 低気圧と高気圧 7. 熱帯低気圧: 台風 8. 風の吹き方、局地的な風 9. 天気図をみてみよう 10. 雲のできかたと雨 11. 豪雨 12. 強風と突風 13. 竜巻とダウンバースト 14. 地球温暖化とは 15. 気候変動と気象災害			
【授業時間外学習について】 毎回の講義内容のまとめを行う。			

【受講の条件】

気象に興味があること。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

参考書1 書名 一般気象学 第2版補訂版
I S B N 978-4-13-062725-2 著者名 小倉義光
出版社 東京大学出版会 出版年 2016
金額 2800円＋税
備考 専門向きでやや高度です。

オフィスアワー 原則としてメールによる問い合わせ。ただし、土日祝日および平日夜10時以降朝6時までのメールは一切受け付けず、破棄します。Moodleのメッセージは見えていません。

sassa@kochi-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくとういいます。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000431) 知プラe科目 昆虫と環境 Insects and Environment 昆虫と環境／Insects and Environment	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 小西 和彦	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 昆虫、分類、多様性、環境			
昆虫は地上のありとあらゆる環境に進出し繁栄しているグループで、身近に目にすることも多いと思います。昆虫類はこれまでに知られている種だけでも約10万種いて、実際には50万種はいるだろうと考えられているくらい種数が多く、全動物の種数のうち80%以上を占めるといわれています。本科目では、このように多様な昆虫についてその特徴を理解し、どうして多様性が増大し得たのかを考えます。そして、その多様性が現在の日本でどのような状態にあるのかを知り、私たちの周りの自然や環境について考えるきっかけとします。			
授業の目的			
昆虫に関する理解を深め、昆虫と環境のかかわりについての知識を習得する。			
到達目標			
地球上で最も繁栄する生物としての昆虫を理解することによって、関心を持つことができる。基本的な昆虫の分類についての知識を修得できる。昆虫類の多様性保全を理解できる。			
(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①昆虫ってどのようなもの? (小西) ②昆虫を分類する。分類とは? (小西) ③昆虫にはどんなものがある? 昆虫の目 (もく) 1 (小西) ④昆虫にはどんなものがある? 昆虫の目 (もく) 2 (小西) ⑤昆虫コレクションの紹介-愛媛大学ミュージアム・ツアー (吉富) ⑥絶滅危惧種-多様性の損失 (吉富) ⑦外来種-多様性を脅かす存在 (吉富) ⑧昆虫の保護と保全-多様性を守ること (吉富)			
【授業時間外学習について】 以下のホームページや愛媛大学ミュージアムの展示等を参考にしてください。 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室 http://web.agr.ehime-u.ac.jp/~entomology/index.html 日本昆虫分類学会 https://sites.google.com/site/jjsystem/ 愛媛大学ミュージアム https://www.ehime-u.ac.jp/overview/facilities/museum/			

【バリアフリー対応について】

動画の音声を文字起こしたテキスト資料（PDF）あり。動画に字幕あり。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

教員の実務経験との関連

吉富は民間企業で環境アセスメント等に伴う環境調査の実務経験があり、その経験を生かして様々な環境問題や環境法、保護・保全の実情について講義する。

ナンバリングコード B2THM-cbeG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000432)	主題科目	2Q集中	
知プラe科目 人工魚礁の開発と環境保全 Development of Artificial Reefs and Environmental Conservation	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbe	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
人工魚礁の開発と環境保全／ Development of Artificial Reefs and Environmental Conservation	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 数学?、海域環境マネジメント		
末永 慶寛	履修推奨科目 数学?、海域環境マネジメント		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習 (準備学習15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】人工魚礁, 流動制御, 環境改善, 資源生産力			
我が国沿岸海域における水産資源生産力の向上のための施設として、様々な人工魚礁が開発されてきた。本講義では、人工魚礁開発の歴史と人工魚礁の有すべき水産資源生産力向上および環境改善機能について、実海域における具体例を挙げながら解説する。			
授業の目的			
主に瀬戸内海を中心として、人工魚礁の開発にまつわる歴史、求められる機能、設計コンセプトおよび実海域における生物資源増大に資する効果に関する知識を得ることが本授業の目的である。			
到達目標			
本講義を受講することにより、以下の項目を説明できる。 1. 人工魚礁の歴史、役割 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 人工魚礁の流動制御機能 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 人工魚礁の実海域における生物資源生産力向上効果 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. 地場産業との共同研究による技術の実用化 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 5. SDGs 目標 14「海の豊かさを守ろう」 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
4回の小テストを計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの受験 (提出) 回数が3回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)、人工魚礁開発の歴史 2. 人工魚礁の安定性 3. 人工魚礁の流動制御機能 4. 人工魚礁の生物増集機能 5. 人工魚礁の藻場造成機能 6. 人工魚礁の環境改善機能			

7. 大学と地場産業との連携による実用化の事例

8. 期末レポート

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【授業時間外学習について】

第1回 人工魚礁に関する機能、実施例等を事前に調べておく。（準備学習2時間、事後学習2時間）

第2回 人工魚礁の安定性について、海底設置後の評価方法を調べておく。（準備学習2時間、事後学習2時間）

第3回 人工魚礁の流動制御機能について、評価方法、実施例を調べておく。（準備学習2時間、事後学習2時間）

第4回 人工魚礁の生物増集機能について、海底設置後の効果について調べておく。（準備学習2時間、事後学習2時間）

第5回 人工魚礁の藻場造成機能について、藻場の重要性の理解と情報収集をしておく。（準備学習2時間、事後学習2時間）

第6回 人工魚礁の環境改善機能について、実海域で効果を検証した事例を調べておく。（準備学習2時間、事後学習2時間）

第7回 人工魚礁の実用化の事例について、事前に調べておく。（準備学習2時間、事後学習2時間）

第8回 期末レポートについて、講義全般を通じて取り組んだ課題と内容について復習しておく。（準備学習1時間、事後学習1時間）

教科書・参考書等

参考書（自主学習用で必ずしも購入の必要はない）：閉鎖生態系・生態工学ハンドブック(2015)，大政，竹内ら，監修，アドストーリー発行，丸善出版，ISBN978-4-904419-57-1 ￥5,060（税込）

オフィスアワー 時間：火曜日4時限目，木曜日2時限目

場所：林町キャンパス2棟5階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(suenaga.yoshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

教員の実務経験との関連

建設業，コンサルティング，サービス業等の実務経験を有し，その経験を活かして構造物の設計，施工，環境影響評価および実用化に至る「ものづくり」の基礎を教育している。

ナンバリングコード B2THM-cbxG-10-Le2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000433)	主題科目	後期集中	
知プラe科目 知の探訪 Guidance of Human Intelligence 知の探訪／Guidance of Human Intelligence	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 金西 計英	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 徳島大学、研究、科学技術			
大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。			
授業の目的			
大学に入ると、それまでの高校とは、全く異なった学びの方法を身につけなければなりません。とくに、大学では「研究する」ということが、学びの中心に据えられます。いきなり「研究する」ことを要求されても、戸惑うことも多いと思います。そこで、大学における学びを学ぶため、皆さんと一緒に大学において「研究する」とは何なのかを考えていきたいと思います。皆さんが、大学での学びをスムーズに始めるための、導入役目を果たしたいと考えています。			
到達目標			
徳島大学の特徴について理解し説明できる 研究分野の多様性について理解し説明できる 研究と呼ばれる活動がどのようなものであるか説明できる 大学における自らの学習目標と研究の関連性について理解し説明できる			
(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末に定期試験 (レポート) を実施し、成績評価をおこないます。ただし、本授業はe-ラーニング形態ですので、各回に課題が出ます。各回の課題の提出状況は、成績評価に反映します、また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の資料として用います (各回の課題が 5 回以上未提出の場合は成績判定の対象として扱いません)。さらに、毎週定期的に教材にアクセスせず、定期試験の直前にまとめて視聴するといった振る舞いが認められた場合、成績評価に反映します (低い評価となる、あるいは、評価対象とならないといったことがあります)。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
①金西計英・高等教育研究センター「ガイダンス」 野地澄晴・徳島大学学長「徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学」 ②高石喜久・徳島大学副学長「ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう」 ③金山博臣・大学院医歯薬学研究部「手術治療の新たな展開:ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術」 梶龍兒・大学院医歯薬学研究部「ウィリアムオスラー医の心」 ④玉置俊晃・大学院医歯薬学研究部「薬と健康食品」 井本逸勢・大学院医歯薬学研究部「ヒトの遺伝学入門」 ⑤二川健・大学院医歯薬学研究部「宇宙食開発はおもしろい!? ～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～」 ⑥吉永哲哉・大学院医歯薬学研究部「先端数理に基づく画像診断・治療装置」 ⑦吉本勝彦・大学院医歯薬学研究部「内分泌腺の腫瘍化機構」 ⑧大高章・大学院医歯薬学研究部「創薬のすすめ」			

- ⑨豊田哲也・大学院社会産業理工学研究部「人文社会科学における仮説と検証とはなにか？」
⑩親泊政一・先端酵素学研究所「小胞体ストレス応答と糖尿病」
⑪荒木秀夫・教養教育院「“知性”を育む“運動”の学習とトレーニング」
⑫辻明彦・大学院社会産業理工学研究部「知ってるようで知らない酵素の不思議」
⑬安井武史・大学院社会産業理工学研究部「生体コラーゲン顕微鏡」
⑭原口雅宣・大学院社会産業理工学研究部「我々の生活を変えた青いLEDについて」
⑮依岡隆児・大学院社会産業理工学研究部「比較文化入門～複眼のススメ」
⑯定期期末試験(レポート)

【授業時間外学習について】

講義後に関連する事項について復習する

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム

(Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします

e-mail: arukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください（e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています）。高度な自律性が求められることを理解した上、本科目を履修するようにしてください。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lx1		科目区分 主題科目	時間割 2023年度 1Q木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000701)		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
防災リテラシー養成講座(災害を知る)A Disasters Literacy Education A 防災リテラシー養成講座(災害を知る)A Disasters Literacy Education A		授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 井面 仁志		関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
		履修推奨科目 防災リテラシー養成講座(第2クオーター) 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習(事前15時間, 事後15時間)				
授業の概要				
本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ2・後期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。				
授業の目的				
日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためにはまず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。				
到達目標				
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 本講義とQ2・第2学期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。				
成績評価の方法と基準				
毎週のレポート(約40%:主に到達目標1・2に該当)と期末試験(約60%:主に到達目標1・2・3に該当)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。				
【授業計画】 第1週 ガイダンス:防災士を目指そう(防災士の役割) 第2週 近年の自然災害に学ぶー災害現場からの教訓ー 第3週 地震・津波災害と対策 第4週 火山噴火のしくみと被害 第5週 風水害と対策 第6週 土砂災害と対策				

第7週 防災気象情報の知識と活用－公的機関による予警報－

第8週 期末テスト（45分）と火災と防火対策（45分）

なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。

【自学自習に関するアドバイス】

講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。

第1週 防災士の活動や資格の意義，必要性について防災士教本を確認する（4時間）

第2週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第3週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第4週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第5週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第6週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第7週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第8週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う・防災士教本及び各講義の資料を確認する（4時間）

【講義方法】

本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。

なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。

教科書・参考書等

教科書：日本防災士機構編集発行「令和4年度防災士教本」（頒布価格：3500円）

（受講者は必ず購入すること）

テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00－16：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。

平成30年度開講の「防災リテラシー養成講座（災害を知る）その1」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

防災・危機管理の実務経験を有する香川県内の行政、企業の担当者がオムニバス形式で講義。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 000702)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 2Q木5	対象年次 1～
防災リテラシー養成講座(災害を知る)B Disasters Literacy Education B 防災リテラシー養成講座(災害を知る)B Disasters Literacy Education B	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局 : 大教センター DPコード : ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 井面 仁志	関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習	授業形態 講義	単位数 1
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座(第1クオーター) 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習(事前学習15時間・事後学習15時間)			
授業の概要 本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ1・後期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的 日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためにはまず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 本講義とQ1・第2学期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎週のレポート(約40%:主に到達目標1・2に該当)と期末試験(約60%:主に到達目標1・2・3に該当)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 地震に関する知見・情報 第2週 災害報道—災害情報の入手・発信と流言・風評— 第3週 災害とライフライン 第4週 災害と交通インフラ—四国の防災対策— 第5週 行政の災害対応—香川県の防災対策— 第6週 先人の教えに学ぶローテク防災術			

第7週 都市防災

第8週 まとめと修了式（45分）試験（45分）

なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。

【自学自習に関するアドバイス】

講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。

第1週 近年発生したい地震災害について調査し、確認しておく（4時間）

第2週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第3週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第4週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第5週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第6週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第7週 防災士教本の該当箇所を確認して事前課題を行う（4時間）

第8週 期に行われた講義の防災士教本の該当箇所を確認する。講義資料を確認する（4時間）

【講義方法】

本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。

なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。

教科書・参考書等

教科書：日本防災士機構編集発行「令和4年度防災士教本」（頒布価格：3500円）

（受講者は必ず購入すること）

テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00－16：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。

平成30年度開講の「防災リテラシー養成講座（災害を知る）その2」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

防災・危機管理の実務経験を有する行政、企業の担当者によるオムニバス形式の講義。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-1N-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000703)	主題科目	1Q集中	
知プラe科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編 History and Culture of Shikoku area first period	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
四国の歴史と文化 その1 (歴史編) /History and Culture of Shikoku area first period(History)	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 守田 逸人, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の歴史と文化 その2 文化編		
	履修推奨科目 四国の歴史と文化 その2 文化編		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要			
【キーワード】四国、瀬戸内海、香川県、歴史 四国の歴史・文化について講義する。各回では、四国で活躍した人々の事績や、都と四国との結びつき、四国に残された遺跡・史跡など、四国の歴史に関わるテーマを取り上げる。			
授業の目的			
四国の各大学に在籍する自分が暮らす地域の歴史について知識を得ることができる。また、現代的課題でもある四国地域と京阪神地域との結びつきなどについて、理解を深めることもできる。 本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高めるとともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目的である。			
到達目標			
1. 四国地域の「歴史と文化」についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解し、地域社会の将来について考えることができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
ガイダンスを除く授業7回分(各6点満点)と期末レポート課題(1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ① ガイダンス (授業概要、受講方法等について) 平安末阿波武士と仏教文化 (大石 雅章/鳴門教育大学) ② 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(1) (田中健二 /香川大学教育学部) ③ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(2) (田中健二 /香川大学教育学部) ④ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(3) (田中健二 /香川大学教育学部) ⑤ 中世の瀬戸内海水運(1) (田中健二 /香川大学教育学部) ⑥ 中世の瀬戸内海水運(2) (田中健二 /香川大学教育学部) ⑦ 阿波商人の活躍と江戸時代の経済 (桑原恵/徳島大学総合科学部) ⑧ 期末レポート (オンライン)			
【自学自習について】 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。			
【授業時間外学習について】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課している。しっかり復習してから小テストを受験すること。			
教科書・参考書等			
特に指定しない。			
オフィスアワー 特に設けない。電子メール (rekishil-c@kagawa-u.ac.jp) を利用すること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義はフルオンデマンドで実施されるため、講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

また、受講方法の詳細については第1回（ガイダンス）で説明しているので必ず視聴すること。
各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的に学習に努めること。

平成30年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1		科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000704)		主題科目	2Q集中	
知プラe科目 四国の歴史と文化 その2 文化編 History and Culture of Shikoku area second period		水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
四国の歴史と文化 その2 (文化編) / History and Culture of Shikoku area second period (Culture)		授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 渡邊 史郎, 林 敏浩, 藤本 憲市		関連授業科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編		
		履修推奨科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+ 自学自習 (準備学習10時間+ 事後学習20時間)				
授業の概要				
【キーワード】四国、文化、漢文、文学、方言学 四国の文化について講義する。各回では、四国に関わる文学作品などに関わるテーマを取り上げる。				
授業の目的				
四国の風土や歴史に関わる文学や方言についていくらかの知識を得ることで、自らが暮らす地域について深く知るきっかけをつくることは重要である。本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高めるとともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目的である。				
到達目標				
1. 四国地域の文化についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 3. 四国地域の課題を文化的観点からとらえて再考すること出来る。(共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準				
授業毎の小テスト (7回: 各6点満点) と期末レポート課題 (1回: 58点満点) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。またレポートに剽窃が認められた場合も「不可」となる。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 1 ガイダンス、四国の文化に向けて (渡邊史郎/香川大学教育学部) 2 四国の万葉集と古代史 (田中省造/四国大学文学部) 3 讃岐における崇徳院と西行の物語——『雨月物語』「白峯」を中心に—— (北原圭一郎/香川大学教育学部) 4 石碑の持つ意味——屋島の石碑を題材に—— (池田恭哉/香川大学教育学部) 5 物理学者・寺田寅彦の文学 (永橋 禎子/高知県立文学館) 6 黒島傳治と壺井栄におけるプロレタリア文学の側面 (渡邊史郎/香川大学教育学部) 7 愛媛を歩く——方言の旅—— (清水史/愛媛大学法文学部) 8 期末レポート (オンライン)				
※各回の担当者の所属については、コンテンツ収録当時のものです。				
【自学自習のためのアドバイス】 受講方法の詳細については第1回 (ガイダンス) で説明しているので必ず視聴すること。 …… 7 までのコンテンツを視聴したのち、各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的				

に学習に努めること。以下に自学自習のための目安の時間を記すが、これはあくまで目安であって、各自の力量に即して理解を深めて欲しい。

- 1 ガイダンス、四国の文化に向けて…… 3 時間
- 2 四国の万葉集と古代史…… 4 時間
- 3 讃岐における崇徳院と西行の物語…… 4 時間
- 4 石碑の持つ意味——屋島の石碑を題材に——…… 4 時間
- 5 物理学者・寺田寅彦の文学…… 4 時間
- 6 黒島傳治と壺井栄におけるプロレタリア文学の側面…… 4 時間
- 7 愛媛を歩く——方言の旅——…… 4 時間
- 8 期末レポート…… 1 5 時間

期末レポートについては、第1回のレポートに関するガイダンスをよく理解して取り組むこと。特に、どのようなものが剽窃に当たるかを厳密に理解して取り組むこと。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。

また、科目によって受講制限をかける場合がある。

なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。

期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特に指定しない。

オフィスアワー 特に設けない。Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム等）や第1回（ガイダンス）で通知するメールアドレスを活用すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。

・2018年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できません。

教員の実務経験との関連

講師陣には、地域の文学館に勤務の方が含まれている。したがって、地域における文化政策の方向性についても参考になるだろう。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000705)	主題科目	3Q集中	
知プラe科目 四国の地域振興 その1 Local Development of Shikoku area first period	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
四国の地域振興 その1 (Local Development of Shikoku Area first period)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の地域振興 その2		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 四国、地域振興、地場産業、地方制度			
四国における地域振興の取組みを以下の側面から講義します。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えていきます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。瀬戸内国際芸術祭などが事例に取り上げられます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えていきます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探るという観点で授業を実施します。			
授業の目的			
地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うことができるようになる。			
到達目標			
(1) 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 (2) 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる。			
(1)～(2)の到達目標は、共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」・「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準			
各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする (到達目標 (1)、(2) に対応)。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満の場合は得点に関わらず不可とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
講義コンテンツの全面的な更新を計画しているので、一部の授業回の内容が変更になる場合がある。その場合、第1回目のガイダンスで説明するので注意されたい。			
【授業計画】			
(1) ガイダンス: 「四国の地域振興 その1」で何を学ぶか?			
(2) 讃岐のハマチ養殖と野網和三郎 (嶋野勝路 (全国海水養魚協会会長))			
(3) 讃岐うどん (香川政明 (さぬき麺業社長))			
(4) 香川の手袋産業 (原直行 (香川大学))			
(5) 香川の石材産業 (西成典久 (香川大学))			
(6) 高知の林業と製造業 (石筒覚・霜田博史 (高知大学))			
(7) 四万十の今と昔 (原直行 (香川大学))			
(8) 動画による地域のPR (林敏浩 (香川大学))			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
※担当教員の所属はコンテンツ収録時のものです。			

【学習の方法】

e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS（Learning Management System）にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、オンラインレポート提出）を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。
各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となりますが、所定の日（詳細はガイダンス等を参照）までに登録が完了していない場合は履修を許可しません。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけてください。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を視聴してください。

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】2018年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000706)	主題科目	4Q集中	
知プラe科目 四国の地域振興 その2 Local Development of Shikoku area second period	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
四国の地域振興 その2 (Local Development of Shikoku Area second period)	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 四国の地域振興 その1		
林 敏浩, 藤本 憲市	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
【キーワード】 四国、地域振興、地場産業、地方制度			
四国における地域振興の取組みを以下の側面から講義します。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えていきます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。瀬戸内国際芸術祭などが事例に取り上げられます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えていきます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探るという観点で授業を実施します。			
授業の目的			
地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うことができるようになる。			
到達目標			
(1) 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 (2) 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる。			
(1)～(2)の到達目標は、共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」・「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準			
各回の課題 (8回:各最高10点)と最終課題 (1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合格とする(到達目標 (1)、(2)に対応)。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満の場合は得点に関わらず不可とする。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
講義コンテンツの全面的な更新を計画しているので、一部の授業回の内容が変更になる場合がある。その場合、第1回目のガイダンスで説明するので注意されたい。			
【授業計画】			
(1) ガイダンス:「四国の地域振興 その2」で何を学ぶか? (2) 文化力とまちづくり (竹内守善 (香川大学非常勤講師)) (3) 地域振興とメディア (林敏浩 (香川大学)) (4) アートとエコツーリズム (石井亨 (香川大学非常勤講師)) (5) 共同体の崩壊 (石井亨 (香川大学非常勤講師)) (6) 四国四県の政治経済の歴史 (八幡和郎 (徳島文理大学)) (7) 地域へのイベント誘致 (林敏浩 (香川大学)) (8) コロナ禍と地域 (林敏浩 (香川大学))			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
※担当教員の所属はコンテンツ収録時のものです。			

【学習の方法】

e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS（Learning Management System）にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、オンラインレポート提出）を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。
各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となりますが、所定の日（詳細はガイダンス等を参照）までに登録が完了していない場合は履修を許可しません。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけてください。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を視聴してください。

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのものの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】2018年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000707)	主題科目	3Q集中	
知プラe科目 四国の自然環境と防災 その1 Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area first period	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
四国の自然環境と防災 その1/ Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area first period	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要			
四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探す旅に出よう。地形が物語る壮大な四国形成史のドラマ。豪雨地帯と乾燥地帯の同居する島に生きる人々の水資源を求める知恵のかずかず。瀬戸内の自然環境の魅力と里海再生のとりくみ。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的			
四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 四国の自然を地球誌の中にとらえ直す視点の転換を体験する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 四国の自然から魅力を見出し、地域社会に活かせるようになる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業毎の小テスト (7回:各6点満点、特に到達目標1と2に対応) と期末レポート課題 (1回:58点満点、特に到達目標3に対応) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1部: 四国の自然環境 (1) ガイダンス・ため池の歴史 黒川義夫 (前香川県農政水産部) (2) 四国の河川環境と暮らし・防災 古田昇 (徳島文理大学文学部教授) (3) 四国の気候と水資源 寺尾徹 (香川大学教育学部教授) (4) 讃岐の地形と地質の面白さ 長谷川修一 (香川大学工学部教授)			
第2部: 瀬戸内海の環境 (5) 四国の国立公園の魅力 齋藤倫実 (環境省高松自然保護官事務所自然保護官) (6) 瀬戸内海の浅海環境の抱える問題 多田邦尚 (香川大学農学部教授) (7) 森里川海を繋ぐ里海づくり 田中丈裕 (NPO里海づくり研究会議事務局長) (8) 期末レポート			
※授業内容は諸事情により変更になることがあります。			
【授業時間外学習について】			
次回のテーマを念頭に、自分の興味に引き付けて文献、資料等にあたってみよう (準備学習2時間) e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課している			

す。しっかり復習してから小テストを受験してください（事後学習2時間）。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 電子メール（shizen-c@kagawa-u.ac.jp）を利用してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

中央省庁や地方自治体等の実務経験のある教員が、地域の自然環境の保全等に取り組んできた実務経験をもとに、瀬戸内地域の自然環境の考察力を身につけるための教育を行っている。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000708) 知プラe科目 四国の自然環境と防災 その2 Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area second period 四国の自然環境と防災 その2 / Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area second period	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 4Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探す旅に出よう。地球最大級のプレート境界型地震・東南海・南海地震の危険が迫る太平洋岸。それとたたかおうと立ち上がる地域の力。自然の営みと人間の関わり方の新たな模索。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的 四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせるようになる。			
到達目標 1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 四国の自然の循環と災害のメカニズムを正確に理解する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 四国が直面する豪雨や地震などに伴う災害の脅威に正しく対処できるようになる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト (7回:各6点満点、特に到達目標1と2に対応) と期末レポート課題 (1回:58点満点、特に到達目標3に対応) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第3部: 災害に備える (1) ガイダンス・子どもぼうさい探検隊を通じた防災教育活動 片岡信彦 (日本損保協会) (2) 四国の大地の成り立ちから学ぶ自然災害 西山賢一 (徳島大学総合科学部准教授) (3) 先人の教えに学ぶ—四国防災88話— 松尾裕治 (JACIC四国地方センター) (4) 災害と交通インフラ—四国の防災対策— 植松真二 (国土交通省四国地方整備局総括防災調整官)			
第4部: 持続可能な自然と社会 (5) ジオパークは人を幸せにできるのか 柚洞一央 (徳山大学経済学部准教授) (6) 持続可能な社会づくりのための環境教育① 小林修 (愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター・准教授) (7) 持続可能な社会づくりのための環境教育② 同上 (8) 期末レポート			
【授業時間外学習について】 次回のテーマを念頭に、自分の興味に引き付けて文献、資料等にあたってみよう (準備学習2時間) e-e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください (事後学習2時間)。			

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 電子メール（shizen-c@kagawa-u.ac.jp）を利用してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

中央省庁や地方自治体、民間団体等の実務経験のある教員が、地域の防災等に取り組んできた実務経験をもとに、瀬戸内地域の防災に係わる考察力を身につけるための教育を行っている。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000709)	主題科目	2Q集中	
知プラe科目 香川の文化と歴史 Culture and History of Kagawa	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
香川の文化と歴史 (Culture and History of Kagawa)	分野 主題	DPコード: ecb	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
藤本 憲市, 山田 香織	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回 + 自学自修 (事前学修 16時間 + 事後学修 16時間)			
授業の概要			
香川の地域特性のひとつとして、瀬戸内海とこれにまつわる生活環境や文化を挙げることができる。本科目では、瀬戸内海地域に焦点を絞り、歴史と生活・習俗について概観する。毎回、各分野・地域の専門家が文化と歴史にまつわるトピックについて講義をおこなう形式ですすめていく。			
授業の目的			
瀬戸内地域を中心とした香川に関する知見を深めるとともに、同地域が抱える課題とその解決に向けた取り組みの形態について理解することを目的とする。			
到達目標			
瀬戸内地域を中心とした香川の地域的特徴と課題について説明ができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」, 「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」, 「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
各回の小テストおよび期末レポートにより評価する。 配点: 109点満点 (小テスト64点 (各8点×8回) + 期末レポート45点) 。 合格基準: 109点満点を100点満点に換算した上で60点以上を合格とする。 なお、小テスト未受験回数が3回以上の受講生には、期末レポートの提出資格を与えない。期末レポートを提出しても評価対象としない。 すべての小テスト及び期末レポートはMoodle (LMS) を用いてオンラインで実施する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス、香川の歴史 第2回 景観論の観点から瀬戸内地域を概観する 第3回 香川における文化振興の現状を理解する 第4回 離島と離島振興について理解する 第5回 香川の島々と瀬戸内国際芸術祭 第6回 伊吹島の事例 第7回 瀬戸内の漁労文化と島の暮らし 第8回 魚食文化について ※ 授業構成の関係上、授業内容が変更・前後することがあります。もし変更する場合は第1回ガイダンスで案内します。詳しい受講方法 (小テストの受験の仕方、受験期間、配信映像の視聴期間等) についてはmoodle内の本科目ページにて説明をしています。受講にあたっては、必ずそちらも一読してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) 上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ (https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/) に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。			
【授業時間外学習について】			

1. 事前学修として、香川県に關係する歴史的な出来事について文献等により調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(計4時間)
2. 事前学修として、瀬戸内海の景観について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(計4時間)
3. 事前学修として、香川県にまつわる文化について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(計4時間)
4. 事前学修として、香川県の離島について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(計4時間)
5. 事前学修として、瀬戸内国際芸術祭について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(計4時間)
6. 事前学修として、伊吹島について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(計4時間)
7. 事前学修として、瀬戸内における漁労の現状について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(計4時間)
8. 事前学修として、香川県における魚食の特徴について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。更に、第1-7回の授業内容を総復習するとともに期末レポートを作成する。(計4時間)

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー フルオンデマンド授業のため、オフィスアワーは設定しない。
Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム等)にて問い合わせをすること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講及び期末試験の受験(レポート提出)はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。

本授業内容に関する問い合わせは以下のメールアドレスに送付してください。
kgw-br-c@kagawa-u.ac.jp

2018年度以前に「香川の文化と歴史」(2単位)を単位修得している場合は履修できない。
2019, 2020年度に「香川の文化と歴史 その1」、「香川の文化と歴史 その2」のうち少なくともいずれかの単位を修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

本科目はオムニバス形式の授業であり、半数以上の授業回を実務経験のある講師(地方公共団体公務員、学芸員等)が担当している。画像や映像、資料等を多用しながら、それぞれの現場での近年の実践事例や調査研究の成果を提示している。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-10-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000710)	主題科目	3Q集中	
知プラe科目 香川を学ぶ Studies on Kagawa Region	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
香川を学ぶ (Studies on Kagawa Region)	分野 主題	DPコード: ecb	特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目		
藤本 憲市, 林 敏浩	履修推奨科目		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自修 (準備学修15時間+事後学修15時間)			
授業の概要			
香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、四国遍路、栗林公園、伝統食、離島、及び水問題の一端を紹介する。			
授業の目的			
香川県 (讃岐地方) にまつわる歴史、文化、伝統、地域社会、及び環境に関する課題を理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになることが本授業の目的である。			
到達目標			
1. 讃岐地方の歴史、文化、伝統を理解できる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 地域社会や環境に関する現状について説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 地域社会や環境面での課題を探究し、その解決策を提示できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
小テスト7回50点 (特に到達目標 1 に対応) , 期末レポート50点 (特に到達目標2及び3に対応) により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出 (受験) していない場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. ガイダンス (授業概要等) , 四国遍路の歴史 2. 讃岐の札所と遍路道 3. 近世の讃岐国における遍路の実態 4. 栗林公園の美と歴史 5. 讃岐の伝統食 6. 香川の離島の魅力 7. 香川の水を考える 8. 期末レポート ※ 諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。もし変更になる場合は第1回ガイダンスにて案内します。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) 上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ (https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/) に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。			
【自学自修のためのアドバイス】 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。			

1. 事前学修として、弘法大師について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）
2. 事前学修として、香川県にある札所（寺院名）について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）
3. 事前学修として、中世における遍路について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）
4. 事前学修として、大名庭園について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）
5. 事前学修として、近世における本州と四国の間の交通網について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）
6. 事前学修として、観光の定義について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）
7. 事前学修として、自身の出身地の特産物や伝統食について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。（事前学修2時間、事後学修2時間）
8. 事前学修として第1-7回の授業内容を復習し、授業時間と事後学修時間を利用して期末レポートを作成する。（事前学修1時間、事後学修1時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー フルオンデマンド授業のためオフィスアワーは設定しない。
質問の際は、電子メール（kgw01-c@kagawa-u.ac.jp）を利用すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、MoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。

2018年度以前に「香川を学ぶ（2単位）」の単位を修得している場合は履修できない。
2019?2022年度に「香川を学ぶ その1」、「香川を学ぶ その2」のうち少なくともいずれかの単位を修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lx2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000801)	主題科目	後期末5	
防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) Disasters Competency Education	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	
防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) Disasters Competency Education	授業形態 講義	単位数 2	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 井面 仁志, 中島 美登子, 黒田 泰弘	関連授業科目 防災リテラシー養成講座(災害を知る) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座(災害を知る)		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義と1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的			
日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 本講義と第1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎週のレポート(約40%:特に到達目標1・2に対応)と期末試験(約60%:特に到達目標1・2・3に対応)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス 被害想定とハザードマップ 第2週 防災訓練ー災害イメージ訓練ー 第3週 避難と避難行動 第4週 事業継続計画と地域継続計画 第5週 耐震診断と耐震補強			

第6週 身近でできる防災対策
第7週 災害復旧と支援制度－高松市の防災対策－
第8週 避難所の運営と仮設住宅の暮らし
第9週 緊急救助技術を身につける
第10週 災害医療
第11週 地域の防災活動
第12週 災害とボランティア活動
第13週 惨事ストレスと心のケア
第14週 災害と損害保険
第15週 災害と危機管理、修了式

なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。

【自学自習に関するアドバイス】

講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。

第1週 居住地域のハザードマップ等を確認する（4時間）
第2週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第3週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第4週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第5週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第6週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第7週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第8週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第9週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第10週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第11週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第12週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第13週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第14週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）
第15週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）

【講義方法】

本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。

なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。

教科書・参考書等

教科書：日本防災士機構編集発行「令和4年度防災士教本」（頒布価格：3500円）
（受講者は必ず購入すること）
テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00－16：00）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。

教員の実務経験との関連

防災・危機管理の実務経験を有する香川県内の行政、企業の担当者によるオムニバス形式の講義。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Ep2		科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000802)		主題科目	前期火2	
地域活動 Activity in the region		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	
地域活動(Activity in the region)				
		授業形態 演習 PBL	単位数 2	
担当教員名		関連授業科目 「四国の歴史と文化」「四国の地域振興」		
平 篤志, 青山 夕夏		履修推奨科目		
学習時間 講義90分×3 回+実習 (45時間以上) +発表会+自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 5時間)				
授業の概要				
地域活動に参加し, 生涯学習社会と持続可能社会の構築のあり方を実践的に学ぶ。				
授業の目的				
地域活動に参加し, 地域について理解を深める。 地域社会を理解し, 課題探求する能力を高めるとともに課題の解決について考える。 地域社会に貢献することを通して, 倫理観を養うとともに市民が社会で果たす役割を学ぶ。 生涯学習社会と持続可能社会の構築に関わる学習を実践的に行うことを目的とする。				
到達目標				
1. 地域活動に参加し, 地域に関する関心と理解力を高め, 実際に地域社会に貢献ができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「市民としての責任と倫理観」に対応)。 2. 地域活動の体験をもとに, 生涯学習社会と持続可能社会の構築に関わる実践的な学習の意義を説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。				
成績評価の方法と基準				
授業開始時の講義を受講し, その後指定する期間中に延べ45時間以上の活動に参加する。また, 指定の期日までに「地域活動の記録」 (活動日誌) および中間・最終レポートを提出し, 活動内容を発表会で報告する。成績配分の目安: 授業への取り組み (地域活動, 日誌作成, 発表会を含む) 60% (特に, 到達目標の1に対応), 中間レポート10% (特に到達目標の1に対応), 最終レポート30% (特に到達目標の2に対応)。なお, 2月まで活動が続くため, 成績は後期授業のそれと同時期に発表する。				
成績評価の基準				
成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
地域活動期間中は, 活動日誌に活動内容を記録し, 活動途中と活動終了後にレポートを作成し, 活動報告 (発表会) を行う。 この科目は, 地域での実践を重視するため基本的に対面で授業を行う。				
第1回: ガイダンス, 授業の概要説明と個別プロジェクトの紹介 第2回: ボランティアについて考える (講義), 参加プロジェクト選択 (遠隔・対面併用) 第3回: ボランティアについて考える (講義), 参加プロジェクト決定 (遠隔・対面併用) 第4回: 第5回: 第6回: 第7回: 第8回: 第9回: 第10回: 第11回: 第12回: 第13回: 第14回:				
各プロジェクトで地域活動を実施				

屋島プロジェクト（JR屋島駅と屋島を中心にした地域活動の実践）
音楽プロジェクト（地域での音楽会開催を中心にした地域活動の実践）
第15回：最終発表会

10月中：活動の進行状況に関する中間レポート提出
2月：最終レポート提出，活動内容に関する合同発表会

講義担当:平 篤志

プロジェクト（予定）一覧（担当者：プロジェクト名）
・平 篤志：JR屋島駅を核とした屋島プロジェクト
・青山夕夏：地域の音楽プロジェクト

自学自習のためのアドバイス

事前・事後学習として，期間中，授業中紹介のあった，あるいは自身で探した地域活動に関する内外の文献を読み，地域活動の意義について考える。また，地域でどのような行事や活動が行われているか，新聞やテレビ等の報道に随時注意を払うようにする。

第1～3回：関連文献を探す（12時間）

第4～8回：関連文献を読み込み，宿題になった文献については，批評の準備をする（18時間）

第7～14回：引き続き関連文献を収集し，読み込む。屋島プロジェクト，音楽プロジェクトそれぞれで実践活動を行いつつ地域活性化策について考察し，最終発表会につなげる（30時間）

教科書・参考書等

教科書は使用しない。参考書等については，授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00（平研究室：教育3号館4階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので，社会の基本ルールを十分に守ること。受講には，学研災および学研賠への加入が求められる。また，科目の性格上，受講希望者数が各教員プロジェクトの受け入れ人数の合計を上回った場合は，抽選を行う。

教員の実務経験との関連

平，青山とも附属学校（中学校・特別支援学校）での校長経験を有し，地域と学校ほか各種団体の連携について実践的な知見をもっている。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lp2	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000803)	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
キャリアデザインと地域貢献A Career Design and Regional Contributions A	授業形態 講義 PBL	単位数 2	
キャリアデザインと地域貢献A Career Design and Regional Contributions A			
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B		
	履修推奨科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B		
学習時間 授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間+事後学習30時間）			
授業の概要			
本授業は、地域や全国的に活躍する企業をお招きし、業界や企業（団体）の業務を知るとともに、その企業（団体）の抱える課題に対し、学生がチームで課題解決をするという内容です。最後にグループごとのプレゼンテーションも体験してもらいます。学生は、最初に自身の基礎力をアセスメントした結果をもとに目標を決めます。授業後に振り返ることでその後の学生生活の設計に役立てる内容です。			
授業の目的			
本授業では、学生のみなさんが社会の変化に対応し、主体的に行動する力を身につけることを目的とします。具体的には、学生の皆さんが日本や地域及び企業の現状を知り、SDGsなどの観点から課題を発見し、それに対する解決方法を他者と協働しながら模索することを通して、今後の社会を生きぬく力を身につける支援をします。			
到達目標			
①地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。（「地域に関する関心と理解力」に対応） ②論理的な仮説を立てることができ、考えを具体的な行動へと移すことができる。（「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） ③課題解決の方法をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ④社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。（「市民としての責任感と倫理観」に対応）			
成績評価の方法と基準			
授業への取り組み態度及び各回提出のポートフォリオ(20%)「地域に関する関心と理解力」に対応）、発表成果(50%)（「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）、期末レポートの内容(10%)（「地域に関する関心と理解力」に対応）、授業態度（20%）（「市民としての責任感と倫理観」に対応）をもとに判断する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
1. 実施期間・授業計画 ※5月頃に決定します。			
＜1日目＞			
第1回 講義	オリエンテーション・地域に関する関心と理解力		
第2回 演習	キャリア形成の3要素・基礎力確認と目標		
第3回 講義	ゲスト1：日本電機工業会		
第4回 演習	グループワーク		
＜2日目＞			
第5回 講義	ゲスト2：メタバース説明会について		
第6回 講義	ゲスト3：担当グループ決め、質問事項		
第7回 講義	ゲスト4：メタバース説明会参加（香川県、高松市、㈱フソウ、㈱StNet、他12社予定）		
第8回 講義	ゲスト5：メタバース説明会参加		

<3日目>

- 第 9回 講義 ゲスト6：起業家 企画とプレゼンテーションについて
第10回 演習 グループ活動（企画内容決定、分担、スケジュール）
第11回 演習 グループ活動（情報収集と解決方法の検討）
第12回 演習 グループ活動（構成と内容の充実）

<4日目>

- 第13回 演習 グループ活動（発表準備）
第14回 演習 発表・評価
第15回 講義 まとめ、提出レポートの作成及び提出

※1～3日目：1～4校時

4日目：1～3校時

2. 実施場所・履修方法については、5月中旬頃の掲示を確認すること

【授業および学習の方法】

本授業は、講義とグループワークからなる。

この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 1日目 個人が授業で身につけたい力を考えるため、第4次産業革命について情報収集しておく。（2時間）
2日目 企業担当者からの話を深く理解するため、担当業界の情報を調べておく。（2時間）
3日目 企画やプレゼンテーションの方法を学ぶため、企画の方法などを調べておく。（2時間）
4日目 伝わるプレゼンテーションの仕方を工夫する。（3時間）

教科書・参考書等

必要に応じてレジュメと参考資料を適宜配布

オフィスアワー [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の内容は、2021年度開講の「地域貢献人材育成実践講座Ⅱ」と内容が重複するため、2021年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。

- ① 集中講座期間中のスケジュールはもちろんです、連続講義ですので体調管理をしてください。グループワーク中心の講義ですので、遅刻がないようタイムマネジメントに十分留意してください。
② 集中講義期間中に台風等の悪天候で休講となった場合には、講義の日時が変更となる場合があります。翌週の月曜日が振替日となる可能性もありますので、可能な限り予定をあけておいてください。
③ 履修登録後は香川大学教務システム“Dream Campus”からの連絡メッセージを必ず確認できる状態にしておいてください。何らかの事情で別手段での連絡を希望する場合には、事前に担当教員に申し出ておいてください。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lp2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000804)	主題科目	後期月5	
キャリアデザインと地域貢献B Career Design and Regional Contributions B	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
キャリアデザインと地域貢献B Career Design and Regional Contributions B	授業形態 講義 PBL	単位数 2	
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目	キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B	
	履修推奨科目	キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと対人関係、地域で活躍する職業人に学ぶA／B	
学習時間 授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間+事後学習30時間）			
授業の概要			
本授業は、地域や全国的に活躍する企業をお招きし、業界や企業（団体）の業務を知るとともに、その企業（団体）の抱える課題に対し、学生がチームで課題解決をするという内容です。最後にグループごとのプレゼンテーションも体験してもらいます。学生は、最初に自身の基礎力をアセスメントした結果をもとに目標を決めます。授業後に振り返ることでその後の学生生活の設計に役立てる内容です。			
授業の目的			
本授業では、学生のみなさんが社会の変化に対応し、主体的に行動する力を身につけることを目的とします。具体的には、学生のみなさんが日本や地域及び企業の現状を知り、SDGsなどの観点からそれに対する解決方法を他者と協働しながら模索することを通して、今後の社会を生きぬく力を身につける支援をします。			
到達目標			
①地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。（「地域に関する関心と理解力」に対応） ②論理的な仮説を立てることができ、考えを具体的な行動へと移すことができる。（「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） ③課題解決の方法をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ④社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。（「市民としての責任感と倫理観」に対応）			
成績評価の方法と基準			
授業への取り組み態度及び各回提出のポートフォリオ(20%)「地域に関する関心と理解力」に対応）、発表成果(50%)（「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）、期末レポートの内容(10%)（「地域に関する関心と理解力」に対応）、授業態度（20%）（「市民としての責任感と倫理観」に対応）をもとに判断する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業および学習の方法】 本授業は、講義とグループワークから構成されます。			
【授業計画】			
第1回	オリエンテーション・キャリアデザイン		
第2回	キャリアデザインの3要素、基礎力確認と目標設定		
第3回	ゲスト1：公務：香川県農政水産部		
第4回	ゲスト2：証券：野村証券株式会社		
第5回	ゲスト3：通信：富士通HRコンサルティング株式会社		
第6回	ゲスト4：エネルギー：四国電力株式会社		
第7回	ゲスト5：食品：三井農林㈱（日東紅茶）		
第8回	ゲスト6：メーカー：（元）SONY株式会社		
第9回	ゲスト7：起業家 企画とプレゼンテーションについて		

- 第10回 グループ活動（担当企業決め、分担、スケジュール）
 第11回 グループ活動（情報収集と解決方法の検討）
 第12回 グループ活動（構成と内容の充実）
 第13回 グループ活動 発表準備
 第14回 成果発表と評価（ゲスト7：起業家）
 第15回 まとめ

※ゲスト講師の日程等は、変更の可能性あります。

【授業および学習の方法】

本授業は、講義とグループワークから構成されています。

この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

2回 将来の目標や個人が授業で身につけたい力を考える。（2時間）

3～8回 ゲスト講師の業界や企業について調べ、質問内容を考える。（2時間）

9回 新規企画について、調べておく。（2時間）

10～12回 グループ活動に必要な情報収集をする。（4時間）

13回 プレゼンテーションの資料作成と練習をする。（3時間）

14回 プレゼンテーションの振り返りを行い、レポートを作成する。（3時間）

教科書・参考書等

必要に応じてレジュメと参考資料を適宜配布

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業の内容は、2021年度開講の「地域貢献人材育成実践講座Ⅰ」と内容が重複するため、2021年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。・演習実施のため定員を上限100名とし必要に応じて受講者人数調整を行います。（第1講は必ず出席すること）
- ・グループワーク中心の講義ですので、遅刻がないように十分留意してください。
- ・グループでの課題解決のため、できる限り欠席を避けてください。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 000805) 香川で学ぶ地域・地場産業体験 I Regional Industry Experience in Kagawa 地域の仕事を考える Think about local work	科目区分	時間割 2023年度 前期木1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回＋実習(45時間以上)＋活動報告会90分＋自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標 1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が習得できる（共通スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらし主体的な学びができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上で体験活動に参加する。体験活動終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 体験活動への参加とその態度：70％（特に到達目標1, 2に対応）、事前指導・報告会・レポート：30％（特に到達目標3に対応） 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本科目は授業及びフィールドワーク（5回）と講義10回分に相当する実習（＝体験活動）から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 体験活動実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行う。 この科目は全回対面授業を行います。 【授業】（例：参加する体験活動先によって内容は異なる） 体験活動の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回：ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回・事前指導（本学における講義やオンデマンド型による講義） ・第3回：地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回：体験活動先に関する学修 ・第5回：現地での活動1（オリエンテーション） ・第6回：現地での活動2（施設内見学） ・第7回：現地での活動3（作業説明） ・第8回：現地での活動4（作業補助）			

- ・第9回：現地での活動5（作業体験）
- ・第10回：現地での活動6（若手職員との意見交換）
- ・第11回：現地での活動7（商品提案思考）
- ・第12回：現地での活動8（商品提案作業）
- ・第13回：現地での活動9（最終報告資料作成）
- ・第14回：現地での活動10（最終報告）
- ・第15回：事後指導／報告会のための学修
- ・第16回：活動報告会

【体験活動実施後】

「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する。

【活動場所・受け入れ先】

今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。

本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。

また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

＜受け入れ先＞

県内各企業および地場産業、自治体、地域おこし協力隊など

＜受け入れ人数＞

受け入れ先による（1?3名）

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年1万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他の体験活動履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分の体験活動について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

体験活動先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

体験活動に関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階 神田研究室・梅津研究室

その他、必要であれば、

担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外での体験活動等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2023年度 後期末1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000806)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
香川で学ぶ地域・地場産業体験 ♪ Regional Industry Experience in Kagawa 地域の仕事を考える Think about local work	授業形態 講義 フィ ールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする		
履修推奨科目			
学習時間 授業90分×5回＋実習(45時間以上)＋活動報告会90分＋自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的			
授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が習得できる（共通スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらし主体的な学びができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
学期開始時の講義を必ず受講した上で体験活動に参加する。体験活動終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 体験活動への参加とその態度：70％（特に到達目標1, 2に対応）、事前指導・報告会・レポート：30％（特に到達目標3に対応） 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は授業及びフィールドワーク（5回）と講義10回分に相当する実習（＝体験活動）から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 体験活動実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行う。			
この科目は全回対面授業を行います。			
【授業】（例：参加する体験活動先によって内容は異なる） 体験活動の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回：ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回・事前指導（本学における講義やオンデマンド型による講義） ・第3回：地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回：体験活動先に関する学修 ・第5回：現地での活動1（オリエンテーション） ・第6回：現地での活動2（施設内見学） ・第7回：現地での活動3（作業説明） ・第8回：現地での活動4（作業補助）			

- ・第9回：現地での活動5（作業体験）
- ・第10回：現地での活動6（若手職員との意見交換）
- ・第11回：現地での活動7（商品提案思考）
- ・第12回：現地での活動8（商品提案作業）
- ・第13回：現地での活動9（最終報告資料作成）
- ・第14回：現地での活動10（最終報告）
- ・第15回：事後指導／報告会のための学修
- ・第16回：活動報告会

【体験活動実施後】

「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する。

【活動場所・受け入れ先】

今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。

本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。

また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

＜受け入れ先＞

県内各企業および地場産業、自治体、地域おこし協力隊など

＜受け入れ人数＞

受け入れ先による（1?3名）

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年1万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他の体験活動履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分の体験活動について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」

について考察し情報収集を行う（10時間）

体験活動先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

体験活動に関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階 神田研究室、梅津研究室

その他、必要であれば、

担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

教員の実務経験との関連

学外での体験活動等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 000807) 香川で学ぶ地域・地場産業体験 ハ Regional Industry Experience in Kagawa 地域の仕事を考える Think about local work	科目区分	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィ ールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回＋実習(45時間以上)＋活動報告会90分＋自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が習得できる（共通スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらし主体的な学びができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上で体験活動に参加する。体験活動終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」（レポート）を提出する。 体験活動への参加とその態度: 70%（特に到達目標1, 2に対応）、事前指導・報告会・レポート: 30%（特に到達目標3に対応） 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は授業及びフィールドワーク（5回）と講義10回分に相当する実習（＝体験活動）から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 体験活動実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行う。 この科目は基本的に対面授業を行います。 【授業】（例: 参加する体験活動先によって内容は異なる） 体験活動の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回: ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回・事前指導（本学における講義やオンデマンド型による講義） ・第3回: 地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回: 体験活動先に関する学修 ・第5回: 現地での活動1（オリエンテーション） ・第6回: 現地での活動2（施設内見学） ・第7回: 現地での活動3（作業説明） ・第8回: 現地での活動4（作業補助）			

- ・第9回：現地での活動5（作業体験）
- ・第10回：現地での活動6（若手職員との意見交換）
- ・第11回：現地での活動7（商品提案思考）
- ・第12回：現地での活動8（商品提案作業）
- ・第13回：現地での活動9（最終報告資料作成）
- ・第14回：現地での活動10（最終報告）
- ・第15回：事後指導／報告会のための学修
- ・第16回：活動報告会

【体験活動実施後】

「地域活動報告書」（レポート）を提出し、活動内容を報告会で発表する。

【活動場所・受け入れ先】

今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。

本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。

また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

＜受け入れ先＞

県内各企業および地場産業、自治体、地域おこし協力隊など

＜受け入れ人数＞

受け入れ先による（1?3名）

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年1万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他の体験活動履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分の体験活動について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

体験活動先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

体験活動に関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階 神田研究室、長尾研究室
その他、必要であれば、
担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外での体験活動等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Ef1 授業科目名 (時間割コード: 000808) 地域をデザインする Design the region 地域をデザインする design the region	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 1	
担当教員名 神田 亮	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、香川で学ぶ地域・地場産業体験		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×4回程度＋実習(22.5時間以上)＋活動報告会＋自学自習(準備学習15時間＋事後学習15時間)			
授業の概要 自治体と連携し、地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践(地域をデザインする)するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)25%(特に到達目標1に対応)・参加内容(取り組み内容)40%(特に到達目標1に対応)、活動報告会での発表内容25%(特に到達目標2に対応)、レポート等10%(特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行います。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】(例) 第1回: ガイダンスおよび対象地域の活動内容の紹介 第2回: 対象地域についての学修1 ・デザイン思考・フィールドワークの視点について プロジェクトを進めていくうえで必要なデザイン思考・フィールドワークの視点について学ぶ。 第3回: 対象地域についての学修1 ・自治体職員による地域づくりに関する講話(総合戦略・人口ビジョンについて) ・対象地域で活動および移住・起業している方からの講話 ・対象地域を研究対象としている方の講話			

第4回：現地での実習1

現地の地域資源（食、自然、文化など）を活用してビジネス展開や観光交流、防災などの地域をデザインするための準備に取り組む。

第5回：現地での実習2

・フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画作りやアイデア出しおよびディスカッションを行う。

第6回：現地での実習3

・フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。

第7回：活動報告会のための学修

活動の振り返りを行いながら、活動報告会にむけてのプレゼンテーションづくりを行う。

第8回：活動報告会

自治体職員・関係者を招いて活動報告会を行う。

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。

受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。（自学自習）

＜注意事項＞

・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。
・参加費用（1万円程度）が別途必要となる。

＜自学自習について＞

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

＜自学自習のためのアドバイス＞

地域の概要について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

フィールドワークに関する予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

フィールドワークで得た知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日4時限 幸町北キャンパス研究交流棟6階 神田研究室 長尾研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

東京圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外での実習では、実務経験を有する外部講師による実習を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Ef2	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期木5	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000809)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
コミュニティデザイン入門 Introduction to Community Design コミュニティデザイン入門 Introduction to Community Design	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト 地域インターンシップ		
履修推奨科目			
学習時間 講義とグループワーク90分×5回程度+実習(45時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
コミュニティデザインに必要な手法に関する基礎知識を学ぶ。フィールドワークをとおり、地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え実践する。			
授業の目的			
香川県をはじめとした地域社会とコミュニティについて理解を深めその可能性を探り、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができる。さらに地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて今後の課程・社会生活において必要となる汎用性を身に着ける。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)25%(特に到達目標1に対応)・参加内容(取り組み内容)40%(特に到達目標1に対応)、活動報告会での発表内容25%(特に到達目標2に対応)、レポート等10%(特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向け、プロジェクト型の授業を行う。授業は講義と実習に分かれており、実習は 〔地域の現状把握・課題整理〕→〔課題解決に向けた計画立案〕→〔実践〕→〔振り返り〕 以上のプロセスに沿って実践する。本科目は全回対面授業で行う。			
【講義】			
第1回 ガイダンス、コミュニティデザインについて			
第2回 生活とコミュニティ(香川県や学内外の事例紹介)			
第3回 コミュニティの崩壊と創成Ⅰ(岩手県・宮城県)			
第4回 コミュニティの崩壊と創成Ⅱ(福島県ほか)			
第5回 ワークショップの技法Ⅰ(ブレインストーミング、親和図法など)			
第6回 ワークショップの技法Ⅱ(ワールドカフェなど)			
第7回 フィールドワークの方法(基礎知識やインタビューの方法、道具など)			
【実習】			
第8回 フィールドワーク1(ステークホルダーとの顔合わせ・現地調査)			
第9回 フィールドワーク2(現地調査・情報収集)			
第10回 フィールドワーク3(情報分析、課題抽出)			

第11回 課題解決のための計画1（インサイトマップ・課題整理）
第12回 課題解決のための計画2（ビジョン策定・コンセプトの確立）
第13回 課題解決のための計画3（中間発表・相互評価）
第14回 企画のブラッシュアップ
第15回 発表、相互評価
【活動報告会】
第16回 活動報告会

〈注意事項〉

- ・フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取り組みが多くあるため、実施日や時間については担当教員と受講生の間で調整して進める。
- ・実習やプロジェクト活動は、他の授業のない時間や夕方、土日、夏期休暇期間中に実施する場合がある。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。

〈自学自習について〉

- ・期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域について理解を深める。さらに実践活動についても全国各地の取組事業を調べて課題解決を考える。

〈自学自習のためのアドバイス〉

- ・自分の住むコミュニティについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、課題分析について考察し情報収集を行う（10時間）
- ・フィールドワーク先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する（5時間）
- ・フィールドワーク先で学んだ知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）
- ・活動報告会に向けて報告資料を作成する（15時間）

教科書・参考書等

必要に応じ、授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー 木曜2限目 幸町北キャンパス研究交流棟6階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。
受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。
成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

観光イベント実践を中心としたコミュニティでの活動経験を経て、大学職員として行政を介した東日本大震災の被災地域とのアーカイブ収集事業・復興支援事業等の仕事に関わる。これらの経験をもとに、コミュニティが持つ力や可能性について、実践を通し講義を行う。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Ef2 授業科目名 (時間割コード: 000810) コミュニティデザイン実習 Field Practice on Community Design コミュニティデザイン実習 Field Practice on Community Design	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期木5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域インターンシップ、コミュニティデザイン入門		
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×4回程度+実習(45時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 コミュニティデザインの手法を用いて、フィールドワークをとおり、地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え実践する。			
授業の目的 香川県をはじめとした地域社会とコミュニティについて理解を深めその可能性を探り、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができる。さらに地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて今後の課程・社会生活において必要となる汎用性を身に着ける。			
到達目標 1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)25%(特に到達目標1に対応)・参加内容(取り組み内容)40%(特に到達目標1に対応)、活動報告会での発表内容25%(特に到達目標2に対応)、レポート等10%(特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。授業は講義と実習に分かれており、実習は 〔地域の現状把握・課題整理〕→〔課題解決に向けた計画立案〕→〔実践〕→〔振り返り〕 以上のプロセスに沿って実践する。本科目は全回対面授業で行う。 【講義】 第1回 ガイダンスおよびプロジェクト対象地域の活動内容の紹介 第2回 ワークショップ・インタビューの技法について 第3回 自治体職員による地域づくりに関する講話 第4回 地域づくりに携わる方からの講話 【実習】 第5回 フィールドワーク1(ステークホルダーとの顔合わせ・現地調査) 第6回 フィールドワーク2(現地調査・情報収集) 第7回 フィールドワーク3(情報分析、課題抽出) 第8回 課題解決に向けての計画、企画の立案、発信方法の検討 第9回 フィールドワーク4(他地域との比較) 第10回 フィールドワーク5(現地再調査・情報収集) 第11回 課題解決のための計画1(インサイトマップ・課題整理)			

第12回 課題解決のための計画2（ビジョン策定・コンセプトの確立）

第13回 課題解決のための計画3（中間発表・相互評価）

第14回 企画のブラッシュアップ

第15回 活動報告会のためのプレゼンテーション作成

【活動報告会】

第16回 活動報告会

〈注意事項〉

- ・フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取り組みが多くあるため、実施日や時間については担当教員と受講生の間で調整して進める。
- ・実習やプロジェクト活動は、他の授業のない時間や夕方、土日、夏期休暇期間中に実施する場合がある。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。

〈自学自習について〉

- ・期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域について理解を深める。さらに実践活動についても全国各地の取組事業を調べて課題解決を考える。

〈自学自習のためのアドバイス〉

- ・自分の住むコミュニティについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、課題分析について考察し情報収集を行う（10時間）
- ・フィールドワーク先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する（5時間）
- ・フィールドワーク先で学んだ知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）
- ・活動報告会に向けて報告資料を作成する（15時間）

教科書・参考書等

必要に応じ、授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー 木曜2限目 幸町北キャンパス研究交流棟6階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。
受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

教員の実務経験との関連

観光イベント実践を中心としたコミュニティでの活動経験を経て、大学職員として行政を介した東日本大震災の被災地域とのアーカイブ収集事業・復興支援事業等の仕事に関わる。これらの経験をもとに、コミュニティが持つ力や可能性について、実践を通し講義を行う。

ナンバリングコード B2THM-ecxG-1N-Lf2	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期金2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000811) 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題 Setouchi Triennale and the Problems of Minorities 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題 Setouchi Triennale and the Problems of Minorities	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: ecx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 小坂 有資	関連授業科目 差別とマイノリティ、マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題		
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク 90分×14回、フィールドワーク 30時間以上、自学自習（準備学習20時間＋事後学習20時間）			
授業の概要			
瀬戸内国際芸術祭の舞台になっている島の中でマイノリティ問題と関連する島の過去と現在を調べ、それらの島で瀬戸内国際芸術祭の作品や活動がどのように展開されているかを、フィールドワークを行い調査します。そのうえで、アートを介したマイノリティ問題の解決に向けた方法とその意義を考察します。			
授業の目的			
現代社会では、ヒト・モノ・カネ・情報等が国境を越えてグローバルに移動しています。しかし、排除や差別を伴った社会的分断も引き起こされています。そこでこの授業では、排除や差別の問題だけでなく、多様な人と人あるいは場所との共生のあり方を考察するための事例として、出産、産業廃棄物、ハンセン病等に関する問題について学びます。このようなマイノリティ問題を理解したうえで、それらの具体的な課題を発見し解決していくための、アートを介した方法とその意義を示すことができるようになることが、この授業の目的です。			
到達目標			
1. 瀬戸内国際芸術祭の舞台の中で、マイノリティ問題と関連する島の過去と現在について説明することができる（共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」と「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2. マイノリティ問題を解決していくための、アートを介した方法とその意義を説明することができる（共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
フィールドワークを実施する島に関する文献等での事前調査 40%（到達目標1に対応）、フィールドノーツ 40%（到達目標1に対応）、発表10%（到達目標1と2に対応）、レポート 10%（到達目標1と2に対応）			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 ガイダンス			
第2回 地域社会とアートについて			
第3回 フィールドワークについて			
第4回 女木島の過去と現在を知る			
第5回 フィールドワーク（女木島）の振り返り			
第6回 伊吹島の過去と現在を知る			
第7回 フィールドワーク（伊吹島）の振り返り			
第8回 豊島の過去と現在を知る			
第9回 フィールドワーク（豊島）の振り返り			
第10回 大島の過去と現在を知る			
第11回 フィールドワーク（大島）の振り返り			
第12回 アートを介したマイノリティ問題の理解に向けて			
第13回 アートを介したマイノリティ問題の解決に向けて			
第14回 発表の準備			
第15回 発表			

【授業の方法】

第1回は講義、第2～14回は講義とグループワーク、第15回は発表です。第4回と第5回の間にフィールドワーク（女木島）、第6回と第7回の間にフィールドワーク（伊吹島）、第8回と第9回の間にフィールドワーク（豊島）、第10回と第11回の間にフィールドワーク（大島）を実施します。それぞれのフィールドワークに要する時間は1日ずつを予定しており、土曜日あるいは日曜日にフィールドワークを行う予定です。この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1回 この授業に関するアンケートに回答してください。（1時間）
第2回 瀬戸内国際芸術祭に関する動画を視聴してください。地域社会で開催されている芸術祭のウェブサイト等を閲覧し、授業内容を復習してください。（3時間）
第3回 フィールドワークの技法について、復習してください。（3時間）
第4回 女木島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。（3時間）
第5回 女木島に関するフィールドノーツを作成してください。（3時間）
第6回 伊吹島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。（3時間）
第7回 伊吹島に関するフィールドノーツを作成してください。（3時間）
第8回 豊島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。（3時間）
第9回 豊島に関するフィールドノーツを作成してください。（3時間）
第10回 大島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。（3時間）
第11回 大島に関するフィールドノーツを作成してください。（3時間）
第12回～第14回 アートを介したマイノリティ問題の理解と解決に関する発表の準備をしてください。（各回2時間）
第15回 他のグループの発表や自分たちのグループ発表に対する意見をもとにして、発表内容を改善しレポートにまとめてください。（3時間）
瀬戸内国際芸術祭のボランティアサポーター「こえび隊」の活動に参加すれば加点します。

教科書・参考書等**参考書**

岡原正幸編（2020）『アート・ライフ・社会学：エンパワーするアートベース・リサーチ』晃洋書房、4840円（税込）

西原和久・杉本学編（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門：差別をこえるために』有斐閣、2420円（税込）

他にも授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 時間：水曜日12時～14時

場所：幸町北キャンパス5号館5階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・フィールドワークを行うため、移動費や食費等が必要です。
- ・フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（略称：「学研災」）」と「学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）」に加入してください。加入の方法などについては、初回のガイダンスでも説明します。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、フィールドワークに参加してください。具体的な対策については、授業でお伝えします。
- ・新型コロナウイルス感染症などの影響により、フィールドワークができなくなる島があるかもしれません。その場合は、フィールドワークの内容を変更する可能性があります。
- ・学外で活動を行うので、社会の基本ルールを守ってください。
- ・科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行います。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000812)	主題科目	前期月5	
瀬戸内地域活性化プロジェクト イ Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
瀬戸内地域活性化プロジェクト イ Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	分野 主題	DPコード: eca	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目	香川で学ぶ地域・地場産業体験、地域をデザインする	
原 直行, 神田 亮, 大村 隆史	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的			
地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など) 25%(特に到達目標1に対応)・参加内容(取り組み内容) 40%(特に到達目標1に対応)、活動報告会での発表内容25%(特に到達目標2に対応)、レポート等10%(特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行います。 この科目は全回対面授業を行います。			
【授業】(例:参加プロジェクトごとに内容は異なる) 体験活動の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回:ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回:プロジェクトに関する説明 ・第3回:参加プロジェクトの確定・プロジェクト参加時の注意事項 ・第4回:プロジェクト地域に関する学習 ・第5回:現地での活動1(オリエンテーション) ・第6回:現地での活動2(プロジェクト地域の全体フィールドワーク) ・第7回:現地での活動3(プロジェクト地域の自治体庁舎訪問) ・第8回:現地での活動4(プロジェクト地域の自治体職員からのインプットトーク) ・第9回:現地での活動5(プロジェクト地域のグループフィールドワーク) ・第10回:現地での活動6(プロジェクト地域の課題探求フィールドワーク) ・第11回:現地での活動7(課題の整理)			

- ・第12回：現地での活動8（課題解決に向けた調査）
- ・第13回：現地での活動9（課題解決案のビジョン策定）
- ・第14回：現地での活動10（課題解決案のコンセプト確定）
- ・第15回：報告会のための学習
- ・第16回：活動報告会（報告会は、例年1月末）

授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、主体的にプロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。

<プロジェクト>【定員計80人】

- ・まんのう町のひまわりプロジェクト【定員15人】
まんのう町ではひまわりで様々な取組をおこなっています。商品開発、情報発信や地域でのイベントなどを行いながら考えていきます。
- ・観音寺市活性化プロジェクト【定員15人】
子育て支援施設や文化施設など地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。
- ・東かがわ市定住促進プロジェクト【定員15人】
東かがわ市の地域資源（食、自然、文化など）を活用してビジネス展開や観光交流などの定住促進策を実践します。
- ・さぬき市活性化プロジェクト【定員15人】
さぬき市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協業できる仕組みづくりを行っていきます。
- ・善通寺市活性化プロジェクト【定員10人】
善通寺市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協働できる仕組みづくりを行っていきます。
- ・新規自治体プロジェクト【定員 若干名】
新しい取組を行うプロジェクトです。自治体職員と議論しながら進めていきます。

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合があります。
※各プロジェクト、連携しながら進めることがあります。

<注意事項>

- ・初回?3回目の授業で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

担当になった地区について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）
プロジェクトを進めるための予備調査資料について準備する。（5時間）
プロジェクトに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）
活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分守ること。
受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。
なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

プロジェクトでは、自治体職員の方々と協働しながら進める。

ナンバリングコード B2THM-ecaG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000813)	主題科目	後期月5	
瀬戸内地域活性化プロジェクト ロ Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
瀬戸内地域活性化プロジェクト ρ Project ρ on Regional Vitalization in Setouchi Area	分野 主題	DPコード: eca	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目	香川で学ぶ地域・地場産業体験、地域をデザインする	
原 直行, 神田 亮, 大村 隆史	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回＋実習(45時間以上)＋活動報告会90分＋自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的			
地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢を習得できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など) 25%(特に到達目標1に対応)・参加内容(取り組み内容) 40%(特に到達目標1に対応)、活動報告会での発表内容25%(特に到達目標2に対応)、レポート等10%(特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「香川と都市圏の大学連携推進事業」と連携して行います。 この科目は全回対面授業を行います。			
【授業】(例:参加プロジェクトごとに内容は異なる) 体験活動の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回:ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回:プロジェクトに関する説明 ・第3回:参加プロジェクトの確定・プロジェクト参加時の注意事項 ・第4回:プロジェクト地域に関する学習 ・第5回:現地での活動1(オリエンテーション) ・第6回:現地での活動2(プロジェクト地域の全体フィールドワーク) ・第7回:現地での活動3(プロジェクト地域の自治体庁舎訪問) ・第8回:現地での活動4(プロジェクト地域の自治体職員からのインプットトーク) ・第9回:現地での活動5(プロジェクト地域のグループフィールドワーク) ・第10回:現地での活動6(プロジェクト地域の課題探求フィールドワーク) ・第11回:現地での活動7(課題の整理)			

- ・第12回：現地での活動8（課題解決に向けた調査）
- ・第13回：現地での活動9（課題解決案のビジョン策定）
- ・第14回：現地での活動10（課題解決案のコンセプト確定）
- ・第15回：報告会のための学習
- ・第16回：活動報告会（報告会は、例年1月末）

授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、主体的にプロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。

＜プロジェクト＞【定員：若干名】

- ・新規自治体プロジェクト
新しい取組を行うプロジェクトです。自治体職員と議論しながら進めていきます。
- ・観音寺市活性化プロジェクト
- ・東かがわ市定住促進プロジェクト
- ・さぬき市活性化プロジェクト
- ・善通寺市活性化プロジェクト
- ・まんのう町ひまわりプロジェクト

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。

＜注意事項＞

- ・初回?3回目の授業で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

＜自学自習について＞

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

＜自学自習のためのアドバイス＞

担当になった地区について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

プロジェクトを進めるための予備調査資料について準備する。（5時間）

プロジェクトに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

プロジェクトでは自治体職員の方々と協働で進める。

ナンバリングコード B2THM-ecdG-1N-Lf2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000814)	主題科目	前期火2	
地域での防犯を考える Crime Prevention Project	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
地域での防犯を考える Crime Prevention Project	分野 主題	DPコード: ecd	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目		
大久保 智生, 西本 佳代	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + フィールドワークおよびそのまとめ90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要			
大学生が巻き込まれる犯罪や香川県で多い犯罪の防犯活動への参加を通して、効果的な防犯対策を考え、提案し、地域での防犯を実践的に学ぶ。具体的には、地域での危険箇所を点検するためのフィールドワークを行い、防犯マップを作成する。大学生が最も巻き込まれる自転車盗に関する駐輪場でのフィールドワークを行い、自転車盗の効果的な対策を考え、提案する。また、高齢者に関わる犯罪の効果的な対策を考え、提案する。			
授業の目的			
地域の防犯活動に参加した上で、実施可能な防犯対策を提案し、効果的な地域での防犯活動を理解することを目的とする。さらに、授業終了時には、地域での防犯活動に関心を持ち、安全・安心な地域づくりを担う人材を養成することを目的とする。			
到達目標			
1. 地域の防犯活動に参加することにより、その価値や意義について説明できる 2. 地域の防犯活動に参加することにより、その課題について、説明できる 3. 地域の防犯活動に参加することにより、効果的な防犯対策を提案することできる (すべてが、共通教育スタンダード「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
講義及びフィールドワークへの参加状況、レポートにより総合的に評価 (到達目標 1・2・3 に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
(1) ガイダンス (2) 香川県の犯罪情勢に関するゲスト講師講義: 警察による講義 (3) 駐輪場でのフィールドワーク (4) フィールドワークのまとめと自転車の窃盗対策の提案および専門機関からのコメント (5) 地域での防犯対策に関するゲスト講師講義: 防犯協会連合会、弁護士による講義 (6) 防犯マップ作成に関するゲスト講師講義: 防犯マップ作成を専門とした犯罪心理学者による講義 (7) 防犯マップ作成のための地域でのフィールドワーク (8) フィールドワークのまとめと防犯マップの提案および専門機関からのコメント (9) 店舗での犯罪対策に関する講義: 万引き防止専門家による講義 (10) 認知症サポーター養成講座: 高松市社会福祉協議会 (11) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (12) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (13) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (14) フィールドワークのまとめと高齢者の防犯対策の提案および専門機関からのコメント (15) 再犯防止に関するゲスト講師講義: 法務教官による講義			
授業におけるフィールドワークの位置づけとしては、様々な活動を行っている専門家による講義を聴講した上で、フィールドワークを行うこととします。したがって、外部講師の講義を無断欠席した際には、フィールドワークの場に行けないことがあります。なお、フィールドワーク中の事故に備えるため、受講者は災害保険に必ず加入していただきます。			

教科書・参考書等
特になし。資料は適宜配布する。
オフィスアワー 火曜日13：00～16：10 質問等はメールにて事前連絡のうえ研究室にて受け付ける。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
講義を無断欠席すると、フィールドワークの場に行けないことがあるので、欠席の際は連絡をすること。フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」等の保険に加入しておくこと。

ナンバリングコード B2THM-ecbG-1N-Ef2	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000815)	主題科目	前期木1	
里海から地域の暮らしを考える Thinking about our Way of Life through Learning "Satoumi"	水準 学士:基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
里海から地域の暮らしを考える Thinking about our Way of Life through Learning "Satoumi"	分野 主題	DPコード: ecb	特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 なし		
大村 隆史	履修推奨科目 なし		
学習時間 講義90分×4回 + 演習90分×6回 + フィールドワーク (3～4時間) ×5回 + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
本授業は、香川県環境森林部環境管理課と連携して実施するもので、フィールドワークを主軸とした授業です。具体的には、「かがわ里海大学」という市民講座への参加を通じて、里海づくりに必要なスキルや知識を高めたり、里海への理解を深める機会を複数回設けています。その他に、自分たちで里海づくりに関する市民講座を計画・実施し、運営者側の仕事を体験するなど、実践的な学習機会の計画をしています。近年の地球環境の保全をめぐる動向として、グローバルな問題をローカルな行動によって少しずつ解決していくとする態度の形成は重要です。本授業は、「里海」について知識がない学生も受講できるよう、授業の初回～3回までに事前の学習機会を設けるなどの機会を設けます。香川県において里海を学び、フィールドで実際に体験し、それらを題材に未来への責任ある議論を行い、行動し、評価するという一連のプロセスを経験する機会を創出します。			
授業の目的			
講義で基本的な知識を習得したうえで、フィールドワークで具体的な環境問題を把握し、座学と現象との結びつきについて認識することを目的とする。 また、ワークショップや演習を通じて課題解決に向けた具体的な方策を提案し、予測される成果と課題をまとめる力を身に付けることを目的とする。 さらに、授業終了時には、環境問題と地域の幅広い地域課題とのつながりを関連づけて考察できるようになることを目的とする。			
到達目標			
1. 里海に関する環境保全の取り組みの価値や意義について簡潔に説明することができる（共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. グローバルな環境問題の解決に向けたローカルな対応策について、3つ以上提案できる（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 3. 環境問題と身近な地域の課題とを関連づけて、他者と議論することができる（共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
授業及びフィールドワークへの参加（60％）（到達目標 3 に対応）、 学習成果物の提出（20％）（到達目標 2 に対応）、 レポートの提出あるいは「香川大学生プロデュース講座」の実施（20％）（到達目標 1 に対応） なお、本授業は前期科目として開講しているが、後期の年明け頃まで活動を行うため、成績発表は年度末頃となる。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
●この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】			
第1回 ガイダンス・本授業の目的			
第2回 「里海」の現状と課題を整理する			

第3回 「香川大学生プロデュース講座」についての案内

(以下は2022年度の授業スケジュールを参考に掲載しています。2023年度については詳細が決定し次第、更新します。)

第4～8回【FW】以下のものから3つ以上に参加すること。基本的には各回5名定員とする。

5月21日(土) 9:30～11:30「海ごみはどこからやって来る?講座」@高松市東部下水処理場(高松市屋島西町)

5月29日(日) 14:00～16:00「海の生き物観察講座～磯の生き物編」@大浜海岸(三豊市詫間町大浜)

5月28日(土) 13:00～16:00「森と海のつながり体験講座」@ドングリランド(高松市西植田町)

6月12日(日) 13:30～16:00「里海体験ツアー」@山田海岸(東かがわ市馬篠)

7月9日(土) 10:00～12:00「ボードゲームから里海を考える講座」@香川県社会福祉総合センター(高松市番町)

★7月10日(日) 12:30～15:30「海の生き物観察力工場講座」@大川オアシス、青木海岸(さぬき市津田町鶴羽)

7月24日(日) 19:00～21:00「ウミホタル観察講座」@須田港(三豊市詫間町宅間)

9月3日(土) 19:00～21:00「ウミホタル観察講座」@高松市ヨット競技場(高松市浜ノ町)

第9回 これまでの学習のまとめと振り返り

第10回 「香川大学生プロデュース講座」の企画書作成

第11回 「香川大学生プロデュース講座」の企画書合評会

第12、13回 チーム分けと実施に向けた準備

第14、15回 「香川大学生プロデュース講座」の実施と振り返り

※FWはフィールドワーク(現地実習)を指す。★は有料講座を指す。

※前期は木曜1限を基準に実施。後期は日程を受講者/チームで予定を合わせて行うため、決まった授業日を設けない。

※講座の延期や定員の関係でFWに十分に参加できなかった場合は、第10回以降にFWへの参加が盛り込まれることがある。

※この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

【授業及び学習の方法】

Moodleに本授業のコースがあります。コース内の指示に従って学習を進めてください。

授業は第1～3回に「里海」と関わるいくつかの視点を提示し、フィールドワークへの参加に向けて事前学習を行います。第4～8回に「かがわ里海大学」の市民講座へ参加します。第9回に振り返りとまとめを行い前期分の活動を修了します。第10回以降は後期に実施します。

【自学自習のためのアドバイス】

本授業は、その大半が香川県内の「里海」をテーマとした学習活動によって構成されます。

(事前学習について) 香川県内の地理に関する基礎的な知識が備わっていることで、その内容をより深く理解することができます。こうした学びの実現に向けて、香川県内の基礎的な地理情報や特徴などについて、地図帳や『香川県史』といった類の文献を通じて予習を行うことが望ましいです(30時間)。

(事後学習について) WSやFWへの参加をした際には、参加をした際に学んだことや感じたことをしっかりと記録しておくことが必要です。発表会や報告の機会に、体験した活動の内容を復習できるようにすることが望ましいです(30時間)。

教科書・参考書等

特になし、資料は適宜配布する。

オフィスアワー 基本的には木曜日10:30から13:00までとする。

質問等はメールにて事前連絡のうえ大村研究室(研究交流棟6階)にて随時受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

●本授業の一部は、本学の時間割と必ずしも連動しておらず、学外での活動も多いため、受講の際にはあらかじめ日時をしっかりと確認しておく必要がある。また、テスト期間中に開講される授業以外は必ず参加することを受講の条件とする。

●本授業のフィールドワークにかかる交通費はすべて自己負担となる。★の講座への参加費も自己負担となる。

各講座の参加にかかる費用については、HP「かがわ里海大学」の「令和4年度「かがわ里海大学」前期講座」を参照すること。これらの点について同意したうえでの履修登録を推奨する。

●公共交通機関でのアクセスが困難な会場での講座に関しては、担当教員による引率がある。その他の講座への参加については、各自で移動して受講をすることになる。

●科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行う。

●受講には、学研災および学研賠への加入が求められる。

ナンバリングコード B2THM-ceaG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000901) 知プラe科目 データ利活用とオープンイノベーションで創る未来のまちづくり Data driven and Open innovative solutions for future community creation データ利活用とオープンイノベーションで創る未来のまちづくり Data driven and Open innovative solutions for future community creation	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cea	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 米谷 雄介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
【キーワード】データ活用 スマートシティは新たなまちづくりのモデルである。従来のインフラ中心からICT・IoTに基づくデータ利活用中心、言い換えるとハードウェア／サプライヤ中心からソフトウェア／ユーザ中心のまちづくりへの転換である。この新たなまちづくりのモデルの特徴は、異業種・異分野の協働を基本（分野横断型）とし、社会課題の解決を中心に据え（課題解決型）、サービスの利用実績によりサービスは進化していき（進化型）、そして自分たちの使う公共サービスは自分たちで創るというDIY思想（市民中心設計）となっている。近年様々な基礎自治体においてスマートシティに向けた動きがあるが、スマートシティの推進を担う人材の育成が課題となっている。そこで、本授業は、スマートシティの推進に必要な素養の獲得を支援する。受講者は、データ利活用技術やオープンイノベーションの考え方を知り、活用することを経験する。香川におけるケーススタディを通じて自分たちの地域のあり方を見直し、地域の課題解決に資するデータ利活用サービスを考案する態度を獲得する。			
授業の目的			
本授業の目的は、スマートシティを担う人材に必要とされるデータ利活用技術およびオープンイノベーションの考え方を理解し、体得することを目的とする。			
到達目標			
以下の知識を説明できる。 1. スマートシティとは何であり、なぜ必要であるか？（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） 2. オープンイノベーションとは何であり、なぜ必要であるか？（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応） 以下の行動ができる。 1. 香川大学が開発した ICT・IoT ツールを用いてデータ利活用サービスのプロトタイプを作成できる（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応） 2. 異業種・異分野の他者とのアイデア交換を通じて自分なりにデータ利活用サービスを考案できる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応） 3. 地域のニーズを理解し、本当に必要とするサービスを考案できる（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応）			
成績評価の方法と基準			
1～6回の小レポート(70点)と、7回～8回の期末レポート(30点)により評価し、合計60点以上を合格とします。 なお、小レポートを未提出の場合は、期末レポートの提出資格を与えません。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※授業内容は変更になる可能性があります。			

- 第1回 ガイダンス、開発環境の準備(クラウド開発環境、APIの理解)
第2回 オープンデータの可視化、APIインテグレーション
第3回 移動体データの可視化
第4回 物理センサーデータの可視化
第5回 AIカメラ・センサーデータの可視化
第6回 IoT(Internet of Things)の構築
第7回 オープンイノベーションとデータ利活用サービスデザイン
第8回 期末レポート (アイデアソン)

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自主学習のためのアドバイス】

■ 第1回 ガイダンス、開発環境の準備(クラウド開発環境、APIの理解)

準備学習（1時間）：シラバスに登場する専門用語を調べる、事後学習（2時間）：授業に従いクラウド開発環境を準備する

第2回 オープンデータの可視化、APIインテグレーション

準備学習（2時間）：オープンデータ、APIの目的や具体例を調べる、事後学習（2時間）：授業に従いオープンデータを可視化する

第3回 移動体データの可視化

準備学習（2時間）：Mobility as a Serviceなど移動体データを利用したサービスを調べる、事後学習（2時間）：授業に従い、移動体データを可視化する

第4回 物理センサーデータの可視化

準備学習（2時間）：温度センサー、光センサーなどセンサーの具体的な活用例を調べる、事後学習（2時間）：授業に従い、センサーに遠隔からアクセスしてみる

第5回 AIカメラ・センサーデータの可視化

準備学習（2時間）：AIカメラセンサーの具体的な活用例を調べる、事後学習（2時間）：授業に従い、センサーに遠隔からアクセスしてみる

第6回 IoT(Internet of Things)の構築

準備学習（2時間）：IoTの具体的な活用事例を調べる、事後学習（2時間）：授業に従い、IoTを構築してみる

第7回 オープンイノベーションとデータ利活用サービスデザイン

準備学習（2時間）：オープンイノベーションやサービスデザインという用語を調べる、事後学習（2時間）：授業に従い、これまでのデータ収集／可視化手段を振り返り、サービスのアイデアを考える

第8回 期末レポート (アイデアソン)

準備学習（2時間）：サービスのアイデアをレポートの形にまとめる、事後学習（1時間）：これまでの授業を振り返り、自分の関心のある地域課題について考え、今後受講する授業を決める

教科書・参考書等

指定教科書はありません。

適宜PDF等で資料を配布します。

オフィスアワー 担当回教員の電子メールを利用し、随時問い合わせてください。

連絡先：kometani.yusuke@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

教員の実務経験との関連

本科目は、データ利活用プラットフォームやデータ可視化技術に係る実務経験を有する教員が、専門分野の知見を活用した講義コンテンツを使用して実践的教育を実施するものである。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000902) 知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理 Disaster mitigation and crisis management using data science データサイエンスを活用した防災・危機管理 (Disaster mitigation and crisis management using data science)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 野々村 敦子, 金田 義行, 寺尾 徹, 梶谷 義雄	関連授業科目 知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション、知プラe科目 災害とデータサイエンス		
	履修推奨科目 情報リテラシーB		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 【キーワード】 データサイエンス、防災・減災、危機管理 日本は地震や台風など大きな自然災害による被害を受けている。環境変化により従来にない大規模自然災害が発生する可能性が高まり、さらには社会システムの高度化・複雑化・国際化にともない、これまでにない災害が発生する危険性も増大している。いま、自然・人為的な災害に対応可能なレジリエント（しなやか）な社会の構築が求められている。本講義では、自然災害の軽減を念頭にデータサイエンスによる防災・危機管理のあり方と、地域における災害に対する安全・安心について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。			
授業の目的 レジリエント（しなやか）な社会の構築に向け、防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を学び、さらに、データサイエンスに立脚した地域の安全・安心を議論できるようになる。			
到達目標 1. レジリエント（しなやか）な社会とは何かを説明できる。 2. 防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を説明できる。 3. 地域における災害に対する安全・安心を、自分の言葉で説明できる。 (全て共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 コメントシート50点（到達目標1、2、3に対応）+小テスト50点（到達目標1、2、3に対応）により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 強非線形現象に対する推移予測研究の試み（金田義行） 第2回 地球温暖化に伴う気候変動の検出とそのリスクの見積もりに係わるビッグデータ解析（寺尾徹） 第3回 ビッグデータを用いた地球温暖化にともなう現在気候に対する将来気候の評価（寺尾徹） 第4回 移動体・画像解析技術による災害復旧過程の分析（梶谷義雄） 第5回 流量予測への深層学習の適用と豪雨災害リスクの評価（梶谷義雄） 第6回 データサイエンスを活用した防災・危機管理 ～地形情報の活用 基礎編～（野々村敦子） 第7回 データサイエンスを活用した防災・危機管理 ～地形情報の活用 実践編～（野々村敦子） 第8回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。			
【自学自習のためのアドバイス】			

毎週のコメントシートの作成に関しては、地域における災害に対する安全・安心に結びつけるためにどのような能力が必要か、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。

また、科目によって受講制限をかける場合がある。

なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別に

e-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、

大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している

香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。

期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

【自学自習のためのアドバイス】

第1回 強非線形現象について他の事例を調べて理解を深める（5時間）

第2～3回 地球温暖化対策の経緯とこれまでに行われてきた対策についても学び理解を深める（10時間）

第4～5回 災害からの復旧復興について事例を調べて理解を深めて災害リスク把握の意義を考える（10時間）

第6～7回 講義で取り上げた地域以外でも地形情報の活用を実践する（10時間）

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤（fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp）にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2コマ目で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-1N-Le1	科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 000903)	主題科目	3Q集中	
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション Building a resilience society and computer simulation	水準 学士: 基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション (Building a resilience society and computer simulation)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 吉田 秀典, 岡崎 慎一郎, 宮本 慎宏, 地元 孝輔	関連授業科目 知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理, 知プラe科目 災害とデータサイエンス		
	履修推奨科目 情報リテラシーB		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要			
【キーワード】 データサイエンス、レジリエンス、コンピューターシミュレーション			
コンピューターシミュレーションは、「第3の科学」とも言われ、自然科学、工学、経済学、社会科学における理論・システムを数理モデルで表現し、コンピューターを用いて仮想実験や事象予測を行う技術である。今日では、製造業における工業製品の設計や新規材料の開発、自然現象の解明による災害対策、社会インフラ整備のための構造物設計・安全評価、金融・ビジネスにおけるマーケティングなど多様な分野において欠かすことができない。とりわけ、ビッグデータとAIなどの数理技術との融合により、製品の設計・製造プロセスの最適化、公共インフラの維持と保安水準の向上、津波・地震等の災害予測精度の向上、安価かつ環境性の高い電力・エネルギー製造と供給、テラーメイド医療・予防サービス普及による医療費削減など、幅広い分野において新しい価値を創造することが期待されている。本講義では、レジリエントな（強靱化）社会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要について担当教員がそれぞれの専門分野の立場から説明する。			
授業の目的			
レジリエントな（強靱化）社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を学び、さらに、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を議論できるようになる。			
到達目標			
1. レジリエントな（強靱化）社会とは何かを説明できる。 2. レジリエントな（強靱化）社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を説明できる。 3. コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心を、自分の言葉で説明できる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」・「広範な人文・社会・自然に関する知識」・「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
コメントシート50点（到達目標1、2、3に対応）+小テスト50点（到達目標1、2、3に対応）により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1週 AI等を用いた社会インフラのヘルスチェック (岡崎慎一郎)			
第2週 大規模シミュレーションが可能とする社会インフラの長寿命化 (岡崎慎一郎)			
第3週 振動シミュレーションに基づく建築物の安全性評価 (宮本慎宏)			
第4週 地盤モデルを用いた地盤震動シミュレーション (地元孝輔)			
第5週 震源モデルを用いた強震動シミュレーション (地元孝輔)			
第6週 都市モデルを活用した高潮／津波／ため池氾濫シミュレーション (吉田秀典)			
第7週 都市モデルを活用した広域避難シミュレーションと復興政策の検討 (吉田秀典)			
第8週 まとめ			

【授業及び学習の方法】

e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。

【自学自習のためのアドバイス】

毎週のコメントシートの作成に関しては、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心の重要性等について、文献等事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。特に、以下に留意して学習してください。なお、括弧内は、自学自習時間の目安です。

第1週 社会インフラにおけるヘルスチェックの事例を調べて理解を深める（5時間）

第2週 社会インフラの長寿命化の意義を考える（5時間）

第3週 建築物の安全性評価の重要性について考える（5時間）

第4週 地盤震動におけるシミュレーションの必要性について考える（5時間）

第5週 地震学／地震工学におけるシミュレーションの必要性について考える（5時間）

第6週 高潮／津波／ため池の氾濫におけるシミュレーションの意義について考える（5時間）

第7週 災害時の避難に関する課題点を調べ、その解決方法について自身なりの考えをまとめる（5時間）

第8週 レジリエントな社会の構築に関して、講義で取り上げた以外の事案についても、どのようにシミュレーションが活用されているのかを調べ、その意義、必要性、重要性について理解を深める（2.5時間）

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。

また、科目によって受講制限をかける場合がある。

なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別に

e-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、

大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している

香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。

期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤（fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp）にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2コマ目で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

ナンバリングコード B2THM-cxxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000904) 知プラe科目 災害とデータサイエンス Disaster and Data Science 災害とデータサイエンス (Disaster and Data Science)	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 石塚 正秀, 白木 渡, 磯打 千雅子, 竹之内 健介	関連授業科目 知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理、知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション		
	履修推奨科目 情報リテラシーB		
学習時間 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 【キーワード】 データサイエンス、災害、防災・減災 防災に活用できる科学的なデータとしては、災害に関するデータと、それを観測するテクノロジーについて、災害前(災害が起こっていない日常の時点と、災害が起こる直前)と災害後(直後、そしてライフライン復旧が求められる事後)という2つのステージでの議論が重要である。「災害前」としては、例えば、気象データなどは、雨量や温度、湿度、気圧などのデータが各地の気象観測所で集められ、また人工衛星から、可視光線、赤外線、電波などのセンサーを使って地表や地中を観測しデータが収集されている。このようにローカルからワールドワイドにいたる様々なデータを活用し、各種の災害情報が作成され、防災や減災に役立てられる。「災害後」としては、被災地に近い定点観測地点や衛星からのデータ、そして現場周辺のユーザーが発信しているデータなどが避難等に重要である。また、オープンデータの活用によって、国や自治体等と住民が連携しながら二次災害の減災に寄与することもできる。本講義では、こうした「災害」に係るデータの活用方法について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。			
授業の目的 レジリエントな(強靱化)社会構築において重要なデータ(常時観測データ、被災地発信データやオープンデータ等)の収集・活用方法を学び、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心を議論できるようになる。			
到達目標 1. 災害前と災害後におけるデータの活用の違いが何かを説明できる。 2. 災害前におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。 3. 災害後におけるデータ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。 (全て共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 コメントシート50点(到達目標1、2、3に対応)＋小テスト50点(到達目標1、2、3に対応)により評価し、60点以上の評価により合格とする。なお、期末試験は実施しない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1週 ビッグデータでみる地球環境(石塚正秀) 第2週 ビッグデータでみるWater Risk(石塚正秀) 第3週 オープンデータから見るまちの強み弱み診断と地区防災計画、事業継続計画BCPへの活用(磯打千雅子) 第4週 リスクコミュニケーションとデータサイエンス(竹之内健介) 第5週 ローカルデータとデータサイエンス(竹之内健介) 第6週 自助・共助・公助ならびに災害レジリエンスの強化とデータサイエンス(白木渡) 第7週 リスクマインドと心のレジリエンス(白木渡) 第8週 まとめ			
【授業及び学習の方法】			

e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめてもらいます。

【自学自習のためのアドバイス】

第1?2回 地球環境・水危機に対するビッグデータの利用について理解を深める（10時間）

第3回 地区防災計画、事業継続計画BCPに対するオープンデータの活用について理解を深める（5時間）

第4?5回 リスクコミュニケーションとローカルデータについて理解を深める（10時間）

第6?7回 災害レジリエンスとリスクマインドについて理解を深める（10時間）

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。

また、科目によって受講制限をかける場合がある。

なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別に

e-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、

大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している

香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。

期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの大学教育基盤センター藤澤（fujisawa.shuhei@kagawa-u.ac.jp）にご連絡ください。担当の先生方にお伝えします。藤澤のオフィスアワーは、木曜日2時限目で、場所は幸町北5号館5階です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本講義は、e-learning形式での提供となります。

ナンバリングコード B2THM-cbdG-60-Lx2	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 前期後半月6～7	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 090211)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cbd	対象学生 夜間主のみ 特定プログラムとの対応 対応なし
刑事法学の基礎を学ぶ Introduction to Criminal Law, Procedure and Policy	授業形態 講義	単位数 2	
刑事法学の基礎を学ぶ Introduction to Criminal Law, Procedure and Policy	関連授業科目 法学入門		
担当教員名 吉井 匡	履修推奨科目 法学入門		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
【キーワード】刑法、刑事訴訟法、刑事政策 本講義でいう「刑事法学」は、刑法・刑事訴訟法・刑事政策の刑事系主要3分野を指す。本講義では、これら3分野の基本的な事柄について講義を行う。			
授業の目的			
本講義を通して刑事系主要3分野の基礎的な知識を学ぶことで、日々なされる、犯罪や捜査はじめとする刑事法学に 関係する報道を、法的見地から検討・分析できるようになることが、本講義の目的である。			
到達目標			
犯罪や捜査、刑事裁判をはじめとする刑事法学に 関係する報道について、刑事法学の視点から検討・分析できる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
期末試験:60%(到達目標における「検討・分析」の基礎が習得できているかを評価する) レポート:40%(到達目標における「検討・分析」が基礎を踏まえてできているかを評価する) 期末試験は、大学側から対面試験中止の指示がない限り、対面式で実施し、これ以外の方法(オンライン試験等)は行わない。「授業の目的・到達目標」を達成できたかを確認する問題を出題する。 レポートは、講義中に映像資料を鑑賞し、これについて執筆してもらう予定である。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は全回対面講義形式の授業を行う。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。 第1回 ガイダンス(講義の進め方、刑事法の全体像の把握) 第2回 刑法①(刑罰) 第3回 刑法②(犯罪とは何か) 第4回 刑法③(犯罪の種類) 第5回 映像資料鑑賞① 第6回 刑事訴訟法①(刑事手続の全体像) 第7回 刑事訴訟法②(犯罪の発生～捜査) 第8回 刑事訴訟法③(起訴～刑の執行) 第9回 刑事訴訟法④(誤判・冤罪) 第10回 映像資料鑑賞② 第11回 刑事政策①(犯罪現象) 第12回 刑事政策②(犯罪対策) 第13回 刑事政策③(犯罪者の処遇) 第14回 映像資料鑑賞③ 第15回 まとめ			
＜自学自習に関するアドバイス＞ 講義ではレジュメを配布するので、少なくともレジュメに記載されている内容については確実に理解しておく必要がある。さらに自学自習に当たっては、各種基本書・体系書の該当部分を参照したり、レジュメ記載			

の判決の原文に当たることも有効であろう。上記「学習時間」で示した準備学習や事後学習の時間を参考に、各自問題意識を持って学習に臨み、また、犯罪や捜査、刑事裁判をはじめとする刑事法学に関する報道にも注意を払い、授業で学んだことと今報じられていることの関係についても考えてみるのもまた有効であろう。

＜注意＞

授業計画は、受講者の理解度合いによって変更する場合がある。また、映像資料鑑賞のタイミング及び回数も、授業進行状況次第で変更となる場合がある。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。

レジュメを配布する。

但し、六法については必ず持参すること。

オフィスアワー 火曜日 13時30分～14時30分(法学部棟内の吉井研究室にて)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

日々の報道では刑事法に関するものが多くなされている。これらにも関心を払って欲しい。また、実際に刑事裁判を傍聴することも有益である。幸いにも高松地裁・高裁は本学の近くに所在している。

ナンバリングコード B2THM-cbaG-60-Lx2	科目区分 主題科目	時間割 2023年度 後期前半火6～7	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 090212)	水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局:大教センター DPコード:cba	対象学生 夜間主のみ 特定プログラムとの対応 対応なし
福祉国家と地方財政 Welfare State and Local Finance	授業形態 講義	単位数 2	
福祉国家における地方公共団体の役割 Local Governments at the Frontline of Welfare State	関連授業科目 福祉経済論、社会政策、財政学、経済政策		
担当教員名 加藤 美穂子	履修推奨科目 福祉経済論、社会政策、財政学、経済政策		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
【キーワード】福祉国家、地方財政、財政調整 現代社会では、警察・消防や公共事業、教育、社会保障など私達の生活の様々な部面に政府活動が関わっています。この授業では、第1に、住民に最も身近な政府であり、政策現場を担う地方公共団体に焦点をあて、日本の福祉国家システムにおける役割と財政構造を勉強します。第2に、地域間の財政構造の違いを検討し、財政力格差を埋める多層的な財政調整の仕組みを勉強します。第3に、国の制度設計と現場を担う地方公共団体の役割等を検討します。 授業では、日本型福祉国家システムの基本理念とそれを具体化するための制度を学ぶとともに、基礎的な統計データを読み解きながら、その特質を実証的に検討していきます。 授業時間と予復習の課題において教科書を使用しますので、第1回目の授業までに入手して毎回参照できるようにして下さい。 また、授業時間内に小課題を出題します。Moodle上で解答をしてもらいますので、Moodleにアクセスできる環境で授業を受けてください。			
授業の目的			
地方行財政システムの基本構造と日本型福祉国家の特質を理解することによって、21世紀の環境下で日本の福祉国家システムが抱える課題と改革の方向性を論理的に検討するための基礎学力を身につける。			
到達目標			
1. 日本の福祉国家システムにおける地方公共団体の役割について説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 地方公共団体の財政構造について、具体的に説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 地域間の財政力格差と、それを是正するための財政移転のメカニズムについて説明できる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 自分の考えを適切な文章によって、説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
・期末試験50%(到達目標1～4に対応)、小課題50%(宿題や授業時間内に解答)(到達目標1～4に対応) ・授業時に提出する小課題は、Moodleを通じて提出してもらいます。詳しくは、第1回目の授業で指示します。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 ・この科目は、原則として全ての回を遠隔授業で行います。遠隔会議システムは、Zoomを使用する予定です(Teamsに変更になる場合は、ドリームキャンパスでアナウンスします)。 ・授業は基本的に、テキストを使用した講義形式によって行います。毎回、教科書を手元で参照できるようにして受講してください。 ・受講者に意見を求めることがあります。 ・授業では毎回、小課題を出題します。期限までに必ず提出してください。小課題には、Moodle上で解答してもらいます。Zoomと共にMoodleにもアクセスできる環境で、授業を受けてください。			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション、福祉国家と地方財政を見る眼(遠隔)			

第2回	日本の福祉国家の基本構造(遠隔)
第3回	地方公共団体の役割(1)「ゆりかごから墓場まで」の実際、義務教育(遠隔)
第4回	地方公共団体の役割(2)公的資本形成、生活保護(遠隔)
第5回	地方公共団体の役割(3)保険と医療、介護保険(遠隔)
第6回	地方公共団体の役割(4)地方公共団体の多様性(遠隔)
第7回	地方財政システム(1) 国と地方公共団体の関係(遠隔)
第8回	地方財政システム(2) 地方公共団体の歳出(遠隔)
第9回	地方財政システム(3) 地方公共団体の歳入、地方税(遠隔)
第10回	地方財政システム(4) 国庫支出金・都道府県支出金、地方交付税(遠隔)
第11回	地域間格差と財政調整(1) 財政構造の地域格差(遠隔)
第12回	地域間格差と財政調整(2) 地域の事例(遠隔)
第13回	地域間格差と財政調整(3) 多層的な財政調整(遠隔)
第14回	福祉国家の現場と社会福祉(1) 障害者福祉(遠隔)
第15回	福祉国家の現場と社会福祉(2) 高齢者福祉(遠隔)
第16回	まとめ＋期末試験(遠隔)

※上記の授業計画は、進捗状況などの関係で変更となる可能性があります。その場合には、授業内にアナウンスを行います。

【自主学習について】

- ・授業の各回の内容は、指定教科書の以下の章となります。予習としてテキストや配布資料を読み、授業後に授業内容を整理しながら、再度、テキストと資料を熟読してください。
- ・第1-2回…序章：日本国憲法に規定される福祉国家と地方公共団体の理念、それらの関係について説明できるようにする。
- ・第3-6回…第1章：地方公共団体が担う主要政策の内容を説明できるようにする。
- ・第7-10回…第2章：財政データを用いて、国と地方の役割分担と地方財政の特徴を検討し、ポイントをまとめる。
- ・第11-13回…第3章：地域間の財政データを比較しながら、日本の財政移転メカニズムの役割と特徴を検討し、要旨をまとめる。
- ・第14-15回…第7章：社会福祉政策における区の基本的な政策枠組みと、その最前線の現場を担う市町村の役割を説明できるようにする。

教科書・参考書等

【教科書】

渋谷博史・塚谷文武・長谷川千春『福祉国家と地方財政 改訂版』、2018年、本体2,100円＋税

※「改訂版」を入手すること。

オフィスアワー 水曜日12：00-12：40

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・教科書を毎回参照できるようにしてください。
- ・ドリームキャンパスを通じて講義連絡を行うことがあります。ドリームキャンパスからの連絡を、速やかに確認できるようにメールなどの設定をしておいてください。

ナンバリングコード B2THM-cabG-60-Le2		科目区分	時間割 2023年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 090213)		主題科目	前期前半月6～7	
SDGs実践入門 Introduction to the SDGs practices 統合的な解決アプローチを用いた探究的な学び Inquiry learning with integrated approach		水準 学士:基礎科目 分野 主題	提供部局: 大教センター DPコード: cab	
担当教員名 神野 幸隆		授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	対象学生 夜間主のみ 特定プログラムとの対応 対応なし
関連授業科目				
履修推奨科目				
学習時間 授業180分×7回 + 授業90分×1回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習 15時間)				
授業の概要				
【キーワード】SDGs、探究（PBL）、統合的なアプローチ、アカデミックスキルの習得 SDGsに関係する社会問題の課題を設定して、統合的な解決アプローチを用いながら、問題解決的な探究活動を行います。最終的には、探究する課題に対して、ICT を用いたプレゼンテーションを実施します。また、学部を越えた横断的・統合的な視点を用いつつ、他者と協働して探究する過程を通じてアカデミックスキルの習得、さらには自己のメタ認知（キャリア形成）につなげていきます。				
授業の目的				
現代社会の持続可能性が問われている社会問題（SDGsに関連したもの）について、統合的な解決アプローチなどの様々な手法を用いた探究活動を通じて、課題設定力、情報収集や整理・分析力、問題解決力、多面的な視点およびプレゼンテーション力などの基礎的なアカデミックスキルの習得を目指します。				
到達目標				
1．現代社会の持続可能性が問われている社会問題（SDGs）に関して、自己の興味・関心と関連づけた探究テーマの設定を行い、統合的な解決アプローチを用いた探究活動ができる。（共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）。 2．多面的・多角的な解決アプローチについて理解し、対立する価値やテーマに関する概念的知識について説明することができる。（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 3．探究の過程および課題解決方法について、10分間程度のプレゼンテーションを作成することができる。（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）				
成績評価の方法と基準				
レポート（50%）および最終プレゼンテーション（50%）。				
成績評価の基準				
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 第1週 イントロダクション：問いの立て方、探究テーマの探し方とテーマの設定 第2週 探究活動①：問いの精選、探究方法、先行研究、メディア特性 第3週 探究活動②：統合的な解決アプローチ、システム思考 第4週 探究活動③：デザイン思考、フィールドワークなどの探究手法 第5週 中間発表：少人数での討議と交流 第6週 探究活動④：中間発表を受けての修正および再追究 第7週 探究活動⑤：プレゼンテーションソフトの効果的な方法 第8週 最終プレゼンの発表およびレポートのフォーマットについて（45分間・対面） ※受講生の関心および進捗状況により、一部内容を変更する場合があります。 ※毎講義ノートパソコン持参です。				
【授業および学習の方法】 第1週：設定した課題と自身との関わりの中から「問い(RQ)」を設定します。 第2週～第4週：授業の前半は資料に基づいて講義を行います。後半は個人の探究を進めていきます。 第5週：中間発表会を実施して、受講者相互で討議や意見交流、アドバイスをします。				

第6週：授業の前半は資料に基づいて講義を行います。プレゼンテーションソフトの基本・基本および効果的なプレゼンについて学びます。

第7週：授業の前半は資料に基づいて講義を行います。

第8週：最終プレゼンを行います。（受講人数によって少人数班ごとになる場合も有ります。）

※この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1週：個人での探究活動（RQの設定）（4時間）

第2週：個人での探究活動（4時間）

第3週：個人での探究活動（4時間）

第4週：中間発表に向けたプレゼンの準備（4時間）

第5週：個人での探究活動（4時間）

第6週：個人での探究活動（4時間）

第7週：最終プレゼンおよびレポートの準備（4時間）

毎回の授業後には個人での探究活動が必要となります。第7週の授業後は第8週でのプレゼンテーションおよび提出期限までのレポート提出に向け、準備を進めます。

教科書・参考書等

指定教科書はありません。

参考書として2冊紹介します。

蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』（中央公論新社、2020年）1012円

南博『SDG s 危機の時代の羅針盤』（岩波書店、2020年）902円を推奨します。

オフィスアワー 木・金曜日9時～12時および金曜日のお昼休み12時～13時。北キャンパス8号館6階。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受動的に「教わる」のではなく、主体的に「学び」、自ら「探究」することを楽しみながら、アカデミックスキルの習得を目指していきます。設定したテーマに関して個人探究活動が必要となります。授業中の不要なスマホ操作は禁止します。

教員の実務経験との関連

学校現場での教職経験をふまえつつ、受講者の問題解決におけるファシリテーター役を務めます。